

第二十五條 選舉無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ
投票ハ一人一票ニ限ル
選舉人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ自ラ選舉會場ニ到リ選舉人名簿又ハ其ノ抄本ノ對照ヲ經テ投票ヲ爲ス
投票時間内ニ選舉會場ニ入りテ選舉人ハ其ノ時前ラ過ク投票ヲ爲スコトヲ得
選舉人ハ選舉會場ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選舉人一人ノ氏名ヲ記載シテ投票ス
（大正十五年法律第七十四號ヲ以テ本項ヲ改正）
投票ニ關スル記載ニ付テハ勅令ヲ以テ定ムル點字ハ之ヲ文字トシテ書ク
自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス
投票用紙ハ市長ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ウヘシ
選舉區アル場合ニ於テ選舉人名簿ノ複製後選舉人ノ所屬ニ異動ヲ生スルコトアルモ其ノ選舉人ハ前所屬ノ選舉區ニ於テ投票ヲ爲ス
投票分會ニ於テ爲シタル投票ハ投票分會長少クとも一人ノ投票立會人ト共ニ投票函ノ儘ニ之ヲ選舉長ニ送致ス
（同上本項ヲ改正）
第二十六條 確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス
但シ選舉人名簿ニ登錄セラレハキ確定後決意又ハ判決書ヲ所持シ選舉ノ當日選舉會場ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラズ
確定名簿ニ登錄セラレタル者選舉人名簿ニ登錄セラレタルコトヲ得サル者ナルトキハ投票ヲ爲スコトヲ得ス
但シ選舉ノ當日選舉會場ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラズ
有セサル者ナルトキハ亦同シ
（同上本項ヲ追加）
第二十七條 投票ノ拒否ハ選舉立會人又ハ投票立會人ノ之ヲ決定ス可同數ナルトキハ選舉長又ハ投票分會長之ヲ決ス
（同上本項ヲ改正）

投票分會ニ於テ投票拒否ノ決定ヲ受ケタル選舉人不服アルトキハ投票分會長ハ投票ヲ爲サズ
（同上本項ヲ改正）
前項ノ投票分會長ハ投票ヲ爲スルニ入レ封緘シ表面ニ自ラ其ノ氏名ヲ記載シ投票シム
投票分會長又ハ投票立會人ニ於テ選舉アル選舉人ニ對シテモ亦前二項ニ同シ
（大正十五年法律第七十四號ヲ以テ本項ヲ追加）
第二十八條 第三十三條若ハ第三十七條ノ選舉、増員選舉又ハ補選選舉ノ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選舉ヲ以テ合併シ之ヲ行フ
（大正十年法律第五十八號ヲ以テ本項ヲ改正）
第二十九條 市長ハ選舉開票ノ日時ヲ告示ス
（大正十五年法律第七十四號ヲ以テ本項ヲ改正）
第三十條 市長ハ投票ノ日又ハ其ノ翌日（投票分會ヲ設ケタルトキハ總テ）投票函ノ送致ヲ受ケタル日又ハ其ノ翌日（選舉立會人立會ノ上投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算ス）
前項ノ計算終リタルトキハ選舉長ハ先ツ第二十五條ノ第三項及第四項ノ投票函ヲ調査ス
（同上本項ヲ改正）
選舉立會人ノ之ヲ決定ス可同數ナルトキハ選舉長之ヲ決ス
（同上本項ヲ改正）
選舉長ハ選舉立會人ト共ニ投票ヲ點檢ス
天災事變等ノ爲開票ヲ行フコト能ハサルトキハ市長ハ更ニ開票ノ期日ヲ定ム
（同上本項ヲ改正）
市長ハ選舉會場ノ變更ヲ要スルトキハ選舉長ハ其ノ場所ヲ告示ス
（同上本項ヲ追加）
第二十七條之三 選舉人ハ其ノ選舉會場ニ到ルコトヲ得但シ開票開始前此ノ限ニ在ラズ
（同上本項ヲ追加）
第二十七條之四 特別ノ事情アルトキハ市ハ府縣知事ノ許可ヲ得區劃ヲ定メ開票分會ヲ設ケルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ開票分會ヲ設ケル場合ニ於テ必要ナル事

項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
（大正十五年法律第七十四號ヲ以テ本項ヲ追加）
第二十八條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス
（同上第二項ヲ削除）
一 成規ノ用紙ヲ用エサルモノ
二 現ニ市會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
三 一投票中二人以上ノ被選舉人ノ氏名ヲ記載シタルモノ
四 被選舉人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノ
五 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ地位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ
六 被選舉人ノ氏名ヲ自書セサルモノ
（大正十年法律第七十八號ヲ以テ本項ヲ追加）
第二十九條 投票ノ效力ハ選舉立會人ノ之ヲ決定ス可同數ナルトキハ選舉長之ヲ決ス
（大正十五年法律第七十四號ヲ以テ本項ヲ改正）
第三十條 市會議員ノ選舉ハ有效投票ノ總數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス
但シ議員ノ定數（選舉區アル場合ニ於テハ其ノ選舉區ノ配當議員數）ヲ以テ有效投票ノ總數ヲ除シテ得タル數ノ六分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス
（同上本項ヲ改正）
前項ノ規定ニ依リ當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取リ年同シキトキハ選舉長抽籤シ之ヲ定ム
（同上本項ヲ追加）
第三十一條 當選者選舉ノ期日後ニ於テ被選舉權ヲ有セサルニ至リタルトキハ當選者ト定ムルコトヲ得
第三十二條 選舉長ハ選舉會場ヲ作リ選舉會場ニ開スル期日ヲ記載シ之ヲ明瞭シ二人以上ノ選舉立會人ト共ニ之ニ署名ス
（同上本項ヲ改正）

各選舉區ノ選舉長ハ選舉長（第六條ノ市ニ於テハ其ノ寫）ヲ選ビ當選者ノ住所氏名ヲ市長ニ報告ス
投票分會長ハ投票會場ヲ作リ投票ニ關スル期日ヲ記載シ之ヲ明瞭シ一人以上ノ投票立會人ト共ニ之ニ署名ス
投票分會長ハ投票函ト同時ニ投票分會長ニ送致ス
選舉長及投票長ハ投票、選舉人名簿其ノ他ノ關係書類ト共ニ議員ノ任期間市長（第六條ノ市ニ於テハ區長ニ於テ之ヲ保存ス）
（大正十五年法律第七十四號ヲ以テ本項ヲ改正）
第三十一條 當選者定マリタルトキハ市長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知シ（第六條ノ市ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ告知セシメ）同時ニ當選者ノ住所氏名ヲ告示シ且選舉長ノ寫（投票長アルトキハ併テ）投票長ノ寫（府縣知事ニ報告ス）
當選者ナキトキハ直ニ其ノ旨ヲ告示シ且選舉長ノ寫（投票長アルトキハ併テ）投票長ノ寫（府縣知事ニ報告ス）
（同上本項ヲ改正）
當選者當選ヲ辭セタルトキハ市長ハ直ニ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ之ヲ市長ニ申立ツ
一人ニシテ數選舉區ニ於テ當選シタルトキハ最終ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ何レノ當選ニ應ズヘキカラ市長ニ申立ツ
（其ノ期間内ニ之ヲ申立テサルトキハ市長抽籤シ之ヲ定ム）
（同上本項ヲ改正）
官吏ニシテ當選シタル者ハ所屬長官ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ之ニ應ズ
（同上本項ヲ改正）
前項ノ官吏ハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ニ應ズヘキカラ市長ニ申立テサルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス
第三項ノ場合ニ於テ何レノ當選ニ應ズヘキカラ申立テサルトキハ市長ニ報告シタルモノト看做ス
市ニ對シテ負擔ヲ爲シ又ハ市ニ於テ費用ヲ負擔スル事業ニ付

市長若ハ其ノ委任ヲ受ケタル者ニ對シテ負擔ヲ爲ス者若ハ其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、役員若ハ支配人ニシテ當選シタル者ハ其ノ負擔ヲ履メ又ハ負擔ヲ爲ス者ノ支配人若ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、役員若ハ支配人タルコトヲキニ至ルニ非サレハ當選ニ應ズ
（同上本項ヲ追加）
其ノ旨ヲ市長ニ申立テサルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス
（大正十五年法律第七十四號ヲ以テ本項ヲ追加）
前項ノ役員トハ取締役、監査役及之ニ準ズヘキ者並補算人ヲ謂フ
（同上本項ヲ追加）
第三十三條 當選者左ニ掲グル事由ノ一ニ該當スルトキハ三月以内ニ更ニ選舉ヲ行フヘシ但シ第二項ノ規定ニ依リ更ニ選舉ヲ行フコトヲシテ當選者ヲ定メ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
一 當選ヲ辭シタルトキ
二 數選舉區ニ於テ當選シタル場合ニ於テ前條第三項ノ規定ニ依リ一ノ選舉區ノ當選ニ應ズ又ハ抽籤ニ依リ一ノ選舉區ノ當選者ト定マリタル爲他ノ選舉區ニ於テ當選者ト爲サルニ至リタルトキ
三 第三十條ノ二ノ規定ニ依リ當選ヲ失ヒタルトキ
四 死亡者ナルトキ
五 選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレ其ノ當選無効ト爲リタルトキ但シ同一ノ人ニ關シテ前各號ノ事由ニ依リ選舉又ハ補選選舉ノ告示ヲ爲ササル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
前項ノ事由前條第二項、第三項若ハ第五項ノ規定ニ依リ期限前ニ生シタル場合ニ於テ第三十條第一項但書ノ得票者ニシテ當選者ト爲ラザルモノ又ハ其ノ期限經過後ニ生シタル場合ニ於テ第三十條第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケタル得票者ニシテ當選者ト爲ラザルモノ又ハ直ニ選舉會場ヲ開キ其ノ中ニ就キ當選者ヲ定ム
（同上本項ヲ追加）

前項ノ場合ニ於テ第三十條第一項但書ノ得票者ニシテ當選者ト爲ラザルモノ又ハ其ノ期限經過後ニ生シタル場合ニ於テ第三十條第二項ノ規定ニ依リ抽籤ヲ爲ササルモノ又ハ市長ハ直ニ當選者ノ住所氏名ヲ告示シ併セテ之ヲ府縣知事ニ報告ス
（同上本項ヲ追加）
第三十五條 選舉ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ限リ其ノ選舉ノ全部又ハ一部ヲ無効トス
但シ當選ニ異動ヲ生スルノ虞ナキ者ヲ區分シ得ルコトキハ其ノ者ニ限リ當選ヲ失フコトヲシ（同上但書ヲ追加）
第三十六條 選舉人選舉又ハ當選ノ效力ニ關シテ異議アルトキハ選舉長ニ對シテハ選舉ノ日ヨリ當選ニ關シテハ第三十二條第一項又ハ第三十四條第二項ノ告示ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ市長ニ申立ツ
（同上本項ヲ改正）
市會ノ決定ニ付スヘキ市會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ決定ス
（同上本項ヲ改正）

市制 市會 市參事會

第五十六條 市會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ
一 市長ヨリ傍聴禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ
二 議長又ハ議員三人以上ノ發議ニ依リ傍聴禁止ヲ可決シタルトキ

前項議長又ハ議員ノ發議ハ討論ヲ須キス其ノ可否ヲ決スヘシ
第五十七條 議長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

議員定數ノ半數以上ヨリ請求アルトキハ議長ハ其ノ日ノ會議ヲ開クコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ議長仍舊會議ヲ開カサルトキハ第四十九條ノ例ニ依ル(大正十年法律第五十八號ヲ以テ本項ヲ追加)

前項議員ノ請求ニ依リ會議ヲ開キタルトキ又ハ議員中異議アリキハ議長ハ會議ヲ議決ニ依リ非シテハ其ノ日ノ會議ヲ閉ジ又ハ中止スルコトヲ得(同上本項ヲ追加)

議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用キ又ハ他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス
第五十九條 會議中本法又ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ス議員アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ又ハ發言ヲ取消シシメ外ニ從ハサルトキハ當日ノ會議ヲ終ル迄發言ヲ禁止シ又ハ議場外ニ退去セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

議場騒擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ジルコトヲ得
第六十條 傍聽人公然可否ヲ表示シ又ハ喧嘩ニ涉リ其ノ他會議ノ妨害ヲ爲ストキハ議長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得
第六十一條 市會ニ書記ヲ置キ議長ニ職務ヲ處理セシムルコトヲ得
書記ハ議長ノ委任ス

第六十二條 議長ハ書記ヲ會議録ヲ調製シ會議ノ顛末及出席議員ノ氏名ヲ記載セシムルコトヲ得
會議録ハ議長及議員二人以上ノ署名スルコトヲ要ス其ノ議員ハ市會ニ於テ之ヲ定ム

議長ハ會議録ヲ審(會議ノ結果ヲ市長ニ報告スヘシ)
第六十三條 市會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設ケシ會議規則ニハ本法及會議規則ニ違反シタル議員ニ對シ市會ノ議決ニ依リ五日以内出席ヲ停止スル規定ヲ設クルコトヲ得(大正十五年法律第七十四號ヲ以テ本項ヲ改正)

第三章 市參事會

第六十四條 市ニ市參事會ヲ置キ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス
一 市長
二 助役
三 名譽參事會員

前項ノ外市參事會ノ置キタル市ニ於テハ市參事會參事會員トシテ其ノ擔任事業ニ關スル場合ニ限リ會議ニ列席シ議事ニ參與ス
第六十五條 名譽參事會員ノ定數ハ六人トス但シ第六條ノ市ニ在リテハ市條例ヲ以テ十二人迄之ヲ増加スルコトヲ得

名譽參事會員ハ市會ニ於テ其ノ議員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ其ノ選舉ニ關シテハ第二十五條第二十八條及第三十條ノ規定ヲ準用シ投票ノ效力ニ關シテ異議アルトキハ市會之ヲ決定ス

名譽參事會員中副員アルトキハ直ニ補選選舉ヲ行フヘシ
名譽參事會員ハ隔年之ヲ選舉スヘシ(大正十五年法律第七十四號ヲ以テ本項ヲ改正)

名譽參事會員ハ後任者ノ就任スルニ至ル迄在任ス市會議員ノ任期滿了シタルトキ亦同シ(同上本項ヲ追加)
名譽參事會員ハ其ノ選舉ニ關シテ第九十條ノ處分確定シ又ハ判決アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス(同上本項ヲ追加)

第六十六條 市參事會ハ市長ヲ以テ議長トシ市長故障アルトキハ市長代理者ヲ代理ス
第六十七條 市參事會ノ職務權限
一 市會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事
二 (同上本項ヲ刪除)
三 其ノ他法令ニ依リ市參事會ノ權限ニ屬スル事件

第六十八條 市參事會ハ市長之ヲ召集ス名譽參事會員定數ノ半數以上ノ請求アルトキハ市長ハ之ヲ召集スヘシ
第六十九條 市參事會ハ會議ハ傍聴ヲ許サズ
第七十條 市參事會ハ議長又ハ其ノ代理者及名譽參事會員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得

但シ第二項ノ除外ノ爲名譽參事會員其ノ半數ニ滿タサルトキ同一ノ事件ニ付召集再回ニ至ルモ仍舊名譽參事會員其ノ半數ニ滿タサルトキ又ハ召集ニ應ズルモ出席名譽參事會員定數ヲ滿タラズ議長ニ於テ出席ノ催告シ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラズ

議長及參事會員ハ自己又ハ父母、祖父母、妻、子孫、兄弟姉妹ノ身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得但シ市參事會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發

言スルコトヲ得
議長及其ノ代理者共ニ前項ノ場合ニ當ルトキハ八年長ノ名譽參事會員議長ノ職務ヲ代理ス

第七十一條 第四十六條第四十七條第五十條第五十一條第二項及第五項第五十三條第五十五條第五十七條乃至第五十九條第六十一條第六十二條第一項及第二項ノ規定ハ市參事會ニ之ヲ準用ス

第四章 市吏員

第七十二條 組織選舉及任免

第七十三條 市長及助役一人ヲ置ク但シ第六條ノ市ノ助役ノ定數ハ市條例ヲ以テ之ヲ増加スルコトヲ得
特別ノ必要アル市ニ於テハ市條例ヲ以テ市參事會ヲ置クコトヲ得其ノ定數ハ其ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

第七十四條 市長ハ有給吏員トシ其ノ任期ハ四年トス
市長ハ市會ニ於テ之ヲ選舉ス(大正十五年法律第七十四號ヲ以テ本項ヲ改正)
市長ハ其ノ退職セムトスル日前三十日自迄ニ申立ツルニ非サレハ任期中退職スルコトヲ得但シ市會ノ承認ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラズ(同上本項ヲ改正)

第七十五條 市參事會ハ名譽職トス但シ定數ノ全部又ハ一部ヲ有給吏員ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第七十二條第三項ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ
市參事會ハ市長ノ推薦ニ依リ市會ヲ定ム(同上本項ヲ改正)

名譽職市參事會ハ市民中選舉權ヲ有スル者ニ限リ
第七十五條 助役ハ有給吏員トシ其ノ任期ハ四年トス
助役ハ市長ノ推薦ニ依リ市會ヲ定ム市長職ニ在リタルトキ

ハ市會ニ於テ之ヲ選舉ス(大正十五年法律第七十四號ヲ以テ本項ヲ改正)
第七十三條 第三項ノ規定ハ助役ニ之ヲ準用ス(同上本項ヲ改正)

第七十四條 市長有給市參事會及助役ハ第九條第一項ノ規定ニ拘ビ在職ノ間其ノ市ノ公民トス
第七十五條 市長市參事會及助役ハ第八十八條第二項又ハ第四項ニ掲タル職務ヲ兼テシ得又其ノ市ニ對シテ請負ヲ爲シ又ハ其ノ市ニ於テ費用ヲ負擔スル事業ニ付市長若ハ其ノ委任ヲ受ケタル者ニ對シテ請負ヲ爲ス者及其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、取締役監督若ハ之ニ準スヘキ者、清算人及支配人タルコトヲ得(同上本條ヲ改正)

第七十六條 市長ハ府縣知事ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ他ノ報償アル業務ニ從事スルコトヲ得(同上本項ヲ改正)
市長有給市參事會及助役ハ會社ノ取締役監督若ハ之ニ準スヘキ者、清算人又ハ支配人其ノ他ノ事務員タルコトヲ得(大正十年法律第五十八號ヲ以テ本項ヲ改正)

第七十七條 市ニ收入役一人ヲ置ク但シ市條例ヲ以テ助役ノ役ヲ置クコトヲ得
第七十八條 市長ハ府縣知事ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ他ノ報償アル業務ニ從事スルコトヲ得(同上本項ヲ改正)

第七十九條 市長有給市參事會及助役ハ會社ノ取締役監督若ハ之ニ準スヘキ者、清算人又ハ支配人其ノ他ノ事務員タルコトヲ得(大正十年法律第五十八號ヲ以テ本項ヲ改正)

第八十條 市長ハ府縣知事ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ他ノ報償アル業務ニ從事スルコトヲ得(同上本項ヲ改正)

第八十一條 第六條ノ市ノ區ニ區收入役一人又ハ區收入役二人ヲ置ク但シ市條例ヲ以テ之ヲ増加スルコトヲ得
區收入役及區副收入役ハ第八十六條ノ吏員中市長、助役、市收入役、市副收入役又ハ區長ノ間及其ノ相互ノ間ニ父子兄弟タル緣故ヲ有スル者ニ就キ市長、助役、市收入役、市副收入役又ハ區長トシテ父兄兄弟タル緣故生シタルトキ區收入役又ハ區副收入役ハ其ノ職ヲ失フ

第八十二條 第六條ノ市ノ區ニ區收入役一人又ハ區收入役二人ヲ置ク但シ市條例ヲ以テ之ヲ増加スルコトヲ得
區收入役及區副收入役ハ第八十六條ノ吏員中市長、助役、市收入役、市副收入役又ハ區長ノ間及其ノ相互ノ間ニ父子兄弟タル緣故ヲ有スル者ニ就キ市長、助役、市收入役、市副收入役又ハ區長トシテ父兄兄弟タル緣故生シタルトキ區收入役又ハ區副收入役ハ其ノ職ヲ失フ

第八十三條 第六條ノ市ノ區ニ區收入役一人又ハ區收入役二人ヲ置ク但シ市條例ヲ以テ之ヲ増加スルコトヲ得
區收入役及區副收入役ハ第八十六條ノ吏員中市長、助役、市收入役、市副收入役又ハ區長ノ間及其ノ相互ノ間ニ父子兄弟タル緣故ヲ有スル者ニ就キ市長、助役、市收入役、市副收入役又ハ區長トシテ父兄兄弟タル緣故生シタルトキ區收入役又ハ區副收入役ハ其ノ職ヲ失フ

第八十四條 市長ハ府縣知事ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ他ノ報償アル業務ニ從事スルコトヲ得(同上本項ヲ改正)

第八十五條 市長有給市參事會及助役ハ會社ノ取締役監督若ハ之ニ準スヘキ者、清算人又ハ支配人其ノ他ノ事務員タルコトヲ得(大正十年法律第五十八號ヲ以テ本項ヲ改正)

第八十六條 市長ハ府縣知事ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ他ノ報償アル業務ニ從事スルコトヲ得(同上本項ヲ改正)

前項ノ決定ニ不服アル者ハ府縣選舉會ニ訴願スルコトヲ得
府縣知事ハ選舉又ハ當選ノ效力ニ關係スルコトキハ選舉
ニ關シテハ第三十二條第一項ノ報告ヲ受ケル日ヨリ當選
ニ關シテハ第三十二條第一項又ハ第三十四條第二項ノ報
告ヲ受ケル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ府縣選舉會ノ決定ニ
付スルコトヲ得(大正十五年法律第七十四號ヲ以テ本項ヲ
改正)

前項ノ決定アリタルトキハ同一事件ニ付シタル異議ノ申立
及市會ノ決定ハ無効トス

第二項若ハ第六項ノ裁決又ハ第三項ノ決定ニ不服アル者
ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ決定ニ付テハ市長ヨリモ訴願ヲ提起スルコトヲ得
第二項若ハ前項ノ裁決又ハ第三項ノ決定ニ付テハ府縣知
事又ハ市長ヨリモ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第二十條、第三十三條又ハ第三十七條第一項若ハ第三
項ノ選舉ハ之ニ關係アル選舉又ハ當選ニ關スル異議申立
問、異議ノ決定若ハ訴願ノ裁決確定キテハ間ニハ訴願ノ際
屬スル間ニ之ヲ行フコトヲ得ス(大正十年法律第五十八號ヲ
以テ本項ヲ追加、同十五年法律第七十四號ヲ以テ改正)

市會議員ハ選舉又ハ當選ニ關スル決定若ハ裁決確定シ又
ハ判決アリタル會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第二十七條、選舉無効ト確定シタルトキハ三月以内ニ更ニ選舉
ヲ行フ

當選無効ト確定シタルトキハ直ニ選舉會ヲ開キ更ニ當選者ヲ
定ム(此ノ場合ニ於テハ第三十三條第三項及第四項ノ
規定ヲ適用ス)

當選者ナキトキ、當選者ナキニ至リタルトキ又ハ當選者其ノ選
舉ニ於ケル議員ノ定數ニ達セザルトキ若ハ定數ニ達セザルニ至
リタルトキ三月以内ニ更ニ選舉ヲ行フ

第三十三條第五項及第六項ノ規定ハ第一項及前項ノ選
舉ニ之ヲ適用ス

三 歳入出豫算ヲ定ムル事
四 決算報告ヲ認定スル事
五 法令ニ定ムルノ外除クテ外使用料、手数料、加入
金、市税又ハ夫役現品ノ賦課徴収ニ關スル事
六 不動産ノ管理處分及取得ニ關スル事
七 基本財産及積立金數等ノ設置管理及處分ニ關ス
ル事
八 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クテ外新ニ義務ノ
負擔ヲ及ビ及權利ノ擔當ヲ爲ス事
九 財産及營業物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法律勅
令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス
十 市吏員ノ身元保證ニ關スル事
十一 市ニ係ル訴訟訴訟及和解ニ關スル事
十二 市會ハ其ノ權限ニ屬スル事項ノ一部ヲ市會事會ニ
委任スルコトヲ得
十三 市會ハ法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル選舉ヲ行
フ

第十四條、市會ハ法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル選舉ヲ行
フ

第十五條、市會ハ市ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ
市長ノ報告ヲ請求シ事務ノ管理、解決ノ執行及出納ヲ檢
査スルコトヲ得

市會ハ議員中ヨリ委員ヲ選舉シ市長又ハ其ノ指名シタル吏
員立會ノ上實地ニ就キ前項市會ノ權限ニ屬スル事件ヲ行ハ
シムルコトヲ得

第十六條、市會ハ市ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ市長
又ハ監督官ニ提出スルコトヲ得

第十七條、市會ハ行政廳ノ請願アルトキハ意見ヲ答申スヘシ
市會ノ意見ヲ徴シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ市會成立セ
ス、招集ニ應ズ若ハ意見ヲ提出セズ又ハ市會ヲ招集スルコト
能ハサルトキハ當該行政廳ハ其ノ意見ヲ備テシテ直ニ處分ヲ

爲スルコトヲ得
市長及副市長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル
市長及副市長ハ故降アルトキハ副市長長ニ代リ市長及副市長
長共ニ故降アルトキハ臨時ニ議員中ヨリ假議長ヲ選舉スヘシ
(大正十五年法律第七十四號ヲ以テ本項ヲ改正)

前項假議長ノ選舉ニ付テハ市長ノ議員職權ノ職務ヲ代理
ス

市長及副市長ハ其ノ委任又ハ囑託ヲ受ケタル者ハ會議ニ列
席シ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ許スヘシ但
シ之ヲ爲シ得ル場合ニ止メシムルコトヲ得

市長ハ市會ハ市長ハ之ヲ招集スル議員定數三分ノ一以上ノ
請求アルトキハ市長ハ之ヲ招集スヘシ

市長ハ會議ニ出席スル場合ニ於テハ會議期ヲ定メテ市會ヲ招集スルコ
トヲ得

招集及會議ノ事件ハ開會ノ日前三日目迄ニ之ヲ告知スヘ
シ但シ急務ニ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス同上本項ヲ改正)

市會開會中急務ニ要スル事件アルトキハ市長ハ直ニ之ヲ其ノ
會議ニ付ルコトヲ得會議ニ付スル日前三日目迄ニ告知ラ
ズシタル事件ニ付亦同シ(同上本項ヲ改正)

市長ハ市長之ヲ開會
市長ハ市會ハ議員定數ノ半数以上出席スルニ非ザレハ會
議ヲ開クコトヲ得但シ第五十四條ノ除外ノ爲メ半数ニ滿タサ
ルトキハ、同一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルニ非ザルニ滿タサ
ルトキハ、同一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルニ非ザルニ滿タサ
ルトキハ、同一ノ事件ニ付出席議員定數ノ半数以上出席
席ヲ催告シ仍半数ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

市長ハ會議ノ議事ハ過半数ヲ以テ決シ可否同數ナルトキ
ハ議長ノ決スル所ニ依ル

議長ハ其ノ職務ヲ行フ場合ニ於テモ之ヲ爲議員トシテ議決ニ
加ハルノ權ヲ失ハス(大正十五年法律第七十四號ヲ以テ本
項ヲ追加)

議長及議員ハ自己又ハ父母、祖父母、妻、子孫、
兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與ス
ルコトヲ得ズ但シ市會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言
スルコトヲ得

法律勅令ニ依リ市會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ本法
中則段ノ規定アル場合ヲ除クテ外一人毎ニ無記名投票ヲ
爲シ有效投票ノ過半数ヲ得タル者ヲ以テ當選トシ過半数
ヲ得タル者ナキトキハ多數ヲ得タル者二人ヲ取リ之ニ就キ決
選投票ヲ爲サシム其ノ二人ヲ取ルニ當リ同數者アルトキハ選
投票ニ於テ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス同數アルトキハ
年長者ヲ取リ年同齡者ニテハ議長抽籤シ之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テハ第二十五條及第二十八條ノ規定ヲ連
用シ投票ノ效力ニ關シ議員アルトキハ市會ノ決定ニ依
ル

第一項ノ選舉ニ付テハ市會ハ其ノ議決ヲ以テ指名推薦又ハ
連名投票ノ法ヲ用ルコトヲ得其ノ連名投票ノ法ヲ用ル場合
ニ於テハ前二項ノ例ニ依ル

連名投票ノ法ヲ用ル場合ニ於テ其ノ投票ニシテ第二十八
條第一號、第六號及第七號ニ該當スルモノハ其ノ記載ノ人
員選舉又ハ定數ニ過キタルモノハ之ヲ無効トシ同條第二號、
第四號及第五號ニ該當スルモノハ其ノ部分ノ無効トス
(同上本項ヲ追加)

連名投票ノ法ヲ用ル場合ニ於テ過半数ノ投票ヲ得タル者
選舉スル(定數ヲ超ユルトキハ多數ヲ得タル者ヨリ順次選
舉スヘキ定數ニ至ル迄ノ者ヲ以テ當選者トシ同數者アルトキハ
年長者ヲ取リ年同齡者ニテハ議長抽籤シ之ヲ定ム(同
上本項ヲ追加)

選舉ニ之ヲ適用ス(大正十五年法律第七十四號ヲ以テ本條
ヲ改正)

市長ハ市會議員中選舉權ヲ有セタル者ナルトキ又ハ第三
十二條第六項ニ掲グル者ナルトキハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選舉
權ノ有無又ハ第三十二條第六項ニ掲グル者ニ該當スルヤ否
ハ市會議員カ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ因リ被選舉權ヲ有
セサル場合ヲ除ク外市會ノ決定ニ依リ被選舉權ヲ有
ス

一 禁治產者又ハ准禁治產者ト爲リタルトキ
二 破産者ト爲リタルトキ
三 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
四 選舉ニ關スル犯罪ニ依リ罰金ノ刑ニ處セラレタルトキ

市長ハ市會議員中被選舉權ヲ有セタル者又ハ第三十二條
第六項ニ掲グル者アルトキハ之ヲ市會ノ決定ニ付スヘ
シ市會ハ其ノ交付ヲ受ケル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ決定ス
ヘシ(大正十年法律第五十八號、同十五年法律第七十
四號ヲ以テ本項ヲ改正)

第一項ノ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣選
舉會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第四項ノ裁決ニ不服アルトキハ
行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二項ノ決定及前項ノ裁決ニ付テハ市長ヨリモ訴願又ハ訴
訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴願ヲ提起スルコトヲ
得

第三十六條第九項ノ規定ハ第一項及前二項ノ場合ニ之
ヲ適用ス(大正十年法律第五十八號ヲ以テ本項ヲ改正)

第一項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シテ本
人ニ交付スヘシ

第二十九條、第二十一條ノ三及第三十六條ノ場合ニ於テ府
縣選舉會ノ決定及裁決ハ府縣知事、市會ノ決定ハ市長直
ニ之ヲ告示スヘシ(大正十五年法律第七十四號ヲ以テ本條
ヲ改正)

第二條、職務權限

第四十一條、市會ハ市ニ關スル事件及法律勅令ニ依リ其ノ權
限ニ屬スル事件ヲ議決ス

第四十二條、市會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

一 市條例及市規則ヲ設ケ又ハ改廢スル事
二 市會ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關スル事項但シ第九十三
條ノ事務及法律勅令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラ
ズ

第三十九條、二 勅令ヲ以テ指定スル市(第六條ノ市ノ區ヲ含
ム)市會議員(又ハ區會議員)ノ選舉ニ付テハ府縣知事第十
三條ノ二、第十三條ノ三、第二十九條ノ三及第三十四條
ノ二ノ規定ヲ適用ス此ノ場合ニ於テハ第二十三條第三項
及第五項、第二十五條第五項及第七項、第二十五條ノ
三、第二十八條、第二十九條、第三十三條第一項及第
三十六條第一項ノ規定ニ拘ラス勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ
設ケルコトヲ得(同上本條ヲ追加)

第三十九條、三 前條ノ規定ニ依リ選舉ニ付テハ衆議院議員
選舉法第十章及第十一章並第百四十條第二項及第百
四十二條ノ規定ヲ適用ス但シ議員候補者一人ニ付定ム
ル選舉事務所ノ數、選舉委員及選舉事務員ノ數並選舉
運動ノ費用ノ額ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

前條ノ規定ニ依リ選舉ヲ除クテ外市會議員(又ハ第六條ノ
市ノ區ノ區會議員)ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉法第
九十二條、第九十二條、第九十八條、第九十九條第二
項、第百條及第百四十二條ノ規定ヲ適用ス(同上本條ヲ
追加)

第四十條、本法又ハ本法ニ基キ發スル勅令ニ依リ設置スル議
會ノ議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉法ニ關スル勅令ヲ連
用ス(大正十年法律第五十八號ヲ以テ第二項ヲ削除)

市制 市會 市參事會

第五十六條 市會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス...

第五十七條 議長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議...

第五十八條 議長ハ會議ノ議決ニ依リ非シテハ其ノ日ノ會議ヲ...

第五十九條 會議中本議又ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序...

第六十條 傍聴人公然可否ヲ表示シ又ハ喧嘩ニ涉リ其ノ他會議...

第六十一條 議長ハ總シテ傍聴人ヲ退場セシムル必要...

第六十二條 議長ハ總シテ傍聴人ヲ退場セシムル必要...

第六十三條 議長ハ總シテ傍聴人ヲ退場セシムル必要...

アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得...

第六十四條 議長ハ書記ヲシテ會議録ヲ調製シ會議ノ副未及...

第六十五條 市會ハ會議規則及傍聴人取締規則ヲ設クヘシ...

第六十六條 市會ハ會議規則ニ違反シタル議員ニ對シテ...

第六十七條 市會ハ會議規則ニ違反シタル議員ニ對シテ...

第六十八條 市會ハ會議規則ニ違反シタル議員ニ對シテ...

第六十九條 市會ハ會議規則ニ違反シタル議員ニ對シテ...

第七十條 市會ハ會議規則ニ違反シタル議員ニ對シテ...

市制 市會 市參事會

第七十一條 市會ハ會議規則ニ違反シタル議員ニ對シテ...

第七十二條 市會ハ會議規則ニ違反シタル議員ニ對シテ...

第七十三條 市會ハ會議規則ニ違反シタル議員ニ對シテ...

第七十四條 市會ハ會議規則ニ違反シタル議員ニ對シテ...

第七十五條 市會ハ會議規則ニ違反シタル議員ニ對シテ...

第七十六條 市會ハ會議規則ニ違反シタル議員ニ對シテ...

第七十七條 市會ハ會議規則ニ違反シタル議員ニ對シテ...

第七十八條 市會ハ會議規則ニ違反シタル議員ニ對シテ...

市制 市會 市參事會

第七十九條 議長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議...

第八十條 議長ハ會議ノ議決ニ依リ非シテハ其ノ日ノ會議ヲ...

第八十一條 議長ハ會議ノ議決ニ依リ非シテハ其ノ日ノ會議ヲ...

第八十二條 議長ハ會議ノ議決ニ依リ非シテハ其ノ日ノ會議ヲ...

第八十三條 議長ハ會議ノ議決ニ依リ非シテハ其ノ日ノ會議ヲ...

第八十四條 議長ハ會議ノ議決ニ依リ非シテハ其ノ日ノ會議ヲ...

第八十五條 議長ハ會議ノ議決ニ依リ非シテハ其ノ日ノ會議ヲ...

第八十六條 議長ハ會議ノ議決ニ依リ非シテハ其ノ日ノ會議ヲ...

第八十七條 議長ハ會議ノ議決ニ依リ非シテハ其ノ日ノ會議ヲ...

第八十八條 議長ハ會議ノ議決ニ依リ非シテハ其ノ日ノ會議ヲ...

第八十九條 議長ハ會議ノ議決ニ依リ非シテハ其ノ日ノ會議ヲ...

第九十條 議長ハ會議ノ議決ニ依リ非シテハ其ノ日ノ會議ヲ...

第九十一條 議長ハ會議ノ議決ニ依リ非シテハ其ノ日ノ會議ヲ...

第九十二條 議長ハ會議ノ議決ニ依リ非シテハ其ノ日ノ會議ヲ...

第九十三條 議長ハ會議ノ議決ニ依リ非シテハ其ノ日ノ會議ヲ...

第九十四條 議長ハ會議ノ議決ニ依リ非シテハ其ノ日ノ會議ヲ...

第九十五條 議長ハ會議ノ議決ニ依リ非シテハ其ノ日ノ會議ヲ...

第九十六條 議長ハ會議ノ議決ニ依リ非シテハ其ノ日ノ會議ヲ...

第九十七條 議長ハ會議ノ議決ニ依リ非シテハ其ノ日ノ會議ヲ...

第九十八條 議長ハ會議ノ議決ニ依リ非シテハ其ノ日ノ會議ヲ...

第九十九條 議長ハ會議ノ議決ニ依リ非シテハ其ノ日ノ會議ヲ...

第一百條 議長ハ會議ノ議決ニ依リ非シテハ其ノ日ノ會議ヲ...

第一百零一條 議長ハ會議ノ議決ニ依リ非シテハ其ノ日ノ會議ヲ...

第一百零二條 議長ハ會議ノ議決ニ依リ非シテハ其ノ日ノ會議ヲ...

第一百零三條 議長ハ會議ノ議決ニ依リ非シテハ其ノ日ノ會議ヲ...

第一百零四條 議長ハ會議ノ議決ニ依リ非シテハ其ノ日ノ會議ヲ...

第一百零五條 議長ハ會議ノ議決ニ依リ非シテハ其ノ日ノ會議ヲ...

第一百零六條 議長ハ會議ノ議決ニ依リ非シテハ其ノ日ノ會議ヲ...

第一百零七條 議長ハ會議ノ議決ニ依リ非シテハ其ノ日ノ會議ヲ...

第一百零八條 議長ハ會議ノ議決ニ依リ非シテハ其ノ日ノ會議ヲ...

第一百零九條 議長ハ會議ノ議決ニ依リ非シテハ其ノ日ノ會議ヲ...

第一百一十條 議長ハ會議ノ議決ニ依リ非シテハ其ノ日ノ會議ヲ...

第一百一十一條 議長ハ會議ノ議決ニ依リ非シテハ其ノ日ノ會議ヲ...

市制 市吏員

市長ハ其ノ任期ハ四年トス...

市長ハ其ノ任期ハ四年トス...

市長ハ其ノ任期ハ四年トス...

市制 市吏員

市長ハ其ノ任期ハ四年トス...

市長ハ其ノ任期ハ四年トス...

市長ハ其ノ任期ハ四年トス...

前項ノ職務ニ在ル者ニシテ禁錮以上ノ刑ニ當ルヘキ罪ヲ爲シ
 又ハ公判ニ付セラレタルトキハ監督官廳ハ其ノ職務ノ執行
 ヲ停止スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ停止期間報酬又ハ
 給料ヲ支給スルコトヲ得
 第八十五條 前條條ニ定ムル者ノ外市ニ必要ノ有給吏員ノ置キ
 市長ノ委任ス
 前項吏員ノ定數ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム
 第八十六條 前條條ニ定ムル者ノ外第六條及第八十二條第
 三項ノ市ノ區ニ必要ノ市有給吏員ヲ置キ區長ノ申請ニ依リ
 市長ノ委任ス
 前項吏員ノ定數ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第二章 職務權限

第八十七條 市長ハ市ヲ統轄シ市ヲ代表ス
 市長ノ權任スル事務ノ權自左ノ如シ
 一 市會及市參事會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案
 ヲ發シ及其ノ議決ヲ執行スル事
 二 財產及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者ヲ
 置キタルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事
 三 收入支出ノ命令及會計ヲ監督スル事
 四 證書及公文書類ヲ保管スル事
 五 法令又ハ市會ノ議決ニ依リ使用料、手数料、加入
 金、市稅又ハ夫役現品ヲ賦課徴收スル事
 六 其ノ他法令ニ依リ市長ノ職權ニ屬スル事項
 第八十八條 (大正十五年法律第七十四號ヲ以テ本條ヲ削除)
 第八十九條 市長ハ市吏員ヲ指揮監督シ之ニ對シ懲戒ヲ行フコ
 トヲ得其ノ懲戒處分ハ懲責及十圓以下ノ過怠金トス
 第九十條 市會又ハ市參事會ノ議決又ハ選舉其ノ權限ヲ越エ
 又ハ法令若ハ會議規則ニ背テ罷免タルトキ市長ハ其ノ意見
 ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ

付シ又ハ再選舉ヲ行ハシムヘシ其ノ執行ヲ要スルモノニ在リテハ
 之ヲ停止スヘシ
 前項ノ場合ニ於テ市會又ハ市參事會其ノ議決ヲ改メザルト
 キハ市長ハ府縣參事會ノ議決ヲ開クヘシ但シ特別ノ事由アル
 トキハ再議ニ付セシメ直ニ議決ヲ行フコトヲ得
 監督官廳ハ第一項ノ議決又ハ選舉ヲ取消スルコトヲ得但シ議
 決ノ申請アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 第二項ノ議決又ハ前項ノ處分ニ不服アル市長市會又ハ市
 參事會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 市會又ハ市參事會ノ議決公登ラセシ又ハ市ノ收支ニ關シ
 不適當ナルト認ムルトキ市長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官
 廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付スヘシ其ノ執行ヲ
 要スルモノニ在リテハ之ヲ停止スヘシ
 前項ノ場合ニ於テ市會又ハ市參事會其ノ議決ヲ改メザルト
 キハ市長ハ府縣參事會ノ議決ヲ開クヘシ
 前項ノ議決ニ不服アル市長市會又ハ市參事會ハ內務大臣
 ニ訴願スルコトヲ得
 第六項ノ議決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴願ヲ提起スルコトヲ
 得
 第二項ノ議決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴願ヲ提起スルコトヲ
 得
 第九十一條 市會成立セザルトキ、第五十二條但書ノ場合ニ於
 テ仍會議ヲ開クコト能ハサルトキ又ハ市長ニ於テ市會ヲ召集ス
 ルノ權ヲ失フコト能ハサルトキ市長ハ市會ノ權限ニ屬スル事件ヲ市
 參事會ノ議決ニ付スルコトヲ得
 前項ノ規定ニ依リ市參事會ニ於テ議決ヲ爲ストキハ市長市
 參會及助役ハ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得
 市參事會成立セザルトキ又ハ第七十條第一項但書ノ場合
 ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハサルトキ市長ハ其ノ議決スヘキ
 事件ニ付府縣參事會ノ議決ヲ請フコトヲ得

市會又ハ市參事會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セザルト
 キハ前項ノ例ニ依ル
 市會又ハ市參事會ノ決定スヘキ事件ニ關シテ前四項ノ例
 ニ依リ此ノ場合ニ於テ市參事會又ハ府縣參事會ノ決定ニ
 關シテハ各本條ノ規定ニ違フ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ
 得
 第一項及前三項ノ規定ニ依リ處置ニ付テハ次回ノ會議ニ
 於テ之ヲ市會又ハ市參事會ニ報告スヘシ
 第九十二條 市參事會ニ於テ議決又ハ決定スヘキ事件ニ關シ
 時急議ヲ要スル場合ニ於テ市參事會成立セザルトキ又ハ市
 長ニ於テ之ヲ召集スルノ權ヲ失フコト能ハサルトキ市長ハ之ヲ專決
 シ次回ノ會議ニ於テ之ヲ市參事會ニ報告スヘシ
 前項ノ規定ニ依リ市長ノ爲シタル處分ニ關シテハ各本條ノ規
 定ニ違フ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得
 第九十三條 市參事會ノ權限ニ屬スル事項ノ一部ハ其ノ議
 決ニ依リ市長ニ於テ專決處分スルコトヲ得 (大正十五年法
 律第七十四號ヲ以テ本條ヲ追加)
 第九十四條 市長其ノ他市吏員ハ法令ノ定ムル所ニ依リ府
 縣其ノ他公共團體ノ事務ヲ掌ル
 前項ノ事務ヲ執行スル爲メ費用ハ市ノ負擔トス但シ法
 令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス
 第九十五條 市長ハ其ノ事務ノ一部ヲ助役ニ分掌セシムルコトヲ
 得但シ市ノ事務ニ付テハ市長市會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス同
 上本項ヲ改正)
 第九十六條 市ノ市長ハ前項ノ例ニ依リ其ノ事務ノ一部ヲ區長
 ニ分掌セシムルコトヲ得
 市長ハ市吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコト
 ヲ得
 第九十七條 市參會ハ市長ノ指揮監督ヲ承ケ市ノ經營ニ屬スル
 特別ノ事務ヲ擔任ス

第九十六條 助役ハ市長ノ事務ヲ補助ス

助役ハ市長故障アルトキ之ヲ代理ス助役數人アルトキハ
 市長ノ定ムル順序ニ依リ之ヲ代理ス
 第九十七條 收入役ハ市ノ出納其ノ他ノ會計事務及第九十
 三條ノ事務ニ關スル府縣其ノ他公共團體ノ出納其ノ他
 ノ會計事務ヲ掌ル但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ
 在ラス
 副收入役ハ收入役ノ事務ヲ補助シ收入役故障アルトキハ之
 ヲ代理ス副收入役數人アルトキハ市長ノ定ムル順序ニ
 依リ之ヲ代理ス
 市長ハ收入役ノ事務ノ一部ヲ副收入役ニ分掌セシムルコトヲ
 得但シ市ノ出納其ノ他ノ會計事務ニ付テハ市長市會ノ同意
 ヲ得ルコトヲ要ス (大正十五年法律第七十四號ヲ以テ本項
 ヲ改正)
 第九十八條 市ノ市長ハ前項ノ例ニ依リ收入役ノ事務ノ一部ヲ
 區長ニ分掌セシムルコトヲ得
 副收入役ノ置カサル場合ニ於テハ市會ハ市長ノ推薦ニ依リ
 收入役故障アルトキ之ヲ代理スヘキ吏員ヲ定ムヘシ (同上本
 項ヲ改正)
 第九十九條 第六條ノ市ノ區長ハ市長ノ命ヲ承ケ又ハ法令ノ定
 ムル所ニ依リ區内ニ關スル市ノ事務及區ノ事務ヲ掌ル
 區長其ノ他區所屬ノ吏員ハ市長ノ命ヲ承ケ又ハ法令ノ定ム
 ル所ニ依リ區府縣其ノ他公共團體ノ事務ヲ掌ル
 區長故障アルトキハ區收入役及區副收入役ニ非サル區所
 屬ノ吏員中上席者ヨリ順次之ヲ代理ス
 第一項及第二項ノ事務ヲ執行スル爲メ費用ハ市ノ負
 擔トス但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス
 第一百條 第六條ノ市ノ區收入役ハ市長ノ命ヲ承ケ又
 ハ法令ノ定ムル所ニ依リ市及區ノ出納其ノ他ノ會計事務及
 府縣其ノ他公共團體ノ出納其ノ他ノ會計事務ヲ掌ル

區長ハ市長ノ許可ヲ得テ區收入役ノ事務ノ一部ヲ區副收
 入役ニ分掌セシムルコトヲ得但シ區ノ出納其ノ他ノ會計事務
 ニ付テハ市長市會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
 市長ハ市ノ出納其ノ他ノ會計事務ニ付前項ノ許可ヲ得
 場合ニ於テハ區長市會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
 區副收入役ノ置カサル場合ニ於テハ市長ハ區收入役故障アル
 トキ之ヲ代理スヘキ吏員ヲ定ムヘシ
 區收入役及區副收入役ノ職務權限ニ關シテ前四項ニ規
 定スルモノノ外市收入役及市副收入役ニ關スル規定ヲ適用
 ス
 第一百零一條 名譽職區長ハ市長ノ命ヲ承ケ市長ノ事務ニシテ區内
 ニ關スルモノヲ補助ス
 名譽職區長代理者ハ區長ノ事務ヲ補助シ區長故障アルト
 キ之ヲ代理ス
 第一百零二條 委員ハ市長ノ指揮監督ヲ承ケ財產又ハ營造物ヲ管
 理シ其ノ他委託ヲ受ケタル市ノ事務ヲ調査シ又ハ之ヲ處辨ス
 第一百零三條 第八十五條ノ吏員ハ市長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス
 第一百零四條 第八十六條ノ吏員ハ區長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス
 區長ハ前項ノ吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムル
 コトヲ得

第五章 給料及給與

第一百零五條 名譽職市長、市會議員、名譽職參事會員其ノ
 他ノ名譽職員ハ職務ヲ爲メスル費用ノ辨償ヲ受ルコトヲ
 得
 名譽職市長、名譽職區長、名譽職區長代理者及委員
 ニハ費用辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得
 費用辨償額、報酬額及其ノ支給方法ハ市會ノ議決ヲ經テ
 之ヲ定ム
 市長、有給市參會、助役其ノ他ノ有給吏員ノ給料

額、旅費額及其ノ支給方法ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム
 第一百零六條 有給吏員ニハ市條例ノ定ムル所ニ依リ退職料、退
 職給與金、死亡給與金又ハ遺族扶助料ヲ給スルコトヲ得
 第一百零七條 費用辨償、報酬、給料、旅費、退職料、退職給與
 金、死亡給與金又ハ遺族扶助料ノ給與ニ付關係者ニ於テ
 異議アルトキハ之ヲ市長ニ申立ルコトヲ得
 前項ノ異議ノ申立アリタルトキ市長ハ七日以内ニ之ヲ市參
 事會ノ決定ニ付スヘシ關係者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣
 參事會ニ訴願シ其ノ議決又ハ第三項ノ議決ニ不服アルトキ
 ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得大正十五年法律第七十
 四號ヲ以テ本項ヲ改正)
 前項ノ決定及裁決ニ付テハ市長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起
 スルコトヲ得
 前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴願ヲ提起スルコトヲ
 得
 第一百零八條 費用辨償、報酬、給料、旅費、退職料、退職給與
 金、死亡給與金、遺族扶助料其ノ他ノ給與ハ市ノ負擔トス
 第一百零九條 第一條 財產營造物及市稅

第六章 市ノ財務

市ノ特定ノ目的ノ爲特別ノ基本財產ヲ設ケ又ハ金穀等ヲ
 積立スルコトヲ得
 第一百十條 舊來ノ慣行ニ依リ市住民中特ニ財產又ハ營造物ヲ
 使用スル權利ヲ有スル者アルトキハ其ノ權限ニ依リ舊慣ヲ變
 更又ハ廢止セムトキハ市會ノ議決ヲ經ヘシ
 前項ノ財產又ハ營造物ヲ新ニ使用セムトスル者アルトキハ市
 會ノ許可ヲ得

第十二條 市八前條ニ規定スル財産ノ使用方法ニ關シ市規
則ヲ設クルコトヲ得

第十三條 市八前條第一項ノ使用者ヨリ領得シ得ル徵收
ノ間條第二項ノ使用ニ關シテハ使用料若ハ一時ノ加入金ヲ
徵收シ又ハ使用料及加入金ヲ共ニ徵收スルコトヲ得

第十四條 市八前條ノ使用ニ付使用料ヲ徵收スルコトヲ得
市ハ特ニ一個人ノ爲ニシテ事務ニ付手數料ヲ徵收スルコト
ヲ得

第十五條 財產ノ賣却貨賣、工事ノ請負及物件力其ノ
他ノ供給ハ職守入札ニ付スヘシ但シ臨時急務ニ要スルトキ
入札ノ價額其ノ費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ市會ノ
同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 市ハ其ノ公益上必要ナル場合ニ於テハ寄附又ハ補
助ヲ爲スコトヲ得

第十七條 市ハ其ノ必要ナル費用及從來法令ニ依リ又ハ將
來法律勅令ニ依リ市ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支拂フル義務ヲ
負フ

第十八條 市ハ其ノ財產ヨリ生スル收入、使用料、手数料、過料、過
金其ノ他法令ニ依リ市ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充
テ仍不足アルトキハ市稅及夫役現品等賦課徵收スルコトヲ
得

第十九條 市稅ノシテ賦課スルコトヲ得ヘキモノ左ノ如シ

一 國稅府縣稅ノ附加稅

二 特別稅

直接國稅又ハ直接府縣稅ノ附加稅ハ均一ノ稅率ヲ以テ之
ヲ徵收スヘシ但シ第六十七條ノ規定ニ依リ許可受ケタル
場合ハ此ノ限ニ在ラス

國稅ノ附加稅タル府縣稅ニ對シテハ附加稅ノ賦課スルコトヲ
得

特別稅ハ別ニ稅目ヲ起シテ課稅スルノ必要アルトキハ賦課徵
收スルコトヲ得

第十八條 三月以上市内ニ滞在スル者ハ其ノ滞在ノ初ニ過
市稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第十九條 市内ニ住所ヲ有セス又ハ三月以上滞在スルコトナシ
ト雖市内ニ於テ土地家屋物件ノ所有ヲ使用シ若ハ占有シ
市内ニ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲シ又ハ市内ニ於テ特定ノ行
爲ヲ爲ス者ハ其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ對シ
又ハ其ノ行爲ニ對シテ賦課スル市稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第二十條 納稅者ノ市外ニ於テ所有シ使用シ占有スル土地
家屋物件若ハ其ノ收入又ハ市外ニ於テ營業所ヲ設ケタル營
業若ハ其ノ收入ニ對シテハ市稅ヲ賦課スルコトヲ得

市ノ内外ニ於テ營業所ヲ設ケ營業ヲ爲ス者ニシテ其ノ營業
又ハ收入ニ對シテ本稅ヲ分別シテ納ムルモノニ對シテ附加稅ヲ
賦課スル場合及住所所在市ノ内外ニ涉ル者ノ收入ニ對シテ土
地家屋物件又ハ營業所ヲ設ケタル營業ヨリ生スル收入ニ非
サルモノニ對シテ市稅ヲ賦課スル場合ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定
ム

第二十一條 所得稅法第十八條ニ掲ケル所得ニ對シテハ市稅
ヲ賦課スルコトヲ得

第二十二條 所得稅法第十八條ニ掲ケル所得ニ對シテハ市稅
ヲ賦課スルコトヲ得

第二十三條 所得稅法第十八條ニ掲ケル所得ニ對シテハ市稅
ヲ賦課スルコトヲ得

第二十四條 所得稅法第十八條ニ掲ケル所得ニ對シテハ市稅
ヲ賦課スルコトヲ得

第二十五條 所得稅法第十八條ニ掲ケル所得ニ對シテハ市稅
ヲ賦課スルコトヲ得

第二十六條 所得稅法第十八條ニ掲ケル所得ニ對シテハ市稅
ヲ賦課スルコトヲ得

第二十七條 所得稅法第十八條ニ掲ケル所得ニ對シテハ市稅
ヲ賦課スルコトヲ得

第二十八條 所得稅法第十八條ニ掲ケル所得ニ對シテハ市稅
ヲ賦課スルコトヲ得

第二十九條 所得稅法第十八條ニ掲ケル所得ニ對シテハ市稅
ヲ賦課スルコトヲ得

第三十條 所得稅法第十八條ニ掲ケル所得ニ對シテハ市稅
ヲ賦課スルコトヲ得

第三十一條 所得稅法第十八條ニ掲ケル所得ニ對シテハ市稅
ヲ賦課スルコトヲ得

第三十二條 所得稅法第十八條ニ掲ケル所得ニ對シテハ市稅
ヲ賦課スルコトヲ得

第三十三條 所得稅法第十八條ニ掲ケル所得ニ對シテハ市稅
ヲ賦課スルコトヲ得

第三十四條 所得稅法第十八條ニ掲ケル所得ニ對シテハ市稅
ヲ賦課スルコトヲ得

第三十五條 所得稅法第十八條ニ掲ケル所得ニ對シテハ市稅
ヲ賦課スルコトヲ得

第三十六條 所得稅法第十八條ニ掲ケル所得ニ對シテハ市稅
ヲ賦課スルコトヲ得

第三十七條 所得稅法第十八條ニ掲ケル所得ニ對シテハ市稅
ヲ賦課スルコトヲ得

第三十八條 所得稅法第十八條ニ掲ケル所得ニ對シテハ市稅
ヲ賦課スルコトヲ得

第三十九條 所得稅法第十八條ニ掲ケル所得ニ對シテハ市稅
ヲ賦課スルコトヲ得

第四十條 所得稅法第十八條ニ掲ケル所得ニ對シテハ市稅
ヲ賦課スルコトヲ得

前四項ノ外市稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別ニ法律勅令
ノ定ムル所ニ依ル

第二十一條 市ハ公益上其ノ他ノ事由ニ因リ課稅ヲ不適
當トスル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ市稅ヲ課稅スル
上ノ條(大正十五年法律第七十四號)ヲ以テ本條ヲ追加ス

第二十二條 數人ノ利益ニ關スル設置維持其ノ他ノ必要ナ
ル費用ハ其ノ關係者ニ負擔セシムルコトヲ得

市ノ一部ヲ利スル設置物ノ設置維持其ノ他ノ必要ナル費用
ハ其ノ一部ニ於テ市稅ヲ納ムル義務アル者ニ負擔セシムルコト
ヲ得

第二十三條 市稅及前項ノ規定ニ充ツヘシ前項ノ場合ニ於テ其ノ一部
ノ收入アルトキ亦同シ

第二十四條 市稅及前項ノ規定ニ充ツヘシ前項ノ場合ニ於テ其ノ一部
ノ收入アルトキ亦同シ

第二十五條 市稅及前項ノ規定ニ充ツヘシ前項ノ場合ニ於テ其ノ一部
ノ收入アルトキ亦同シ

第二十六條 市稅及前項ノ規定ニ充ツヘシ前項ノ場合ニ於テ其ノ一部
ノ收入アルトキ亦同シ

第二十七條 市稅及前項ノ規定ニ充ツヘシ前項ノ場合ニ於テ其ノ一部
ノ收入アルトキ亦同シ

第二十八條 市稅及前項ノ規定ニ充ツヘシ前項ノ場合ニ於テ其ノ一部
ノ收入アルトキ亦同シ

第二十九條 市稅及前項ノ規定ニ充ツヘシ前項ノ場合ニ於テ其ノ一部
ノ收入アルトキ亦同シ

第三十條 市稅及前項ノ規定ニ充ツヘシ前項ノ場合ニ於テ其ノ一部
ノ收入アルトキ亦同シ

第三十一條 市稅及前項ノ規定ニ充ツヘシ前項ノ場合ニ於テ其ノ一部
ノ收入アルトキ亦同シ

第三十二條 市稅及前項ノ規定ニ充ツヘシ前項ノ場合ニ於テ其ノ一部
ノ收入アルトキ亦同シ

第三十三條 市稅及前項ノ規定ニ充ツヘシ前項ノ場合ニ於テ其ノ一部
ノ收入アルトキ亦同シ

第三十四條 市稅及前項ノ規定ニ充ツヘシ前項ノ場合ニ於テ其ノ一部
ノ收入アルトキ亦同シ

第三十五條 市稅及前項ノ規定ニ充ツヘシ前項ノ場合ニ於テ其ノ一部
ノ收入アルトキ亦同シ

第三十六條 市稅及前項ノ規定ニ充ツヘシ前項ノ場合ニ於テ其ノ一部
ノ收入アルトキ亦同シ

第三十七條 市稅及前項ノ規定ニ充ツヘシ前項ノ場合ニ於テ其ノ一部
ノ收入アルトキ亦同シ

第三十八條 市稅及前項ノ規定ニ充ツヘシ前項ノ場合ニ於テ其ノ一部
ノ收入アルトキ亦同シ

第三十九條 市稅及前項ノ規定ニ充ツヘシ前項ノ場合ニ於テ其ノ一部
ノ收入アルトキ亦同シ

第四十條 市稅及前項ノ規定ニ充ツヘシ前項ノ場合ニ於テ其ノ一部
ノ收入アルトキ亦同シ

非常災害ノ爲ニ必要アルトキハ市ハ他人ノ土地
一時使用シ又ハ其ノ土石竹木其ノ他ノ物品ヲ使用シ若ハ
收用スルコトヲ得但シ其ノ損失ヲ補償スヘシ

前項ノ場合ニ於テ危險防止ノ爲ニ必要アルトキハ市長、警察
官吏又ハ監督官廳ハ市内ノ居住者ヲシテ防禦ニ從事セシム
ルコトヲ得

第二項但書ノ規定ニ依リ補償スヘキ金額ハ協議ニ依リ之ヲ
定ム協議ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ府縣知事ノ之ヲ
決定ス決定受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ内務大臣
ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シテ之ヲ本人
ニ交付ス

第二項ノ規定ニ依リ土地ノ一時使用ノ處分ヲ受ケタル者其
ノ處分ニ不服アルトキハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル
トキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

市稅ノ賦課ニ關シテ必要ナル場合ニ於テハ當該吏
員ハ日出ヨリ日没迄ノ間營業者ニ關シテハ仍其ノ營業時間
内家宅若ハ營業所ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ検査ヲ爲スコト
ヲ得

前項ノ場合ニ於テハ當該吏員ハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證書
ヲ携帯ス

第二十八條 市長ハ納稅者中特別ノ事情アル者ニ對シテ納稅
延期ヲ許スコトヲ得其ノ年度ヲ越スル場合ハ市會事會ノ議
決ヲ經テ

市ハ特別ノ事情アル者ニ限リ市稅ヲ減免スルコトヲ得

市會事會 使用料手数料及特別稅ニ關スル事項ニ付テハ
市條例ヲ以テ之ヲ規定スヘシ(大正十五年法律第七十四
號)ヲ以テ本項ヲ改正

許償其ノ他ノ不正ノ行爲ニ依リ使用料ノ徵收ヲ免レ又ハ市
稅ヲ減免シタル者ニ付テハ市條例ヲ以テ其ノ徵收ヲ免レ又ハ

通脫シタル金額ノ二倍ニ相當スル金額(其ノ金額五圓未満
ナルトキハ五圓)以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設ケルコトヲ得(同
上本項ヲ改正)

前項ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手数料及市稅ノ賦課
徵收ニ關シテハ市條例ヲ以テ五圓以下ノ過料ヲ科スル規定
ヲ設ケルコトヲ得財產又ハ營業物ノ使用ニ關シテ亦同シ(同上
本項ヲ改正)

過料ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣知事
會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スル
コトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ市長ヨリモ訴願ヲ提起ス
ルコトヲ得

第二十九條 市稅ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯
誤アリト認ムルトキハ徵稅令書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三月以
内ニ市長ニ異議ヲ申立ラシムルコトヲ得

財產又ハ營業物ノ使用ニ關シテ異議アル者ハ之ヲ市
長ニ申立ラシムルコトヲ得

前二項ノ異議ノ申立アリタルトキハ市長ハ七日以内ニ之ヲ市
會事會ニ決定ニ付スヘシ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アル
トキハ府縣知事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第五項ノ裁決ニ
不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得(同上本項ヲ
改正)

第一項及前項ノ規定ニ依リ使用料手数料及加入金ノ徵收並
夫役現品ノ賦課ニ關シテ之ヲ運用ス

前二項ノ規定ニ依リ決定及裁決ニ付テハ市長ヨリモ訴願又
ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前三項ノ規定ニ依リ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提
起スルコトヲ得

第三十條 市稅、使用料、手数料、加入金、過料、過
怠金其ノ他ノ市收入ヲ定期内ニ納ムル者アルトキハ市長

八期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ

夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者定期内ニ其ノ履行ヲ爲サス又
ハ夫役現品ニ代フル金額ヲ納ムルコトキハ市長ハ期限ヲ指定
シテ之ヲ督促スヘシ急迫ノ場合ニ賦課シタル夫役ニ付テハ更ニ
之ヲ金額ニ算出シ期限ヲ指定シテ其ノ納付ヲ命ズ

前二項ノ場合ニ於テハ市條例ノ定ムル所ニ依リ手数料ヲ徵
收スルコトヲ得

前項ノ第一項又ハ第二項ノ督促又ハ命令ヲ受ケタル者指定
ノ期限内ニ之ヲ完納セサルトキハ國稅府縣稅ノ例ニ依リ之
ヲ處分ス

第一項乃至第三項ノ徵收金ハ府縣稅ノ徵收金ニ次テ先取
特權ヲ有シ其ノ追徴還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

前三項ノ處分ニ不服アル者ハ府縣知事會ニ訴願シ其ノ裁
決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得(同上本
項ヲ改正)

前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ市長ヨリモ訴願ヲ提起ス
ルコトヲ得

第四項ノ處分中差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定ニ至ル迄執
行ヲ停止ス

第三十一條 市ハ其ノ負債價額還スル爲、市ノ永久ノ利益ト
爲ルキ支出ヲ爲ス爲又ハ天災事變等ノ爲ニ必要ナル場合ニ
限リ市債ヲ起スコトヲ得

市債ヲ起スニ付市會ノ議決ヲ經ルコトキハ併セテ起債ノ方法、
利率ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ

市長ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲市會事會ノ議決ヲ經テ一時
ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ借入金ハ其ノ會計年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘシ

第三十二條 歳入出豫算及決算

第三十三條 市長ハ毎會計年度歳入出豫算ヲ調製シ之ヲ

三項ノ借入金ハ此限ニ在ラス
三六特別稅ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事
三 間接國稅ノ附加稅ヲ賦課スル事
四 使用料ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事(大正十五年法律第七十四號ヲ以テ本號ヲ改正)

一 市條例ヲ廢止スル事(同上本號ヲ改正)
二 基本財産及特別基本財産ノ處分ニ關スル事(同上本號ヲ改正)
三 第一百十條ノ規定ニ依リ舊債ヲ變更又ハ廢止スル事
四 寄附又ハ補助ヲ爲ス事
五 手数料及加入金ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事(同上本號ヲ改正)

六 均一ノ稅率ニ依リシテ國稅又ハ府縣稅ノ附加稅ヲ賦課スル事
七 第七十二條第一項第二項及第四項ノ規定ニ依リ數人又ハ市ノ一部ニ費用ヲ負擔セシムル事
八 第二百二十四條ノ規定ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ市ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲ス事
九 第二百二十五條ノ規定ニ依リシテ夫役現品ヲ賦課スル事但シ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

十 職權ヲ定メ又ハ變更スル事
第六十八條 監督官廳ノ許可ヲ要スル事件ニ付テハ監督官廳ハ許可申請ノ趣旨ニ反セテ認ムル範圍内ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得
第六十九條 監督官廳ノ許可ヲ要スル事件ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ許可ノ職權ヲ下級監督官廳ニ委任シ又ハ轉讓スル事但シ其ノ職權ヲ下級監督官廳ニ委任シ又ハ轉讓スル事ニ關シテ府縣知事ハ市長、市參事、助役、收入役、副

收入役、區長、區長代理者、委員其ノ他ノ市吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ過罰金、二十五圓以下ノ過罰金及解職トス但シ市長、市參事、助役、收入役、副收入役及第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ノ區長ニ對シ解職ハ懲戒審査會ノ議決ヲ經テ市長ニ付テハ勅令ヲ經ルコトヲ要ス
懲戒審査會ハ內務大臣ノ命シタル府縣高等官三人及府縣名譽懲戒審査會員ニ於テ互選シタル者三人ヲ以テ其ノ會員トシ府縣知事ヲ以テ會長トス知事故障アルトキハ其ノ代理者會長ヲ職務ヲ行フ
府縣名譽懲戒審査會員ノ互選スヘキ會員ノ選舉補闕及任期並懲戒審査會ノ招集及會議ニ付テハ府縣制中名譽懲戒審査會員及府縣懲戒審査會ニ關スル規定ヲ準用ス但シ補充員ハ之ヲ設クルノ限ニ在ラス
解職ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得但シ市長ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
府縣知事ハ市長、市參事、助役、收入役、副收入役及第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ノ區長ノ解職ヲ行ハムトスル前其ノ停職ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ停職期間報酬又ハ給料ヲ支給スルコトヲ得ス
懲戒ニ依リ解職セラルル者ハ二年間市町村ノ公職ニ選舉セラレ又ハ任命セラルコトヲ得ス

第七十一條 市吏員ノ服務紀律、賠償責任、身元保證及事務引繼ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
前項ノ命令ニハ事務引繼ヲ拒ミタル者ニ對シ二十五圓以下ノ過罰金ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

第十條 雜則
第七十二條 府縣知事又ハ府縣懲戒審査會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ府縣知事ハ市長、市參事、助役、收入役、副收入役、副收入役、區長、區長代理者、委員其ノ他ノ市吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ過罰金、二十五圓以下ノ過罰金及解職トス但シ市長、市參事、助役、收入役、副收入役及第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ノ區長ニ對シ解職ハ懲戒審査會ノ議決ヲ經テ市長ニ付テハ勅令ヲ經ルコトヲ要ス
懲戒審査會ハ內務大臣ノ命シタル府縣高等官三人及府縣名譽懲戒審査會員ニ於テ互選シタル者三人ヲ以テ其ノ會員トシ府縣知事ヲ以テ會長トス知事故障アルトキハ其ノ代理者會長ヲ職務ヲ行フ
府縣名譽懲戒審査會員ノ互選スヘキ會員ノ選舉補闕及任期並懲戒審査會ノ招集及會議ニ付テハ府縣制中名譽懲戒審査會員及府縣懲戒審査會ニ關スル規定ヲ準用ス但シ補充員ハ之ヲ設クルノ限ニ在ラス
解職ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得但シ市長ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
府縣知事ハ市長、市參事、助役、收入役、副收入役及第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ノ區長ノ解職ヲ行ハムトスル前其ノ停職ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ停職期間報酬又ハ給料ヲ支給スルコトヲ得ス
懲戒ニ依リ解職セラルル者ハ二年間市町村ノ公職ニ選舉セラレ又ハ任命セラルコトヲ得ス

第七十三條 府縣知事又ハ府縣懲戒審査會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ府縣知事ハ市長、市參事、助役、收入役、副收入役、副收入役、區長、區長代理者、委員其ノ他ノ市吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ過罰金、二十五圓以下ノ過罰金及解職トス但シ市長、市參事、助役、收入役、副收入役及第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ノ區長ニ對シ解職ハ懲戒審査會ノ議決ヲ經テ市長ニ付テハ勅令ヲ經ルコトヲ要ス
懲戒審査會ハ內務大臣ノ命シタル府縣高等官三人及府縣名譽懲戒審査會員ニ於テ互選シタル者三人ヲ以テ其ノ會員トシ府縣知事ヲ以テ會長トス知事故障アルトキハ其ノ代理者會長ヲ職務ヲ行フ
府縣名譽懲戒審査會員ノ互選スヘキ會員ノ選舉補闕及任期並懲戒審査會ノ招集及會議ニ付テハ府縣制中名譽懲戒審査會員及府縣懲戒審査會ニ關スル規定ヲ準用ス但シ補充員ハ之ヲ設クルノ限ニ在ラス
解職ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得但シ市長ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
府縣知事ハ市長、市參事、助役、收入役、副收入役及第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ノ區長ノ解職ヲ行ハムトスル前其ノ停職ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ停職期間報酬又ハ給料ヲ支給スルコトヲ得ス
懲戒ニ依リ解職セラルル者ハ二年間市町村ノ公職ニ選舉セラレ又ハ任命セラルコトヲ得ス

具狀ニ依リ其ノ事件ヲ管理スヘキ府縣知事又ハ府縣懲戒審査會ヲ指定スル事
第七十三條 本法ニ規定スルモノノ外第六條ノ市ノ有給吏員ノ組織任用法限及其ノ區ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第七十四條 第十三條ノ人口ハ內務大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ定ム
第七十五條 本法ニ於テ直接接稅及間接稅ノ種類ハ內務大臣及大藏大臣ノ定ムル事
第七十六條 市又ハ市町村組合ノ廢置分合又ハ境界變更アリタル場合ニ於テ市ノ事務ニ付必要ナル事項ハ本法ニ規定スルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第七十七條 本法中府縣、府縣制、府縣知事、府縣懲戒審査會、府縣名譽懲戒審査會員、府縣高等官、所屬府縣官吏若ハ有給吏員、府縣稅又ハ直接府縣稅ニ關スル規定ハ北海道ニ付テハ各地方、道會議法、道廳長官、道廳事務會、道名譽懲戒審査會員、道廳高等官、道廳官吏若ハ地方官若ハ有給吏員、北海道地方稅又ハ直接北海道地方稅ニ付テハ町村又ハ町村會ニ關スル規定ハ北海道ニ付テハ各町村又ハ町村會ニ該當スルモノニ關シテ適用ス大正十一年法律第五十六號ヲ以テ本條ヲ改正)

第七十八條 本法中官吏ニ關スル規定ハ待遇官吏ニテ適用ス(大正十五年法律第七十四號ヲ以テ本條ヲ追加)

附則
第七十八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治四十四年勅令第二百三十八號ヲ以テ同年十月一日ヨリ之ヲ施行ス)
第七十九條 本法施行ノ際現ニ市會議員又ハ區會議員ノ職ニ在ル者ハ從前ノ規定ニ依リ最近ノ定期改選期ニ於テ總テ其ノ職ヲ失フ

市制第六條ノ市ノ指定ニ關スル件
東京市
京都市
大阪市
附則
本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ際現ニ市長助役又ハ收入役ノ職ニ在ル者ハ從前ノ規定ニ依リ任期滿了ノ日ニ於テ其ノ職ヲ失フ
第八十條 舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ本法ノ適用ニ付テハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス但シ復讐ヲ得タル者ハ此ノ限ニ在ラス
舊刑法ノ禁錮以上ノ刑ハ本法ノ適用ニ付テハ禁錮以上ノ刑ト看做ス
第八十一條 本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則(大正十年法律第五十八號附則)
本法中公民權及選舉ニ關スル規定ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ規定ノ施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十五年勅令第二百七號ヲ以テ公民權及議員選舉ニ關スル規定ヲ除ク外同年七月一日ヨリ之ヲ施行ス)
本法ニ依リ初テ議員ヲ選舉スル場合ニ於テ必要ナル選舉人名簿ニ關シ第二十一條乃至第二十二條ノ規定ニ依リ其ノ期日又ハ期間ニ依リ總選舉キキ命令ヲ以テ別ニ其ノ期日又ハ期間ヲ定ム

附則(大正十一年法律第五十六號附則)
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十一年勅令第二百五十五號ヲ以テ同年五月十五日ヨリ施行ス)
北海道ノ區ヲ廢シテ市ヲ置カムトスルキハ第三條ノ例ニ依リ之ヲ施行ス

附則(大正十五年法律第七十四號附則)
本法中公民權及議員選舉ニ關スル規定ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ規定ノ施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十五年勅令第二百七號ヲ以テ公民權及議員選舉ニ關スル規定ヲ除ク外同年七月一日ヨリ之ヲ施行ス)
本法ニ依リ初テ議員ヲ選舉スル場合ニ於テ必要ナル選舉人名簿ニ關シ第二十一條乃至第二十二條ノ規定ニ依リ其ノ期日又ハ期間ニ依リ總選舉キキ命令ヲ以テ別ニ其ノ期日又ハ期間ヲ定ム

但シ其ノ選舉人名簿ハ次ノ選舉人名簿確定迄其ノ效力ヲ有ス
本法施行ノ際大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法又ハ大正十五年府縣制中改正法律未タ施行セラレザル場合ニ於テハ本法ノ適用ニ付テハ同法ハ既ニ施行セラレタルモノト看做ス
本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

Table with columns for city names and their corresponding administrative status or dates. Includes cities like 東京市, 京都市, 大阪市, 名古屋市, etc.

市制第六條ノ市ノ指定ニ關スル件
東京市
京都市
大阪市
附則
本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

市制第六條ノ市ノ助役ノ定數

市制第六條ノ市ノ助役ノ定數左ノ通之ヲ定ム
(明治四十四年九月二十二日)
(勅令第百十三號)

附則

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

府縣制準用選舉市區指定令

府縣制準用選舉市區指定令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
(大正十五年六月二十四日)
(勅令第百一十一號)

附則

Table listing designated municipalities for provincial and county systems, including Tokyo, Osaka, and various prefectural cities.

六大都市行政監督ニ關スル法律

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル六大都市行政監督ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
(大正十一年三月二十二日)
(法律第一號)

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
凡書
市制第六條ノ市ノ助役ノ定數ニ關スル事

六大都市行政監督特例

朕六大都市行政監督特例ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
(大正十五年六月二十四日)
(勅令第百二十二號)

六大都市行政監督特例

市行政ニ關シ府縣知事ノ許可ヲ要スル事項中左ニ掲グルモノハ東京市、京都市、大阪市、横浜市、神戸市及名古屋市中於テ其ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ
一 市制中府縣知事ノ許可ヲ要スル事項但シ市長ガ他ノ報償アル業務ニ從事スルコト、市町村組合ニ關スルコト及三年度ヲ超テル繰繰費ニ關スルコトヲ除ク
二 市制町村制施行令第五十九條ノ規定ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ要スル事項但シ同條第五號乃至第七號ニ掲グルコトヲ除ク

附則

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
大正十一年勅令第四百二十四號ハ之ヲ廢止ス

濟市指畫表

本令ハ大正十一年三月二十二日ヨリ之ヲ施行ス
(大正十一年三月二十二日)

六大都市行政監督特例 市制第八十二條第三項ノ規定ニ依ル市指定
行政又ハ司法區域ニ關スル市ノ所屬ノ件

市制第八十二條第三項ノ規定ニ依ル市指定

市制第八十二條第三項ノ規定ニ依リ市ヲ指定スルコト左ノ如シ
(明治四十四年九月二十二日)
(內務省令第百十四號)

改正、昭二一內令三二

名古屋市
横濱市(昭和二年內務省令第三十二號ヲ以テ本市ヲ追加)

附則

本令ハ昭和二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
附則 (昭和二年內務省令第三十二號附則)

行政又ハ司法區域ニ關スル市ノ所屬ノ件

朕行政又ハ司法區域ニ關スル市ノ所屬ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
(明治二十三年五月二日)
(勅令第七十一號)

一 區ヲ市トナシタルモノニ付テハ市ノ區域ニ依ル但東京市、京都市、大阪市ニ在テハ仍舊ノ區域ニ依ル
二 郡内ノ町村ヲ市トナシタルモノニ付テハ仍舊其從前屬シタル郡ノ區域ニ包含スルモノトス
三 二郡以上ニ渉ル町村ヲ合シテ市トナシタルモノニ付テハ其郡ノ人口ノ最モ大ナル部分ノ屬シタル郡ノ區域ニ包含スルモノトス
四 此勅令發布前ニ行ヒタル選舉ハ第三ノ規定ニ合ハサルモノアルモ其當選者ニ限リ取消ス

十二 區域變動ノ爲メ關係ノ郡ヨリ選舉人ノ數ニ増減ヲ爲スヘキ必要アルトキハ本年ノ通常議會ノ議決ヲ取リ明治二十二年法律第七號第二條第二項ニ依リ處分ス

又ハ選舉ノ結果、選舉人ノ數ハ本年ノ通常議會ノ議決ニ依リ處分ス

●都市計畫法

(大正八年四月五日 法律第三十六號)

改正、大一一法二七、大一一法三八

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ都市計畫法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

都市計畫法

第一條 本法ニ於テ都市計畫ト稱スルハ交通、衛生、保安、

經濟等ニ關シ永久ニ公共ノ安寧ヲ維持シ又ハ福利ヲ増進ス

ル爲メ重要施設ヲ計畫シテ市ノ區域内ニ於テ又ハ其ノ區

域外ニ互リ施行スルモノヲ謂フ

第二條 前條ニ規定スル市ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス其ノ市ノ都

市計畫區域ハ關係市町村及都府市計畫委員會ノ意見ヲ聞

キ主務大臣之ヲ決定シ内閣ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 都市計畫、都市計畫事業及毎年度執行スル都市

計畫事業ハ都市計畫委員會ノ議ヲ經テ主務大臣之ヲ決

定シ内閣ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 都市計畫委員會ノ組織、權限及費用ニ關スル規定

ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 都市計畫事業ハ勅令ニ定ムル所ニ依リ行政廳之ヲ執

行ス

主務大臣特別ノ必要アリト認ムルトモ勅令ニ定ムル所ニ依

リ行政廳ニ非サル者ヲテ其ノ出願ニ依リ都市計畫事業ノ

一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第六條 都市計畫事業ノ執行ニ要スル費用ハ行政官廳之ヲ

執行スル場合ニ在リテハ國、公共團體ヲ經テ行行政廳之

ヲ執行スル場合ニ在リテハ其ノ公共團體、行政廳ニ非サル者

ノ執行トシテ之ヲ負擔ス

主務大臣必要ト認ムルトモ勅令ニ定ムル所ニ依リ都市計

畫事業ノ執行ニ要スル費用ハ行政官廳之ヲ執行スル場合ニ

在リテハ國、公共團體ヲ經テ行行政廳之ヲ執行スル場合ニ

在リテハ其ノ公共團體、行政廳ニ非サル者ノ執行トシテ之ヲ

負擔ス

第七條 主務大臣必要ト認ムルトモ勅令ニ定ムル所ニ依リ公

共團體ノ負擔スルべき毎年度ノ金額ノ最低限度ヲ定ムルコトヲ

得

第八條 公共團體ハ第四條又ハ第六條ノ費用ニ充ツル爲左ノ

特別稅ヲ賦課スルコトヲ得但シ府縣稅率ヲ二分賦課スル場合ニ

於テ市ノ營業稅、雜種稅又ハ家屋稅ヲ賦課スルトキハ主務

大臣ノ許可ヲ受ケ其ノ稅率ヲ定ム

第九條 地租割 地租百分ノ十二半以内

一 營業收益稅割 營業收益稅百分ノ二十二以内

(大正十二年法律第二十七號、同十五年法律第

三十八號ヲ以テ本號ヲ改正)

二 營業稅、雜種稅又ハ家屋稅 各府縣稅十分ノ四

以內

四 特別地稅 北海道及其ノ市町村ニ在リテハ地價

千分ノ四以内、府縣及其ノ市町村ニ在リテハ地價

千分ノ五以内(大正十五年法律第三十八號ヲ以テ

本號ヲ追加第四號第五號トス)

五 其ノ他勅令ヲ以テ定ムルモノ

第十條 營業收益稅割ノ賦課ニ付テハ營業收益稅法第十條第二

項ノ規定ニ依リ資本利子稅額ノ控除ヲ爲サルモノヲ以テ營

業收益稅額ト看做ス(同上本號ヲ追加)

特別地稅ノ賦課率ハ當該年度ノ豫算ニ於テ定ムル田畑ニ

對スル地租割ノ賦課率ヲ以テ算定スル地租割額ノ當該田

畫事業ニ因リ著シク利益ヲ受クル者ヲシテ其ノ受クル利益ノ

限度ニ於テ前項ノ費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ

得

第十一條 主務大臣必要ト認ムルトモ勅令ニ依リ公共

團體ノ負擔スルべき毎年度ノ金額ノ最低限度ヲ定ムルコトヲ

得

第十二條 公共團體ハ第四條又ハ第六條ノ費用ニ充ツル爲左ノ

特別稅ヲ賦課スルコトヲ得但シ府縣稅率ヲ二分賦課スル場合ニ

於テ市ノ營業稅、雜種稅又ハ家屋稅ヲ賦課スルトキハ主務

大臣ノ許可ヲ受ケ其ノ稅率ヲ定ム

第十三條 地租割 地租百分ノ十二半以内

一 營業收益稅割 營業收益稅百分ノ二十二以内

(大正十二年法律第二十七號、同十五年法律第

三十八號ヲ以テ本號ヲ改正)

二 營業稅、雜種稅又ハ家屋稅 各府縣稅十分ノ四

以內

四 特別地稅 北海道及其ノ市町村ニ在リテハ地價

千分ノ四以内、府縣及其ノ市町村ニ在リテハ地價

千分ノ五以内(大正十五年法律第三十八號ヲ以テ

本號ヲ追加第四號第五號トス)

五 其ノ他勅令ヲ以テ定ムルモノ

第十四條 營業收益稅割ノ賦課ニ付テハ營業收益稅法第十條第二

項ノ規定ニ依リ資本利子稅額ノ控除ヲ爲サルモノヲ以テ營

業收益稅額ト看做ス(同上本號ヲ追加)

特別地稅ノ賦課率ハ當該年度ノ豫算ニ於テ定ムル田畑ニ

對スル地租割ノ賦課率ヲ以テ算定スル地租割額ノ當該田

畑ノ地價ニ對シ比率ヲ超ユルコトヲ得ス(同上本號ヲ追加)

公共團體ハ主務大臣ノ許可ヲ受ケ公共團體、他ノ收入ヲ

以テ第四號又ハ第六條ノ費用ニ充ツルコトヲ得

第十五條 都市計畫區域内ニ在リテハ其ノ市ノ公共ノ用

ニ供セザルモノハ第六條ノ費用ヲ負擔スル公共團體ニ之ヲ下

付スルコトヲ得

第十六條 都市計畫區域内ニ於テ市街地建築物法ニ依リ地域

又ハ地區ノ指定、變更又ハ廢止ヲ爲ストキハ都市計畫ノ施

設トシテ之ヲ爲スヘシ

第十七條 都市計畫區域内ニ於テ市街地建築物法ニ依リ地域及

地區ノ外土地ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ風致又ハ風

紀ノ維持ノ爲特ニ地區ヲ指定スルコトヲ得

第十八條 第十六條第一項ノ土地ノ境界内又ハ前條第二項

ノ規定ニ依リ指定スル地區内ニ於ケル建築物、土地ニ關ス

ル工事又ハ權利ニ關スル制限ニシテ都市計畫上必要ナルモノ

ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 都市計畫區域内ニ於ケル土地ニ付テハ其ノ宅地トシ

テ利用ヲ増進スル爲土地區劃整理ヲ施行スルコトヲ得

前項ノ土地區劃整理ニ關シテハ本法ニ別段ノ定ムル場合ヲ

除ク外新地整理法ヲ準用ス

第二十條 都市計畫區域内ニ於ケル土地ノ區劃整理ニ付

テハ認可後一年以内ニ其ノ施行ニ着手スル者ナキ場合ニ於テ

ハ公共團體ヲシテ都市計畫事業トシテ之ヲ施行セシム

前項ノ規定ニ依リ公共團體ノ施行スル土地區劃整理ニ付

耕地面積法ヲ準用シ雜草事項ニ關シテハ勅令ヲ以テ必要ナ

ル規定ヲ設クルコトヲ得

第二十一條 地方官土地區劃整理ノ設計ニ關スル認可ヲ爲ス

場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十二條 土地區劃整理ヲ施行スル土地ノ地價ハ勅令ノ定

ムル所ニ依リ之ヲ定ム

第二十條 都市計畫區域内ニ於テ市街地建築物法ニ依リ地域

又ハ地區ノ指定、變更又ハ廢止ヲ爲ストキハ都市計畫ノ施

設トシテ之ヲ爲スヘシ

第二十一條 都市計畫區域内ニ於テ市街地建築物法ニ依リ地域及

地區ノ外土地ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ風致又ハ風

紀ノ維持ノ爲特ニ地區ヲ指定スルコトヲ得

第二十二條 第十六條第一項ノ土地ノ境界内又ハ前條第二項

ノ規定ニ依リ指定スル地區内ニ於ケル建築物、土地ニ關ス

ル工事又ハ權利ニ關スル制限ニシテ都市計畫上必要ナルモノ

ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十三條 都市計畫區域内ニ於ケル土地ニ付テハ其ノ宅地トシ

テ利用ヲ増進スル爲土地區劃整理ヲ施行スルコトヲ得

前項ノ土地區劃整理ニ關シテハ本法ニ別段ノ定ムル場合ヲ

除ク外新地整理法ヲ準用ス

第二十四條 都市計畫區域内ニ於ケル土地ノ區劃整理ニ付

テハ認可後一年以内ニ其ノ施行ニ着手スル者ナキ場合ニ於テ

ハ公共團體ヲシテ都市計畫事業トシテ之ヲ施行セシム

前項ノ規定ニ依リ公共團體ノ施行スル土地區劃整理ニ付

耕地面積法ヲ準用シ雜草事項ニ關シテハ勅令ヲ以テ必要ナ

ル規定ヲ設クルコトヲ得

第二十五條 地方官土地區劃整理ノ設計ニ關スル認可ヲ爲ス

場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十六條 土地區劃整理ヲ施行スル土地ノ地價ハ勅令ノ定

ムル所ニ依リ之ヲ定ム

第二十七條 都市計畫區域内ニ在リテハ其ノ市ノ公共ノ用

ニ供セザルモノハ第六條ノ費用ヲ負擔スル公共團體ニ之ヲ下

付スルコトヲ得

第二十八條 都市計畫區域内ニ於ケル土地ノ區劃整理ニ付

テハ認可後一年以内ニ其ノ施行ニ着手スル者ナキ場合ニ於テ

ハ公共團體ヲシテ都市計畫事業トシテ之ヲ施行セシム

前項ノ規定ニ依リ公共團體ノ施行スル土地區劃整理ニ付

耕地面積法ヲ準用シ雜草事項ニ關シテハ勅令ヲ以テ必要ナ

ル規定ヲ設クルコトヲ得

第二十九條 地方官土地區劃整理ノ設計ニ關スル認可ヲ爲ス

場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十條 土地區劃整理ヲ施行スル土地ノ地價ハ勅令ノ定

ムル所ニ依リ之ヲ定ム

第三十一條 都市計畫區域内ニ在リテハ其ノ市ノ公共ノ用

ニ供セザルモノハ第六條ノ費用ヲ負擔スル公共團體ニ之ヲ下

付スルコトヲ得

第三十二條 都市計畫區域内ニ於ケル土地ノ區劃整理ニ付

テハ認可後一年以内ニ其ノ施行ニ着手スル者ナキ場合ニ於テ

ハ公共團體ヲシテ都市計畫事業トシテ之ヲ施行セシム

前項ノ規定ニ依リ公共團體ノ施行スル土地區劃整理ニ付

耕地面積法ヲ準用シ雜草事項ニ關シテハ勅令ヲ以テ必要ナ

ル規定ヲ設クルコトヲ得

第三十三條 地方官土地區劃整理ノ設計ニ關スル認可ヲ爲ス

場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十四條 土地區劃整理ヲ施行スル土地ノ地價ハ勅令ノ定

ムル所ニ依リ之ヲ定ム

第三十五條 都市計畫區域内ニ在リテハ其ノ市ノ公共ノ用

ニ供セザルモノハ第六條ノ費用ヲ負擔スル公共團體ニ之ヲ下

付スルコトヲ得

第三十六條 都市計畫區域内ニ於ケル土地ノ區劃整理ニ付

テハ認可後一年以内ニ其ノ施行ニ着手スル者ナキ場合ニ於テ

ハ公共團體ヲシテ都市計畫事業トシテ之ヲ施行セシム

●都市計畫法

(大正八年四月五日 法律第三十六號)

改正、大一一法二七、大一一法三八

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ都市計畫法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

都市計畫法

第一條 本法ニ於テ都市計畫ト稱スルハ交通、衛生、保安、

經濟等ニ關シ永久ニ公共ノ安寧ヲ維持シ又ハ福利ヲ増進ス

ル爲メ重要施設ヲ計畫シテ市ノ區域内ニ於テ又ハ其ノ區

域外ニ互リ施行スルモノヲ謂フ

第二條 前條ニ規定スル市ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス其ノ市ノ都

市計畫區域ハ關係市町村及都府市計畫委員會ノ意見ヲ聞

キ主務大臣之ヲ決定シ内閣ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 都市計畫、都市計畫事業及毎年度執行スル都市

計畫事業ハ都市計畫委員會ノ議ヲ經テ主務大臣之ヲ決

定シ内閣ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 都市計畫委員會ノ組織、權限及費用ニ關スル規定

都市計畫法施行令

●都市計畫法施行令

(大正八年十一月二十八日) (勅令第四百八十二號)

改正、大正一〇〇一號四一六

朕都市計畫法施行令ヲ改訂シ茲ニ之ヲ公布セシム

都市計畫法施行令

第一條 都市計畫事業ハ都市計畫法第二條ノ規定ニ依リ指
定スル市ヲ統轄スル行政廳ノ執行ス
第二條 前條ノ市ノ區域外ニ於テ又ハ區域外ニ互リ都市計畫
事業ヲ執行スル場合ニ於テ內務大臣區域外ニ於ケル事業カ
主トシテ區域外ノ公共團體ノ利益ニ關スト認ムルトキハ前條
ノ規定ニ拘ラス其ノ公共團體ヲ統轄スル行政廳ヲシテ區域
外ニ於ケル事業ヲ執行セシムルコトヲ得
第三條 內務大臣都市計畫事業カ分轄シテ之ヲ執行スルコト
困難又ハ不利益ト認ムルトキ其ノ他特別ノ事情アリト認ムル
トキ前二條ノ規定ニ拘ラス事業ヲ執行スル行政廳ヲ指定
スルコトヲ得
第四條 前三條ノ規定ハ行政官廳都市計畫事業ヲ執行スル
場合ニ之ヲ適用セズ
第五條 行政廳ニ非サル者ヲシテ執行セシムルコトヲ得ル都市計
畫事業ノ種類及範圍ハ關係行政廳ノ意見ヲ聞キ都市計
畫委員會ノ議ヲ經テ內務大臣ノ之ヲ定ム
第六條 行政廳ニ非サル者都市計畫事業ヲ執行セシムルトキ
ハ內務大臣ノ特許ヲ申請スルコトヲ得
第七條 內務大臣ハ前條ノ特許ニ都市計畫上其ノ他公益
上必要ト認ムル條件ヲ附スルコトヲ得
第八條 第六條ノ特許ヲ受ケタル者事業ヲ實施セシムルトキハ
設計書ヲ添附シ地方長官ノ認可ヲ受ケルコトヲ得

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ非サルハ都市計畫事
業ニ因リ若シテ利益ヲ受ケル者ヲシテ事業ヲ執行シ要スル費
用ヲ負擔セシムルコトヲ得
一 行政官廳ノ執行スル事業ニ因リ公共團體カ若シテ
利益ヲ受ケタル者
二 事業地ノ公共團體以外ノ公共團體ヲ又ハ上級公
共團體ヲ統轄スル行政廳ニ於テ執行スル事業ニ因リ
事業地ノ公共團體カ若シテ利益ヲ受ケタル者
三 事業ニ因リ生シタル營造物カ他ノ工作物ト效用ヲ兼
スルニ因リ若シテ利益ヲ受ケル者アルトキ又ハ其ノ營造
物ヲ利用スルニ因リ若シテ利益ヲ受ケル者アルトキ
四 前各號ノ外都市計畫事業ニ因リ若シテ利益ヲ受ケ
ル者ニシテ內務大臣ヨリ指定セシムルモノアルトキ
第十條 都市計畫法第六條第二項ノ規定ニ依リ負擔セシムル
費用ノ金額及其ノ負擔方法ニ付テハ關係市町村長ノ意見
ヲ聞キ都市計畫委員會ノ議ヲ經テ內務大臣ノ之ヲ定ム大正
十年勅令第四百十六號ヲ以テ本條ヲ改正
第十一條 都市計畫法第十六條第一項ノ土地ノ境域内ニ於
テ工作物ヲ新築改築増築若ハ除却シ、土地ノ形質ヲ變更
シ又ハ地方長官ノ指定シタル竹木土石ノ類ヲ採取セシムル
者ハ地方長官ノ許可ヲ受ケルコトヲ得但シ命令ヲ以テ許可ヲ要セ
ズト規定シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
第十二條 地方長官ハ前條ノ許可ニ都市計畫事業ノ執行上
必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得
第十三條 風致維持ノ爲指定スル地區内ニ於ケル工作物ノ新
築改築増築若ハ除却、土地ノ形質ノ變更、竹木土石ノ類
ノ採取其ノ他風致維持ニ影響及ボス處ヲ行ハシムル地方長
官內務大臣ノ認可ヲ受ケ命令ヲ以テ之ヲ禁止シ又ハ制限ス
ルコトヲ得
第十四條 地方長官ハ第十一條ノ規定ニ、前條ノ命令ニ又ハ

第十二條ノ條件ニ違反シタル者ニ對シ原狀回復ヲ命スルコト
ヲ得
第十五條 都市計畫法第十三條第一項ノ規定ニ依ル公共團
體ノ土地區劃整理ノ施行ハ內務大臣ノ之ヲ命ス
第十六條 前條ノ土地區劃整理ノ施行ニ要スル費用ハ整理地
區内ノ土地所有者又ハ關係人ノ負擔トス
第十七條 公共團體第十五條ノ規定ニ依リ土地區劃整理ノ
施行ヲ命セシムルトキハ設計書、費用負擔方法及耕地整
理法第三十條第二項ノ規約ニ代ルヘキ處分方法ヲ定メテ
之ヲ告示シ十日間土地所有者及關係人ノ提議ニ供シタル
後地方長官ノ認可ヲ受ケルコトヲ得
第十八條 土地所有者又ハ關係人前項ノ設計書、費用負擔方法又
ハ處分方法ニ關シ異議ヲ申出アリタルトキハ地方長官ハ都市
計畫委員會ノ議決ニ付スルコトヲ得
第十九條 地方長官ハ前項ノ設計書、費用負擔方法及ハ處
分方法ノ變更ヲ必要トスルトキハ公共團體ニ其ノ變更ヲ命ス
ルコトヲ得但シ變更ノ爲シタルトキハ其ノ變更シタル部分ニ付
第一項ノ手續ヲ爲スルコトヲ得
第二十條 前二條ノ土地所有者及關係人ノ意見ニ關シテハ耕
地整理法ノ定ムル所ニ依ル
第二十一條 第十五條ノ土地區劃整理ノ施行ニ付テハ耕地整
理法ノ適用ニ關シテ同法第四十二條ノ二、第四十七條
及第四十八條ノ組合ハ土地區劃整理ヲ施行スル公共團
體トシ同法第四十三條第一項及第四十四條ノ耕地整理
組合ノ地區ハ土地區劃整理ノ地區トス
第二十二條 土地區劃整理ノ施行ハ土地ノ地價ニ關シテハ耕地整
理法第十二條、第十三條、第十四條第二項乃至第五
項及第十四條ノ二乃至第十六條ノ規定ヲ適用ス

土地區劃整理ヲ施行スルニ當リ開墾又ハ地目變換ヲ爲シテ
此場合ニ於テハ工事完了ノトキ開墾又ハ變換シタル土地ニ對
シ從前ノ地價ニ依リ其ノ地價ヲ修正シ修正地價ヲ以テ耕地
整理法第十三條第一項ノ現地價トス
前項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ於テ之ヲ耕地整理法第十四
條第二項、第三項及第五項及第十五條ノ規定中同法
第十四條第一項ノ規定ト看做ス
第二十一條 鐵道、軌道、運河、水道、下水道、土地區劃
整理、運動場、一團地ノ住宅經營、市場、屠場、墓地、
火葬場及應接場却却場ハ都市計畫法第十六條第一項ノ
規定ニ依リ之ヲ指定ス
第二十二條 都市計畫法第十六條第二項ノ規定ニ依リ收用
又ハ使用ハ土地區劃整理ヲ施行スル必要アル場合ニ限リ之
ヲ爲スコトヲ得
第二十三條 前條ノ規定ニ依リ收用シタル土地ハ土地區劃整
理ノ工事完了後ニ非サルハ之ヲ賣却シ又ハ貸付スルコトヲ得
第二十四條 前條ノ規定ニ依リ土地ノ賣却又ハ貸付ハ左ニ掲ク
ル者ニ對シ毎筆賣却入札ニ依リ之ヲ行フ
一 其ノ土地ノ附近地方都市計畫法第十六條第一項
ノ規定ニ依リ收用セシタル場合ニ於テ其ノ收用セラ
レタル附近地ノ全部又ハ一部ヲ收用ノ際所有シタル
者又ハ其ノ相續人
二 前條ノ附近地ノ上ニ存シタル家屋ヲ其ノ附近地收
用ノ際所有シタル者
三 其ノ土地ノ全部又ハ一部ヲ其ノ土地收用ノ際所有
シタル者又ハ其ノ相續人
四 其ノ土地ノ上ニ存シタル家屋ヲ其ノ土地收用ノ際所
有シタル者
前項ニ掲グル者ニナルトキハ其ノ者ニ對シ隨意契約ニ依リ

賣却又ハ貸付スルコトヲ得
第二十五條 前條ノ規定ニ依リ賣却又ハ貸付スルコトヲ得サル土
地ノ賣却又ハ貸付ニ付テハ一般ノ競入札ニ依ル
第二十六條 一宅地ヲ爲スニ足ラザル種地ハ種地所有者ニ對シ
隨意契約ニ依リ賣却又ハ貸付スルコトヲ得
第二十七條 都市計畫事業ニ要スル國有地ハ事業ノ執行ニ要
スル費用ヲ負擔スル公共團體ヲシテ無償ニ之ヲ供用セシメ
其ノ地ニ存スル國有ノ建築物ハ無償ニ之ヲ公共團體ニ之
ヲ交付ス
第二十八條 都市計畫法第九條ノ規定ニ依リ下附ヲ受ケタル
土地ハ都市計畫事業ノ財源ト爲ス爲基本財産トシテ管理
スルコトヲ得但シ特別ノ事由ニ依リ內務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ
此ノ限ニ在ラス
第二十九條 公共團體ハ第二十三條ノ土地ノ賣却若ハ貸付ニ
付テハ都市計畫法第十六條第二項ノ規定ニ依リ收用シタル
土地若ハ前二條ノ土地ノ管理方法ニ付必要ナル規定ヲ
定メ地方長官ノ經由シ內務大臣ノ認可ヲ受ケルコトヲ得
第三十條 內務大臣必要ト認ムルトキハ都市計畫事業ニ依リ
生シタル營造物ノ管理者ヲ指定スルコトヲ得

附則

本令ハ都市計畫法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十一條 前條ノ規定ニ依リ土地ノ賣却又ハ貸付ハ左ニ掲ク
ル者ニ對シ毎筆賣却入札ニ依リ之ヲ行フ
一 其ノ土地ノ附近地方都市計畫法第十六條第一項
ノ規定ニ依リ收用セシタル場合ニ於テ其ノ收用セラ
レタル附近地ノ全部又ハ一部ヲ收用ノ際所有シタル
者又ハ其ノ相續人
二 前條ノ附近地ノ上ニ存シタル家屋ヲ其ノ附近地收
用ノ際所有シタル者
三 其ノ土地ノ全部又ハ一部ヲ其ノ土地收用ノ際所有
シタル者又ハ其ノ相續人
四 其ノ土地ノ上ニ存シタル家屋ヲ其ノ土地收用ノ際所
有シタル者
前項ニ掲グル者ニナルトキハ其ノ者ニ對シ隨意契約ニ依リ

都市計畫法施行令

市街地建築物法

市街地建築物法

(大正八年四月五日)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ市街地建築物法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 主務大臣ハ本法ヲ適用スル區域内ニ住居地域、商業地域又ハ工業地域ヲ指定スルコトヲ得

命令ノ定ムル所ニ依リ建築物ノ前面突出部又ハ基礎ハ道路幅ノ境界線ヲ超スル範圍内ニ於テ建築線ヨリテ突出セシムルコトヲ得

第十條 行政官廳ハ市街ノ體裁上必要ナル認ムルトキハ建築線ニ面シテ建築スル建築物ノ壁面ノ位置ヲ指定スルコトヲ得

三 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シテ建築物ヲ建築シタルトキ

第十八條 本法適用區域ノ設定若ハ變更、地域若ハ地區ノ指定若ハ變更其ノ他ノ場合ニ於テ從來存在スル建築物カ其ノ後新ニ建築セラレタリトモハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反スルモノナルトキハ行政官廳ハ相當ノ期間ヲ指定シ其ノ建築物ニ付前條ニ掲グル必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

市街地建築物法施行令

(大正九年九月三十日)

改正、大正二一勅三九五、大正一三勅一五二、勅三〇四

第一條 建築物左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ住居地域内ニ之ヲ建築スルコトヲ得

ノハ此ノ限ニ在ラス 前條第六號乃至第八號ニ該當スルモノ

市街建築物法 市街地建築物法施行令

本法ニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第一條 建築物左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ商業地域内ニ之ヲ建築スルコトヲ得

第一條 建築物左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ商業地域内ニ之ヲ建築スルコトヲ得

市街地建築物法施行令

化合物、水銀化合物、鉛化合物、銅化合物、亜硫酸鹽類、「フォルマリン」、「クロロホルム」、「イヒチオール」、「ズルフォナール」、「グリースリン」、「アンチフエリン」、「アスピリン」、「クレオソート」、「グアヤコール」等其ノ製造ニ際シ有臭又ハ有害ノ瓦斯又ハ腐蝕ヲ生スル物品ノ製造

ウ 錠劑ヲ用キル腫瘍製品ノ製造
キ 鋼釘又ハ鋼球ノ製造
ケ 汽機ノ製造
オ 金屬ノ壓延又ハ伸線
カ 炭素製品ノ製造
ク 前號ニ掲ケルモノヲ除クノ外行政官廳衛生上有害又ハ保安上危険ノ虞アリト認メテ命令ヲ以テ指定スル事業ヲ營ム工場
コ 第二號イ、ロ、ホ、リ及レノ物品ノ貯藏又ハ処理ニ供スルモノ但シ行政官廳衛生上有害ノ又ハ保安上危険ノ虞アリト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

ノ際現ニ存在スル建築物ト看做ス（大正十二年勅令第三百九十五號ヲ以テ本條ヲ改正）
第一項 煉瓦製造建築物、石造建築物及木造建築物ハ高四十二尺軒高三十尺ヲ、木骨煉瓦造建築物及木骨石造建築物ハ高二十五尺軒高十五尺ヲ超過スルコトヲ得ス

市街地建築物法施行令

過スルコトヲ得且其ノ前面道路幅員ノ一倍四分ノ一ニ二十五尺ヲ加ヘタルモノヲ限度トス但シ住居地域外ニ在ル建築物ニ付テハ一倍四分ノ一ヲ一倍二分ノ一トス
第九條 建築物ノ敷地ハ前道路ノ中央ヨリノ高ヲ調フ
第十條 建築物ノ敷地ハ前道路ノ境界線迄ノ水平距離カ其ノ道路幅員ノ一倍二分ノ一以內ニシテ且八十尺以內ノ區域ノ內ニ在ル建築物各部分ノ高ニ付テハ前條ノ規定ノ適用ニ關シ其ノ道路ノ前面道路ト看做ス
第十一條 前項ノ規定ニ依ル前面道路ニ以上アル場合ニ於テ其ノ幅員同シカラサルキハ幅員小ナル前面道路ハ幅員最大ナル前面道路ト同一ノ幅員ヲ有スルモノト看做ス

突出部ノ高ハ行政官廳命令ノ定ムル所ニ依リ建築物ノ高ニ之ヲ算入セザルコトヲ得
第十二條 本令中高一階ノ規定ハ煙突、物見塔、扛重機、水櫃、氣櫃、無線電信用電柱ノ類及工業用建築物ニシテ行政官廳其ノ用途ニ依リ已ムラ得スト認メ許可シタルモノニ付テハ適用セス
第十三條 本令中高一階ノ規定ハ社寺建築物ニシテ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルモノニ付テハ適用セス
第十四條 建築物ノ建築面積ハ建築敷地ノ面積ニ對シ住居地域外ニ於テハ十分ノ六、商業地域外ニ於テ十分ノ八、住居地域及商業地域外ニ於テ十分ノ七ヲ超過スルコトヲ得但シ行政官廳指定シタル角地其ノ他ノ地區ニ於テル建築物ニ付テハ此ノ限ニ在ラス（大正十三年勅令第五百二十二號ヲ以テ本條ヲ改正）

ノ除却ヲ命ジタル場合
一 除却ノ命ジタル場合
二 除却ノ命ジタル場合
三 建築線ノ指定又ハ變更ニ基キ建築物ノ主要構造部ノ除却ヲ命ジタル場合
四 建築線ニ面スル建築物ノ壁面ノ位置ノ指定ニ基キ建築物ノ主要構造部ノ變更又ハ除却ヲ命ジタル場合
五 建築物ノ高又ハ建築物ノ敷地内ニ存セムヘキ空地ニ關スル規定ニ基キ建築物ノ主要構造部ノ除却ヲ命ジタル場合
第十八條 市街地建築物法第十八條第二項ノ規定ニ依リ補償スヘキ損失ハ通常生スヘキ損失ニ限ル
第十九條 前二條ノ規定ニ依リ損失補償ノ請求ハ市街地建築物法第十八條第一項ノ措置ヲ命セラレタル者之ヲ命セラレタル日より起算シ三月内ニ之ヲ爲スコトヲ得
第二十條 市街地建築物法第十八條第二項ノ公共團體トハ同法第二十三條ノ規定ニ依リ同法適用區域ノ屬スル市區町村トス
第二十一條 補償義務ノ有無及補償ノ金額ハ補償審査會之ヲ裁定ス
第二十二條 補償審査會ハ第二十條ニ規定スル市街地建築物法第十八條第二項ノ公共團體毎ニ之ヲ置ク
第二十三條 補償審査會ハ會長一人及委員十二人ヲ以テ之ヲ組織ス
第二十四條 會長ハ地方官官ヲ以テ之ニ充ツ
委員ハ左ニ掲ケル者ヲ以テ之ニ充ツ
一 關係各屬高等官
二 前條第一項ノ公共團體ノ吏員
三 前號ノ公共團體ノ議會ノ議員
四 學識經驗アル者
二 二 二 二 二 二
八 八 八 八 八

市街地建築物法施行令

前項第一號、第二號及第四號ノ委員ハ主務大臣ノ之ヲ命
シ第三號ノ委員ハ其ノ議會ニ於テ之ヲ選舉ス
第二十四條 補償審査會ニ關シテハ土地收用法第二十七條
乃至第三十一條、第三十七條、第三十九條、第四十條
第一項第二項、第四十二條乃至第四十五條、第六十九
條、第七十二條及第八十三條ノ規定ヲ準用ス
第二十二條第一項ノ公共團體ノ一以上ニ互ル建築物ニ
關シテハ關係補償審査會合同シテ會議ヲ開クヘシ
第二十五條 市街地建築物法第十八條ノ規定ハ建築物工事中
ノ建築物及建築工事ニ著手セザルモ設計アル建築物ニ之ヲ
準用ス
第二十六條 行政官廳ハ建築工事中ノ建築物又ハ建築工事
ニ著手セザルモ設計アル建築物ニシテ其ノ建築或ハ後ニ於
テ市街地建築物法第十八條第一項ノ規定ニ依ル措置ヲ
命スル必要ナシト認ムルモノニ付テハ其ノ建築ヲ許可スルコトヲ
得
第二十七條 市街地建築物法古社寺保存法又ハ史蹟名勝
天然記念物保存法ノ適用又ハ準用ヲ受ル建築物ニ付之
ヲ適用セズ
第二十八條 鳥居、形像、紀念門、紀念塔其ノ他ノ建築物ニシ
テ道路ヲ占用シテ施設スルモノニ對シテハ市街地建築物法第
八條、第九條及第十一條ノ規定ヲ適用セズ
第二十九條 博覽會建築物、觀覽場、飾門、飾塔、足代及模
擬ノ類ニシテ假設ノモノニ對シテハ市街地建築物法第二
條乃至第六條、第九條及第十一條ノ規定ヲ適用セザルコ
トヲ得
第三十條 市街地建築物法第二十六條第二項ノ道路
ノ境界内ニ於テ行政官廳支障ナシト認ムルコトキハ同法第八
條、第九條及第十一條ノ規定ニ拘ラス存続期限ヲ附シ假
設建築物ノ建築ヲ許可スルコトヲ得(大正十三年勅令第百

五十二號ヲ以テ本條ヲ追加)
第三十條 市街地建築物法第二十六條第一項ノ道路ノ新
設又ハ變更ノ計畫アル場合ニ於テ行政官廳其ノ計畫ヲ告示シ
タルトキハ其ノ計畫ノ道路ハ之ヲ道路ト看做ス
第三十一條 第四條乃至第十六條ノ規定ハ市街地建築物法
適用區域ニシテ內務大臣ノ指定スルモノニ之ヲ適用セズ(大
正十三年勅令第三百四號ヲ以テ本條ヲ追加)
附則
本令ハ市街地建築物法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
附則 (大正十二年勅令第三百九十五號附則)
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
附則 (大正十三年勅令第五百二十二號附則)
本令ハ大正十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
附則 (大正十三年勅令第三百四號附則)
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

町村制

(明治四十四年四月七日)
法律第六十九號
改正、大正一〇—法五九、大一一—法七五、
勅二〇八
朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ町村制改正法律ヲ裁可シ茲ニ之
ヲ公布セシム
町村制

第一章 總則

第一條 町村及其ノ區域
第一條 町村ハ從來ノ區域ニ依ル
第二條 町村ハ法人トシテ官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範圍内ニ於テ
其ノ公共事務並從來法令又ハ慣例ニ依リ及將來法律勅
令ニ依リ町村ニ屬スル事務ヲ處理ス
第三條 町村ノ廢置分合又ハ境界變更ヲ爲サントスルコトキハ府
縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣知事會ノ議
決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ定ム所屬未定地ヲ町村
ノ區域ニ編入セムトスルコト亦同シ
第四條 町村ノ境界ニ關スル事論ハ府縣知事會ノ之ヲ裁定ス其
ノ裁定ニ不服アル町村ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
町村ノ境界判明ナラサル場合ニ於テ前項ノ事論ナキトキハ府
縣知事ハ府縣知事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル
町村ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ裁定及前項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理
由ヲ附シテ之ヲ關係町村ニ交付スヘシ
第一項ノ裁定及第二項ノ決定ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴
訟ヲ提起スルコトヲ得
第五條 町村ノ名稱ヲ變更セムトスルコトキ、村ヲ町ト爲シ若ハ町ヲ
村ト爲サントスルコトキ又ハ町村役場ノ位置ヲ定メ若ハ之ヲ變
更セムトスルコトキハ町村會ノ許可ヲ受クヘシ(大正十
五年法律第七十五號ヲ以テ本條ヲ改正)
第六條 町村住民及其ノ權利義務
第六條 町村内ニ住所ヲ有スル者ハ其ノ町村住民トス
町村住民ハ本法ニ從ヒ町村ノ財產及營造物ヲ共用スル權
利ヲ有シ町村ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ負フ
第七條 帝國臣民タル年齡二十五年以上ノ男子ニシテ二年
以來町村住民タル者ハ其ノ町村公民トス但シ左ノ各號ノ一
ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス
一 禁治產者及進禁治產者
二 破產者ニシテ復權ヲ得サル者
三 貧困ニ因リ生活ノ爲公私ノ救助ヲ受ケ又ハ扶助ヲ
受クル者
四 一定ノ住居ヲ有セザル者
五 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
六 刑法第二編第一章、第三章、第九章、第十六
章乃至第三十九章ニ據クル罪ヲ犯シ六年未滿ノ懲
役ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコ
トナキニ至ラタル後其ノ刑期ノ二倍ニ相當スル期間ヲ
經過スルニ至ラズ者但シ其ノ期間五年ヨリ短キトキ
ハ五年トス
七 六年未滿禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ前號ニ據クル罪

以外ノ罪ヲ犯シ六年未滿ノ懲役ノ刑ニ處セラレ其ノ
執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ラズ者
町村ハ前項二年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得
第一項二年ノ期間ハ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更ノ
爲中斷セラルコトナシ(大正十五年法律第七十五號ヲ以
テ本條ヲ改正)
第八條 町村公民ハ町村ノ選舉ニ參與シ町村ノ名譽職ニ選
舉セラルル權利ヲ有シ町村ノ名譽職ヲ擔任スル義務ヲ負フ
左ノ各號ノ一ニ該當セザル者ニシテ名譽職ノ當選ヲ辭シ又ハ
其ノ職ヲ辭シ若ハ其ノ職務ヲ實際ニ執行セザルトキハ町村ハ
一年以上四年以下其ノ町村公民權ヲ停止スルコトヲ得(同
上本條ヲ改正)
一 疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘザル者
二 業務ノ爲常ニ町村内ニ居ルコトヲ得サル者
三 年齡六十一年以上ノ者
四 官公職ノ爲町村ノ公務ヲ執行コトヲ得サル者
五 四年以上名譽職町村吏員、町村會議員又ハ區
會議員ノ職ニ任シ爾後同一ノ期間ヲ經過セザル者
六 其ノ他町村會ノ議決ニ依リ正當ノ理由アリト認ムル
者

前項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルコトキハ府縣知事會
ニ訴願シ其ノ裁定ニ不服アルコトキハ行政裁判所ニ出訴スル
コトヲ得
第二項ノ處分ハ其ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス
第三項ノ裁定ニ付テハ府縣知事又ハ町村長ヨリモ訴願ヲ提
起スルコトヲ得
第九條 陸海軍軍人ニシテ現役中ノ者(未タ入營セザル者及歸
休トシ官兵ヲ除ク)及戰時若ハ事變ニ際シ召集中ノ者ハ町
村ノ公務ニ參與スルコトヲ得ス兵籍ニ編入セラレタル學生生
徒勸令ヲ以テ定ムル者ヲ除ク)及志願ニ依リ國民軍ニ編入

町村制 總則

町村制 町村會

セラレタル者亦同シ(同上本條ヲ改正)

第三條 町村條例及町村規則

第十條 町村ハ町村民ノ權利義務又ハ町村ノ事務ニ關シ...

第二章 町村會

第一節 組織及選舉

第十一條 町村會議員ハ其ノ被選舉權アル者ニ就キ選舉人...

一 (大正十五年法律第七十五號ヲ以テ本號ヲ削除)

二 人口五千未満ノ町村 (同上本條ヲ改正)

三 人口五千以上一萬未満ノ町村 十八人

四 人口一萬以上二萬未満ノ町村 二十四人

五 人口二萬以上ノ町村 三十人

議員ノ定數ハ町村條例ヲ以テ特ニ之ヲ増減スルコトヲ得...

第十二條 町村民ハ總テ選舉權ヲ有ス但シ公民權停止中ノ...

第十三條 (大正十五年法律第七十五號ヲ以テ本條ヲ削除)...

第十四條 特別ノ事情アルトキハ町村ハ區劃ヲ定メテ投票分會...

第十五條 選舉權ヲ有スル町村民ハ被選舉權ヲ有ス...

第十六條 町村會議員ハ名譽職トス...

第十七條 町村會議員中副議長ヲ生シタルトキハ三月以内ニ...

第十八條 町村會議員ハ其ノ職務ニ關シテ...

第十九條 町村會議員ハ其ノ職務ニ關シテ...

第二十條 町村會議員ハ其ノ職務ニ關シテ...

第二十一條 町村會議員ハ其ノ職務ニ關シテ...

第二十二條 町村會議員ハ其ノ職務ニ關シテ...

第三十條第五項及第六項ノ規定ハ補選選舉ニ之ヲ適用...

第三十一條 町村長ハ毎年九月十五日ノ現在ニ依リ選舉人名...

第三十二條 町村長ハ十一月五日ヨリ十五日間町村役場...

第三十三條 町村長ハ十一月五日ヨリ十五日間町村役場...

第三十四條 町村長ハ十一月五日ヨリ十五日間町村役場...

第三十五條 町村長ハ十一月五日ヨリ十五日間町村役場...

第三十六條 町村長ハ十一月五日ヨリ十五日間町村役場...

第三十七條 町村長ハ十一月五日ヨリ十五日間町村役場...

第三十八條 町村長ハ十一月五日ヨリ十五日間町村役場...

投票分會ヲ設ケルトキハ町村長ハ確定名簿ニ依リ分會ノ區...

第十八條ノ五 第十八條ノ三ノ場合ニ於テ決定若ハ裁決確定...

第十九條 町村長ハ選舉ノ期日前七日日迄ニ選舉會場...

第二十條 町村長ハ選舉長ト爲リ選舉會ヲ開閉シ其ノ取締ニ...

第二十一條 町村長ハ選舉長ト爲リ選舉會ヲ開閉シ其ノ取締ニ...

第二十二條 町村長ハ選舉長ト爲リ選舉會ヲ開閉シ其ノ取締ニ...

第二十三條 町村長ハ選舉長ト爲リ選舉會ヲ開閉シ其ノ取締ニ...

第二十四條 町村長ハ選舉長ト爲リ選舉會ヲ開閉シ其ノ取締ニ...

第二十五條 町村長ハ選舉長ト爲リ選舉會ヲ開閉シ其ノ取締ニ...

町村制 町村會

前項ノ計算終リタルトキハ選舉長ハ先ツ第二十二條ノ三第
二項及第四項ノ投票ヲ調査スヘシ其ノ投票ノ受理如何ハ
選舉立會人ノ之ヲ決定ス可同數ナルトキハ選舉長ノ之ヲ決
スヘシ

選舉長ハ選舉立會人ト共ニ投票ノ點檢スヘシ
天災事變等ノ爲開票ヲ行フコト能ハサルトキハ町長ハ更ニ
開票ノ期日ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テ選舉會場ノ變更ヲ要
スルトキハ選舉長更ニ其ノ場所ヲ告示スヘシ(大正十五年法律
第七十五號ヲ以テ本條ヲ追加)

第二十四條ノ三 選舉人ハ其ノ選舉會ノ參觀ヲ求ムルコトヲ得但
シ開票開始前ハ此ノ限ニ在ラス(同上本條ヲ追加)

第二十四條ノ四 特別ノ事情アルトキハ町長ハ府縣知事ノ許可ヲ
得區劃ヲ定メテ開票分會ヲ設ケルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ開票分會ヲ設ケル場合ニ於テ必要ナル事
項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム(同上本條ヲ追加)

第二十五條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス(大正十年法律第五十
九號ヲ以テ第二項ヲ削除)

- 一 成規ノ用紙ヲ用ヤサルモノ
- 二 現ニ町村會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 三 一投票中二人以上ノ被選舉人ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 四 被選舉人ノ何人タルカヲ確證シ難キモノ
- 五 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 六 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ附位
職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ
限ニ在ラス
- 七 被選舉人ノ氏名ヲ自書セザルモノ(同上本條ヲ追
加)

第二十六條 投票ノ效力ハ選舉立會人ノ之ヲ決定ス可同數ナ
ル

ルトキハ選舉長ノ之ヲ決スヘシ(大正十五年法律第七十五號
ヲ以テ本條ヲ改正第二項ヲ削除)

第二十七條 町村會議員ノ選舉ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル
者ヲ以テ當選者トス但シ議員ノ定數ヲ以テ有效投票ノ總數
ヲ除シテ得タル數ノ六分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス(大正
十年法律第五十九號、同十五年法律第七十五號ヲ以テ
本條ヲ改正)

前項ノ規定ニ依リ當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同シキトキ
ハ年長者ヲ取リ年同シキトキハ選舉長抽籤シテ之ヲ定ムヘ
シ

第二十七條ノ二 當選者選舉ノ期日後ニ於テ被選舉權ヲ有セ
ザルニ至リタルトキハ當選ヲ失フ(大正十五年法律第七十五
號ヲ以テ本條ヲ追加)

第二十八條 選舉長ハ選舉員ヲ作リ選舉會ニ關スル事項ヲ記
載シテ之ヲ朗讀シ二人以上ノ選舉立會人ト共ニ之ニ署名スヘ
シ

投票分會長ハ投票員ヲ作リ投票ニ關スル事項ヲ記載シテ
朗讀シ二人以上ノ選舉立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ
投票分會長ハ投票員ト同時ニ投票員ノ姓名ヲ添ヘテ之ヲ
選舉長及投票員ノ投票、選舉人名簿其ノ他ノ關係書類
ト共ニ議員ノ任期間町長ニ於テ之ヲ保存スヘシ(同上本
條ヲ改正)

第二十九條 當選者定マリタルトキハ町長ハ直ニ當選者ニ當
選ノ旨ヲ告知シ同時ニ當選者ノ住所氏名ヲ告示シ且選舉
員ノ姓名(投票員アルトキハ併せて投票員ノ姓名)ヲ添ヘテ府縣
知事ニ報告スヘシ當選者ナキトキハ直ニ其ノ旨ヲ告示シ且選
舉員ノ姓名(投票員アルトキハ併せて投票員ノ姓名)ヲ添ヘテ府
縣知事ニ報告スヘシ(同上本條ヲ改正)

當選者當選ヲ辭セムトスルトキハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ
五日以内ニ之ヲ町長ニ申立ツヘシ
官吏ニシテ當選シタル者ハ所屬長官ノ許可ヲ受ケルニ非ザレハ
之ニ應ズルコトヲ得ス(同上本條ヲ改正)

前項ノ官吏ハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之
ニ應ズヘキ旨ヲ町長ニ申立テザルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモ
ノト看做ス(大正十年法律第五十九號ヲ以テ本條ヲ改
正)

町長ニ對シテ請負ヲ爲シ又ハ町長ニ於テ費用ヲ負擔スル事業
ニ付町長若ハ其ノ委任ヲ受ケタル者ニ對シテ請負ヲ爲ス者
若ハ其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限
責任社員、役員若ハ支配人ニシテ當選シタル者ハ其ノ請負
ヲ罷メ又ハ請負ヲ爲ス者ノ支配人若ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ
爲ス法人ノ無限責任社員、役員若ハ支配人タルコトナキニ
至ルニ非ザレハ當選ニ應ズルコトヲ得又第二項ノ期限前ニ其ノ
旨ヲ町長ニ申立テザルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做
ス(大正十五年法律第七十五號ヲ以テ本條ヲ追加)

前項ノ役員トハ取締役、監査役及之ニ進スヘキ者並清算
人ヲ謂フ(同上本條ヲ追加)

第三十條 當選者左ニ掲ケル事由ノ一ニ該當スルトキハ三月以
内ニ更ニ選舉ヲ行フヘシ但シ第二項ノ規定ニ依リ更ニ選舉ヲ
行フコトナクシテ當選者ヲ定メ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 當選者ノ辭シタルトキ
- 二 第二十七條ノ二ノ規定ニ依リ當選ヲ失ヒタルトキ
- 三 死亡者タルトキ
- 四 選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレ其ノ當選無効
ト爲リタルトキ但シ同一ノ人ニ關シテ前各號ノ事由ニ依ル
選舉又ハ補選ノ選舉ノ告示ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ
在ラス

前項ノ事由前條第二項若ハ第四項ノ規定ニ依リ期限前ニ
生シタル場合ニ於テ第二十七條第一項但書ノ得票者ニシテ

當選者ト爲ラザリシ者アルトキ又ハ其ノ期限經過後ニ生シタル
場合ニ於テ第二十七條第二項ノ規定ニ適用ヲ受ケタル得
票者ニシテ當選者ト爲ラザリシ者アルトキハ直ニ選舉會ヲ開キ
其ノ中ニ就キ當選者ヲ定ムヘシ

前項ノ場合ニ於テ第二十七條第一項但書ノ得票者ニシテ
當選者ト爲ラザリシ者選舉ノ期日後ニ於テ被選舉權ヲ有セ
ザルニ至リタルトキハ之ヲ當選者ト定ムルコトヲ得

第二項ノ場合ニ於テハ町長ハ選舉會ノ場所及日時
ヲ告示スヘシ

第一項ノ期間ハ第三十三條第八項ノ規定ニ適用アル場合
ニ於テハ選舉ヲ行フコトヲ得ザル事由已ミタル日ノ翌日ヨリ之
ヲ起算ス

第一項ノ事由議員ノ任期満了前六月以内ニ生シタルトキハ
第一項ノ選舉ハ之ヲ行ハス但シ議員ノ數其ノ定數ノ三分ノ
二ニ滿テザルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラス(大正十五年法
律第七十五號ヲ以テ本條ヲ改正)

第三十一條 第二十九條第二項ノ期間ヲ經過シタルトキ又ハ同
條第四項ノ申立アリタルトキハ町長ハ直ニ當選者ノ住所
氏名ヲ告示シ併せて之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ(大正十年
法律第五十九號ヲ以テ本條ヲ改正、同十五年法律第七
十五號ヲ以テ本條ヲ改正第一項ヲ削除)

當選者ナキニ至リタルトキ又ハ當選者其ノ選舉ニ於ケル議員
ノ定數ニ達セザルニ至リタルトキハ町長ハ直ニ其ノ旨ヲ告示
シ併せて之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ(大正十五年法律第七
十五號ヲ以テ本條ヲ追加)

第三十二條 選舉ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選舉ノ結果ニ
異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ限リ其ノ選舉ノ全部又ハ一部ヲ
無効トス但シ當選ニ異動ヲ生スルノ虞ナキ者ヲ區分シ得ルトキ
ハ其ノ者ニ限リ當選ヲ失フコトヲシ(同上但書ヲ追加)

第三十三條 選舉人選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ

選舉ニ關シテハ選舉ノ日ヨリ當選ニ關シテハ第二十九條第
一項又ハ第三十一條第二項ノ告示ノ日ヨリ七日以内ニ之
ヲ町長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町長ハ七日
以内ニ町村會議員ノ決定ニ付スヘシ町村會ハ其ノ送付ヲ受ケタル
日ヨリ十四日以内ニ之ヲ決定スヘシ大正十五年法律第七
十五號ヲ以テ本條ヲ改正)

前項ノ決定ニ不服アル者ハ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得
府縣知事ハ選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉
ニ關シテハ第二十九條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ、當選
ニ關シテハ第二十九條第二項又ハ第三十一條第二項ノ報
告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ府縣知事會ノ決定ニ
付スルコトヲ得(同上本條ヲ改正)

前項ノ決定アリタルトキハ同一ノ事件ニ付寫シタル異議ノ申立
及町村會議員ノ決定ハ無効トス(同上本條ヲ改正)

第二項若ハ第六項ノ判決又ハ第三項ノ決定ニ不服アル者
ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得(同上本條ヲ改正)

第一項ノ決定ニ付テハ町長ヨリモ訴願ヲ提起スルコトヲ得
(同上本條ヲ改正)

第二項若ハ前項ノ判決又ハ第三項ノ決定ニ付テハ府縣知
事又ハ町長ヨリモ訴願ヲ提起スルコトヲ得(同上本條ヲ改
正)

第十七條、第三十條又ハ第三十四條第一項若ハ第三項
ノ選舉ハ之ニ關係アル選舉又ハ當選ニ關シテ異議申立期
間、異議ノ決定若ハ訴訟ノ判決確定セル間又ハ訴訟ノ繫
屬スル間ニ之ヲ行フコトヲ得ス(大正十年法律第五十九號ヲ
以テ本條ヲ追加、同十五年法律第七十五號ヲ以テ改
正)

町村會議員ハ選舉又ハ當選ニ關スル決定若ハ判決確定シ
又ハ判決アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス
(大正十五年法律第七十五號ヲ以テ本條ヲ改正)

第三十四條 選舉無効ト確定シタルトキハ三月以内ニ更ニ選舉
ヲ行フヘシ

當選無効ト確定シタルトキハ直ニ選舉會ヲ開キ更ニ當選者ヲ
定ムヘシ此ノ場合ニ於テハ第三十條第三項及第四項ノ規
定ヲ準用ス

當選者ナキトキ、當選者ナキニ至リタルトキ又ハ當選者其ノ選
舉ニ於ケル議員ノ定數ニ達セザルトキ若ハ定數ニ達セザルニ至
リタルトキ三月以内ニ更ニ選舉ヲ行フヘシ

第三十條第五項及第六項ノ規定ハ第一項及前項ノ選舉
ニ之ヲ準用ス(大正十五年法律第七十五號ヲ以テ本條ヲ
改正)

第三十五條 町村會議員被選舉權ヲ有セザル者タルトキ又ハ第
二十九條第五項ニ掲ケタル者タルトキハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選
舉權ノ有無又ハ第二十九條第五項ニ掲ケタル者ニ該當スルヤ
否ハ町長ヨリ告示スヘシ各號ノ一ニ該當スルニ因リ被選舉權
ヲ有セザル場合ヲ除ク外町村會議員ノ之ヲ決定ス(大正十五年
法律第七十五號ヲ以テ本條ヲ改正)

- 一 禁治產者又ハ進禁治產者ト爲リタルトキ
- 二 破產者ト爲リタルトキ
- 三 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 四 選舉ニ關スル犯罪ニ依リ罰金ノ刑ニ處セラレタルト
キ

町長ハ町村會議員中被選舉權ヲ有セザル者又ハ第二十九
條第五項ニ掲ケタル者アリト認ムルトキハ之ヲ町長會議員ノ決定
ニ付スヘシ町長會議員ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ
之ヲ決定スヘシ(大正十年法律第五十九號、同十五年法
律第七十五號ヲ以テ本條ヲ改正)

第一項ノ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣知
事會ニ訴願シ其ノ判決又ハ第四項ノ判決ニ不服アルトキハ
行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

町村制 町村會

第一項ノ決定及前項ノ裁決ニ付テハ町村長ヨリモ訴願又ハ
訴訟ヲ提起スルコトヲ得
第二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ
得
第三十三條第九項ノ規定ハ第一項及前二項ノ場合ニ之
ヲ適用ス(大正十年法律第五十九號ヲ以テ本項ヲ改正)
第一項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シテ之本
人ニ交付スヘシ
第三十六條 第十八條ノ三及第三十三條ノ場合ニ於テ府縣
知事會ノ決定及裁決ハ府縣知事、町村會ノ決定ハ町村
長直ニ之ヲ告示スヘシ大正十五年法律第七十五號ヲ以テ
本條ヲ改正)
第三十六條ノ二 町村會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉
法第九十一條、第九十二條、第九十八條、第九十九
條第二項、第百條及第百四十二條ノ規定ヲ適用ス同上
本條ヲ追加)
第三十七條 本法又ハ本法ニ基テ發スル勅令ニ依リ設置スル
議會ノ議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル規則ヲ
適用ス(大正十年法律第五十九號ヲ以テ第二項ヲ削除)
第三十八條 特別ノ事情アル町村ニ於テハ府縣知事ハ其ノ町村
ヲシテ町村會ヲ設ケ選舉權ヲ有スル町村民ノ總會ヲ以テ
之ニ充テシムルコトヲ得(大正十五年法律第七十五號ヲ以
テ本項ヲ改正)
町村總會ニ關シテハ町村會ニ關スル規定ヲ適用ス
第二節 職務權限
第三十九條 町村會ハ町村ニ關スル事件及法律勅令ニ依リ其
ノ權限ニ屬スル事件ヲ議決ス
第四十條 町村會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ
一 町村條例及町村規則ヲ設ケ又ハ改廢スル事

二 町村會ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關スル事但シ第七十
七條ノ事務及法律勅令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在
ラス
三 歳入出豫算ヲ定ムル事
四 決算報告ヲ認定スル事
五 法令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手数料、加入
金、町村稅又ハ夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル
事
六 不動産ノ管理處分及取得ニ關スル事
七 基本財産及積立金穀等ノ設置管理及處分ニ關ス
ル事
八 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ
負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事
九 財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法律勅
令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス
十 町村吏員ノ身元保證ニ關スル事
十一 町村ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事
第十二條 町村會ハ法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル選舉ヲ
行フヘシ
第十三條 町村會ハ町村ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢
閲シ町村長ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理、議決ノ執行及
出納ヲ検査スルコトヲ得
第十四條 町村會ハ議員中ヨリ委員ヲ選舉シ町村長又ハ其ノ指名シタ
ル吏員立會ノ上實地ニ就キ前項町村會ノ權限ニ屬スル事
件ヲ行ハシムルコトヲ得
第十五條 町村會ハ町村ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ
町村長又ハ監督官廳ニ提出スルコトヲ得
第十六條 町村會ハ行政廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘ
シ
町村會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ町村會成

立セシ、招集ニ應ゼス若ハ意見ヲ提出セシ又ハ町村會ヲ招集
スルコト能ハサルトキハ當該行政廳ハ其ノ意見ヲ俟テ直ニ
處分ヲ爲スコトヲ得
第十五條 町村會ハ町村長ヲ以テ議長トシ町村長故辭アルト
キハ其ノ代理者議長ノ職務ヲ代理ス町村長及其ノ代理者
共ニ故辭アルトキハ臨時ニ議員中ヨリ假議長ヲ選舉スヘシ大
正十五年法律第七十五號ヲ以テ本項ヲ改正)
前項假議長ノ選舉ニ付テハ八年長ノ議員議長ノ職務ヲ代理
ス年齡同シトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム(同上本項ヲ追加)
特別ノ事情アル町村ニ於テハ第一項ノ規定ニ拘ラス町村條
例ヲ以テ町村會ノ選舉ニ依ル議長及其ノ代理者一人ヲ置
クコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市制第四十八條及第四十九
條ノ規定ヲ適用ス(同上本項ヲ追加)
第十六條 町村長及其ノ委任又ハ囑託ヲ受ケタル者ハ會議ニ
列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決ニ加ハルコトヲ得ス
前項ノ列席者發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ許スヘシ但
シ之ヲ爲議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス
第十七條 町村會ハ町村長之ヲ招集ス議員定數三分ノ一
以上ノ請求アルトキハ町村長ハ之ヲ招集スヘシ
町村長ハ必要アル場合ニ於テハ會議期ヲ定メ町村會ヲ招集
スルコトヲ得
招集及會議ノ事件ハ開會ノ日前三日目迄ニ之ヲ告知スヘ
シ但シ急務ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス(同上本項ヲ改
正)
第十八條 町村會開會中急務ヲ要スル事件アルトキハ町村長ハ直ニ之
ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得會議ニ付スル日前三日目迄ニ告
知ヲ爲シタル事件ニ付亦同シ(同上本項ヲ改正)
第十九條 町村會ハ町村長之ヲ開會ス
第二十條 町村會ハ議員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ
會議ヲ開クコトヲ得但シ第五十條ノ除斥ノ爲半數ニ滿タザ

町村制 町村會 町村吏員

ルトキ、同一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルモノハ半數ニ滿タサル
トキ又ハ招集ニ應ズルモ出席議員定數ノ半數以上ニ於テ出
席ヲ備フシ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス
第四十九條 町村會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルト
キハ議長ノ決スル所ニ依ル
議長ハ其ノ職務ヲ行フ場合ニ於テモ之ヲ爲議員トシテ議決ニ
加ハルノ權ヲ失ハス(大正十五年法律第七十五號ヲ以テ本
項ヲ追加)
第五十條 議長及議員ハ自己又ハ父母、祖父母、妻、子孫
兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與ス
ルコトヲ得但シ町村會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發
言スルコトヲ得
第五十一條 法律勅令ニ依リ町村會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ一
人毎ニ無記名投票ヲ爲シ有效投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ
以テ當選者トシ過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ヲ得タル
者二人ヲ取リ之ニ就キ決選投票ヲ爲サシム其ノ二人ヲ取ルニ
當リ同數者アルトキハ八年長者ヲ取リ年齡同シトキハ議長抽
籤シテ之ヲ定ム此ノ決選投票ニ於テハ多數ヲ得タル者ヲ以テ
當選者トシ同數ナルトキハ八年長者ヲ取リ年齡同シトキハ議
長抽籤シテ之ヲ定ム
前項ノ場合ニ於テハ第二十二條及第二十五條ノ規定ヲ遵
用シ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ町村會之ヲ決定ス
第一項ノ選舉ニ付テハ町村會ハ其ノ議決ヲ以テ指名推選
又ハ連名投票ノ法ヲ用ルコトヲ得其ノ連名投票ノ法ヲ用ル
ル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ依ル
連名投票ノ法ヲ用ル場合ニ於テ其ノ投票ニシテ第二十五
條第一號、第六號及第七號ニ該當スルモノハ其ノ記載ノ
人員選舉スヘキ定數ニ過キタルモノハ之ヲ無効トシ同條第二
號、第四號及第五號ニ該當スルモノハ其ノ部分ノミヲ無効ト
ス(大正十年法律第五十九號ヲ以テ本項ヲ追加)

連名投票ノ法ヲ用ル場合ニ於テ過半數ノ投票ヲ得タル者
選舉スヘキ定數ヲ超ユルトキハ最多數ヲ得タル者ヨリ順次選
舉スヘキ定數ニ至ル迄ノ者ヲ以テ當選者トシ同數者アルトキハ
八年長者ヲ取リ年齡同シトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム(大正
十五年法律第七十五號ヲ以テ本項ヲ追加)
第五十二條 町村會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ
在ラス
一 議長ノ意見ヲ以テ傍聴ヲ禁止シタルトキ
二 議員二人以上ノ發議ニ依リ傍聴禁止ヲ可決シタル
トキ
前項議員ノ發議ハ討論ヲ須キス其ノ可否ヲ決スヘシ
第四十五條第三項ノ町村ニ於ケル町村會ノ會議ニ付テハ
前二項ノ規定ニ拘ラス市制第五十六條ノ規定ヲ適用ス(同
上本項ヲ追加)
第五十三條 議長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會
議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス
第五十四條 議員定數ノ半數以上ヨリ請求アルトキハ議長ハ其ノ日ノ會
議ヲ開クコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ議長仍會議ヲ開カサルトキ
ハ第四十五條ノ例ニ依ル(大正十年法律第五十九號ヲ以
テ本項ヲ追加)
前項議員ノ請求ニ依リ會議ヲ開キタルトキ又ハ議員中異議
アルトキハ議長ハ會議ノ議決ニ依リ之ヲ非サレハ其ノ日ノ會議ヲ
閉テ又ハ中止スルコトヲ得(同上本項ヲ追加)
第五十五條 議員ハ選舉人ノ指示又ハ委囑ヲ受クヘカラス
議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用キ又ハ他人ノ身上ニ涉リ言論ス
ルコトヲ得ス
第五十六條 會議中本法又ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩
序ヲ紊ス議員アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ又ハ發言ヲ取消サ
シメ命ニ從ハサルトキハ當日ノ會議ヲ終ル迄發言ヲ禁止シ又ハ
議場外ニ退去セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分

ヲ求ムルコトヲ得
議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ
又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得
第五十六條 傍聴人公然可否ヲ表示シ又ハ喧嘩ニ涉リ其ノ他會
議ノ妨害ヲ爲ストキハ議長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之
ヲ退場セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムル
コトヲ得
傍聴席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聴人ヲ退場セシメ必要
アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得
第五十七條 町村會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ處理セ
シム
書記ハ議長之ヲ任免ス
第五十八條 議長ハ書記ヲシテ會議終リ調製シ會議ノ議案及
出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ
會議終リ議長及議員二人以上之ニ署名スルコトヲ要ス其ノ
議員ハ町村會ニ於テ之ヲ定ムヘシ
第四十五條第三項ノ町村ニ於ケル町村會ノ會議ニ付テハ
市制第六十二條第三項ノ規定ヲ適用ス(大正十五年法
律第七十五號ヲ以テ本項ヲ追加)
第五十九條 町村會ハ會議規則及傍聴人取締規則ヲ設クヘ
シ
會議規則ニハ本法及會議規則ニ違反シタル議員ニ對シ町
村會ノ議決ニ依リ五日以内出席ヲ停止スル規定ヲ設クルコ
トヲ得(同上本項ヲ改正)
第三章 町村吏員
第一節 組織選舉及任免
第六十條 町村ニ町村長及助役一人ヲ置ク但シ町村條例ヲ
以テ助役ノ定數ヲ增加スルコトヲ得

町村制 町村ノ財務

給與金、死亡給與金、遺族扶助料其ノ他ノ給與ハ町村ノ負擔トス

第五章 町村ノ財務

第一節 財產營造物及町村稅

第八十九條 收益ノ爲ニスル町村ノ財產ハ基本財産トシテ之ヲ維持ス

町村ハ特定ノ目的ノ爲特別ノ基本財産ヲ設ケ又ハ金穀等ヲ積立ツルコトヲ得

第九十條 舊來ノ慣行ニ依リ町村住民中特ニ財產又ハ營造物ヲ使用スル權利ヲ有スル者アルトキハ其ノ舊慣ニ依ル舊慣ヲ變更又ハ廢止セムトスルトキハ町村會ノ議決ヲ經シ

前項ノ財產又ハ營造物ヲ新ニ使用セムトスル者アルトキハ町村ハ之ヲ許可スルコトヲ得

第九十一條 町村ハ前條ニ規定スル財產ノ使用方法ニ關シ町村規則ヲ設ケルコトヲ得

第九十二條 町村ハ第九十條第一項ノ使用者ヨリ使用料ヲ徵收シ同條第二項ノ使用ニ關シテハ使用料若ハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料及加入金ヲ共ニ徵收スルコトヲ得

第九十三條 町村ハ營造物ノ使用ニ付使用料ヲ徵收スルコトヲ得

町村ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第九十四條 財產ノ賣却貨價、工事ノ請負及物件勞力其ノ他ノ供給ハ賤價入札ニ付スシ但シ臨時急施ヲ要スルトキハ入札ノ價額其ノ費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ町村會ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九十五條 町村ハ其ノ公益上必要ナル場合ニ於テハ特附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第九十六條 町村ハ其ノ必要ナル費用及從來法令ニ依リ又ハ將來法律勅令ニ依リ町村ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

町村ハ其ノ財產ヨリ生スル收入、使用料、手数料、過料、過怠金其ノ他法令ニ依リ町村ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ不足アルトキハ町村稅及夫役現品ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第九十七條 町村稅トシテ賦課スルコトヲ得ヘキモノ左ノ如シ

一 國稅府縣稅ノ附加稅

二 特別稅

直接國稅又ハ直接府縣稅ノ附加稅ハ均一ノ稅率ヲ以テ之ヲ徵收スシ但シ第四百七十七條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

國稅ノ附加稅タル府縣稅ニ對シテハ附加稅ヲ賦課スルコトヲ得

特別稅ハ別ニ稅目ヲ起シテ課稅スルノ必要アルトキ賦課徵收スルモノトス

第九十八條 三月以上町村内ニ滞在スル者ハ其ノ滞在ノ初ニ遊リ町村稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第九十九條 町村内ニ住所ヲ有セス又ハ三月以上滞在スルコトナシト雖町村内ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ、町村内ニ營業所ヲ設ケ營業ヲ爲シ又ハ町村内ニ於テ特定ノ行為ヲ爲ス者ハ其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ其ノ行為ニ對シテ賦課スル町村稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

納稅者ノ町村外ニ於テ所有シ使用シ占有スル土地家屋物件若ハ其ノ收入又ハ町村外ニ於テ營業所ヲ設ケル營業若ハ其ノ收入ニ對シテハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得

町村ノ内外ニ於テ營業所ヲ設ケ營業ヲ爲ス者ニシテ其ノ營業又ハ收入ニ對シテ本稅率ヲ別シテ納ムルモノニ對シ附加

ノ收入アルトキ亦同シ
數人又ハ町村ノ一部ヲ利スル財產ニ付テハ前三項ノ例ニ依ル
第九十條 町村稅及其ノ賦課徵收ニ關シテハ本法其ノ他ノ法律ニ規定アルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得
第九十一條 數人又ハ町村ノ一部ニ對シテ利益アル事件ニ關シテハ町村ハ不均ニ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ町村ノ一部ニ對シテ賦課ヲ爲スコトヲ得
第九十二條 夫役又ハ現品ハ直接町村稅ヲ課率ト爲シ直接町村稅ヲ賦課セサル町村ニ於テハ直接國稅ヲ課率ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課スヘシ但シ第四百七十七條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
第九十三條 學藝美術及手工工關スル勞務ニ付テハ夫役ヲ賦課スルコトヲ得
夫役ヲ賦課セラレタル者ハ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得
夫役又ハ現品ハ金額ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
第九十四條 第一項及前項ノ規定ハ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役ニ付テハ之ヲ適用セス
第九十五條 非常災害ノ爲必要アルトキハ町村ハ他人ノ土地ヲ一時使用シ又ハ其ノ土石竹木其ノ他ノ物品ヲ使用シ若ハ收受スルコトヲ得但シ其ノ損失ヲ補償スヘシ
前項ノ場合ニ於テ危險防止ノ爲必要アルトキハ町村長、警察官又ハ監督官職ハ町村内ノ居住者ヲテ防護ニ從事セシムルコトヲ得
第九十六條 第一項但書ノ規定ニ依リ補償スヘキ金額ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ府縣知事ノヲ決定ス決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得
前項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ本人

町村制 町村ノ財務

ニ交付スヘシ
第一項ノ規定ニ依リ土地ノ一時使用ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得(大正十五年法律第七十五號ヲ以テ本項ヲ改正)
第九十七條 町村稅ノ賦課ニ關シテ必要ナル場合ニ於テハ當該吏員ハ日出ヨリ日沒迄ノ間營業者ニ關シテハ仍其ノ營業時間內家宅若ハ營業所ニ應檢査シ又ハ帳簿物件ノ檢査ヲ爲スコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ當該吏員ハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證明書ヲ携帶スヘシ
第九十八條 町村長ハ納稅者中特別ノ事情アル者ニ對シ納稅延期ヲ許可スルコトヲ得其ノ年度ヲ越ユル場合ハ町村會ノ議決ヲ經シ
第九十九條 町村ハ特別ノ事情アル者ニ限リ町村稅ヲ減免スルコトヲ得
第一百條 使用料手数料及特別稅ニ關スル事項ニ付テハ町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ規定スヘシ(同上本項ヲ改正)
第一百零一條 詐偽其ノ他ノ不正ノ行為ニ依リ使用料ノ徵收ヲ免レ又ハ町村稅ヲ通脱シタル者ニ付テハ町村會ノ議決ヲ以テ其ノ徵收ヲ免レ又ハ通脱シタル金額ノ三倍ニ相當スル金額(其ノ金額五圓未滿ナルトキハ五圓)以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設ケルコトヲ得(同上本項ヲ改正)
第一百零二條 前項ニ定ムルモノ外使用料、手数料及町村稅ノ賦課徵收ニ關シテハ町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ規定スルコトヲ得(同上本項ヲ改正)
第一百零三條 過料ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣知事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ町村長ヨリモ訴訟ヲ提起

稅ヲ賦課スル場合及住所所在町村ノ内外ニ涉ル者ノ收入ニシテ土地家屋物件又ハ營業所ヲ設ケタル營業ヨリ生スル收入ニ非サルモノニ對シ町村稅ヲ賦課スル場合ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第一百零四條 所得稅法第十八條ニ掲ケタル所得ニ對シテハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得(大正十年法律第五十九號ヲ以テ本項ヲ改正)
第一百零五條 神社寺院祠宇佛堂ノ用ニ供スル建物及其ノ境内地並教會所設教所ノ用ニ供スル建物及其ノ境内地ニ對シテハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及住宅ヲ以テ教會所設教所ノ用ニ充ツル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス
第一百零六條 國府縣市町村其ノ他公共團體ニ於テ公用ニ供スル家屋物件及營造物ニ對シテハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及住宅ヲ以テ教會所設教所ノ用ニ充ツル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス
第一百零七條 國ノ事業又ハ行爲及國有ノ土地家屋物件ニ對シテハ國ニ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得
第一百零八條 前四項ノ外町村稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別ニ法律勅令ノ定ムル所ニ依ル
第一百零九條 町村ハ公益上其ノ他ノ事由ニ因リ課稅ヲ不適當トスル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ町村稅ヲ課セサルコトヲ得(大正十五年法律第七十五號ヲ以テ本條ヲ追加)
第一百一十條 數人ノ利益ヲ營造物ノ設置維持其ノ必要ナル費用ハ其ノ關係者ニ負擔セシムルコトヲ得
第一百一十一條 町村ノ一部ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ必要ナル費用ハ其ノ一部ノ内ニ於テ町村稅ヲ納ムル義務アル者ニ負擔セシムルコトヲ得
第一百一十二條 前二項ノ場合ニ於テ營造物ヨリ生スル收入アルトキハ先ツ其ノ收入ヲ以テ其ノ費用ニ充ツヘシ前項ノ場合ニ於テ其ノ一部

特種ラ有シ其ノ追徴還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル
前三項ノ處分ニ不服アル者ハ府縣審議會ニ訴願シ其ノ裁
決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得(大正十
五年法律第七十五號ヲ以テ本項ヲ改正)

第四項ノ處分中差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定ニ至ル迄執
行ヲ停止ス

第五項 町村ハ其ノ負債ヲ償還スル爲メ、町村ノ永久ノ利益
ト爲ルヘキ支出ヲ爲ス爲メ又ハ天災事變等ノ爲必要ナル場合
ニ限リ町村債ヲ起スコトヲ得

第六項 町村債ヲ起スニ付町村會ノ議決ヲ經ルベシ其ノ起債ノ方
法、利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ

第七項 町村ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲メ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得
前項ノ借入金ハ其ノ會計年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘシ

第二章 歳入出豫算及決算

第十三條 町村長ハ毎會計年度歳入出豫算ヲ調製シ翌年ト
モ年度開始ノ一月前ニ町村會ノ議決ヲ經ヘシ

第十四條 町村會ニ提出スルトキハ町村長ハ併テ事務報告書
及財産表ヲ提出スヘシ

第十五條 町村長ハ町村會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加又
ハ更正ヲ爲スコトヲ得

第十六條 町村會ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シテ其ノ
費用ヲ支出スヘキモノハ町村會ノ議決ヲ經テ其ノ期間間各
年度ノ支出額ヲ定メ繰越費ト爲スコトヲ得

第十七條 町村ハ豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツ
ル爲準備費ヲ設クヘシ

第十八條 特別會計ニハ豫算費ヲ設ケサルコトヲ得(大正十年法律第
七十九號ヲ以テ本項ヲ追加)

第十九條 豫備費ハ町村會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス
且其ノ要領ヲ告示スヘシ(大正十五年法律第七十五號ヲ
以テ本條ヲ改正)

第二十條 町村ハ特別會計ヲ設ケルコトヲ得
第二十一條 町村會ニ於テ豫算ヲ議決シタルトキハ町村長ヨリ其
ノ原本ヲ收入役ニ交付スヘシ

第二十二條 町村會ハ町村長及ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂
ヲ爲スコトヲ得命令受クルモ支出ノ豫算ナク且豫備費支
出、費目流用其ノ他財務ニ關スル規定ニ依リ支出ヲ爲スコ
トヲ得ザルトキ亦同シ

第二十三條 前二項ノ規定ハ收入役ノ事務ヲ兼掌シタル町村長及ハ助
役ニ之ヲ適用ス

第二十四條 町村ノ支拂金ニ關スル時効ニ付テハ政府ノ支拂金
ノ例ニ依ル

第二十五條 町村ノ出納ハ毎月例日ヲ定メ之ヲ検査シ且毎
會計年度少クモ二回臨時検査ヲ爲スヘシ

第二十六條 検査ハ町村長之ヲ爲シ臨時検査ニハ町村會ニ於テ選舉シ
ル議員二人以上ノ立會ヲ要ス

第二十七條 町村ノ出納ハ翌年度五月三十一日ヲ以テ閉鎖
ス(同上本條ヲ改正)

第二十八條 決算ハ出納閉鎖後一月以内ニ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ
之ヲ町村長ニ提出スヘシ町村長ハ之ヲ審査シ意見ヲ付シテ
次ノ通常豫算ヲ豫算委員會ニ之ヲ町村會ノ認定ニ付スヘシ

第二十九條 第六十七條第五項ノ場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ル但シ町
村長ニ於テ兼掌シタルトキハ直ニ町村會ノ認定ニ付スヘシ(同
上本條ヲ改正)

第三十條 決算ハ其ノ認定ニ關スル町村會ノ議決ト共ニ之ヲ府縣知事
ニ提出ス

第三十一條 報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ(大正十五年法律第七十
五號ヲ以テ本項ヲ改正)

第三十二條 決算ノ認定ニ關スル會議ニ於テハ町村長及助役共ニ議長ノ
職務ヲ行フコトヲ得ス

第三十三條 豫算調製ノ式、費目流用其ノ他財務ニ關シ必
要ナル規定ハ内務大臣之ヲ定ム

第六章 町村ノ一部ノ事務

第三十四條 町村ノ一部ニシテ財産ヲ有シ又ハ營造物ヲ設ケ
ルモノアルトキハ其ノ財産又ハ營造物ノ管理及處分ニ付テハ
本法中町村ノ財産又ハ營造物ニ關スル規定ニ依ル但シ法
律命令中別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條 前項ノ財産又ハ營造物ニ關シ特ニ必要ナル費用ハ其ノ財産又
ハ營造物ノ屬スル町村ノ一部ノ負擔トス

第三十六條 前二項ノ場合ニ於テハ町村ノ一部ハ其ノ會計ヲ分別スヘシ
第三十七條 前條ノ財産又ハ營造物ニ關シ必要アリト認めルト
キハ府縣知事ハ町村會ノ意見ヲ徵シテ町村條例ヲ設定シ區
會又ハ區總會ヲ設ケ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ爲スヘシ

第三十八條 町村會ニ於テ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ爲スヘシ
第三十九條 區會又ハ區總會ニ關シテハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ爲スヘシ

第四十條 區會又ハ區總會ニ關シテハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ爲スヘシ
第四十一條 區會又ハ區總會ニ關シテハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ爲スヘシ

第四十二條 區會又ハ區總會ニ關シテハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ爲スヘシ
第四十三條 區會又ハ區總會ニ關シテハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ爲スヘシ

第四十四條 區會又ハ區總會ニ關シテハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ爲スヘシ
第四十五條 區會又ハ區總會ニ關シテハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ爲スヘシ

第四十六條 區會又ハ區總會ニ關シテハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ爲スヘシ
第四十七條 區會又ハ區總會ニ關シテハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ爲スヘシ

第四十八條 區會又ハ區總會ニ關シテハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ爲スヘシ
第四十九條 區會又ハ區總會ニ關シテハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ爲スヘシ

第五十條 區會又ハ區總會ニ關シテハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ爲スヘシ
第五十一條 區會又ハ區總會ニ關シテハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ爲スヘシ

第五十二條 區會又ハ區總會ニ關シテハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ爲スヘシ
第五十三條 區會又ハ區總會ニ關シテハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ爲スヘシ

第五十四條 區會又ハ區總會ニ關シテハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ爲スヘシ
第五十五條 區會又ハ區總會ニ關シテハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ爲スヘシ

第五十六條 區會又ハ區總會ニ關シテハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ爲スヘシ
第五十七條 區會又ハ區總會ニ關シテハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ爲スヘシ

第五十八條 區會又ハ區總會ニ關シテハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ爲スヘシ
第五十九條 區會又ハ區總會ニ關シテハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ爲スヘシ

第六十條 區會又ハ區總會ニ關シテハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ爲スヘシ
第六十一條 區會又ハ區總會ニ關シテハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ爲スヘシ

第六十二條 區會又ハ區總會ニ關シテハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ爲スヘシ
第六十三條 區會又ハ區總會ニ關シテハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ爲スヘシ

第六十四條 區會又ハ區總會ニ關シテハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ爲スヘシ
第六十五條 區會又ハ區總會ニ關シテハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ爲スヘシ

第六十六條 區會又ハ區總會ニ關シテハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ爲スヘシ
第六十七條 區會又ハ區總會ニ關シテハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ爲スヘシ

第七章 町村組合

第六十八條 町村ハ其ノ事務ノ一部ヲ共同處理スル爲メ其ノ協
議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得テ町村組合ヲ設ケルコトヲ得
此ノ場合ニ於テ組合内各町村ノ町村會又ハ町村吏員ノ職
務ニ關スル事項ヲキニ至リタルトキハ其ノ町村會又ハ町村吏
員ハ組合成立ト同時ニ消滅ス

第六十九條 町村ハ特別ノ必要アル場合ニ於テハ其ノ協議ニ依リ府縣知
事ノ許可ヲ得テ其ノ事務ノ全部ヲ共同處理スル爲メ町村組
合ヲ設ケルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ組合内各町村ノ町村
會及町村吏員ハ組合成立ト同時ニ消滅ス

第七十條 公益上必要ナル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル町村會ノ
意見ヲ徵シ府縣審議會ノ議決ヲ經テ前二項ノ町村組合ヲ
設ケルコトヲ得(大正十五年法律第七十五號ヲ以テ本項ヲ
改正)

第七十一條 町村組合ハ法人トス
第七十二條 前條第一項ノ町村組合ニシテ其ノ組合町村ノ數
ヲ増減シ又ハ共同事務ノ變更ヲ爲サントストキハ關係町村
ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第七十三條 前條第二項ノ町村組合ニシテ其ノ組合町村ノ數ヲ減少セム
トストキハ組合會ノ議決ニ依リ其ノ組合町村ノ數ヲ增加セム
ムトストキハ其ノ町村組合ト新ニ加ハラントストキハ關係
ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第七十四條 公益上必要ナル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル町村會
又ハ組合會ノ意見ヲ徵シ府縣審議會ノ議決ヲ經テ組合町
村ノ數ヲ増減シ又ハ一部事務ノ爲設ケル組合ノ共同事務ノ
變更ヲ爲スコトヲ得(同上本條ヲ改正)

第七十五條 町村組合ヲ設ケルコトハ關係町村ノ協議ニ依リ
組合規約ヲ定メ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第七十六條 組合規約ニ變更セムトストキハ一部事務ノ爲ニ設ケル組合
ニ在リテハ關係町村ノ協議ニ依リ全部事務ノ爲ニ設ケル組
合ニ在リテハ組合會ノ議決ヲ經テ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第七十七條 公益上必要ナル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル町村會
又ハ組合會ノ意見ヲ徵シ府縣審議會ノ議決ヲ經テ組合規約
ヲ定メ又ハ變更スルコトヲ得(大正十五年法律第七十五
號ヲ以テ本項ヲ改正)

第七十八條 組合規約ニハ組合ノ名稱、組合ヲ組織スル町
村、組合ノ共同事務及組合役員ノ地位ヲ定ムヘシ

第七十九條 一部事務ノ爲ニ設ケル組合ノ規約ニハ前項ノ外組合
會ノ組織及組合會議員ノ選舉、組合吏員ノ組織及選任
並組合費用ノ支辨方法ニ付規定ヲ設クヘシ

第八十條 町村組合ヲ解カントストキハ一部事務ノ爲ニ設
ケル組合ニ於テハ關係町村ノ協議ニ依リ全部事務ノ爲ニ設
ケル組合ニ於テハ組合會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受
クヘシ

第八十一條 公益上必要ナル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル町村會
又ハ組合會ノ意見ヲ徵シ府縣審議會ノ議決ヲ經テ町村組
合ヲ解コトヲ得(同上本條ヲ改正)

第八十二條 第三百三十條第一項第二項及前條第一項ノ場
合ニ於テ財産ノ處分ニ關スル事項ハ關係町村ノ協議、關係
町村組合トノ協議又ハ組合會ノ議決ニ依リ之ヲ定ム

第八十三條 第三百三十條第三項及前條第二項ノ場合ニ於テ財産ノ處
分ニ關スル事項ハ關係アル町村會又ハ組合會ノ意見ヲ徵シ
府縣審議會ノ議決ヲ經テ府縣知事ノ之ヲ定ム(同上本條ヲ
改正)

第八十四條 第三百二十九條第一項及第二項第三百三十條
第一項及第二項第三百三十一條第一項及第二項第三百三
十三條第一項並前條第二項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處

分ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ(大正十五年法律第七十
五號ヲ以テ本項ヲ改正)

第八十五條 決算ノ認定ニ關スル會議ニ於テハ町村長及助役共ニ議長ノ
職務ヲ行フコトヲ得ス

第八十六條 豫算調製ノ式、費目流用其ノ他財務ニ關シ必
要ナル規定ハ内務大臣之ヲ定ム

第八章 町村ノ監督

第八十七條 町村ハ第一次ニ於テ府縣知事ノ之ヲ監督シ第二
次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス(同上本條ヲ改正)

第八十八條 本法中別段ノ規定アル場合ヲ除ク外町村ノ監
督ニ關スル府縣知事ノ處分ニ不服アル町村ハ内務大臣ニ訴
願スルコトヲ得(同上本條ヲ改正)

第八十九條 本法中行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得(キ場合
ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得)

第九十條 異議ノ申立又ハ訴訟ノ提起ハ處分決定又ハ裁決
アリタル日ヨリ二十一日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ本法中別
期間ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第九十一條 行政訴訟ノ提起ハ處分決定決定又ハ裁決アリタル日ヨリ三
十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第九十二條 決定書又ハ裁決書ヲ交付ヲ受ケサル者ニ關シテハ前二項ノ
決定書又ハ裁決書ヲ交付ヲ受ケサル者ニ關シテハ前二項ノ

決定書又ハ裁決書ヲ交付ヲ受ケサル者ニ關シテハ前二項ノ
決定書又ハ裁決書ヲ交付ヲ受ケサル者ニ關シテハ前二項ノ

決定書又ハ裁決書ヲ交付ヲ受ケサル者ニ關シテハ前二項ノ
決定書又ハ裁決書ヲ交付ヲ受ケサル者ニ關シテハ前二項ノ

決定書又ハ裁決書ヲ交付ヲ受ケサル者ニ關シテハ前二項ノ
決定書又ハ裁決書ヲ交付ヲ受ケサル者ニ關シテハ前二項ノ

決定書又ハ裁決書ヲ交付ヲ受ケサル者ニ關シテハ前二項ノ
決定書又ハ裁決書ヲ交付ヲ受ケサル者ニ關シテハ前二項ノ

決定書又ハ裁決書ヲ交付ヲ受ケサル者ニ關シテハ前二項ノ
決定書又ハ裁決書ヲ交付ヲ受ケサル者ニ關シテハ前二項ノ

決定書又ハ裁決書ヲ交付ヲ受ケサル者ニ關シテハ前二項ノ
決定書又ハ裁決書ヲ交付ヲ受ケサル者ニ關シテハ前二項ノ

決定書又ハ裁決書ヲ交付ヲ受ケサル者ニ關シテハ前二項ノ
決定書又ハ裁決書ヲ交付ヲ受ケサル者ニ關シテハ前二項ノ

決定書又ハ裁決書ヲ交付ヲ受ケサル者ニ關シテハ前二項ノ
決定書又ハ裁決書ヲ交付ヲ受ケサル者ニ關シテハ前二項ノ

期間ハ告示ノ日ヨリ起算ス(大正十五年法律第七十五號ヲ以テ本項ヲ追加)
異議ノ申立ニ關スル期間ノ計算ニ付テハ訴訟法ノ規定ニ依ル

ト得但シ其ノ費用ハ町村ノ負擔トス
前二項ノ處分ニ不服アル町村又ハ町村長其ノ他ノ吏員ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得(大正十五年法律第七十五號ヲ以テ本條ヲ改正)

六 均一ノ稅率ニ依ラシテ國稅又ハ府縣稅ノ附加稅ヲ賦課スル事
七百二條第一項第二項及第四項ノ規定ニ依リ數人又ハ町村ノ一部ニ費用ヲ負擔セシムル事

第九章 雜則

解職ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得(大正十五年法律第七十五號ヲ以テ本項ヲ改正)
府縣知事ハ町村長、助役、收入役及副收入役ノ解職ヲ行ハムトスル前其ノ停職ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ停職期間報酬又ハ給料ヲ支給スルコトヲ得

附則 (大正十年法律第五十九號附則)
本法中公民權及選舉ニ關スル規定ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ規定ノ施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

八條、第三十一條、第三十三條及第三十六條ノ規定ニ依リ難キ事項ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得
本法ニ依リ初テ議員ヲ選舉スル場合ニ於テ必要ナル選舉人名簿ニ關シテ第十八條乃至第十八條ノ五ニ規定スル期日又ハ期間ニ依リ難キキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

市制町村制改正経過規程

市制町村制改正経過規程

(大正十五年六月二十四日) 勅令第二百十號

朕市制町村制改正経過規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

市制町村制改正経過規程
第一條 從前ノ市制第十條第二項又ハ町村制第八條第二項ノ規定ニ依リ爲シタル市町村稅増課ノ處分ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル
第二條 大正十五年七月一日現ニ在任スル名譽職參事會員及其ノ補副名譽職參事會員ノ任期ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル
第三條 市會ニ於テ市長候補者ヲ選舉推薦シ大正十五年六月三十日迄ニ裁可ヲ得ザル場合ニ於テハ仍從前ノ規定ニ依ル
第四條 町村會ニ於テ町村長ヲ選舉シ大正十五年六月三十日迄ニ裁可ヲ得ザル場合ニ於テハ仍從前ノ規定ニ依ル
第五條 町村會ニ於テ町村長ヲ選舉シ大正十五年六月三十日迄ニ裁可ヲ得ザル場合ニ於テハ仍從前ノ規定ニ依ル
第六條 市長又ハ市助役退職ノ認可ノ申請ヲ爲シ大正十五年六月三十日迄ニ裁可ヲ得ザル場合ニ於テハ仍從前ノ規定ニ依ル

日市制第七十三條第三項又ハ第七十五條第三項ノ規定ニ依リ退職ノ申立ヲ爲シタルモノト看做ス
第七條 市會ニ於テ市長選舉シ大正十五年六月三十日迄ニ裁可ヲ得ザル場合ニ於テハ仍從前ノ規定ニ依ル
第八條 市町村ニ於テ市町村收入役故障アルトキ之ヲ代理スベキ吏員ヲ定メ大正十五年六月三十日迄ニ裁可ヲ得ザル場合ニ於テハ仍從前ノ規定ニ依ル
第九條 從前ノ町村制第百二十五條ノ規定ニ依リ郡長ニ於テ町村會ノ意見ヲ徵シタル場合ニ於テハ町村制第百二十五條ノ規定ニ依リ府縣知事ニ於テ町村會ノ意見ヲ徵シタルモノト看做ス
第十條 從前ノ規定ニ依リ郡長ニ爲シタル許可ノ申請ニシテ大正十五年六月三十日迄ニ許可ヲ得ザルモノハ新規定ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ要スル事項ニ限リ之ヲ府縣知事ニ爲シタル許可ノ申請ト看做ス
第十一條 從前ノ町村制第七十四條第六項ノ規定ニ依リ郡長ニ爲シタル處分ノ申請又ハ從前ノ町村制第七十五條第一項乃至第三項ノ規定ニ依リ郡長ニ爲シタル指揮ノ申請ニシテ之ヲ町村會ニ爲シタル申請ト看做ス
第十二條 從前ノ町村制第百六條第五項ノ規定ニ依リ郡長ニ爲シタル訴訟ニシテ大正十五年六月三十日迄ニ裁決ナキモノハ之ヲ町村制第百六條第五項ノ規定ニ依リ府縣知事ニ爲シタル訴訟ト看做ス
第十三條 從前ノ市制第百五十四條第一項又ハ町村制第百三十四條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ爲シタル處分

ニ對スル訴訟ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル
第十四條 從前ノ規定ニ依リ郡長ノ爲シタル處分又ハ裁決ニ關スル訴訟ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル 此場合ニ於テハ訴訟ノ提起ハ處分又ハ裁決ヲ爲シタル行政廳ヲ經由スルコトヲ要セズ
第十五條 從前ノ規定ニ依リ府縣知事ノ爲シタル裁決ニ對スル訴訟ノ提起ハ裁決ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル
第十六條 從前ノ市會參事會、町村會若ハ市町村組合町村組合ノ組合會ノ決定ニ付テラレタル異議又ハ府縣參事會ニ於テ受理シタル訴訟ニシテ大正十五年六月三十日迄ニ決定又ハ裁決ナキモノニ付テハ市制第百六十條ノ二又ハ町村制第百四十條ノ二ノ期間ハ同年七月一日ヨリ之ヲ起算ス
第十七條 本令中郡長ニ關スル規定ハ島司ニ之ヲ適用ス
附則
本令大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

町村制暫行特例

(大正十五年六月二十四日) 勅令第二百九號

朕町村制暫行特例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

町村制暫行特例
第一條 本令大正十五年町村制中改正法律附則第三項ノ規定ニ依リ特例ヲ定ムルモノトス
第二條 町村制第十四條、第十七條第一項、第十八條第十三項及第三十一條ノ規定ニ依リ郡長ノ職務權限ハ府縣知事ニ之ヲ行フ
第三條 府縣知事ハ選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ町村制第三十一條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ、當選ニ關シテハ同條第二項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ、十日以内ニ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得
第四條 町村會ノ決定ハ無効トス
第五條 第一項ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
第六條 第一項ノ決定ニ付テハ府縣知事又ハ町村長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得
第七條 本令ニ依リ異議、訴訟及訴訟ニ付テハ町村制第三十六條及第四百十條ノ例ニ依ル
第八條 本令中郡長ニ關スル規定ハ島司ニ之ヲ適用ス
附則
本令大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
町村制第十四條ノ規定ニ依リ郡長ニ爲シタル許可ノ申請ハ之ヲ府縣知事ニ爲シタル許可ノ申請ト看做ス

町村制第三十三條第三項ノ規定ニ依リ郡長ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ府縣知事ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得、此場合ニ於テハ府縣知事ハ二十日以内ニ府縣參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得
第九條 從前ノ町村制第百六條第五項ノ規定ニ依リ郡長ニ爲シタル訴訟ニシテ大正十五年六月三十日迄ニ裁決ナキモノハ之ヲ町村制第百六條第五項ノ規定ニ依リ府縣知事ニ爲シタル訴訟ト看做ス
第十條 從前ノ市制第百五十四條第一項又ハ町村制第百三十四條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ爲シタル處分

市制町村制ノ施行ニ關スル件

(明治四十四年九月二十二日) 勅令第二百四十三號

朕市制町村制ノ施行ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一條 市制町村制施行前舊市制町村制ニ依リ爲シタル手續其他ノ行爲ハ本令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外之ヲ市制町村制ニ依リ爲シタルモノト看做ス
第二條 町村ノ境界ニ關スル論争ニテ郡參事會ニ於テ受理シタルモノハ之ヲ府縣參事會ニ於テ受理シタルモノト看做ス其ノ郡參事會ニ於テ爲シタル裁決ニ不服アル者ハ從前ノ規定ニ依リ府縣參事會ノ裁決ニ不服アルカ爲府縣參事會ニ爲シタル訴訟ハ之ヲ其ノ裁決ヲ請ヒタルモノト看做ス
第三條 町村ノ境界ニ關スル論争ニ付府縣參事會ノ爲シタル裁決ハ之ヲ裁決ト看做ス
第四條 町村名譽職ノ當選又ハ其ノ職ヲ辭シ若ハ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサルカ爲受ケタル町村民權停止及町村費増課ノ處分ニ關スル訴訟ニシテ郡參事會ニ於テ受理シタルモノハ之ヲ府縣參事會ニ於テ受理シタルモノト看做ス其ノ郡參事會ニ於テ爲シタル裁決ニ不服アル者ハ從前ノ規定ニ依リ府縣參事會ノ裁決ニ不服アルカ爲府縣參事會ニ爲シタル訴訟ハ之ヲ其ノ裁決ヲ請ヒタルモノト看做ス
第五條 市制町村制施行前市町村ニ於テ爲シタル市町村公民權停止及市町村費増課ノ處分ニ對スル訴訟ノ期間ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用ス
第六條 市町村營造物ニ關スル從前ノ市町村規則中市町村條例ヲ以テ規定スヘキ事項ニ關スル規定ハ市町村條例ト同一ノ效力ヲ有ス
第七條 市會議員ノ定數市制第十三條ノ議員ノ定數ニ關シタルニ依リ其ノ不足ヲ補充カ爲選舉シタル議員ハ從前ノ規定

町村制暫行特例

市制町村制ノ施行ニ關スル件

市制町村制ノ施行ニ關スル件

ニ依ル最近ノ定期改選期ニ於テ其ノ職ヲ失フ
第六條 市町村會議員、區會議員又ハ全部事務ノ爲ニ設ケタル町村組合會議員、補員又ハ増員ニ付テハ前ノ規定ニ依ル最近ノ定期改選期ニ於テ其ノ職ヲ失フ...

前部參事會ニ付議シタルモノトキハ郡長ニ於テ直ニ府縣知事ノ指揮ヲ受ケテ之ヲ處分スヘシ其ノ部參事會ニ於テ爲シタル裁決ハ之ヲ郡長ノ處分ト看做ス...

於テ爲シタル異議ノ裁決ハ之ヲ訴願ノ裁決ト看做ス
町村ノ有給吏員ノ給料若ハ退職料、名譽職員ノ賞費、若ハ報酬又ハ町村長ノ書記料ノ給與ニ關スル異議ノ申立ニ...

市制町村制施行令

(大正十五年六月二十四日)
(勅令第百一號)

改正、昭二一勅三
朕市制町村制施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
市制町村制施行令
第一章 總則

第一條 市町村ノ設置アリタル場合ニ於テハ市町村長ノ臨時代理者又ハ職務管理ノ官車ハ歳入歳出豫算カ市町村會ノ議決ヲ經テ成立スルニ至ル迄ノ間必要ナル收支ニ付豫算ヲ設ケ府縣知事ノ許可ヲ受ケズ

第十六條 手数料ノ徵收及市町村稅ノ滯納處分ニ關スル訴願ニシテ郡長又ハ府縣知事ニ於テ受理シタルモノハ之ヲ府縣參事會ニ於テ受理シタルモノト看做ス...

一項ノ郡長又ハ府縣知事ノ處分又ハ裁決ニ不服アルカ爲提起スル訴願ノ期間ニ付テハ前ノ規定ニ依ル
舊市制第百十六條第五項又ハ舊町村制第百二十條第五項ノ執行ノ停止ニ付テハ前ノ規定ニ依ル

市制町村制ノ施行ニ關スル件

市制町村制施行令 總則

市制町村制施行令 市町村會議員ノ選舉

ハ其ノ事務ノ承繼ニ付テハ府縣知事ヲ定ム

第五條 市制第八十二條第三項ノ市ニ於テ新ニ區ヲ劃シ又ハ其ノ區域ヲ變更セントスルキハ市ハ内務大臣ノ許可ヲ受ケベシ

第六條 市制第十一條及町村制第九條ノ規定ニ依リ除外スベキ學生生徒左ノ如シ

一 陸軍各部依託學生生徒
二 海軍軍醫學生藥劑學生主計學生造船學生造機學生造兵學生並ニ海軍豫備生徒及海軍豫備練習生

第七條 市制第二十一條ノ第五項又ハ町村制第十八條ノ第五項ノ規定ニ依リ選舉人名簿ノ編製、縱覽、確定及異議申立ニ對スル市町村會ノ決定ニ關スル期日及期間ヲ定ムルキハ府縣知事ハ直ニ之ヲ告示スベシ

第八條 市町村ノ境界變更アリタル場合ニ於テハ市町村長ハ選舉人名簿ヲ分割シ其ノ部分ヲ其ノ地域ノ新ニ屬シタル市町村ノ市町村長ニ送付スベシ

第九條 市町村ノ廢置分合アリタル場合ニ於テハ市町村長ハ選舉人名簿ヲ分割シ其ノ部分ヲ其ノ地域ノ新ニ屬シタル市町村ノ市町村長ニ送付スベシ

第十條 市制第二十七條ノ四又ハ町村制第二十四條ノ四ノ規定ニ依リ開票分會ヲ設ケタルキハ市町村長ハ直ニ其ノ區劃及開票分會場ヲ告示スベシ

第十一條 市制第二十七條ノ四又ハ町村制第二十四條ノ四ノ規定ニ依リ開票分會ハ市町村長ノ指名シタル吏員開票分會長ト爲リ之ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ズ

第十二條 開票分會長少クモ一人ノ投票立會人ト共ニ投票ノ總數ヲ點檢シ其ノ結果ヲ抄本ト併セテ之ヲ開票分會長ニ送致スベシ

第十三條 投票ノ點檢終リタルキハ開票分會長ハ直ニ其ノ結果ヲ選舉長ニ報告スベシ

第十四條 投票ノ效力ハ選舉立會人又ハ開票立會人ノ意見ヲ聽キ選舉長又ハ開票分會長ノ決定ニ依リ決定スベシ

第十五條 市制第三十三條第一項ノ規定ハ同項第六號トシテ左ノ一號ヲ加ヘテ適用ス

第十六條 府縣制第三十四條ノ二ノ規定ニ準ジテ依リ訴訟ノ結果當選無効ト爲リタルキハ

第十七條 市制第三十六條第一項ノ規定中選舉人トアルハ選舉人又ハ議員候補者トシ同規定ヲ適用ス

第十八條 市制第三十九條ノ二ノ規定中選舉人トアルハ選舉人又ハ議員候補者トシ同規定ヲ適用ス

第十九條 市制第三十九條ノ二ノ規定中選舉人トアルハ選舉人又ハ議員候補者トシ同規定ヲ適用ス

第二十條 市制第三十九條ノ二ノ規定中選舉人トアルハ選舉人又ハ議員候補者トシ同規定ヲ適用ス

第二十一條 市制第三十九條ノ二ノ規定中選舉人トアルハ選舉人又ハ議員候補者トシ同規定ヲ適用ス

第二十二條 市制第三十九條ノ二ノ規定中選舉人トアルハ選舉人又ハ議員候補者トシ同規定ヲ適用ス

第二十三條 市制第三十九條ノ二ノ規定中選舉人トアルハ選舉人又ハ議員候補者トシ同規定ヲ適用ス

第二十四條 市制第三十九條ノ二ノ規定中選舉人トアルハ選舉人又ハ議員候補者トシ同規定ヲ適用ス

第二十五條 市制第三十九條ノ二ノ規定中選舉人トアルハ選舉人又ハ議員候補者トシ同規定ヲ適用ス

第二十六條 市制第三十九條ノ二ノ規定中選舉人トアルハ選舉人又ハ議員候補者トシ同規定ヲ適用ス

第二十七條 市制第三十九條ノ二ノ規定中選舉人トアルハ選舉人又ハ議員候補者トシ同規定ヲ適用ス

第二十八條 市制第三十九條ノ二ノ規定中選舉人トアルハ選舉人又ハ議員候補者トシ同規定ヲ適用ス

第二十九條 市制第三十九條ノ二ノ規定中選舉人トアルハ選舉人又ハ議員候補者トシ同規定ヲ適用ス

第三十條 市制第三十九條ノ二ノ規定中選舉人トアルハ選舉人又ハ議員候補者トシ同規定ヲ適用ス

第三十一條 市制第三十九條ノ二ノ規定中選舉人トアルハ選舉人又ハ議員候補者トシ同規定ヲ適用ス

第三十二條 市制第三十九條ノ二ノ規定中選舉人トアルハ選舉人又ハ議員候補者トシ同規定ヲ適用ス

第三十三條 市制第三十九條ノ二ノ規定中選舉人トアルハ選舉人又ハ議員候補者トシ同規定ヲ適用ス

第三十四條 市制第三十九條ノ二ノ規定中選舉人トアルハ選舉人又ハ議員候補者トシ同規定ヲ適用ス

第三十五條 市制第三十九條ノ二ノ規定中選舉人トアルハ選舉人又ハ議員候補者トシ同規定ヲ適用ス

第三十六條 市制第三十九條ノ二ノ規定中選舉人トアルハ選舉人又ハ議員候補者トシ同規定ヲ適用ス

第三十七條 市制第三十九條ノ二ノ規定中選舉人トアルハ選舉人又ハ議員候補者トシ同規定ヲ適用ス

第三章 市制第三十九條ノ二ノ市ノ市會議員ノ選舉ニ關スル特例

第三十八條 議員候補者ハ選舉人名簿(選舉區アル場合ニ於テハ當該選舉區ノ選舉人名簿)ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ本人ノ承諾ヲ得テ選舉立會人一人ヲ定メ選舉ノ期日ノ前日迄ニ市長(市制第六條ノ市ニ於テハ區長)ニ提出シ得但シ議員候補者死亡シ又ハ議員候補者トシテ辭シタルキハ其ノ届出タル選舉立會人ハ其ノ職ヲ失フ

第三十九條 前項ノ規定ニ依リ選舉立會人三人ニ選セザルキハ三人ニ選セザルニ至リタルキハ又ハ選舉立會人ニシテ選セザル者選舉會ヲ開クベキ時刻ニ至リ三人ニ選セザルキハ其ノ後三人ニ選セザルニ至リタルキハ市長(市制第六條ノ市ニ於テハ區長)ハ選舉人名簿(選舉區アルトキハ當該選舉區ノ選舉人名簿)ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ三人ニ選スル迄ノ選舉立會人ヲ選任シ直ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉立會人ハ之ヲ進用ス

第四十條 市制第二十五條第五項及第七項ノ規定中被選舉人トアルハ議員候補者トシ同規定ヲ適用ス

第四十一條 市制第二十五條第五項及第七項ノ規定中被選舉人トアルハ議員候補者トシ同規定ヲ適用ス

第四十二條 市制第二十五條第五項及第七項ノ規定中被選舉人トアルハ議員候補者トシ同規定ヲ適用ス

第四十三條 市制第二十五條第五項及第七項ノ規定中被選舉人トアルハ議員候補者トシ同規定ヲ適用ス

第四十四條 市制第二十五條第五項及第七項ノ規定中被選舉人トアルハ議員候補者トシ同規定ヲ適用ス

第四十五條 市制第二十五條第五項及第七項ノ規定中被選舉人トアルハ議員候補者トシ同規定ヲ適用ス

第四十六條 市制第二十五條第五項及第七項ノ規定中被選舉人トアルハ議員候補者トシ同規定ヲ適用ス

第四十七條 市制第二十五條第五項及第七項ノ規定中被選舉人トアルハ議員候補者トシ同規定ヲ適用ス

第四十八條 市制第二十五條第五項及第七項ノ規定中被選舉人トアルハ議員候補者トシ同規定ヲ適用ス

第四章 市制第三十九條ノ二ノ市ノ市會議員ノ選舉運動及其ノ費用並ニ公立學校等ノ設備ノ使用

第四十九條 選舉事務所ハ議員候補者一人ニ付議員ノ定數(選舉區アル場合ニ於テハ當該選舉區ノ配當議員數)ヲ以テ選舉人名簿(選舉區アル場合ニ於テハ當該選舉區ノ選舉人名簿)ニ登錄セラレタル者ノ總數ヲ除シテ得タル數ヲ以テ之ニ登錄セラレタル者ノ總數ヲ除シテ得タル數ヲ得ル數ニ乗ジテ得タル額トシテ三百圓未滿ナルモノハ三百圓トス

第五十條 市制第三十九條ノ二ノ規定中選舉人トアルハ選舉人又ハ議員候補者トシ同規定ヲ適用ス

第五十一條 市制第三十九條ノ二ノ規定中選舉人トアルハ選舉人又ハ議員候補者トシ同規定ヲ適用ス

第五十二條 市制第三十九條ノ二ノ規定中選舉人トアルハ選舉人又ハ議員候補者トシ同規定ヲ適用ス

第五十三條 市制第三十九條ノ二ノ規定中選舉人トアルハ選舉人又ハ議員候補者トシ同規定ヲ適用ス

第五十四條 市制第三十九條ノ二ノ規定中選舉人トアルハ選舉人又ハ議員候補者トシ同規定ヲ適用ス

第五十五條 市制第三十九條ノ二ノ規定中選舉人トアルハ選舉人又ハ議員候補者トシ同規定ヲ適用ス

第五十六條 市制第三十九條ノ二ノ規定中選舉人トアルハ選舉人又ハ議員候補者トシ同規定ヲ適用ス

第五十七條 市制第三十九條ノ二ノ規定中選舉人トアルハ選舉人又ハ議員候補者トシ同規定ヲ適用ス

第五十八條 市制第三十九條ノ二ノ規定中選舉人トアルハ選舉人又ハ議員候補者トシ同規定ヲ適用ス

第五十九條 市制第三十九條ノ二ノ規定中選舉人トアルハ選舉人又ハ議員候補者トシ同規定ヲ適用ス

市制町村制施行令

市制第三十九條ノ二ノ市ノ市會議員ノ選舉運動及其ノ費用並ニ公立學校等ノ設備ノ使用

市制第三十九條ノ二ノ市ノ市會議員ノ選舉運動及其ノ費用並ニ公立學校等ノ設備ノ使用

第五章 市町村吏員ノ賠償責任

及身元保証

第三十三條 市町村吏員其ノ管掌ニ屬スル現金、證券其ノ他ノ財產ヲ亡失又ハ毀損シタルキハ市町村ハ期間ヲ指定シ其ノ損害ヲ賠償セムベシ但シ過失ノ原因ニ因リシタルキハ他ノ者ノ使用ニ供シタル場合ニ於テ合規ノ監督ヲ怠ラザルシキハ市町村ハ其ノ賠償ノ責任ヲ免除スベシ

第六章 市町村稅ノ賦課徵收

第四十條 市町村ノ内外ニ於テ營業所ヲ設ケ營業ヲ爲ス者ニシテ其ノ營業又ハ收入ニ對シ本稅ヲ分別シテ納メザル者ニ對シ附加稅ヲ賦課セントスルキハ市町村長ハ關係市長又ハ町村長(町村長ニ進メベキ者ヲ含ム)ト協議ノ上其ノ本稅額ノ歩合ヲ定ムベシ

地家屋物件又ハ營業所ヲ設ケタル營業者ヨリ生ズル收入ニ非ザルモノニ對シ市町村稅ヲ賦課セントスルキハ其ノ收入ヲ平均シ其ノ一部ニシテ賦課スベシ

一 國稅徵收法ニ依ル補納處分ヲ受ケルトキ

強制執行ヲ受ケルトキ
破産ノ宣告ヲ受ケルトキ
破産ノ開始アリタルトキ
法人ガ解散ヲ爲シタルトキ
納稅人ノ脱稅又ハ逃稅ヲ謀ルノ所アリト認ムルトキ

二 其ノ住所又ハ居所ニ送達ス

第五十二條 書類ノ送達ヲ受ケベキ者ガ其ノ住所若ハ居所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルキ又ハ其ノ住所及居所ガ帝國内ニ在ラザルキ若ハ其ノ住所不明ナルキハ書類ノ送達アリタルモノト看做ス

第七 市町村ノ監督

第五十九條 市町村行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スル事項中左ニ掲グルモノハ府縣知事之ヲ許可スベシ
一 基本財産、特別基本財産、造林、傳染病豫防、救済ニ關スル一時給與金、有給吏員ノ年功加俸、退職料、退職給與金、療治料、救助金、手當金、死亡給與金、甲祭料及遺族扶助料並ニ市町村助役ノ定數増加、町村長及町村助役ノ有給、市町村副収入役ノ設置、委員ノ組織及學務委員ニ關スル條例ヲ設ケ又ハ改正スルコト

ラ設ケ又ハ改正スルコト
 四 手数料又ハ加入金ニ關スル條例ヲ設ケ又ハ改正スルコト
 五 特別稅別割ヲ新設シ、増額シ又ハ變更スルコト及之ニ關スル條例ヲ設ケ又ハ改正スルコト但シ大正九年勅令第二百八十二號又ハ大正十五年勅令第四百三十三號ニ依リ府縣知事ニ於テ許可スル課稅ノ限度ヲ超エザルモノニ限ル(昭和二年勅令第三十八號ヲ以テ本號ヲ改正)
 六 府縣ノ基金又ハ教育資金ヨリ借入ルル市町村債及市町村ニ轉貸ノ爲主務大臣ノ許可ヲ得テ借入レラル府縣債ノ收入金ヨリ借入ルル當該市町村債ニ關スルコト
 七 小學校舎ノ建築、増築、改築等ニ關スル費用、傳染病豫防費、急應ヲ要スル災害復舊工事費ニ充ツル爲借入ルル市町村債ニ關スルコト但シ小學校舎ノ爲ニシテ市町村債ニシテ償還期限十年度ヲ超ユルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
 八 借入ノ翌年度ニ於テ償還スル市町村債ニ關スルコト但シ借入金ヲ以テ償還スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一部ノ區會又ハ區總會ニ關スル條例ヲ設ケ又ハ之ヲ改廢スルコト
 四 公會堂、公園、水族館、動物園、植物園、鑛泉、幼兒保育場、商品陳列所、遊樂館、農業倉庫、穀類乾燥場、種畜、牛馬種村所、獸醫解剖場、獸醫、上屋、荷揚場、貯木場、土砂採取場、石材採取場、動力農具ノ管理及使用並ニ使用料ニ關スル條例ヲ設ケ又ハ之ヲ改廢スルコト
 五 延滞金、積立金數等ニ關スル條例ヲ設ケ若ハ之ヲ改廢シ又ハ使用料、手数料、加入金、特別稅及委員ニ關スル條例ヲ廢止スルコト(昭和二年勅令第三十八號ヲ以テ本號ヲ改正)
 六 府縣債ノ全部ノ分賦ヲ受クル市ニ於テ特別稅特別地稅又ハ大正十五年勅令第三百三十九號第十條第一項ニ掲グル種類ノ同種類ノ特別稅ノ賦課ニ關スル條例ヲ設ケ又ハ改正スルコト但シ特別稅特別地稅ニ付テハ大正十五年勅令第四百三十三號ニ依リ府縣知事ニ於テ許可スル課稅ノ限度ヲ超ユルモノ及新ニ課稅ニ對シ特別稅課稅シ又ハ其ノ賦課率若ハ賦課方法ヲ變更スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ(同上本號ヲ改正)
 六ノ二 特別稅戶數割ヲ新設シ、増額シ又ハ變更スルコト及之ニ關スル條例ヲ設ケ又ハ改正スルコト(同上本號ヲ追加)
 七 三年度ヲ超エザル繰越費ヲ定メ又ハ其ノ年內ニ於テ之ヲ變更スルコト
 八 繰越費ヲ減額スルコト
 九 市町村債ノ借入額ヲ減少シ利息ノ定率ヲ低減スルコト
 十 市町村債ノ借入先ヲ變更シ又ハ債券發行ノ方法ニ

依ル市町村債ヲ其ノ他ノ方法ニ依ル市町村債ニ變更スルコト
 十一 市町村債ノ償還年限ヲ短縮シ又ハ其ノ償還年限ヲ延長セザル低利借替ヲ爲シ若ハ繰上償還ヲ爲スコト但シ外資ニ依リタル市町村債ノ借替又ハ外資ヲ以テスル借替ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
 十二 市町村債ノ償還年限ヲ延長セザル不均等償還ヲ元利均等償還ニ變更シ又ハ年度内ノ償還期若ハ償還期數ヲ變更スルコト

第八章 市制第六條ノ市ノ區
 第六十一條 府縣知事ハ市會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ市條例ヲ設定シ新ニ區會ヲ設ケルコトヲ得
 第六十二條 區内ニ住所有スル市公民ハ總テ區會議員ノ選舉權ヲ有ス但シ公民權停止中ノ者又ハ市制第十一條ノ規定ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラズ
 第六十三條 區會議員ノ選舉權ヲ有スル市公民ハ區會議員ノ被選舉權ヲ有ス
 第六十四條 區會議員ハ市會ノ職員ニシテ在職中ノ者ハ其ノ所屬區ノ區會議員ト相兼ルコトヲ得
 第六十五條 區會議員ハ市ノ名譽職トス
 第六十六條 區會議員ノ任期ハ四年トシ總選舉ノ日ヨリ之ヲ起算ス
 第六十七條 議員ノ定數ニ異動ヲ生ジタル爲解任ヲ要スル者アルトキハ區長抽籤シテ之ヲ定ム但シ議員アルトキハ其ノ議員ヲ以テ之ニ充ツベシ
 第六十八條 前項但書ノ場合ニ於テ議員ノ數解任ヲ要スル者ノ數ニ滿テザルトキハ其ノ不足ノ員數ニ付區長抽籤シテ解任スベキ者ヲ

定メ議員ノ數解任ヲ要スル者ノ數ヲ超ユルトキハ解任ヲ要スル者ニ充ツベキ議員ハ最モ先ニ議員ト爲リタル者ヨリ順次ニ充テ議員ト爲リタル時同シキトキハ區長抽籤シテ之ヲ定ム
 第六十九條 議員ノ定數ニ異動ヲ生ジタル爲新ニ選舉セラレタル議員ハ總選舉ニ依リ選舉セラレタル議員ノ任期滿了ノ日迄在任ス
 第七十條 區會ノ組織及區會議員ノ選舉ニ關シテハ前數條ニ定ムルモノノ外市制第十三條、第十七條及第二十條乃至第三十九條並ニ本令第七條乃至第二十條ノ規定ヲ準用ス但シ市制第十三條第四項ノ規定ヲ準用ス依リ市條例ノ設定ニ付テハ市八區會ノ意見ヲ徵シテ、市制第三十二條及第三十四條ノ規定ヲ準用ス依リ報告ハ市長ヲ經テ之ヲ爲スベシ
 第七十一條 第三章及第四章ノ規定ハ市制第三十九條ノ二ノ區ノ區會議員選舉ニ之ヲ準用ス
 第七十二條 區會ノ職務權限ニ關シテハ市會ノ職務權限ニ關スル規定ヲ準用ス
 第七十三條 區長ト區會トノ關係ニ付テハ市長ト市會トノ關係ニ關スル規定及市制第九十二條ノ規定ヲ準用ス
 第七十四條 區會ヲ設ケザル區ニ於テハ區會ノ職務ハ市會之ヲ行フ
 第七十五條 市八區會ノ意見ヲ徵シ區ノ營造物ニ關シ市條例又ハ市規則ヲ設ケルコトヲ得
 第七十六條 市制第二百二十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第七十七條 區八前二項ノ市條例ノ定ムル所ニ依リ區ノ營造物ノ使用ニ付使用料ヲ徵收シ又ハ過料ヲ科スルコトヲ得
 第七十八條 區八其ノ財產及營造物ニ關シ必要ナル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ
 第七十九條 前項ノ支出ハ區ノ財產ヨリ生ズル收入、使用料其ノ他法令ニ依リ區ニ屬スル收入ヲ以テ之ニ充テ仍不足アルトキハ市八其ノ區ニ於テ特ニ賦課徵收スル市稅ヲ以テ之ニ充ツベシ

前項ノ市稅ニ付市會ノ議決スベキ事項ハ區會之ヲ議決ス但シ市ノ定メタル制限ヲ超ユルコトヲ得ズ
 第七十條 市制第九十八條第四項ノ規定ニ依リ市ノ負擔スル費用ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス
 第七十一條 前數條ニ定ムルモノノ外區ニ關シテハ市制第一百四條、第一百五條、第三十條第二項乃至第六項、第三百三十一條第一項、第二項、第四項乃至第八項及第三百三十三條乃至第四百三十三條並ニ本令第一條乃至第四條ノ規定ヲ準用ス但シ第百三十三條第三項中市參事會トアル區會議員、第百四十一條第二項中名譽參事會員トアル前項ノ規定ニ依リ市制第三百三十一條第一項ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テハ市八區會ノ意見ヲ徵シ市條例ヲ定メ區ヲシテ手数料ヲ徵收セザルコトヲ得
 第七十二條 區ノ監督ニ付テハ市ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス

第九章 雜則
 第七十三條 市町村組合又ハ町村組合ニ關シテハ第一條乃至第四條ノ規定ニ拘ラズ組合規約ニ於テ別段ノ定メヲ爲スコトヲ得
 第七十四條 本令中府縣、府縣知事又ハ府縣參事會ニ關スル規定ハ北海道ニ付テハ各北海道、北海道廳長官又ハ北海道參事會ニ、本令第一章中町村長又ハ町村條例ニ關スル規定ハ北海道ニ付テハ各町村長又ハ町村條例ニ進スベキモノニ之ヲ適用ス

附則
 本令中公民權及議員選舉ニ關スル規定ハ次ノ總選舉ヨリ、其ノ他ノ規定ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
 左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

明治四十四年勅令第二百四十號
 明治四十四年勅令第二百四十一號
 明治四十四年勅令第二百四十四號
 明治四十四年勅令第二百四十五號
 明治四十四年勅令第二百四十八號
 大正九年勅令第六十八號
 大正十年勅令第四百十二號
 從前ノ規定ニ依リ手續其ノ他ノ行爲ハ本令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外之ヲ本令ニ依リ爲シタルモノト看做ス
 大正十年勅令第四百十二號第二條ノ規定ニ依リ爲シタル許可ノ申請ニシテ大正十五年六月三十日迄ニ許可ヲ得ザルモノハ之ヲ本令第五十九條ノ規定ニ依リ府縣知事ニ爲シタル許可ノ申請ト看做ス
 大正十五年市制中改正法律又ハ同年町村制中改正法律中選舉ニ關スル規定ノ施行セラレタル市町村及未ダ施行セラレザル市町村ノ區域ノ境界ニ涉リ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更アリタル場合ニ於テ右選舉ニ關スル規定ノ施行セラレザル市町村ノ區域ニ屬シタル地域ニ關シ必要ナル選舉人名簿ハ其ノ地域ノ新ニ屬シタル市町村ノ市長之ヲ調製スベシ、此ノ場合ニ於テハ大正十五年市制中改正法律附則第二項又ハ同年町村制中改正法律附則第四項ノ例ニ依リ
 明治四十四年勅令第二百四十五號第四條又ハ大正九年勅令第六十八號第四條ノ規定ニ依リ爲シタル決定又ハ裁決ニ對シ訴願又ハ訴訟ノ提起期間ハ決定又ハ裁決アリタル日ヨリ之ヲ起算ス
 從前市町村長ニ爲シタル申請ニシテ大正十五年六月三十日迄ニ市參事會又ハ町村會ノ決定ニ付セラレザルモノニ付テハ第五十七條第二項ノ期間ハ同年七月一日ヨリ之ヲ起算ス
 從前市參事會若ハ町村會ノ決定ニ付セラレザル申請又ハ府縣參事會ニ於テ受理シタル訴願ニシテ大正十五年六月三十日

市制町村制施行令

附則

市制町村制施行規

市町村會議員ノ選舉

九〇

市制町村制施行規則

(大正十五年六月二十四日 內務省令第十九號)

市制町村制施行規則左ノ通定ム

第一章 市町村會議員ノ選舉

第一條 市制町村制ニ規定セル市區町村ノ人口ハ内閣ニ於テ官報ヲ以テ公示シタル最近ノ人口ニ依ル

附則 (昭和二年勅令第三十八號附則) 本令ハ昭和二年勅令ヨリノ適用ス (別表點字略ス)

一 市區町村若ハ數市區町村ノ全部ノ區域ヲ以テ一市區町村ト置ケル場合又ハ一市區町村若ハ數市區町村ノ全部ノ區域ヲ他ノ市區町村ノ區域ニ編入シタル場合ニ於テハ關係市區町村ノ人口又ハ之ヲ集計シタルモ

四 關係市區町村ノ人口ニ加算シタルモ 前三號ノ規定ニ依ル人口ノ告示アリタル日以後ニ於テ市區町村ノ應置分合若ハ境界變更又ハ所屬未定地編入前ノ日ニ屬スル最近ノ人口ヲ内閣ニ於テ官報ヲ以テ公示アリタルキハ更ニ其ノ公示ニ係ル人口ヲ基礎トシ前三號ノ規定ニ依リ算出シタルモ

第九條 投票ノ選舉長(又ハ投票分會長)及選舉立會人(又ハ投票立會人)ノ前ニ於テ選舉人自ラ之ヲ投票ス

第十七條 市制第三十九條ノ二ノ市ノ市會議員選舉ニ付テハ府縣制施行規則第五條、第七條乃至第九條及第二十二條ノ規定ヲ適用ス

第二十五條 收入役更迭ノ場合ニ於テハ前任者ハ退職ノ日ヨリ十日以内ニ其ノ擔任スル事務ヲ後任者ニ引繼グベシ、後任者ニ引繼グコトヲ得ザル事情アルトキハ之ヲ副収入役又ハ收入役代理者ニ引繼グベシ、此ノ場合ニ於テハ副収入役又ハ收入役代理者ハ後任者ニ引繼グコトヲ得ルニ至リタルトキハ直ニ之ヲ後任者ニ引繼グベシ

市制町村制施行規則

市町村會議員ノ選舉

市町村吏員ノ事務引繼

九一

市制町村制施行規則 市町村ノ財務

第三十條 市町村ノ境界變更アリタルキ亦同シ
第二十三條乃至第二十七條ノ規定ハ前項ノ事務引繼ニ
之ヲ準用ス

第三十一條 第二十三條乃至第二十九條ノ場合ニ於テ引繼
ヲ拒ミタル者ニ對シテハ府縣知事ハ二十五圓以下ノ過料ヲ
科スルコトヲ得、其ノ故ナク引繼ヲ遲延シタルガ爲メ市町村長ニ
於テ期日ヲ指定シテ催告ヲ爲シ仍之ニ應ゼザル者ニ付亦同シ

第三十二條 第二十三條乃至前條ニ規定スルモノノ外市町村
吏員ノ事務引繼ニ關シ必要ナル事項ハ府縣知事ノヲ定
ム

第三章 市町村ノ財務

第三十三條 市町村稅其ノ他一切ノ收入ヲ歲入トシ一切ノ經
費ヲ歲出トシ歲入歲出ハ豫算ニ編入スベシ

第三十四條 各年度ニ於テ決定シタル歲入ヲ以テ他ノ年度ニ屬
スベキ歲出ニ充ツルコトヲ得

第三十五條 歲入ノ所屬年度ハ左ノ區分ニ依ル
一 納期ノ一定シタル收入ハ其ノ納期末日ノ屬スル年
度

二 定期ニ賦課スルコトヲ得ザルガ爲メ納期ヲ定メタル
收入又ハ臨時ノ收入ニシテ賦課令書、賦課令書又
ハ納額告知書ヲ發シタルモノハ令書又ハ告知書ヲ發シ
タル日ノ屬スル年度

三 臨時ノ收入ニシテ賦課令書、賦課令書又ハ納額告知
知書ヲ發シタルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度
但シ市町村債、交付金、補助金、寄附金、贈與金、
償還金其ノ他之ニ類スル收入ニシテ其ノ收入ノ豫算

市制第六條ノ市ノ區

第三十六條 歲出ノ所屬年度ハ左ノ區分ニ依ル
一 費用辨償、報酬、給料、旅費、退還料、退還給
與金、死亡給與金、遺族扶助料、其ノ他ノ給與、
備入料ノ類ハ其ノ支給スベキ事實ノ生ジタル時ノ屬ス
ル年度但シ別ニ定マリタル支給期日アルトキハ其ノ支
拂期日ノ屬スル年度

二 通借運搬費、土木建築費其ノ他物件ノ購入代價
ノ類ハ契約ヲ爲シタル時ノ屬スル年度但シ契約ニ依リ
定メタル支給期日アルトキハ其ノ支給期日ノ屬スル年
度

三 市町村債ノ元利金ニシテ支給期日ノ定アルモノハ其
ノ支給期日ノ屬スル年度

四 補助金、寄附金、負擔金ノ類ハ其ノ支拂ヲ豫算シ
タル年度

五 賦課補填ハ其ノ補填ノ決定ヲ爲シタル日ノ屬スル年
度

六 前各號ニ掲グルモノノ外ハ總テ支拂命令ヲ發
シタル日ノ屬スル年度

第三十七條 各年度ニ於テ豫算ニ剩餘アルトキハ翌年度ノ歲入
ニ編入スベシ但シ市町村條例ノ規定又ハ市町村會ノ議決ニ
依リ剩餘金ノ全部又ハ一部ヲ基本財産ニ編入スル場合ニ
於テハ繰越スベキ之ヲ支出スルコトヲ得

第三十八條 市町村稅ハ賦課令書ニ依リ夫役現品ハ賦課令
書ニ依リ負擔金、使用料、手数料、加入金、過料、過
意金及物件ノ賃貸料ノ類ハ納額告知書ニ依リ之ヲ徵收シ
其ノ他ノ收入ハ納付書ニ依リ徵收スベシ但シ市町村制施行
令第五十三條ノ規定ニ依リ徵收スル市町村稅及急迫ノ
場合ニ賦課スル夫役並ニ納額告知書又ハ納付書ニ依リ難

市制第六條ノ市ノ區

第三十九條 支出ハ債主ニ對スルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得
キモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四十條 左ノ經費ニ付テハ市町村吏員ヲシテ現金支拂ヲ爲サ
シムル爲メ其ノ資金ヲ當該吏員ニ前渡スルコトヲ得

一 市町村債ノ元利支拂
二 外國ニ於テ物品ヲ購入スル爲メ必要ナル經費
三 市町村外遠隔ノ地ニ於テ支拂ヲ爲スル經費
特別ノ必要アルトキハ前項ノ資金前渡ハ市町村吏員以外
ノ者ニ之ヲ爲スコトヲ得

第四十一條 旅費及訴訟費用ニ付テハ概算拂ヲ爲スコトヲ得

第四十二條 前二條ニ掲グルモノノ外必要アルトキハ市町村ハ府
縣知事ノ許可ヲ得テ資金前渡又ハ概算拂ヲ爲スコトヲ得

第四十三條 前金支拂ニ非ザレバ購入又ハ借入ノ契約ヲ爲シ難
キモノニ付テハ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第四十四條 歲入ノ引納過納ト爲リタル金額ノ拂戻ハ各之ヲ收
入シタル歲入ヨリ支拂フベシ

第四十五條 出納閉鎖後ノ收入支出ハ之ヲ現年度ノ歲入歲
出ト爲スベシ前條ノ拂戻金戻入金ノ出納閉鎖後ニ係ルモノ
亦同シ

第四十六條 繼續費ハ毎年度ノ支拂殘額ヲ繼續年度ノ終リ迄
運次繰越使用スルコトヲ得

第四十七條 歲入歳出豫算ハ必要アルトキハ之ヲ經常臨時ノ二
部ニ別ツベシ

第四十八條 歲入歳出豫算ニハ豫算説明ヲ附スベシ

第四十九條 特別會計ニ屬スル歲入歳出ハ別ニ其ノ豫算ヲ調
部ニ別ツベシ

市町村會議員選舉人名簿様式

Table with 5 columns: 番號, 住, 所, 生年月日, 氏名. Includes a header for '明治四十四年内務省令第十七號' and '大正三年内務省令第九號'.

製スベシ
第五十條 市町村歲入歳出豫算ハ別記市町村歲入歳出豫
算様式ニ依リ之ヲ調製スベシ

第五十一條 繼續費ノ年額及支出方法ハ別記繼續費ノ年額
及支出方法様式ニ依リ之ヲ調製スベシ

第五十二條 豫算ハ會計年度經過後ニ於テ更正又ハ追加ヲ爲
スコトヲ得

第五十三條 豫算ニ定メタル各款ノ金額ハ彼此流用スルコトヲ
得

第五十四條 決算ハ豫算ト同一ノ區分ニ依リ之ヲ調製シ豫算ニ
對スル過不足ノ説明ヲ附スベシ

第五十五條 會計年度經過後ニ至リ歲入ヲ以テ歲出ニ充ツルニ
足ラザルトキハ府縣知事ノ許可ヲ得テ翌年度ノ歲入ヲ繰上ゲ
之ニ充用スルコトヲ得

第五十六條 市ハ其ノ歲入歳出ニ屬スル公金ノ受拂ニ付郵便
振替貯金ノ法ニ依ルコトヲ得

第五十七條 市町村ハ現金ノ出納及保管ノ爲メ市町村金庫ヲ
置クコトヲ得

第五十八條 金庫事務ノ取扱ヲ爲サシムベキ銀行ハ市町村會ノ
議決ヲ經テ市町村長ノヲ定ム

第五十九條 金庫ハ收入役ノ通知アルニ非ザレバ現金ノ出納ヲ
爲スコトヲ得

第六十條 金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ現金ノ出納保管ニ付市
町村ニ對シテハ責任ヲ有ス

第六十一條 市町村ハ金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ヨリ擔保ヲ徵ス
ベシ、其ノ種類、價格及程度ニ關シテハ市町村會ノ議決ヲ
經テ市町村長ノヲ定ム

第六十二條 金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ノ保管スル現金ハ市町

市制第六條ノ市ノ區

第六十七條 第二條乃至第十六條及第十九條乃至第二十
一條ノ規定ハ市制第六條ノ市ノ區ノ區會議員選舉ニ、第
十七條、第十八條及第二十二條ノ規定ハ市制第三十九
條ノ二ノ區ノ區會議員選舉ニ之ヲ準用ス

市制第六條ノ市ノ區

附則
本令中議員選舉ニ關スル規定ハ次ノ總選舉ヨリ、財務ニ關ス
ル規定ハ大正十六年度分ヨリ、其ノ他ノ規定ハ大正十五年七
月一日ヨリ之ヲ施行ス
左ノ内務省令ノ之ヲ廢止ス
明治四十四年内務省令第十五號

市制町村制施行規則 市町村會議員選舉人名簿抄本樣式 選舉錄樣式

備考

- 一 名簿ハ大字若ハ小字毎ニ區別シテ調製スベシ但シ一 字若ハ數字毎ニ分標スルモ妨ケナシ
二 市制第九條第二項又ハ町村制第七條第二項ニ 依ル者ニ付テハ氏名欄ニ「特免」ト附記シ又市制第 七十六條、第七十九條第二項又ハ町村制第六 十三條第四項、第六十七條第三項ノ規定ニ依リ 公民タル者ニ付テハ末尾ニ其ノ職氏名ノミラ記載スベ シ
三 決定、裁決、判決等ニ依リ名簿ヲ修正シタルトキハ 其ノ旨及修正ノ年月日ヲ欄外ニ記載シ職印ヲ押捺 スベシ
四 名簿ノ表紙及卷末ニハ左ノ通記載スベシ
五 選舉區アルトキハ前各號ニ連シテ各選舉區毎ニ名簿ヲ 調製スベシ

大正何年何月何日現在調

市(町)(村)會議員選舉人名簿

何府(縣)何市(何選舉區)(何郡 何町(村))(大字若ハ小字何々)

何氏 名印

(卷末)

此ノ選舉人名簿ハ大正何年何月何日ヨリ何日間何市 役所(何町(村)役場)(何場所)ニ於テ縦覽スルモ大正 何年何月何日ヲ以テ確定セリ

市町村會議員選舉人名簿抄本樣式

Table with columns: 番號, 住, 所, 生年月日, 氏名. Includes a blank row for data entry.

備考

- 一 選舉人名簿ヲ修正シタルトキハ此ノ選舉人名簿ノ抄 本ヲ修正シ其ノ旨及修正ノ年月日ヲ欄外ニ記載 シ職印ヲ押捺スベシ
二 名簿抄本ノ表紙及卷末ニハ左ノ通記載スベシ

大正何年何月何日現在調

市(町)(村)會議員選舉人名簿抄本

何府(縣)何市(何選舉區)(何郡何町 (村)會議員選舉第一(何々)投票分會

(卷末)

此ノ選舉人名簿抄本ハ大正何年何月何日確定ノ選舉 人名簿ニ依リテ調製セリ

何府(縣)何市(何 郡何町(村)長 氏 名印

選舉錄樣式

- 一 大正何年何月何日何府(縣)何市(何郡何町(村)) 行何府(縣)何市(何町(村)役場)(何場所)ニ 選舉會場ハ何市役所(何町(村)役場)(何場所)ニ 之ヲ設ケテリ
二 左ノ選舉立會人ハ何レモ選舉會ヲ開クベキ時刻迄ニ選 舉會ニ參會シテリ

備考

- 一 選舉會ヲ開クベキ時刻ニ至リ選舉立會人中人何人參會 セサルニ依リ市(町)(村)長ハ臨時ニ選舉人名簿ニ登 録セラレタル者ノ中ヨリ左ノ者ヲ選舉立會人ニ選任シテ 之ヲ開キテリ
二 選舉會ハ大正何年何月何日午前(午後)何時ニシテ 開キテリ
三 選舉立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前(午後)何 時何々ノ事故ヲ以テ其ノ職ヲ辭シタル者其ノ定數ヲ關 キタルニ依リ市(町)(村)長ハ臨時ニ選舉人名簿ニ登録 セラレタル者ノ中ヨリ午前(午後)何時左ノ者ヲ選舉立 會人ニ選任シテリ

選舉立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前(午後)何 時何々ノ事故ヲ以テ其ノ職ヲ辭シタル者尙選舉立會人

- 八(二人)三人在リ其ノ副員ヲ補フノ必要ナキヲ認メ其ノ 補闕ヲ爲サザル旨ヲ宣言シテリ
九 選舉長ハ選舉立會人ト共ニ投票ニ先テ選舉會ニ參會 シタル選舉人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空虛ナルコ トヲ示シタル後內蓋ヲ鎖シ選舉長及選舉立會人ノ列 席スル面前ニ之ヲ置キテリ
十 選舉長ハ選舉立會人ノ面前ニ於テ選舉人ヲ選舉人名 簿ニ對照シタル後(到着番號札ト引換ニ投票用紙ヲ 交付シテリ)
十一 選舉人ハ自ラ投票ヲ認メ選舉長及選舉立會人ノ面 前ニ於テ之ヲ投票シテリ
十二 左ノ選舉人ハ選舉人名簿ニ登録セラルベキ確定裁決 書(判決書)ヲ所持シ選舉會場ニ到リタルニ依リ選舉長 ハ之ヲ以テ投票ヲ爲サシメテリ

- 十三 左ノ選舉人ハ選舉會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ(喧 擾ニ涉リ)投票ニ關シ協議ヲ爲シ(何々ヲ爲シ)選 舉會場ノ秩序ヲ紊ラルベキ選舉長ニ於テ之ヲ制 止シタルモ其ノ命ニ從ハサルヲ以テ投票用紙(到着番 號札)ヲ返付セシメ之ヲ選舉會場外ニ退出セシメタ リ
十四 選舉長ハ選舉會場外ニ退出ラ命ジタル左ノ選舉人 ニ對シ選舉會場ノ秩序ヲ紊ラシムルニ認メ投票ヲ 爲サシメテリ
十五 選舉長ニ於テ選舉會場外ニ退出ラ命ジタル左ノ選 舉人ハ最後ニ入場シテ投票ヲ爲シテリ
十六 午前(午後)何時ニ至リ選舉長ハ投票時間ヲ終リタ ル旨ヲ告グ選舉會場ノ入口ヲ鎖シテリ
十七 午前(午後)何時選舉會場ニ在ル選舉人ノ投票結 了シタルヲ以テ選舉長ハ選舉立會人ト共ニ投票函ノ 內蓋ノ投票口及外蓋ヲ鎖シテリ
十八 投票函ヲ閉鎖シタルニ依リ其ノ內蓋ノ鎖ハ左ノ選舉 立會人ノ之ヲ保管シ外蓋ノ鎖ハ選舉長ノ之ヲ保管ス

- 十九 投票拒否ノ決定ヲ受ケタル者ノ總數 何 人
各投票分會長ヨリ投票函等左ノ如ク到着セリ 第一(何々)投票分會ノ投票函ハ投票分會長職 氏名及投票立會人氏名攜帶シ何月何日午前(午後)何時着クテ檢査スルニ異狀ナシ 第二(何々)投票分會ノ投票函何々 大正何年何月何日選舉長(總長)投票函ノ送致 ヲ受ケタルヲ以テ其ノ當日(翌日)午前(午後)何時 ヲ開票ヲ開始シテリ
二十 選舉長ハ選舉立會人立會人ト共ニ逐次投票函ヲ開 キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算シタルニ左 ノ如ク
投票總數 何 票
投票人總數 何 人
假ニ爲シタル投票數 何 票
假ニ爲シタル投票人數 何 人
投票總數ト投票人總數ト符合ス投票總數ト投 票人總數ト符合セズ即チ投票總數ニ比シ何票多 シ少シ(其ノ理由ノ明カナルモノハ之ヲ記載スベシ)
投票分會ニ於テ拒否ノ決定ヲ受ケタル者ニシテ假 ニ投票ヲ爲シタル者左ノ如ク
投票總數 何 票
投票人總數 何 人
選舉長ハ右ノ投票ヲ調査シ選舉立會人左ノ通 之ヲ決定シテ(選舉長ハ右ノ投票ヲ調査シ選舉 立會人ノ決定ニ付シタルニ可否同數ナルニ依リ選 舉長左ノ通之ヲ決定シテリ)
受理セシモノ

市制町村制施行規則 選舉錄樣式

二十三 選舉長ハ(假ニ爲シタル投票ニシテ受理スベキモノト決定シタル投票ノ封筒ヲ開披シタル上)總數ノ投票ヲ混同シ選舉立會人ト共ニ之ヲ點檢シタリ

二十四 選舉事務ニ從事スル職員名及職氏名ノ二人ハ各別ニ同一被選舉人ノ得票數ヲ計算シタリ

二十五 有效又ハ無効ト決定シタル投票左ノ如シ

(一)選舉立會人ニ於テ決定シタル投票數

内

一 有效ト決定シタルモノ 何 票

一 無効ト決定シタルモノ 何 票

内

一 成規ノ用紙ヲ用ヒザルモノ 何 票

二 現ニ市(町(村))會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ 何 票

三、、、、 何 票

(二)選舉立會人ノ決定ニ付シタルニ可同數ナルニ依リ選舉長ニ於テ決定シタル投票數

内

一 有效ト決定シタルモノ 何 票

一 無効ト決定シタルモノ 何 票

内

一 成規ノ用紙ヲ用ヒザルモノ 何 票

二十六 午前(午後)何時投票ノ點檢ヲ終リタルヲ以テ選舉長ハ各被選舉人ノ得票數ヲ朗讀シタリ

二十七 各被選舉人ノ得票數左ノ如シ

何 票 氏 名

何 票 氏 名

二十八 選舉長ハ點檢済ニ係ル投票ノ有效無効及受理スベカラズト決定シタル投票ヲ大別シ尙有效ノ決定アリタル投票ニ在リテハ得票者毎ニ之ヲ區別シ無効ノ決定アリタル投票ニ在リテハ之ヲ類別シ各之ヲ一括シ更ニ有效無効及受理スベカラズト決定シタル投票別ニ之ヲ封筒ニ入レ選舉立會人ト共ニ封印シタリ

二十九 選舉長ハ選舉立會人立會ノ上逐次開票分會

二 現ニ市(町(村))會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ 何 票

三、、、、 何 票

三十一 議員定數何人ヲ以テ有效投票ノ總數何票ヲ除シテ得タル數ハ何票ニシテ此ノ六分ノ一ノ數ハ何票ナリ

被選舉人中其ノ得票數此ノ數ニ達スル者左ノ如シ

何 票 氏 名

何 票 氏 名

右ノ内有效投票ノ最多數ヲ得タル左ノ何人ヲ以テ當選者トス

何 票 氏 名

何 票 氏 名

但シ氏名及氏名ハ得票ノ數相同ジキニ依リ其ノ年齡ヲ調査スルニ氏名ハ何年何月何日生、氏名ハ何年何月何日生ニシテ氏名年長者ナルヲ以テ氏名ヲ以テ當選者ト定メタリ(同年月日ナルヲ以テ選舉長ニ於テ抽籤シタルニ氏名當籤セリ依テ氏名ヲ以テ當選者ト定メタリ)

三十二 午前(午後)何時選舉事務ヲ了シタリ

三十三 左ノ者ハ選舉會ノ事務ニ從事シタリ

職 氏 名

職 氏 名

三十四 選舉會ニ臨監シタル官吏左ノ如シ

選舉長ハ此ノ選舉錄ヲ作リ之ヲ朗讀シタル上選舉立會人ト共ニ茲ニ署名ス

大正何年何月何日

選舉長 何 氏 名

何府(縣)何市(町)何郡何町(村)長 何 氏 名

郡何町(村)長 何 氏 名

選舉立會人 何 氏 名

備考

一 市制第三十九條ノ二ノ市ニ於ケル選舉錄ハ府縣制施行規則第二十九條投票錄樣式及選舉錄樣式ノ一例ニ依リ之ヲ記載スベシ

二 市制第三十九條ノ二ノ市ニ於テ届出アリタル議員候補者ノ數選舉スベキ議員ノ數ヲ超セザル爲投票ヲ行ハサルトキハ府縣制施行規則第二十九條選舉錄樣式ノ一例ニ依リ之ヲ記載スベシ

三 樣式ニ掲グル事項ノ外選舉長ニ於テ選舉ニ關シ緊要ト認ムル事項アルトキハ之ヲ記載スベシ

投票錄樣式

大正何年何月何日

行 何府(縣)何市(町)何郡何町(村)

執 會議員選舉第一(何々)投票分會投票錄

投票分會ハ何市役所(何町(村)役場)(何場所)ニ之ヲ設ケタリ

左ノ投票立會人ハ何レモ投票分會ヲ開クベキ時刻迄ニ投票分會ニ參會シタリ

住 所 氏 名

市制町村制施行規則 投票錄樣式

投票分會ヲ開クベキ時刻ニ至リ投票立會人中何人參會セザルニ依リ市(町(村))長ハ臨時ニ投票分會ノ區劃内ニ於ケル選舉人名簿ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ左ノ者ヲ投票立會人ニ選任シタリ

住 所 氏 名

三 投票分會ハ大正何年何月何日午前(午後)何時ニ之ヲ開キタリ

投票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前(午後)何時何々ノ事故ヲ以テ其ノ職ヲ辭シタル爲其ノ定數ヲ闕キタルニ依リ市(町(村))長ハ臨時ニ投票分會ノ區劃内ニ於ケル選舉人名簿ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ午前(午後)何時左ノ者ヲ投票立會人ニ選任シタリ

住 所 氏 名

四 投票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前(午後)何時何々ノ事故ヲ以テ其ノ職ヲ辭シタル爲其ノ定數ヲ闕キタルニ依リ市(町(村))長ハ臨時ニ投票分會ノ區劃内ニ於ケル選舉人名簿ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ午前(午後)何時左ノ者ヲ投票立會人ニ選任シタリ

住 所 氏 名

五 投票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前(午後)何時何々ノ事故ヲ以テ其ノ職ヲ辭シタル爲其ノ定數ヲ闕キタルニ依リ市(町(村))長ハ臨時ニ投票分會ノ區劃内ニ於ケル選舉人名簿ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ午前(午後)何時左ノ者ヲ投票立會人ニ選任シタリ

住 所 氏 名

六 投票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前(午後)何時何々ノ事故ヲ以テ其ノ職ヲ辭シタル爲其ノ定數ヲ闕キタルニ依リ市(町(村))長ハ臨時ニ投票分會ノ區劃内ニ於ケル選舉人名簿ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ午前(午後)何時左ノ者ヲ投票立會人ニ選任シタリ

住 所 氏 名

七 投票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前(午後)何時何々ノ事故ヲ以テ其ノ職ヲ辭シタル爲其ノ定數ヲ闕キタルニ依リ市(町(村))長ハ臨時ニ投票分會ノ區劃内ニ於ケル選舉人名簿ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ午前(午後)何時左ノ者ヲ投票立會人ニ選任シタリ

住 所 氏 名

八 投票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前(午後)何時何々ノ事故ヲ以テ其ノ職ヲ辭シタル爲其ノ定數ヲ闕キタルニ依リ市(町(村))長ハ臨時ニ投票分會ノ區劃内ニ於ケル選舉人名簿ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ午前(午後)何時左ノ者ヲ投票立會人ニ選任シタリ

住 所 氏 名

九 左ノ選舉人ハ點字ニ依リ投票用紙ヲ爲サントスル旨ヲ申立テタルヲ以テ投票分會長ハ投票用紙ニ點字投票ナル旨ノ印ヲ捺捺シテ交付シ投票ヲ爲サシメタリ

住 所 氏 名

十 左ノ選舉人ニ對シテハ何々ノ事由ニ因リ投票立會人ノ決定ヲ以テ(投票立會人可否同數ナルニ依リ投票分會長ノ決定ヲ以テ)投票ヲ拒否シタルモ同選舉人ニ於テ不服ヲ申立テタルヲ以テ投票分會長又ハ投票立會人氏名ニ於テ異議アリシヲ以テ投票用紙ト共ニ封筒ヲ交付シ假ニ投票ヲ爲サシメタリ

住 所 氏 名

十一 左ノ選舉人ニ對シテハ何々ノ事由ニ因リ投票立會人ノ決定ヲ以テ(投票立會人可否同數ナルニ依リ投票分會長ノ決定ヲ以テ)投票ヲ拒否シタルモ同選舉人ニ於テ不服ヲ申立タルヲ以テ(投票分會長又ハ投票立會人氏名ニ於テ異議アリシヲ以テ)投票用紙及封筒ニ點字投票ナル旨ノ印ヲ捺捺シテ交付シ假ニ點字投票ヲ爲サシメタリ

住 所 氏 名

十二 左ノ選舉人ハ誤リテ投票用紙封筒ヲ汚損シタル旨ヲ以テ更ニ之ヲ請求シタルニ依リ其ノ相違ナキヲ認メ

住 所 氏 名

市制町村制施行規則

市町村歳入歳出豫算様式

大正何年何月何日

開票分會長 氏名
 職氏名
 開票立會人 氏名

備考
 一 市制第三十九條ノニノ市ニ於ケル開票録ハ府縣
 制施行規則第二十九條開票様式ノ例ニ依リ
 之ヲ記載スベシ
 二 様式ニ掲ゲル事項ノ外開票分會長ニ於テ開票ニ
 關シ緊要ト認ムル事項アルトキハ之ヲ記載スベシ

大正何年度何府(縣)何市(何郡何町(村))歳入歳出豫算

市町村歳入歳出豫算様式

大正何年度何府(縣)何市(何郡何町(村))

歳入歳出豫算
 一金 歳入
 又ハ 歳入豫算高
 一金 經常部豫算高
 一金 臨時部豫算高
 合計金 歳出
 又ハ 歳出豫算高

又ハ
 一金
 一金
 合計金 歳入歳出差引
 殘金(ナシ)
 歳計剩餘金ヲ翌年度ニ繰越サズシ基本財産ニ編入セン
 トスル場合ニハ左ノ通記載スベシ
 歳計剩餘金ハ全部基本財産ニ編入
 又ハ
 歳計剩餘金ノ内何步基本財産ニ編入

歳入		豫算		豫算		説明	
科目	項目	豫算額	種目	豫本 算年 額度	豫前 算年 額度	増減	附記
一 財産ヨリ生ズル収入	一 基本財産収入	圓	一何	圓	圓	圓	
			二何				

歳入		歳出		歳入		歳出	
科目	項目	額	種目	額	種目	額	種目
二 使用料及手数料	一 使用料		一何		一何		一何
	二 手数料		二何		二何		二何
三 交付金	一 國稅徴収交付金		一何		一何		一何
			二何		二何		二何

市制町村制施行規則

市町村歳入歳出豫算様式

市制町村制施行規則

市町村歲入歲出豫算様式

七國庫補助金	一	納付金	一何	々																
六報償金	一	報償金	一何	々																
五納付金	一	義務教育費下渡金	一何	々																
四國庫下渡金	一	水利組合費徵收交付金	一何	々																
三府(縣)種徴収交付金	一	府(縣)種徴収交付金	一何	々																
二水道費補助	一	水道費補助	一何	々																
一傳染病豫防費補助	一	傳染病豫防費補助	一何	々																
三下水道費補助	一	下水道費補助	一何	々																
二道路費補助	一	道路費補助	一何	々																
三何	一	三何	一何	々																
八府(縣)補助金	一	府(縣)補助金	一何	々																
九寄附金	一	寄附金	一何	々																
一何	一	一何	一何	々																

市制町村制施行規則

市町村歲入歲出豫算様式

七國庫補助金	一	納付金	一何	々																
六報償金	一	報償金	一何	々																
五納付金	一	義務教育費下渡金	一何	々																
四國庫下渡金	一	水利組合費徵收交付金	一何	々																
三府(縣)種徴収交付金	一	府(縣)種徴収交付金	一何	々																
二水道費補助	一	水道費補助	一何	々																
一傳染病豫防費補助	一	傳染病豫防費補助	一何	々																
三下水道費補助	一	下水道費補助	一何	々																
二道路費補助	一	道路費補助	一何	々																
三何	一	三何	一何	々																
八府(縣)補助金	一	府(縣)補助金	一何	々																
九寄附金	一	寄附金	一何	々																
一何	一	一何	一何	々																

市制町村制施行規則

市町村歳入歳出豫算様式

十 繰 入 金		二 附 道 路 修 繕 費 指 定 寄 附 金	一 何 々
一 小 學 校 (何 學 校) 積 立 金 繰 入		三 何 々	一 何 々
二 基 本 財 産 繰 入			
三 水 道 經 済 ヲ リ 繰 入			
四 何 々			
十一 財 産 賣 拂 代 金		一 土 地 賣 拂 代 金	一 何 々

市制町村制施行規則

市町村歳入歳出豫算様式

十二 繰 越 金		二 物 件 賣 拂 代 金	一 何 々
一 前 年 度 繰 越 金		三 何 々	一 何 々
十三 雑 收 入		一 小 學 校 (何 學 校) 雜 入	一 何 々
二 繰 替 金 戻 入			
三 何 々			

市制町村制施行規則

市町村歲入歲出豫算樣式

十四 市(町)(村)稅									
一	地租附加稅								二何
二	特別地稅附加稅 (特別地稅)								一何
三	營業收益稅附加稅								一何
四	所得稅附加稅								一何
五	鑛業稅附加稅								一何
六	砂鑛區稅附加稅								一何
七	取引所營業稅附加稅								一何

市制町村制施行規則

市町村歲入歲出豫算樣式

八 府(縣)稅家屋稅附加稅									
一	府(縣)稅營業稅附加稅								一何
九	府(縣)稅雜種稅附加稅								一何
十	特別稅戶數割								一何
十一	特別稅段別割								一何
十二	特別稅戶別割								一何
十三	特別稅何								一何
十四	特別稅何								一何
十五	夫役及現品								一何
一	夫役								一何

市制町村制施行規則 市町村歳入歳出豫算様式

一 種 社 費	一 種 假 幣 帛 料	項 目	豫 算 額	種 目	豫 本 算 年 額 度	豫 前 算 年 額 度	增 減	附 記	一 何 々	歳 入	歳 出	合 計	十 六 市 (町) (村) 債	一 市 (町) (村) 債	二 現 品	一 次
										一 何 々	一 何 々	二 何 々	一 何 々	一 何 々	一 何 々	

市制町村制施行規則

市町村歳入歳出豫算様式

二 會 議 費	一 費 用 辦 價	二 給 料	三 雜 給	四 需 用 費	三 役 所 (役 場) 費	一 報 酬	二 何 々	一 何 々	二 何 々	一 何 々	二 何 々	一 何 々	二 何 々	一 何 々	二 何 々	一 何 々	二 何 々
							二 何 々	一 何 々	二 何 々	一 何 々	二 何 々	一 何 々	二 何 々	一 何 々	二 何 々	一 何 々	二 何 々

市制町村制施行規則 市町村歳入歳出豫算様式

二給料		三雑給		四需用費		五修繕費		四土木費		一道路橋梁費	
一何	二何	一何	二何	一何	二何	一何	二何	一何	二何	一何	二何
元	角	元	角	元	角	元	角	元	角	元	角

市制町村制施行規則 市町村歳入歳出豫算様式

二治水堤防費		三用悪水路費		四何		五小學校(何學校)費		一給料		二雜給	
一何	二何	一何	二何	一何	二何	一何	二何	一何	二何	一何	二何
元	角	元	角	元	角	元	角	元	角	元	角

市制町村制施行規則 市町村歳入歳出豫算様式

三需用費		四修繕費		五何		六學事諸費		七傳染病豫防費		八傳染病院(隔離病舎)費	
一何	二何	一何	二何	一何	二何	一何	二何	一何	二何	一何	二何

市制町村制施行規則 市町村歳入歳出豫算様式

二雜給		三需用費		一給料		一何		二何		一何		二何	
一何	二何	一何	二何	一何	二何	一何	二何	一何	二何	一何	二何	一何	二何

市制町村制施行規則 市町村歳入歳出豫算様式

十 病院(何病院)費				九 汚物掃除費				四 修繕費			
一	二	三	四	一	二	三	四	一	二	三	四
給料		設備費		雑給		需用費		雑給		修繕費	
一何		二何	一何	二何	一何			二何	一何		
元		元	元	元	元			元	元		

市制町村制施行規則 市町村歳入歳出豫算様式

十一 水道費				四 修繕費				三 需用費				二 雑給			
一	二	三	四	一	二	三	四	一	二	三	四	一	二	三	四
給料				修繕費				需用費				雑給			
一何		二何	一何	二何	一何			二何	一何			二何	一何		
元		元	元	元	元			元	元			元	元		

市制町村制施行規則 市町村歲入歲出豫算樣式

款	科	項目	豫算額	種目	豫本算年額度	豫前算年額度	增減	附記
一	役所(役場)營繕費	一 建築費		一何				
		二 修繕費		二何				
二	土木費	一 道路橋梁費		一何				
		二 治水堤防費		二何				

市制町村制施行規則 市町村歲入歲出豫算樣式

款	科	項目	豫算額	種目	豫本算年額度	豫前算年額度	增減	附記
三	小學校(何學校)營繕費	一 建築費		一何				
		二 修繕費		二何				
		四 何		四何				
		三 用惡水路費		三何				
四	傳染病豫防費			一何				

市制町村制施行規則

市町村歳入歳出豫算様式

九 商品陳列所營繕費	二 修繕費	一 建築費	二 修繕費	一 獎勵費	十 勸業諸費	二 何	一 何	九 商品陳列所營繕費	
								二 何	一 何

市制町村制施行規則

市町村歳入歳出豫算様式

十二 積立金類	二 修繕費	一 建築費	二 何	一 何	十一 警備費	二 何	一 何	十二 積立金類	
								二 何	一 何
一 小學校(何學校)積立金									
二 幼稚園(何幼稚園)積立金									

市制町村制施行規則

市町村歳入歳出豫算様式

十五 寄附金	一 土木費寄附	一 訴訟費	三 何	二 利子	一 元金償還	三 何	一 何	一 何	一 何	二 何	一 何	二 何	十六 補助費		一 教育費補助		二 何學校費寄附		三 何		三 勤業費補助	
													一 何	一 何	一 何	一 何	二 何	一 何	一 何	一 何	二 何	一 何

市制町村制施行規則

市町村歳入歳出豫算様式

十五 寄附金	一 土木費寄附	一 訴訟費	三 何	二 利子	一 元金償還	三 何	一 何	一 何	一 何	二 何	一 何	二 何	十六 補助費		一 教育費補助		二 何學校費寄附		三 何		三 勤業費補助	
													一 何	一 何	一 何	一 何	二 何	一 何	一 何	一 何	二 何	一 何

市制町村制施行規則 市町村歳入歳出豫算様式

- 八 市町村税中地租其他ノ各税附加税ニ付テハ説明附記欄ニ其ノ本税額及課率ヲ掲載シ仍特別税戸數割又ハ戸數割ヲ賦課セル市町村ニ於テ戸數割ニ代ヘ賦課スル家屋税附加税ニ付テハ現在戸數及平均一戸當ノ金額ヲ掲載スベシ
- 九 歳出
- イ 豫算説明ノ欄ニハ計算ノ基ヲ所ヲ明ナラシムル旨ノ種目ノ分別ニ付テハ特ニ注意スベシ例ヘバ役所(役場)費(款)報酬(項)ノ説明ニ付テハ種目ハ「町(村)長報酬」、「市參與報酬」、「助役報酬」、「區長報酬」、「區長代理者報酬」、「委員(何委員)報酬」ヲ類トシ其ノ各附記欄ニハ例ヘバ「町(村)長報酬」ニ付テハ一年何月何日ヲ掲載スベシ
- ロ 給料(項)ニ對スル説明種目ノ欄ニハ「市(町)長給料」、「市參與給料」、「助役給料」、「收入役給料」等ノ類トシ其ノ各附記欄ニハ例ヘバ「助役給料」ニ付テハ年俸又ハ月俸何圓幾人ノ類ヲ掲載スベシ
- ハ 雜給(項)ニ對スル説明種目ノ欄ニハ「費用辨償」、「旅費」、「手當」、「給仕及使丁給」、「傭人料」、「賞與」、「退職料」、「退職給與金」、「死亡給與金」、「遺族扶助料」ヲ類トシ其ノ各附記欄ニハ例ヘバ「費用辨償」ニ付テハ町(村)長何圓助役何圓ト掲載スベシ
- ニ 需用費(項)ニ對スル説明種目ノ欄ニハ「備品費」、「消耗品費」、「印刷費」、「通信運搬費」、「賄費」、「被服費」、「借家料」、「電燈費」、「電話費」、「雜費」ヲ類トシ其ノ各附記欄ニハ例ヘバ「備品費」ニ付テハ何器具新調費何圓、何機械修繕費何圓、書籍購買代金何圓、又「消耗品費」ニ付テハ筆紙墨代金何圓、薪炭油茶代金何圓ノ類ヲ掲載スベシ
- 十 市ニ於テ市會費ト市參事會費トヲ區分セントスト夫レ會費ノ款ヲ市會費市參事會費ト分記シ各款ノ下ニ「費用辨償」、「給料」、「雜給」、「需用費」等ノ項ヲ設クベシ
- 十一 小町村ニ於テハ各款ノ下給料ト雜給、需用費ト修繕費トヲ合セテ各一項ト爲スモ妨ケナシ
- 十二 小學校費ヲ學校毎ニ區分シタル場合ニ於テ各校共通ノ費用アルトキハ別ニ一課ヲ設ケテ之ヲ掲載スベシ
- 十三 小學校(何學校)費、幼稚園(何幼稚園)費及圖書館(何圖書館)費ノ款ハ之ヲ合セテ教育費トシ其ノ項ハ之ヲ小學校(何學校)費、幼稚園(何幼稚園)費及圖書館(何圖書館)費トシ給料、雜給、需用費等ハ之ヲ説明種目ト爲スモ妨ケナシ
- 十四 諸税及負擔(款)ハ諸税(項)ト負擔(項)トニ分テ諸税ノ説明種目ハ「地租」、「地租附加税」、「水利組合費」ヲ類トシ其ノ附記欄ニハ市(町)村(村)有土地等ニ對スル分ヲ掲載シ又「負擔」ノ説明種目ハ「何町(村)外何ヶ村組合費負擔」ヲ類トス
- 十五 雜支出ノ項ハ「滯納處分費」、「繰替金」、「過年度支出」ヲ類シ其他ノ各款ニ屬セザル諸支出ヲ掲載スベシ
- 十六 特ニ必要アルトキハ本様式ニ掲グル歳入歳出科目ノ外適宜ニ款項目ヲ設クルモ妨ケナシ
- 十七 市町村組合、町村組合ニ於テハ分賦法ニ依ルモノハ歳入科目「市町村税」ノ款ヲ「分賦金」下シ左ノ例ニ依ルベシ

款	科	項	目	豫算		増減	附記
				額	種目		
				本年	前年		
				額	額		

分賦金		圓	
一	何市分賦金		
二	何町分賦金		
三	何村分賦金		
一	地租附加税		
二	何々		
一	地租附加税		
二	何々		
一	地租附加税		
二	何々		

繼續費ノ年及支出方法様式

自大正何年度 何府(縣)何市(何郡何町(村))何費繼續年及支出方法

至大正何年度 何府(縣)何市(何郡何町(村))何費繼續年及支出方法

一金 內課

右何々 (議決ヲ要スベキ事業ノ大要ヲ記載ス)

大正何年何月何日提出

何費中何費

大正何年度支出額

大正何年度支出額

市制町村制施行規則 市町村歳入歳出豫算様式

何府(縣)何市(何郡何町(村))長 氏 名

市制町村制施行規則 市町村歲入歲出豫算様式

科 款	項 目	收 入					種 目	金 額	附 記
		何年度正	何年度正	何年度正	何年度正	何年度正			
一 補 助 金	一 國 庫 補 助 金	圓					一 何	圓	
		圓							
二 寄 附 金	二 府 (縣) 補 助 金	圓					一 何	圓	
		圓							
三 市 (町) (村) 費 綠 入 金	一 市 (町) (村) 費 綠 入 金	圓					一 何	圓	
		圓							
四 雜 收 入	一 雜 收 入	圓					一 何	圓	
		圓							
計		圓					圓		

市制町村制施行規則 市町村歲入歲出豫算様式

科 款	項 目	支 出					種 目	金 額	附 記
		何年度正	何年度正	何年度正	何年度正	何年度正			
一 何 費	一 給 與	圓					一 何	圓	
		圓							
二 雜 給	二 雜 給	圓					二 何	圓	
		圓							
計		圓					圓		
五 市 (町) (村) 債	一 市 (町) (村) 債	圓					一 預 金 利 子	圓	
		圓							
合 計		圓					圓		

●市町村事務報告例概則

(明治二十五年五月九日) (内務大臣訓令第三百五十號)

- 市町村事務報告例ハ左ノ概則ニ準シ適宜制定セラルヘシ
市町村事務報告例ハ特別ニ規定スルモノノ外即報トシ其事件ノ生シタル即日報告スルモノトス但必要ト認ムルトキハ豫報ヲ爲サシムルコトアルヘシ
市ノ報告ハ府縣知事ニ町村ノ報告ハ郡長ニ提出スルヲ例トス但別段ノ規定アルモノハ其規定ニ依ル
町村ノ報告ヲ郡長ヨリ更ニ府縣知事ニ報告シ市町村及郡長ヨリ提出シタル報告ヲ府縣知事ヨリ更ニ内務大臣ニ報告スルハ別段ノ規定アル事項ニ限ル但天災事變等異常ノ事項ハ隨時必要ノ報告ヲ爲スヘシ
市町村事務報告ノ項目ハ各府縣ニ於テ適宜規定スヘシト雖モ今左ニ概例ヲ舉ゲテ其標準ヲ示ス
一 市町村會議員選舉ノ結果及選舉錄冊本
二 市町村會議員ノ退任辭職
三 市町村會議員ノ議事ノ事項並其議事錄冊本
四 市町村會議員ノ決議諸件
五 市町村會議員ノ執行停止及再議ニ付シタル事件
六 市町村會議員選舉ノ效力ニ關スル處分
七 市町村公民權ノ特免停止及市町村費増課處分
八 市町村内ニ區ヲ設置シ區長及代理者ヲ置クコト及之ヲ廢スル事
九 常設及臨時ノ委員ヲ設置シ及廢止スル事
十 市町村吏員ノ選舉ノ結果
十一 市町村長助役及收入役ノ就任及退任
十二 市町村助役及市參事會議員分掌事項
十三 市町村會議事細則及役場内諸規定

●市町村吏員服務紀律

(明治四十四年九月二十二日) (内務省令第十六號)

- 十四 市町村吏員事務引繼ノ願末
十五 市町村吏員ノ懲戒處分
十六 市町村歳入歳出豫算決算
十七 市町村事務報告書寫及市町村財産明細表
十八 一時借入金及三年以内ノ公債募集
十九 學藝美術ニ關スル物品ノ異動
二十 市町村稅滯納處分ニ係ル人員及金額
前項類目ノ外法律命令ニ規定アルモノ並國及府縣郡ノ行政事務(戶籍兵事學事勸業等)ニシテ法律命令ヲ以テ報告ヲ徵スルモノハ各其規定ニ依ルヘシ

市町村吏員服務紀律左ノ通定ム
市町村吏員服務紀律
第一條 市町村吏員ハ忠實勤勉ヲ旨トシ法令ニ從ヒ其ノ職務ニ盡スヘシ
第二條 市町村吏員ハ職務ノ内外ヲ問ハズ廉恥ヲ破リ其ノ他品位ヲ傷フノ所爲アルヘカラス
市町村吏員ハ職務ノ内外ヲ問ハズ職權ヲ濫用セス懇切公平ナルコトヲ務ムヘシ
第三條 市町村吏員ハ總テ公務ニ關スル機密ヲ私ニ漏洩シ又ハ未發ノ事件若ハ文書ヲ私ニ漏示スルコトヲ得ス其ノ職ヲ退クノ後ニ於テモ亦同シ
裁判所ノ召喚ニ依リ證人又ハ鑑定人ト爲リ職務上ノ秘密ニ就キ訊問ヲ受クルトキハ指揮監督者ノ許可ヲ得タル件ニ限リ供述スルコトヲ得事實參考ノ爲メ訊問ヲ受ケタル者ニ付テモ亦同シ
前項ノ場合ニ於テ市町村吏員ノ掌ル國府縣其ノ他公共團體ノ事務ニ付テハ國府縣其ノ他公共團體ノ代表者ノ許可又ハ承認ヲ得ルコトヲ要ス
第三條之二 有給市參與、市町村助役、市町村收入役及市町村副收入役並ニ市制第六條ノ市ノ區長及市制第八十二條第三項ノ市ノ區長ハ市町村長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ他ノ報償アル業務ニ從事スルコトヲ得ス(大正十五年內務省令第二十五號ヲ以テ本條ヲ追加)

●市町村長ヲシテ本籍人ノ犯罪人名簿ヲ整備シ及轉籍者ニ關スル通知ヲ爲サシムル件

(大正六年四月十二日) (内務省訓令第一號)

北海道廳 府縣

市町村長(市制第六條及第八十二條第三項ノ市ニ在リテハ區長、市制町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ市町村長ニ進スヘキ者以下同シ)ヲシテ裁判所檢察局、軍法會議又ハ他ノ市町村長ノ通知ニ依リ本籍人ノ犯罪人名簿ヲ整備セムヘシ但シ裁判所檢察局、軍法會議又ハ市町村長ノ通知書ヲ編綴シテ犯罪人名簿ニ代用セムルモ妨ケナシ
本籍ヲ他ノ市町村長ノ管轄内ニ轉シタル者アルトキハ除籍地ノ市町村長ヲシテ入籍地ノ市町村長ニ轉籍者ノ刑罰(拘留、科料ヲ除ク)身代限、破産、家資分散、兵役、種痘ニ關スル事項ヲ遲滞ナラ通知セムヘシ

●市町村ニ於テ民勢調査ヲ爲スニ當リ妨害シタル者ノ處罰方

(明治四十一年八月十一日) (内務省令第十五號)

市ノ北海道區制及沖繩縣區制ニ依ル區ヲ含ム「町村ニ於テ條例ヲ定メ民勢ノ調査ヲ爲スニ當リ故意ニ申告ヲ拒ミ若ハ虛偽ノ申告ヲ爲シ又ハ其ノ調査ヲ忌避シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス虛說造言ヲ放テ偽計威力ヲ用キテ調査ヲ妨害スル者亦同シ

自己若ハ其ノ他ノ者ノ爲ニ贈與其ノ他ノ利益ヲ供給セシムルノ約束ヲ爲スコトヲ得ス
市町村吏員ハ指揮監督者ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ職務ニ關シ直接ト間接トヲ問ハズ自己若ハ其ノ他ノ者ノ爲ニ贈與其ノ他ノ利益ヲ受クルコトヲ得ス
第五條 左ニ掲クル者ト直接ニ關係ノ職務ニ在ル市町村吏員ハ其ノ者又ハ其ノ者ノ爲ニスル者ノ懲罰ヲ受クルコトヲ得ス
一 市町村ニ對シ工事ノ請負又ハ物件勞力供給ノ契約ヲ爲ス者
二 市町村ニ屬スル金錢ノ出納保管ヲ擔任スル者
三 市町村ヨリ補助金又ハ利益ノ保證ヲ受クル起業者
四 市町村土地物件ノ賣買贈與貸借又ハ交換ノ契約ヲ爲ス者
五 其ノ他市町村ヨリ現ニ利益ヲ得又ハ得ムトスル者
附則
本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
附則 (大正十五年內務省令第二十五號附則)
本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

市町村吏員服務紀律 市町村ニ於テ民勢調査ヲ爲スニ當リ妨害シタル者ノ處罰方

●國稅徵收法

(明治三十年三月二十九日法律第二十一號)

改正、明三五―法三六、明三八―法四六、明四四―法三七、大三―法一一

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル國稅徵收法ヲ載可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國稅徵收法

第一章 總則

第一條 國稅ノ徵收ハ國稅其ノ他別ニ法律ヲ以テ定ムルモノノ外總テ此ノ法律ニ依ル
第二條 國稅ノ徵收ハ總テノ他ノ公課及債權ニ先ツモノトス
第三條 納稅人ノ財產上ニ質權又ハ抵當權ヲ有スル者其ノ質權又ハ抵當權ノ設定カ國稅ノ納期限ヨリ一箇年前ニ在ルコトヲ公正證書ヲ以テ證明シタルトキハ該物件ノ價額ヲ限トシ其ノ價額ニ對シテ國稅ヲ先取セサルモノトス
第四條 一 納稅人左ノ場合ニ該當スルトキハ未タ納期ノ到ラザルモ既ニ納稅義務ヲ確定シタル國稅ハ總テ之ヲ徵收スルコトヲ得(明治三十五年法律第三十六號ヲ以テ本條ヲ改正)
一 國稅ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受ケルトキ
二 府縣稅其ノ他ノ公課ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受ケルトキ
三 強制執行ヲ受ケルトキ
四 破産ノ宣告ヲ受ケルトキ
五 競賣ノ開始アリタルトキ
六 法人ノ解散アリタルトキ
七 納稅人ノ脫稅又ハ通稅ヲ謀ルノ所アリト認ムルトキ
第四條之二 前條第二號乃至第五號ノ場合ニ於テ徵收スヘキ國稅ハ府縣稅其ノ他ノ公課ノ滯納手續料、延滯金及滯納

處分費、強制執行費用、破産手續上ノ費用又ハ競賣費用ニ先ツテ之ヲ徵收セシム
第五條 滯納手續料、延滯金及滯納處分費ハ國稅其ノ他總テノ公課及債權ニ先ツテ之ヲ徵收ス但シ第四條ノ一第二號乃至第五號ノ場合ニ於ケル府縣稅其ノ他ノ公課ノ滯納手續料、延滯金及滯納處分費、強制執行費用、破産手續上ノ費用又ハ競賣費用ニ先ツテ之ヲ徵收セシム(明治三十五年法律第三十六號ヲ以テ本條ヲ追加、同四十四年法律第三十七號ヲ以テ改正)
第六條 一 相續開始ノ場合ニ於テハ國稅、督促手續料、延滯金及滯納處分費ハ相續財團又ハ相續人ヨリ之ヲ徵收ス但シ戶主ノ死亡以外ノ原因ニ依リ家督相續ノ開始アリタルトキハ被相續人ヨリ之ヲ徵收スルコトヲ得
國稅喪失ニ因リ相續人又ハ限定承認ヲ爲シタル相續人ハ相續ニ因リ得タル財產ノ限度トシテ國稅、督促手續料、延滯金及滯納處分費ヲ納付スルノ義務ヲ有ス(同上本條ヲ追加、改正)
第七條 共有物、共同事業又ハ共同事業ニ因リ生シタル物件ニ係ル國稅、督促手續料、延滯金及滯納處分費ハ納稅者連帶シテ其ノ義務ヲ負擔ス(同上本條ヲ追加、改正)
第八條 一 同年ノ地租、營業稅、所得稅、釐金及同酒造年度ノ酒造稅ニシテ既納ノ税金過納ノルトキハ嗣後ノ納期ニ於テ徵收スヘキ同一稅目ノ税金ニ充ツルコトヲ得(明治三十五年法律第三十六號ヲ以テ本條ヲ追加)
第九條 一 納稅義務者納稅地ニ住所又ハ居所ヲ有セザルトキハ納稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲メ納稅管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ其ノ納稅管理人ヲ變更シタルトキ亦同シ但シ他ノ法令ニ特別ノ規定アルモノハ各其ノ法令ニ依ル(同上本條ヲ追加)
第十條 納稅ノ告知、督促及滯納處分ニ關スル書類ハ名

第二章 徵收

第十一條 市町村ハ其ノ市町村內ノ地租及勅令ヲ以テ命シタル國稅ヲ徵收シ其ノ税金ヲ國庫ニ送付スルノ責任アルモノトス
前項徵收ノ費用トシテ其ノ徵收金額ノ百分之三ニ相當スル金額及納稅告知書一通ニ付金一錢ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ其ノ市町村ニ交付ス(明治四十四年法律第三十七號、大正三年法律第十二號ヲ以テ本條ヲ改正)
第十二條 國稅ヲ徵收セムルトキハ收稅官吏又ハ市町村ハ納稅人ニ對シテ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ指定シテ告知スヘシ
第十三條 納稅人非常ノ災害ニ罹リ政府ニ於テ其ノ被害調査ノ爲メ時日ヲ要スルトキハ其ノ間税金ノ徵收ヲ爲ササルコトヲ得
第十四條 市町村ハ避テハカサル災害ニ因リ既收ノ税金ノ失ヒタルトキハ其ノ事實ヲ證明シ大藏大臣ニ税金送付ノ責任ノ免除ヲ請フコトヲ得
第十五條 前項ノ申出アリタルトキハ大藏大臣ハ其ノ事實ヲ審査シ其ノ免除ヲ爲スコトヲ得
第十六條 國稅ノ納期限ヲ過キ其ノ税金ヲ完納セザル者アルトキハ

收稅官吏ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ但シ第四條ノ一ニ依リ國稅ノ徵收ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラス
前項ニ依リ督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ督促手續料、延滯金及税金ヲ完納セザルトキ(同上本條ヲ追加、明治四十四年法律第三十七號ヲ以テ本條ヲ改正)
第三條 滯納處分
第十條 左ノ場合ニ於テハ收稅官吏ハ納稅者ノ財產ヲ差押ラフヘシ(明治三十五年法律第三十六號ヲ以テ本條ヲ改正)
一 納稅者督促ヲ受ケ其ノ指定ノ期限マテニ督促手續料、延滯金及税金ヲ完納セザルトキ(同上本條ヲ追加、明治四十四年法律第三十七號ヲ以テ改正)
二 第四條ノ一第一號及第七號ノ場合ニ於テ納稅者納期ノ到ラザル國稅納付ノ告知ヲ受ケ税金ヲ完納セザルトキ
第十一條 收稅官吏滯納處分ノ爲メ財產ノ差押ヲ爲ストキハ其ノ命令ヲ受ケタル官吏タルノ證據ヲ示スヘシ
第十二條 差押ラフヘキ財產ノ價格ニシテ督促手續料、延滯金、滯納處分費及第三條ニ依リ控除スヘキ債務額ニ充テ殘餘ヲ得ル見込ナキトキハ滯納處分ノ執行ヲ止ム(明治三十五年法律第三十六號、同四十四年法律第三十七號ヲ以テ本條ヲ改正)
第十三條 收稅官吏滯納者ノ財產ヲ差押フルニ當リ質權ノ設定セラレタル物件アルトキハ質權設定時期ノ如何ニ拘ラス其ノ質權者ハ質物ヲ收稅官吏ニ引渡スヘシ
第十四條 收稅官吏財產ノ差押ヲ爲シタル場合ニ於テ第三條其ノ財產ニ就テ所有權ヲ主張シ取戻ヲ請求セムトスルトキハ實却決行ノ五日目前マテニ所有者タルノ證據ヲ具ヘテ收稅官吏ニ申出ヘシ

第三章 滯納處分

第十五條 滯納處分ヲ執行スルニ當リ滯納者財產ノ差押ヲ免ルル爲メ故意ニ其ノ財產ヲ讓渡シ讓受人其ノ情ヲ知り讓受人タル場合ニ於テ政府ハ其ノ行爲ヲ取消スルコトヲ得
第十六條 左ニ掲グル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス
一 滯納者及其ノ同居ノ家族ノ生活上缺クヘカサル衣服、履具、家具及廚具
二 滯納者及其ノ同居家族ニ必要ナル一箇月間ノ食料及薪炭
三 質印其ノ他職業ニ必要ナル印
四 祭祀禮拜ニ必要ナル認ムル物及石碑、墓地
五 系譜其ノ他滯納者ノ家ニ必要ナル日記書付類
六 職務上必要ナル制服、祭服、法衣
七 勳章其ノ他名譽ノ章類
八 滯納者及其ノ同居家族ノ修學上必要ナル書籍器具
九 發明又ハ著作ニ係ル者ニシテ未ダ公ニセザルモノ
第十七條 左ニ掲グル物件ハ他ニ督促手續料、延滯金、滯納處分費及税金ヲ價ニ足ルヘキ物件ヲ提供スルトキハ滯納者ノ選擇ニ依リ差押ヲ爲ササルモノトス(明治三十五年法律第三十六號、同四十四年法律第三十七號ヲ以テ本條ヲ改正)
第十八條 一 農業ニ必要ナル器具、種子、肥料及牛馬並其ノ飼料
二 職業ニ必要ナル器具及材料
第十九條 差押ノ効力ハ差押物ヨリ生スル天然及法定ノ果實ニ及フモノトス
第二十條 滯納處分ハ裁判上ノ假差押又ハ假處分ノ爲ニ其ノ執行ヲ妨ケラル事ナシ(明治三十五年法律第三十六號ヲ以テ本條ヲ改正)
第二十一條 收稅官吏財產ノ差押ヲ爲ストキハ滯納者ノ家屋倉

抹消又ハ變更ニ付テモ亦同シ(明治三十五年法律第三十六號ヲ以テ本條ヲ追加同三十八年法律第四十六號ヲ以テ改正)

第二十三條ノ三 不動産又ハ船舶ヲ差押ヘタルキハ收稅官吏ハ(差押)登記所所轄登記所ニ囑託スヘシ其ノ抹消又ハ變更ノ登記ニ付テモ亦同シ

第二十四條 差押ヘタル動産、有價証券、不動産及第二十三條ノ一ニ依リ收稅官吏カ第三債務者ヨリ給付ヲ受ケタル物件ハ通貨ヲ除ク外公費ニ付テ公費ノ手續ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

公費ニ付テスルモ買受人ナキ又ハ其ノ價格見積價格ニ違セサルトキハ其ノ見積價格ヲ以テ政府ニ買上ケルコトヲ得(明治三十五年法律第三十六號ヲ以テ本條ヲ改正)

第二十五條 見積價格僅少ニシテ其ノ公費費用ヲ償フニ足ラサル物件ハ隨價契約ヲ以テ之ヲ賣却スルコトヲ得

第二十六條 滯納者及賣却ヲ爲ス地方ノ稅務ニ關スル官吏、公吏、職員ハ直接ト間接ト間ハス其ノ賣却物件ヲ買受クルコトヲ得ス

第二十七條 滯納處分費ハ財産ノ差押、保管、運搬、公費ニ關スル費用及通信費トス(明治三十五年法律第三十六號ヲ以テ本條ヲ改正)

第二十八條 物件ノ賣却代金、差押ヘタル通貨及第二十三條ノ一ニ依リ第三債務者ヨリ給付ヲ受ケタル通貨ハ督促手数料、延滞金、滯納處分費及税金ニ充テ向殘餘アルトキハ之ヲ滯納者ニ交付ス

賣却シタル物件質權、抵當權ノ目的物タルトキハ其ノ代金ヨリ先ツ督促手数料、延滞金、滯納處分費及税金ヲ控除シテ其次ノ債務額ニ充ツルヲ價權者ニ交付シ向殘餘アルトキハ之ヲ滯納者ニ交付ス但シ第三條ニ掲ケタル質權、抵當權ノ目的物タル物件ニ關シテハ其ノ代金ヨリ先ツ督促手数料、延滞金、滯納處分費ヲ控除シテ其次ノ債務額ニ充ツルヲ價權者ニ交付シ(明治三十五年法律第三十六號、同四十四年法律第三十七號ヲ以テ本條ヲ改正)

第二十九條 會社ニ對シ滯納處分ヲ執行スル場合ニ於テ會社財産ヲ以テ督促手数料、延滞金、滯納處分費及税金ニ充テ仍不足アルトキハ無限責任社員ニ就キ之ヲ處分スルコトヲ得(同上本條ヲ改正)

第三十條 此ノ法律ニ依リ價權者又ハ滯納者ニ交付スヘキ金錢ハ之ヲ供託スルコトヲ得(明治三十五年法律第三十六號ヲ以テ本條ヲ改正)

第三十一條 滯納處分ヲ了結シ若ハ之ヲ中止シタルトキハ納稅義務及督促手数料、延滞金、滯納處分費納付ノ義務ハ消滅ス(明治三十五年法律第三十六號、同四十四年法律第三十七號ヲ以テ本條ヲ改正)

第四章 罰則

第三十二條 滯納者又ハ滯納者ノ財産ヲ占有スル者其ノ財産ヲ藏匿漏洩シ又ハ虛偽ノ契約ヲ爲シタルトキハ一月以上二年以下ノ懲禁錮ニ處ス

差押物件ノ保管者其ノ保管ニ係ル物件ヲ藏匿漏洩消若ハ故意ニ毀損シタルトキ亦同シ

日本銀行ニ送付スヘシ但シ納期後三日ヲ過ルコトヲ得ス(大正十一年勅令第七十號ヲ以テ本條ヲ改正)

第六條 市町村ニ於テ國稅徵收法第八條ニ依リ税金送付ノ責任ノ免除ヲ請ハムトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ申請書ヲ提出ス

第七條 市町村ハ納期內ニ税金ノ納付ヲ了ラサル者アルトキハ直ニ其ノ氏名、住所若ハ居所及納金額滯納ノ事由ヲ所轄稅務署ニ報告ス

第八條 國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ徵收スルコトヲ得ル國稅ハ左ニ掲ケルモノニシテ納期ニ到リ税金ノ徵收ヲ完了スルコト能ハスト認ムルモノニ限ル

一 納稅ノ告知ヲ爲シタル酒類、酒精含有飲料並鹽酒ノ造石稅及造石數査定酒、麥酒稅

二 當該年分ノ自家用醬油製造稅

第九條 納稅義務者納稅管理人ヲ定メ若ハ變更シタルトキハ其ノ氏名及住所若ハ居所ヲ所轄稅務署ニ申告ス

第十條 納稅管理人其ノ氏名、住所又ハ居所ヲ變更シタルトキハ之ヲ所轄稅務署ニ申告ス

第十一條 國稅徵收法ニ依リ國稅ニ係ルトキハ前二項ノ申告ハ其ノ市町村ヲ經由ス

第十二條 國稅徵收法第九條ニ依リ納稅ノ督促ヲ爲サントスルトキハ收稅官吏ハ納稅者ニ對シ督促狀ヲ發シ

督促狀ヲ發シタルトキハ手数料トシテ金十錢ヲ徵收ス

第十三條 前條ニ依リ督促ヲ受ケタル場合ニ於テハ税金額百圓ニ付一日三錢ノ割合ヲ以テ納期限ノ翌日ヨリ税金完

情ヲ知テ前二項ノ所爲ヲ幫助シ又ハ虛偽ノ契約ヲ承諾シタル者ハ各本刑ニ等ラ減ス

第五章 附則

第三十三條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

「沖繩縣及」東京府管内小笠原島、伊豆七島ニハ當分ノ市制町村制ヲ施行セザル地方ニ於テ本法中市町村ニ關スル條項ヲ適用スヘキ公共團體ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス

「北海道水產物營業人組合」本法ニ於テ市町村ニ準ス

第三十四條 明治二十二年法律第九號國稅徵收法、同年法律第三十二號國稅滯納處分法及同二十三年法律第四號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

附則 (明治四十四年法律第三十七號附則)

本法ハ明治四十四年度分ヨリ之ヲ適用ス

附則 (大正三年法律第十二號附則)

本法ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●國稅徵收法施行規則

(明治三十五年四月十一日勅令第百三十五號)

改正、明三八一勅六七、明四四一勅二八二、大九一勅五八八、大一一一勅一七〇

朕國稅徵收法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國稅徵收法施行規則

第一條 收稅官吏國稅ヲ徵收セムトスルキハ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ記載シタル納稅告知書ヲ發ス(但シ日本銀行ニ納付セムル場合ノ外口頭ヲ以テ告知スルコトヲ得(大正十一年勅令第七十號ヲ以テ本條ヲ改正))

第二條 市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ハ收稅官吏書面ヲ以テ其ノ金額ヲ市町村ニ通知ス

市町村ハ前項ノ通知ニ依リ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ記載シタル納稅告知書ヲ發ス

第三條 國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ納期ノ到リタル税金ヲ徵收セムトスルキハ納期日ヲ定メ第一條ノ告知又ハ第二條ノ通知ヲ爲スト同時ニ其ノ旨告知又ハ通知ス

納稅告知書シタル後國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ納期日以前之ヲ徵收セムトスルキハ收稅官吏ハ納期日ノ變更ヲ納稅人ニ告知ス

前項ノ國稅ニシテ市町村ノ徵收スルモノナルトキハ納稅人ニ告知スルト同時ニ其ノ旨市町村ニ通知ス

第四條 市町村ニ於テ税金ヲ徵收シタルキハ領收證ヲ納稅人ニ交付ス

第五條 市町村ニ於テ徵收シタル税金ハ送付書ヲ添へ漸次之

日本銀行ニ送付スヘシ但シ納期後三日ヲ過ルコトヲ得ス(大正十一年勅令第七十號ヲ以テ本條ヲ改正)

第六條 市町村ニ於テ國稅徵收法第八條ニ依リ税金送付ノ責任ノ免除ヲ請ハムトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ申請書ヲ提出ス

第七條 市町村ハ納期內ニ税金ノ納付ヲ了ラサル者アルトキハ直ニ其ノ氏名、住所若ハ居所及納金額滯納ノ事由ヲ所轄稅務署ニ報告ス

納又ハ財産差押ノ日ノ前日迄ノ日數ニ依リ計算シタル延滞金ヲ徵收ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當アル場合又ハ滯納ニ付酌量スヘキ情狀アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 納稅告知書一通ノ税金額二十圓未満ナルキト

二 納稅者ノ住所若ハ居所カ帝國國內ニ在ラサル者又ハ其ノ住所、居所共ニ不明ナル爲公示送達ノ方法ニ依リ納稅ノ告知又ハ督促ヲ爲シタルトキ

國稅徵收法施行規則

ル事項

三 差押ノ事由
四 調書ヲ作リタル場所、年月日
國稅徵收法第二十一條ノ場合ニ於テハ收稅官吏ハ立會人ト共ニ差押調書ニ署名捺印スヘシ但シ立會人ニ於テ署名捺印ヲ拒ミ又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其ノ理由ヲ附記スヘシ
收稅官吏差押調書ヲ作リタルトキハ其ノ勝本ヲ滯納者及立會人ニ交付スヘシ但シ債權及所有權以外ノ財產權ノミヲ差押ヘタルトキハ此ノ限ニ在ラス明治四十四年勅令第二百八十二號ヲ以テ本條ヲ改正
第十七條 收稅官吏財產ヲ差押ヘタル場合ニ於テ滯納者又ハ第三者ヨリ差押手數料、延滞金、滯納處分費及税金ヲ完納シタルトキハ其ノ財產ノ差押ヲ解除スヘシ(同上本條ヲ改正)
第十八條 公賣ハ入札又ハ競賣ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
第十九條 國稅徵收法第二十四條ニ依リ公賣ヲ爲サルトスルトキハ左ノ事項ヲ公告スヘシ(同上本條ヲ改正)
一 滯納者ノ氏名及住所若ハ居所
二 公賣財產ノ名稱、數量、性質、所在其ノ他重要ナル事項
三 入札又ハ競賣ノ場所、日時
四 開札ノ場所、日時
五 保證金ヲ徵スルトキハ其ノ金額
六 代金納付ノ期限
第二十條 財產公賣ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ加入保證金又ハ契約保證金ヲ徵スヘシ
加入保證金又ハ契約保證金ハ國債ノ以テ之ニ代用スルコトヲ得(大正九年勅令第五百八十八號ヲ以テ本項ヲ追加)落札者又ハ買受人義務ヲ履行セザルトキハ其ノ保證金又ハ

之ニ代用シタル國債ハ之ヲ政府ノ所得トス
第二十一條 公賣ハ財產所在ノ市區町村內ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ收稅官吏必要ト認ムルトキハ他ノ地方ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得
第二十二條 公賣ハ公告ノ初日ヨリ十日ノ期間ヲ過キタル後之ヲ執行スヘシ但シ其ノ物件不相應ノ保存費ヲ要スルモ若ハ著シク其ノ價格ヲ減損スルノ虞アルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス
第二十三條 財產ヲ公賣セムルトキハ收稅官吏ハ其ノ財產ノ價格ヲ見積リ之ヲ封書トシ公賣ノ場所ニ置クヘシ
第二十四條 賣却シタル財產ニ付滯納者ヲシテ權利移轉ノ手續ヲ爲サシムル必要アルトキハ收稅官吏ハ期限ヲ指定シ其ノ手續ヲ爲サシムル
前項ノ期間內ニ滯納者其ノ手續ヲ爲サザルトキハ收稅官吏ハ滯納者ニ代リ之ヲ爲スニ得(明治三十八年勅令第六十七號ヲ以テ本條ヲ改正)
第二十五條 入札ノ方法ヲ以テ公賣ニ付スル場合ニ於テ落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者二名以上アルトキハ其ノ同價ノ入札人ヲシテ追加入札ヲ爲サシムル落札者ヲ定ム追加入札ノ價格仍同シキトキハ抽籤ヲ以テ落札者ヲ定ム
第二十六條 財產ヲ公賣ニ付スルモ買受人ナキ又ハ其ノ價格見積價格ニ達セザルトキハ更ニ公賣ヲ爲スコトアルヘシ
第二十七條 公賣財產ノ買受人代金納付ノ期限マテニ其ノ代金ヲ完納セザルトキハ收稅官吏ハ其ノ賣買ヲ解除シ更ニ之ヲ公賣ニ付スヘシ
第二十八條 前二條ニ依リ再公賣ヲ爲ス場合ニ於テハ第二十二條ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得
第二十九條 國稅徵收法第四條ノ一第二號乃至第六號ニ該當スル場合ニ於テハ收稅官吏ハ當該官廳、公共團體、執行裁判所、執達吏、強制管理人、破産主任官又ハ清算人ニ

督促手數料、延滞金、滯納處分費及滯納税金ノ交付ヲ求ムヘシ但シ他ニ差押フヘキ財產アルトキハ之ヲ差押フルコトヲ妨ケス(明治四十四年勅令第二百八十二號ヲ以テ本條ヲ改正)
第三十條 滯納處分ヲ了結シタルトキハ收稅官吏ハ其ノ處分ニ關スル計算書ヲ作リ之ヲ滯納者ニ交付スヘシ
賣却シタル財產ニ對シ債權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ其ノ計算ニ關スル記録ノ閱覽ヲ收稅官吏ニ求ムルコトヲ得
第三十一條 納稅告知督促及滯納處分ニ關スル公告ハ稅務署ニ之ヲ爲スヘシ但シ必要ト認ムルトキハ稅務署ノ外適當ノ場所ニ又ハ他ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
附則
第三十二條 市制町村制ヲ施行セザル地方(稅務署所在地ヲ除ク)ノ戶長ハ稅務署收稅官吏ノ通知ヲ受ケ其ノ町村內ノ國稅(酒類、酒精、酒精含有飲料、蠟油、造石稅及麥酒稅ヲ除ク)ヲ徵收シ之ヲ日本銀行ニ拂込ムヘシ(大正十一年勅令第七十號ヲ以テ本條ヲ改正)
第三十三條 前條ニ依リ徵收スヘキ國稅ヲ其ノ納期內ニ完納セザル者アルトキハ戶長ハ本則中ニ規定セル市町村ノ例ニ準シ所轄稅務署ニ報告スヘシ
第三十四條 本令中市町村ニ關スル規定ハ國稅徵收法第三十三條ニ依リ指定セラレタル公共團體ニ之ヲ適用ス
第三十五條 本令ハ明治三十五年法律第三十六號國稅徵收法中改正法律施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十年勅令第二百二十一號ハ之ヲ廢止ス
附則 (明治三十八年勅令第六十七號附則)
本令ハ明治三十八年法律第四十六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則(明治四十四年勅令第二百八十二號附則)

本令中延滞金ニ關スル規定ハ本令施行後ニ於テ納期ノ開始スル明治四十四年分租稅ヨリ之ヲ適用ス

附則(大正九年勅令第五百八十八號附則)

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則(大正十一年勅令第七十號附則)

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

國稅徵收法施行規則

●地租條例

(明治十七年三月十五日
太政官布告第七號)

改正、明二一法三〇、明三一法三二、
明三四法三〇、明三六一法一二、
明三八一法三三、明四一一法三六、
明四三二法二、大三一法一八、法一
九、大八一法四六、大五一法六

地租條例別冊ノ通制定シ明治六年七月第二十七號
布告地租改正條例及地租改正ニ關スル條規其他本條例ニ
抵觸スルモノハ廢止ス

但東京府管轄伊豆七島小笠原島「兩館縣沖繩縣札幌
縣根室縣」ハ當分從前ノ通タルヘシ(明治三十五年勅令第
二百七十五號、同三十六年勅令第二百七十八號及同
三十九年法律第三十三號ノ爲ニ自然變更)

右奉 勅旨布告候事

(別冊)

地租條例

第一條 地租ハ左ノ稅率ニ依リ毎年之ヲ賦課ス

- 一 宅地 地價百分ノ二箇半
- 二 畑 地價百分ノ四箇五
- 三 其他ノ土地 地價百分ノ五箇半
- 四 北海道ニ於ケル宅地以外ノ土地ノ地租ハ當分左ノ稅率ニ依リ
 - 一 田 地價百分ノ三箇二
 - 二 其他ノ土地 地價百分ノ四箇

本條例ニ於テ地價ト稱スルハ土地臺帳ニ掲ケル價額ヲ謂フ
(明治二十二年法律第三十號、同三十一年法律第三十
二號、同四十三年法律第二號、大正三年法律第十八號
ヲ以テ本條例改正)

第二條 地租ハ年ノ豐凶ニ由リテ増減セス

- 第一類 田、畑、宅地、鹽田、鑛泉地(明治四十三年
法律第二號ヲ以テ本條例改正)
- 第二類 池沼、山林、牧場、原野、雜種地(明治二十
二年法律第三十號ヲ以テ本條例改正)
- 第三類 第一類中又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノヲ地目變換
ト謂フ
- 第四類 第一類地ヲ第二類地ニ變換スルモノヲ地類變換ト謂フ(明
治四十三年法律第二號ヲ以テ本條例追加)
- 第五類 第一類地又ハ第二類地ノ山崩、川欠、押堀、石砂入、川
成、海成、湖水成等ノ如キ天災ニ罹リ地形ヲ變シタルモノヲ荒
地ト謂フ

第三條 左ニ掲ケル土地ニ付テハ其地租ヲ免ス
一 國府縣市町村其他勅令ヲ以テ指定スル公共團體
ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スル土地但テ有料借地
ハ此限ニ在ラス

- 二 府縣市町村其他勅令ヲ以テ指定スル公共團體カ
公用又ハ公共ノ用ニ供スルモノト定メタル其所有地
但命令ノ定ムル期間内ニ公用又ハ公共ノ用ニ供セザ
ルトキハ此限ニ在ラス
- 三 府縣社地、鄉村社地、招魂社地但有料借地ハ此
限ニ在ラス(明治四十三年法律第二號ヲ以テ本條
ヲ改正)
- 四 墳墓地
- 五 用惡水路、溜池、堤堰、井溝
- 六 鐵道用地、軌道用地、運河用地(明治四十一年
法律第三十六號、大正三年法律第十八號ヲ以
テ本條例改正)

七 保安林

八 公衆ノ用ニ供スル道路
府縣市町村其他ノ公共團體ハ前項ノ土地ニ租稅其他ノ
公課ヲ課スルコトヲ得ス但所有者以外ノ者前項第一號又ハ
第二號ノ土地ヲ使用收益スル場合ニ於テ其土地ニ對シ使
用者ニ租稅其他ノ公課ヲ課スルハ此限ニ在ラス(明治二十
二年法律第三十號、同三十八年法律第三十三號、大正
十五年法律第六號ヲ以テ本條例改正)

第九條 土地ノ丈量ハ曲尺ヲ用ヒ六尺ヲ間ト爲シ方壹間ヲ以
テ歩ト爲シ三拾步ヲ畝ト爲シ拾畝ヲ段ト爲シ拾段ヲ町ト爲ス
但宅地ハ方壹間ヲ以テ坪ト爲シ坪ノ拾分壹ヲ合ト爲シ合ノ
拾分壹ヲ寸ト爲ス(明治四十三年法律第二號ヲ以テ本條
ヲ改正)

第十條 地價ヲ定メ又ハ地價ヲ修正スルトキハ地盤ノ丈景及明
治二十二年法律第三十號ヲ以テ本條例改正)

第十一條 地價ハ左ノ場合ニ該當スルニ非サレハ之ヲ修正セス(明
治二十二年法律第三十號、同四十三年法律第二號ヲ以
テ本條例改正)

第十二條 地價ハ其地ノ品位等級ヲ認定シ其所得ヲ審査シ尙ホ
其土地ノ情況ニ應ジテ定ム
第十三條 地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタルトキハ政府ニ届出
シ

地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタルトキハ直ニ其地價ヲ修正
ス但第十六條第六項ノ場合ハ此限ニ在ラス(明治二十二
年法律第三十號、同四十三年法律第二號ヲ以テ本條例
改正)

第十四條 地租ヲ課スル土地ノ地租ヲ課セザル土地ト爲シ又ハ
地租ヲ課セザル土地ノ地租ヲ課スル土地ト爲シタルトキハ政府
ニ届出(シ但之ニ關シ豫メ政府ノ許可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲シ
タルモノニ付テハ此限ニ在ラス)

第十五條 地租ノ課スル土地ノ地租ヲ課セザル土地トナリタル
トキハ其届出アリタル後又ハ其事實行認メタル後ニ開始スル納
期ヨリ地租ヲ徵收セス
第十六條 地租ヲ課セザル土地ニテ地租ヲ課スル土地トナリタルトキハ地
目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタルトキハ政府ニ届出
シ

地租條例施行規則

勅令第二百六十三號ヲ以テ本條ヲ改正ス

一 荒地免租年額有スル土地ニシテ其ノ年額明ニ至リ他ノ地目ニ變シタルトキ
二 低價年額又ハ免租年額有スル土地ニシテ其ノ年額明ニ至リ原額復シ難キトキ又ハ他ノ地目ニ變シタルトキ
三 繳下年額、地價据置年額、新開免租年額有スル土地ニシテ年額明トナリタルトキ
第十五條ノ二 地價ヲ定メ又ハ修正スヘキ場合ニ於テハ土地ノ所有者又ハ納稅義務者ハ土地ノ測量圖及實地ノ狀況ニ依リ近傍ノ類地ト其ノ地力ヲ比較シ其ノ地價ヲ見積リタル書面ヲ稅務署長ニ差出スヘシ(大正八年勅令第二百六十三號ヲ以テ本條ヲ改正)

所得稅法

(大正九年七月三十一日) 法律第十一號

改正、大一一一法四五、大一一一法八、法二九、法四一、大一一一法八

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル所得稅法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 本法施行地ニ住所有シ又ハ一年以上居所有スル者ハ本法ニ依リ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス
第二條 (大正十五年法律第八號ヲ以テ本條ヲ削除)
第一條ノ規定ニ該當セザル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ所得ニ付テハ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス(大正十二年法律第二十九號ヲ以テ本條ヲ改正)
一 本法施行地ニ於テ公債、社債又ハ銀行預金ノ利息若ハ貸付信託ノ利益ノ支拂ヲ受クルトキ(大正十二年法律第八號、第二十九號ヲ以テ本條ヲ改正)
三 本法施行地ニ本店又ハ主たる事務所有スル法人ヨリ利益若ハ利息ノ配當、剩餘金ノ分配又ハ利益若ハ剩餘金ノ處分ヲ受クル若ハ賞與ノ性質有スル給與ヲ受クルトキ

所得稅法

甲 法人ノ普通所得
乙 法人ノ超過所得
丙 法人ノ清算所得
第二種 甲 本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債若ハ銀
市町村長ニ於テ必要アリト認ムルトキ第一項又ハ前項ノ出ラ爲シタル者ニ對シテ小作權ノ設定ヲ證明スル證書其ノ他必要ナル書類ノ呈示又ハ提出ヲ求ムルコトヲ得
第一項又ハ第二項ノ出ラ爲シタル小作權者ハ當該田畑ノ地租條例第十三條ノ二ノ規定ニ適用ニ付テハ之ヲ所有者ト看做ス(大正十五年勅令第三百三十九號ヲ以テ本條ヲ追加)
第十八條 田畑ニ付地租ヲ納ムヘキ者(前條ノ規定ニ依リ所有者ト看做サレタル小作權者ヲ含ム)ニシテ地租條例第十三條ノ二ノ規定ニ適用ニ付テハ其ノ納付額ハ毎年六月中(鹿兒島縣大島郡及沖繩縣ニ在リテハ三月中)ニ當該田畑各筆ノ番號及地目ヲ記載シ住所所在地ノ市町村長ヲ經由シ稅務署長ニ申請スヘシ但シ其ノ住所所在地及隣接市町村內ニ於ケル其ノ者ノ田畑ノ全部ニ付申請ヲ爲ス場合ニ於テハ各筆ノ記載ヲ省略スルコトヲ得
前項ノ申請期間經過後新ニ地租條例第十三條ノ二ノ規定ニ該當スルニ至リタル田畑ニ付テハ其ノ納期開始前ニ於テ前項ノ申請ヲ爲スコトヲ得(同上本條ヲ追加)
第十九條 市町村長ハ其ノ市町村內ノ田畑ニ付地租ヲ納ムヘキ者ノ住所所在地ノ市町村內ニ在リテハ各人別田畑ノ地價合計金額ノ前條第一項ノ申請期間內ニ其ノ住所所在地ノ市町村長ニ通知スヘシ
前項ノ通知事項ニ異動ヲ生シタルトキハ田畑地租ノ各納期開始前ニ住所所在地ノ市町村長ニ通知スヘシ(同上本條ヲ追加)
第二十條 隣接市町村內ノ田畑ニ付第十八條ノ申請アリタル場合ニ於テ申請者ノ住所所在地市町村及其ノ隣接市町村內ニ於ケル田畑地價ノ合計金額其ノ同居家族ノ分ト合算シ二百圓未満ナルトキハ住所所在地ノ市町村長ハ其ノ旨田畑所在ノ市町村長ニ通知スヘシ

行預金ノ利息又ハ貸付信託ノ利息
乙 第一條ノ規定ニ該當セザル者ノ本法施行地ニ本店又ハ主たる事務所有スル法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當、剩餘金ノ分配又ハ利益若ハ剩餘金ノ處分ヲ受クル若ハ賞與ノ性質有スル給與
第三種 第二種ニ屬セザル個人ノ所得(大正十五年法律第八號ヲ以テ本條ヲ改正)
第三條ノ二 信託財產ニ付生スル所得ニ關シテハ其ノ所得ヲ信託ノ利益トシテ享受スヘキ受益者カ信託財產有スルモノト看做シテ所得稅ヲ賦課ス但シ本法施行地ニ於テ信託利益ノ支拂ヲ爲ス貸付信託ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ(大正十二年法律第二十九號ヲ以テ本條ヲ改正)
前項ノ規定ニ適用ニ付テハ受益者不特定ナルトキ又ハ未タ存在セザルトキハ受託者ヲ以テ受益者ト看做ス此ノ場合ニ於テハ受託者カ本法其ノ他ノ法令ニ依リ所得稅ヲ課セラレザル者ナルトキハ雖尙所得稅ヲ賦課ス
受託者法人ナル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課スヘキ所得ハ之ノ個人ノ所得ト看做ス
信託會社ノ所得計算ニ付テハ貸付信託ニ因ル收入及支出ハ其ノ總益金及總損金ヨリ之ヲ控除ス(大正十一年法律第四十五號ヲ以テ本條ヲ追加、同十二年法律第二十九號ヲ以テ本條ヲ改正)
第三條ノ三 本法ニ於テ貸付信託ト稱スルハ信託會社ノ引受ケタル金錢信託ニシテ信託財產ノ運用方法ヲ預入又ハ貸付ノニ限定シタルモノヲ謂フ(大正十五年法律第八號ヲ以テ本條ヲ追加)
第四條 法人ノ普通所得ハ各事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依リ但シ保險會社ニ在リテハ各事業年度ノ利益金又ハ剩餘金ニ依ル

前項ノ通知事項ニ異動ヲ生シタルトキハ田畑地租ノ各納期開始前ニ市町村長ニ通知スヘシ(大正十五年勅令第三百三十九號ヲ以テ本條ヲ追加)
第二條 市町村長ハ其ノ市町村內ノ田畑ニ付第十八條ノ申請又ハ前條ノ通知アリタルトキハ地租條例第十三條ノ二ノ規定ニ依リ地租ヲ徵收セザル田畑ヲ調査シ之ヲ稅務署長ニ報告スヘシ(同上本條ヲ追加)
附則 本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
附則 (大正八年勅令第二百六十三號附則) 本令ハ大正八年六月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前地租條例第十六條第一項ノ出ラ爲シタル土地ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則 (大正十五年勅令第三百三十九號附則) 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
田畑地租ノ納期六月一日ヨリ開始スル地方ニ於テハ大正十五年六月一日ニ於ケル田畑地租ノ納稅義務者ハ大正十五年ニ限リ第十八條第一項ノ申請ヲ爲シタルモノト看做ス

所得稅法

立シタル法人ヨリ合併ニ因リテ取得スル株式ノ拂込済金額又ハ出資金額及金銀ノ總額カ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ合併當時ノ拂込済株式金額又ハ出資金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ之ヲ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ清算所得ト看做ス(大正十五年法律第八號ヲ以テ本條ヲ改正)

- 第十三條 第二種ノ所得ハ其ノ支拂ヲ受ケヘキ金額ニ依ル
第十四條 第三種ノ所得ハ左ノ各號ノ規定ニ依リテ算出ス
一 營業ニ非ザル貸金ノ利子及第二種ノ所得ニ屬セザル公債ノ社債及預金ノ利子ハ前年中ノ収入金額

所得稅法

- 七 (大正十五年法律第八號ヲ以テ本條ヲ削除)
ハ命令ノ定ムル所ニ依リテ重要物産ノ製造業ヲ營ム者ニノ業務ヨリ生ズル所得ニ付所得稅ヲ免除ス
第二十條 第三種ノ所得ハ千二百圓ニ滿テザルトキハ所得稅ヲ課ス第十五條、第十六條及第十七條ノ三ノ規定ニ依ル

額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ之ヲ法人ヨリ受ケル利益ノ配當ト見做ス
第一項第一號、第二號及第四號ノ所得ニ付テハ被相續人ノ所得ハ之ヲ相續人ノ所得ト看做シ第六號ノ所得ニ付テハ相續シタル資產又ハ營業ハ相續人カ引續キ之ヲ有シタルモノト看做シ其ノ所得ヲ計算ス(大正十五年法律第八號ヲ以テ本條ヲ改正)

- 第十五條 前條ノ規定ニ依リ算出シタル所得總額一萬二千圓以下ナルトキハ其ノ所得中勤勞所得(前條第一項第三號及第五號ノ所得)ニ付左ノ金額ヲ控除ス
一 所得總額六千圓以下ナルトキハ勤勞所得ノ十分ノ二
二 所得總額六千圓以上ノ所得六千圓以上ナルトキハ勤勞所得ノ十分ノ一

前項ノ場合ニ於テ控除スヘキ金額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ納稅義務者ノ一人又ハ數人ノ所得ヨリテ之ヲ控除ス(大正十五年法律第八號ヲ以テ本條ヲ改正)
同一人シテ山林ノ所得ト山林以外ノ所得ト有スル場合ニ於テハ前三項ノ規定ニ依ル控除ハ先ツ山林以外ノ所得ニ付之ヲ爲シ不足アルトキ山林ノ所得ニ及ブ

- 第十六條 第三種ノ所得ニ付テハ其ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課スヘキ所得ハ之ヲ受託者固有ノ所得ト區別シテ所得金額ヲ定ム(二)以上ノ信託アル場合ニ於テハ尚各信託毎ニ之ヲ定ム
第十五條第二項、第十六條、第二十條第二項及第二十三條第二項ノ規定ハ前項ノ所得ニ付テ之ヲ適用セズ(大正十五年法律第四十五號ヲ以テ本條ヲ追加)
第十六條ノ三 自己若ハ家族又ハ其ノ相續人ヲ保險金受取人トスル生命保險契約ノ爲ニ拂込ミタル保險料ハ年額二百圓ヲ限リ命令ノ定ムル所ニ依リ本人ノ申請ニ依リ其ノ所得ヨリテ之ヲ控除ス(同上本條ヲ追加)

積立金又ハ本法其ノ他ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレザル所得ヨリ成ル金額
其ノ他ノ金額
百分ノ五
百分ノ十
百分ノ十五
百分ノ二十
百分ノ二十五
百分ノ三十
百分ノ三十五
百分ノ四十
百分ノ四十五
百分ノ五十
百分ノ五十五
百分ノ六十
百分ノ六十五
百分ノ七十
百分ノ七十五
百分ノ八十
百分ノ八十五
百分ノ九十
百分ノ九十五
百分ノ一百

本法ニ於テ同族會社ト稱スルハ株主又ハ社員ノ一人及之ト親族、使用人等特殊ノ關係アル者ノ株式金額又ハ出資金額ノ合計カ其ノ法人ノ株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一以上ニ相當スル法人ヲ謂フ(大正十五年法律第八號ヲ以テ本條ヲ追加)
第二十二條 第二種ノ所得ニ對スル所得稅ハ左ノ稅率ニ依リテ之ヲ課ス
甲 公債ノ利子
百分ノ四
百分ノ五
百分ノ七、五

積立金又ハ本法其ノ他ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレザル所得ヨリ成ル金額
其ノ他ノ金額
百分ノ五
百分ノ十
百分ノ十五
百分ノ二十
百分ノ二十五
百分ノ三十
百分ノ三十五
百分ノ四十
百分ノ四十五
百分ノ五十
百分ノ五十五
百分ノ六十
百分ノ六十五
百分ノ七十
百分ノ七十五
百分ノ八十
百分ノ八十五
百分ノ九十
百分ノ九十五
百分ノ一百

本法ニ於テ同族會社ト稱スルハ株主又ハ社員ノ一人及之ト親族、使用人等特殊ノ關係アル者ノ株式金額又ハ出資金額ノ合計カ其ノ法人ノ株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一以上ニ相當スル法人ヲ謂フ(大正十五年法律第八號ヲ以テ本條ヲ追加)
第二十二條 第二種ノ所得ニ對スル所得稅ハ左ノ稅率ニ依リテ之ヲ課ス
甲 公債ノ利子
百分ノ四
百分ノ五
百分ノ七、五

所得税法

二 萬圓を超ユル金額 百分ノ十三
 三 萬圓を超ユル金額 百分ノ十五
 五 萬圓を超ユル金額 百分ノ十七
 七 萬圓を超ユル金額 百分ノ十九
 十 萬圓を超ユル金額 百分ノ二十一
 二十 萬圓を超ユル金額 百分ノ二十三
 五十 萬圓を超ユル金額 百分ノ二十五
 百 萬圓を超ユル金額 百分ノ二十七
 二百 萬圓を超ユル金額 百分ノ三十
 三百 萬圓を超ユル金額 百分ノ三十三
 四百 萬圓を超ユル金額 百分ノ三十六

前項ノ場合ニ於テ戸主及其ノ同居家族ノ所得金額ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ對シ税率ヲ適用シ算出シタル金額ヲ各其ノ所得金額ニ案分シテ各其ノ稅額ヲ定ム戸主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得金額ニ付亦同シ大正十五年法律第八號ヲ以テ本條ヲ改正

第二十四條 第一種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ財產目錄、貸借對照表、損益計算書又ハ清算表ハ合併ニ關スル計算書並第四條乃至第十一條ノ規定ニ依リ計算シタル所得及資本金額ノ明細書ヲ添附シ其ノ所得ヲ政府ニ申告スヘシ但シ本法施行地ニ本店又ハ主たる事務所有セザル法人ハ本法施行地ニ於ケル資産又ハ營業ニ關スル損益ヲ計算シタル所得及資本金額ノ明細書ヲ添附スヘシ

前項ノ規定ハ第一種ノ所得ニ付納稅額ヲ課セラルヘキ法人ニ付其ノ所得ナキ場合ニ之ヲ適用ス

第二十五條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ毎年三月十五日迄ニ所得ノ種類及金額ヲ詳記シ政府ニ申告スヘシ

第十六條又ハ第十六條ノ三ノ規定ニ依リ控除ヲ受ケトスル者ハ前項ノ申告ト同時ニ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ申請

書ヲ提出スヘシ(同上本條ヲ改正)

第二十六條 第一種ノ所得金額ハ第二十四條ノ申告ニ依リ申告ナキキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定シ第三種ノ所得金額ハ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得調査委員會閉會後第三種ノ所得ノ決定ニ付脱漏アルコトヲ發見シタルキハ其ノ決定ヲ爲スカリシ年ノ翌年ニ於ケル所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ所得金額ヲ決定スルコトヲ得(大正十二年法律第八號ヲ以テ本項ヲ追加)

所得調査委員會閉會後第三種ノ所得ヲ有スル者納稅義務アルコトヲ申出テ又ハ納稅義務者所得金額ノ増加アルコトヲ申出テタルキハ前二項ノ規定ニ拘ラス政府ニ於テ其ノ所得金額ヲ決定ス(同上本條ヲ改正)

第二十七條 稅務署長ハ毎年第三種ノ所得ニ付納稅義務アリト認ムル者ノ所得金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ所得調査委員會ニ送付スヘシ

前項ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ之ヲ適用ス(同上本項ヲ追加)

第二十八條 各稅務署所轄内ニ所得調査委員會ヲ置ク但シ稅務署所轄内ニ在ル市ニ付テハ命令ヲ以テ特ニ所得調査委員會ヲ置クコトヲ得

調査委員會ノ定數ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム但シ定數ノ増減ハ改選期ニ於テスルノ外ニ之ヲ爲スコトヲ得ス(同上本條ヲ改正)

第二十九條 調査委員會ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス

調査委員會ヲ選舉スルトキハ同時ニ之ト同數ノ補助員ヲ選舉スヘシ

第三十條 調査委員及補助員ノ選舉區域ハ所得調査委員會會ラ置クヘキ區域ニ依リ投票區及開票區ハ市町村ノ區域ニ

依リ但シ市制第六條ノ規定ニ依リ指定セラレタル市ニ在リテハ區ノ區域ニ依ル(同上本條ヲ改正)

町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ之ヲ一町村ト看做ス(同上本項ヲ追加)

第三十一條 選舉區域内ニ住居シ第三種ノ所得又ハ個人ノ營業ニ付其ノ年法定ノ期限迄ニ所得金額又ハ純益金額ノ申告ヲ爲シ且其ノ決定ヲ受ケタル者ニシテ選舉人名簿ニ登錄セラレタルモノハ調査委員及補助員ヲ選舉シ又ハ調査委員若クハ補助員ニ選舉セラレタルコトヲ得但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラズ(大正十五年法律第八號ヲ以テ本項ヲ改正)

- 一 無能力者
- 二 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セザル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ了ヘザル者
- 三 國稅滯納處分ヲ受ケタル後一年ヲ經テザル者
- 四 六年以上ノ懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者
- 五 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受ケルコトナキニ至ル迄ノ者
- 六 第七十四條乃至第七十六條又ハ營業收益稅法第二十八條乃至第三十條ノ規定ニ依リ處罰セラレタル後五年ヲ經テザル者(同上本條ヲ改正)

其ノ年分ノ所得金額及純益金額ノ決定前選舉ヲ行フ場合ニ於テハ前年第三種ノ所得又ハ個人ノ營業ニ付所得稅又ハ營業收益稅ヲ納メタルコトヲ以テ其ノ年分所得金額又ハ純益金額ノ決定ヲ受ケタルモノト看做ス(同上本項ヲ追加)

前二項ノ場合ニ於テ被相続人ノ爲シタル納稅又ハ申告ハ其ノ相続人ノ納稅又ハ申告ト看做ス(同上本項ヲ改正)

選舉人名簿ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

所得税法

第三十二條 投票及開票ニ關スル事務ハ市町村長又ハ戸長ニ之ヲ擔任シ選舉會ニ關スル事務ハ稅務署長ニ之ヲ擔任ス

第三十三條 第二項ノ町村組合ニ付テハ其ノ組合管理者ヲ町村長ト看做ス(大正十二年法律第八號ヲ以テ本條ヲ改正)

第三十四條 稅務署長ハ調査委員及補助員ノ選舉期日ヲ定メ之ヲ市町村長又ハ戸長ニ通知スヘシ

市町村長又ハ戸長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ少クモ選舉期日七日前其ノ旨ヲ公示スヘシ

第三十五條 選舉ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ調査委員及補助員ノ各選舉ニ付一人一票ニ限ル

選舉人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ自ら投票所ニ至リ被選舉人各一人ノ氏名ヲ各別ノ投票用紙ニ記載シテ投票スヘシ

投票用紙ハ選舉ノ當日投票所ニ於テ之ヲ選舉人ニ交付ス

第三十六條 市町村長又ハ戸長ハ投票ヲ調査シ直ニ其ノ結果ヲ稅務署長ニ報告スヘシ

第三十七條 稅務署長前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ選舉會ヲ開キ之ヲ調査スヘシ

第三十八條 投票、開票及選舉會ハ立會人ヲ立會ハシムヘシ

立會人ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十九條 投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トシ投票ノ數同シキトキハ年齢多キ者ヲ取り年齢同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

調査委員ニ當選シタル者同時ニ補助員ニ當選スルモ補助員タルコトヲ得ス

第四十條 調査委員及補助員ノ選舉終了シタルトキハ稅務

署長ハ當選人ノ氏名ヲ公示シ且之ヲ當選人及市町村長又ハ戸長ニ通知スヘシ

市町村長又ハ戸長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ

第四十一條 調査委員又ハ補助員ニ當選シタル者ハ正當ノ事故ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第四十二條 調査委員及補助員ノ任期ハ選舉期日ノ屬スル月ヨリ四年トス

選舉區域ノ變更ニ因リ其ノ區域内ニ於ケル第三種ノ所得ニ付其ノ年分所得金額ノ決定ヲ受ケタル者及個人ノ營業ニ付其ノ年分所得金額ノ決定ヲ受ケタル者ノ合計數ニ五分ノ一以上ノ増減ヲ來シタル場合ニ於テハ調査委員及補助員ノ任期ハ選舉區域ノ變更アリタル月ヨリ以テ終了スルモノトス但シ其ノ選舉區域ノ變更ノ月カ一月又ハ二月ナルトキハ三月、四月乃至八月ナルトキハ九月、十二月ナルトキハ翌年三月ヨリ以テ終了スルモノトス

第三十一條第二項ノ規定ハ其ノ年分ノ所得金額及純益金額ノ決定前選舉區域ノ變更アリタル場合ニ之ヲ適用ス(大正十五年法律第八號ヲ以テ本條ヲ改正)

第四十三條 調査委員及補助員ノ改選ハ前任者ノ任期終了ノ月ノ翌月ニ於テ之ヲ行フ

第四十四條 調査委員ニ關シテ生シタルトキハ投票ノ最多數ヲ得タル補助員ヨリ順次ニ之ヲ補充シ投票ノ數同シキトキハ年齢多キ者ヲ取り年齢同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

調査委員ニ關シテ生シタル補充スヘキ補助員オキキハ調査委員ノ補助員ニ當選シタル者

第四十五條 前條ノ規定ニ依リ調査委員又ハ補助員ト爲リタル者ハ前任者ノ任期期間在任中

選舉區域ノ變更ニ因リ新ニ選舉セラレタル調査委員及補助員ノ任期ハ選舉區域變更前ニ於ケル調査委員及補助員ノ

選舉期日ノ屬スル月ヨリ四年ヲ以テ終了ス

第四十六條 調査委員又ハ補助員第三十一條第一項各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ第三種ノ所得ニ對シ所得稅若ハ營業收益稅ノ何レニ付テモ納稅義務ヲ有セザルニ至リタルトキ又ハ其ノ選舉區域内ニ住居セザルニ至リタルトキハ其ノ納稅ノ失フ(大正十五年法律第八號ヲ以テ本條ヲ改正)

第四十七條 所得調査委員會ノ開會日數ハ三十日以内トシ地方ノ情況ニ依リ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十八條 所得調査委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第四十九條 所得調査委員會ハ毎年開會ノ始ニ於テ調査委員中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ

第五十條 所得調査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非サレハ決議スルコトヲ得ス

第五十一條 議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可ク同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第五十二條 調査委員ハ自己及自己ト同一ノ戶籍内ニ在ル者ノ所得ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス

第五十三條 五月三十一日迄ニ所得調査委員會成立セザルトキハ政府ニ於テ所得金額ヲ決定ス

第五十四條 所得調査委員會閉會ノ日ヨリ第四十六條ノ期間内又ハ五月三十一日迄ニ調査終了セザルトキハ政府ニ於テ調査未済ノ所得金額ヲ決定ス(同上本條ヲ改正)

第五十五條 政府ハ所得調査委員會ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ七日以内ノ期間ヲ定メ之ヲ再調査ニ付ス仍其ノ決議ヲ不當ト認ムルトキ又ハ再調査期間内ニ調査終了セザルトキハ政府ニ於テ所得金額ヲ決定ス

第五十六條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ所得調査委員會ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第五十七條 調査委員ニハ手當及旅費ヲ給ス

所得稅法

第五十五條 本法施行地ニ於テ利子支拂ヲ爲ス...

第五十六條 第三種ノ所得ニ屬スル俸給給料...

第五十七條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査...

第五十八條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査...

第五十九條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査...

第六十條 納稅義務者前條ノ規定ニ依リ...

第六十一條 前條第一項ノ請求アリタル...

第六十二條 各稅務監督局所轄内ニ所得審查委員會...

第六十三條 納稅義務者第六十一條ノ決定...

第六十四條 納稅義務者第六十一條ノ決定...

第六十五條 前條第一項ノ請求アリタル...

第六十六條 納稅義務者第六十一條ノ決定...

所得稅法

第六十七條 第一種ノ所得ニ付テハ事業年度...

第六十八條 前條第二項ノ規定ニ依リ...

第六十九條 法人解散シタル場合ニ於テ...

第七十條 本法施行前ニ終了シタル法人ノ...

所得稅法

第七十一條 第三種ノ所得ニ對スル所得稅...

第七十二條 本法施行地ニ住所及居所ナキ...

第七十三條 納稅義務者納稅地ニ現在セザル...

第七十四條 納稅義務者納稅地ニ現在セザル...

第七十五條 正當ノ事由ナクシテ第五十六條...

第七十六條 所得ノ調査又ハ審查ノ事務ニ...

第七十七條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法...

第七十八條 本法ハ大正九年八月一日ヨリ...

第七十九條 所得稅法ニ依リ所得稅ヲ課ス...

第八十條 本法施行前ニ終了シタル法人ノ...

第八十一條 法人ノ超過所得ニ付テハ...

第八十二條 所得調査委員及所得審查委員...

所得稅法

第八十三條 第三種ノ所得ニ付テハ大正九年...

第八十四條 所得稅法ハ當分ノ内小笠原島...

附則 (大正十一年法律第四十五號附則)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム...

所得稅法

所得稅法

所得稅法 所得稅法施行規則

附則 (大正十二年法律第八號附則)

本法大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
本法施行地ニ於テ支拂受クル銀行預金利子中從前ノ規定ニ依リ第三種所得トシテ計算スヘキモノニ付テハ支拂期ノ本法施行前ニアルモノニ限リ大正十二年分第三種所得トシテ計算ス

附則 (大正十二年法律第二十九號附則)

本法大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
本法施行地ニ於テ信託利益ノ支拂受クル貸付信託ノ所得ニシテ從前ノ規定ニ依リ第三種所得トシテ計算スヘキモノニ付テハ信託利益ノ支拂期ノ本法施行前ニ在ルモノニ限リ大正十二年分第三種所得トシテ計算ス

附則 (大正十五年法律第八號附則)

本法大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
第三種ノ所得ニ付テハ大正十五年分所得稅ヨリ本法ヲ適用ス但シ第二十五條、第五十一條及第六十七條ノ改正規定ハ大正十六年分所得稅ヨリ之ヲ適用ス
第十四條第一項第三號又ハ第四號ノ所得ニシテ大正十四年三月中ノ收入ニ屬スルモノハ之ヲ大正十五年分第三種所得トシテ計算ス
第十六條第一項ノ改正規定中三月一日トアルハ大正十五年ニ限リ四月一日トス
本法施行前ニ終了シタル法人ノ各事業年度分ノ所得及本法施行前ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル清算所得ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル
所得調查委員及所得審查委員ニ關シテハ大正十五年九月三十日迄ハ仍從前ノ例ニ依ル

所得稅法施行規則

從前ノ規定ニ依ル所得調查委員及補副員ノ任期ハ大正十五年九月三十日ヲ以テ終了ス
第三十一條、第四十一條及第四十五條ノ改正規定中營業收益稅ニ關スルモノハ大正十五年分ニ付テハ之ヲ營業稅ニ關スルモノトス

所得稅法施行規則

改正、大正九年七月三十一日 (勅令第二百二十六號)
一、勅五三三、大正一〇勅一七
一三、勅二二三、大正一五勅二九

附則 (大正九年七月三十一日)
(勅令第二百二十六號)
一、勅五三三、大正一〇勅一七
一三、勅二二三、大正一五勅二九

附則 (大正九年七月三十一日)
(勅令第二百二十六號)
一、勅五三三、大正一〇勅一七
一三、勅二二三、大正一五勅二九

附則 (大正九年七月三十一日)
(勅令第二百二十六號)
一、勅五三三、大正一〇勅一七
一三、勅二二三、大正一五勅二九

附則 (大正九年七月三十一日)
(勅令第二百二十六號)
一、勅五三三、大正一〇勅一七
一三、勅二二三、大正一五勅二九

附則 (大正九年七月三十一日)
(勅令第二百二十六號)
一、勅五三三、大正一〇勅一七
一三、勅二二三、大正一五勅二九

附則 (大正九年七月三十一日)
(勅令第二百二十六號)
一、勅五三三、大正一〇勅一七
一三、勅二二三、大正一五勅二九

附則 (大正九年七月三十一日)
(勅令第二百二十六號)
一、勅五三三、大正一〇勅一七
一三、勅二二三、大正一五勅二九

附則 (大正九年七月三十一日)
(勅令第二百二十六號)
一、勅五三三、大正一〇勅一七
一三、勅二二三、大正一五勅二九

附則 (大正九年七月三十一日)
(勅令第二百二十六號)
一、勅五三三、大正一〇勅一七
一三、勅二二三、大正一五勅二九

附則 (大正九年七月三十一日)
(勅令第二百二十六號)
一、勅五三三、大正一〇勅一七
一三、勅二二三、大正一五勅二九

附則 (大正九年七月三十一日)
(勅令第二百二十六號)
一、勅五三三、大正一〇勅一七
一三、勅二二三、大正一五勅二九

附則 (大正九年七月三十一日)
(勅令第二百二十六號)
一、勅五三三、大正一〇勅一七
一三、勅二二三、大正一五勅二九

附則 (大正九年七月三十一日)
(勅令第二百二十六號)
一、勅五三三、大正一〇勅一七
一三、勅二二三、大正一五勅二九

附則 (大正九年七月三十一日)
(勅令第二百二十六號)
一、勅五三三、大正一〇勅一七
一三、勅二二三、大正一五勅二九

附則 (大正九年七月三十一日)
(勅令第二百二十六號)
一、勅五三三、大正一〇勅一七
一三、勅二二三、大正一五勅二九

附則 (大正九年七月三十一日)
(勅令第二百二十六號)
一、勅五三三、大正一〇勅一七
一三、勅二二三、大正一五勅二九

附則 (大正九年七月三十一日)
(勅令第二百二十六號)
一、勅五三三、大正一〇勅一七
一三、勅二二三、大正一五勅二九

附則 (大正九年七月三十一日)
(勅令第二百二十六號)
一、勅五三三、大正一〇勅一七
一三、勅二二三、大正一五勅二九

附則 (大正九年七月三十一日)
(勅令第二百二十六號)
一、勅五三三、大正一〇勅一七
一三、勅二二三、大正一五勅二九

附則 (大正九年七月三十一日)
(勅令第二百二十六號)
一、勅五三三、大正一〇勅一七
一三、勅二二三、大正一五勅二九

附則 (大正九年七月三十一日)
(勅令第二百二十六號)
一、勅五三三、大正一〇勅一七
一三、勅二二三、大正一五勅二九

附則 (大正九年七月三十一日)
(勅令第二百二十六號)
一、勅五三三、大正一〇勅一七
一三、勅二二三、大正一五勅二九

附則 (大正九年七月三十一日)
(勅令第二百二十六號)
一、勅五三三、大正一〇勅一七
一三、勅二二三、大正一五勅二九

附則 (大正九年七月三十一日)
(勅令第二百二十六號)
一、勅五三三、大正一〇勅一七
一三、勅二二三、大正一五勅二九

附則 (大正九年七月三十一日)
(勅令第二百二十六號)
一、勅五三三、大正一〇勅一七
一三、勅二二三、大正一五勅二九

附則 (大正九年七月三十一日)
(勅令第二百二十六號)
一、勅五三三、大正一〇勅一七
一三、勅二二三、大正一五勅二九

附則 (大正九年七月三十一日)
(勅令第二百二十六號)
一、勅五三三、大正一〇勅一七
一三、勅二二三、大正一五勅二九

附則 (大正九年七月三十一日)
(勅令第二百二十六號)
一、勅五三三、大正一〇勅一七
一三、勅二二三、大正一五勅二九

附則 (大正九年七月三十一日)
(勅令第二百二十六號)
一、勅五三三、大正一〇勅一七
一三、勅二二三、大正一五勅二九

附則 (大正九年七月三十一日)
(勅令第二百二十六號)
一、勅五三三、大正一〇勅一七
一三、勅二二三、大正一五勅二九

附則 (大正九年七月三十一日)
(勅令第二百二十六號)
一、勅五三三、大正一〇勅一七
一三、勅二二三、大正一五勅二九

附則 (大正九年七月三十一日)
(勅令第二百二十六號)
一、勅五三三、大正一〇勅一七
一三、勅二二三、大正一五勅二九

附則 (大正九年七月三十一日)
(勅令第二百二十六號)
一、勅五三三、大正一〇勅一七
一三、勅二二三、大正一五勅二九

附則 (大正九年七月三十一日)
(勅令第二百二十六號)
一、勅五三三、大正一〇勅一七
一三、勅二二三、大正一五勅二九

附則 (大正九年七月三十一日)
(勅令第二百二十六號)
一、勅五三三、大正一〇勅一七
一三、勅二二三、大正一五勅二九

附則 (大正九年七月三十一日)
(勅令第二百二十六號)
一、勅五三三、大正一〇勅一七
一三、勅二二三、大正一五勅二九

附則 (大正九年七月三十一日)
(勅令第二百二十六號)
一、勅五三三、大正一〇勅一七
一三、勅二二三、大正一五勅二九

所得稅法施行規則

ル所得稅ヲ課スヘキ所得ノ基本タル資産價額ノ割合ヲ總資本金額ニ乘シテ計算ス此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス
第四條 所得稅法第二十一條ノ規定ニ依リ清算所得中百分之五ノ稅率ヲ適用スヘキ金額ハ解散當時ノ積立金(最後ノ事業年度ニ於テ留保シタル金額ヲ含ム)及清算期間中ニ生ジタル所得稅法其ノ他ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル所得ニ相當スル金額ノ合計ニ依ル
前項ノ所得稅法其ノ他ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル所得ニ相當スル金額ノ計算ニ付テハ所得稅法第四條ノ規定ヲ準用ス(大正十五年勅令第二十九號ヲ以テ本條ヲ改正)

ノ利子又ハ利益、納付シタル稅額及控除受クヘキ稅額ニ關スル明細書ヲ提出スヘシ大正十五年勅令第二十九號ヲ以テ本條ヲ追加)
第六條之三 所得稅法第二十二條第二項ノ規定ニ依リ貸付信託ノ利益ニ對スル所得稅額ヨリ控除スヘキ第二種ノ所得稅額ハ信託會社ニ於テ貸付信託ノ利益ニ對スル所得稅額收ノ際ニ於テ控除スヘシ(同上本條ヲ追加)
第六條之四 稅務署長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ第六條之二ノ規定ニ依リ申請ヲ爲シタル者又ハ前條ノ規定ニ依リ控除ヲ爲シタル信託會社ニ對シテ其ノ計算ヲ證明スヘキ書類又ハ帳簿ノ呈示又ハ提出ヲ命ズルコトヲ得(同上本條ヲ追加)
第七條 所得稅法第十四條ノ規定ニ依リ總收入金額ヨリ控除スヘキ經費ハ種苗、肥料、購買費、家畜其ノ他ノモノノ飼養料、仕入品ノ原價、原料品ノ代價、場所物件ノ修繕費又ハ借入料、場所物件又ハ業務ニ依ル公課、雇人ノ給料其ノ他收入ヲ得ルニ必要ナルモノニ限ル但シ家事上ノ費用及之ニ關聯スルモノハ之ヲ控除セズ

額ヲ定ム但シ其ノ申請額ノ合計ヲ控除スヘキ金額ヲ超過スルトキ若ハ之ニ達セザルトキ又ハ其ノ申請額不明ナルトキハ稅務署長ニ於テ各其ノ控除額ヲ定ム(大正十五年勅令第二十九號ヲ以テ本條ヲ追加)
第九條 所得稅法第十六條ノ規定ニ依リ控除ノ申請書ニハ年齡十八歲未滿者ハ六十歲以上ノ者又ハ不具癱疾者ノ氏名、生年月日、職業、申請者トシテ及ハ不具癱疾者ノ事實及控除金額ヲ記載シテ之ヲ稅務署ニ提出スヘシ
其年三月十六日以後ニ於テ第三種ノ所得ニ付納稅義務アルニ至リタル者所得稅法第十六條ノ規定ニ依リ控除ヲ受ケムトスルトキハ所得金額ノ決定前其ノ所得ノ申告ト同時ニ前項ノ申請書ヲ提出スヘシ
第十條 所得稅法第十六條第二項ノ場合ニ於テハ前二項ノ申請書ハ所得ヲ有スル者ノ一人ヨリ之ヲ提出スルヲ以テ是ル同上本條ヲ改正)
第十一條 稅務署長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依リ申請ヲ爲シタル者ニ對シテ戶籍ノ謄本若ハ抄本又ハ醫師ノ診斷書其ノ他必要ナル書類ノ提出ヲ命ズルコトヲ得
第十二條 所得稅法第十六條ノ三ノ規定ニ依リ第三種ノ所得ヨリ控除スヘキ保險料ハ前年中ニ拂込タル金額ニ依リ之ヲ計算シ所得稅法第十四條乃至第十六條ノ規定ニ依リ算出シタル金額ヨリ之ヲ控除ス(同上本條ヲ改正)
同一人ニシテ山林ノ所得ト山林以外ノ所得ト有スル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依リ控除ハ先ツ山林以外ノ所得ニ付之ヲ算シ不足アルトキハ山林ノ所得ニ及テ(大正十三年勅令第二十三號ヲ以テ本條ヲ追加)
第十三條 所得稅法第十六條ノ三ノ規定ニ依リ控除ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シテ之ヲ稅務署ニ提出スヘシ
一 保險者ノ住所及名稱
二 保險ノ種類

所得稅法施行規則

三 保險金額
 四 保險金受取人ノ住所、氏名及保險契約者トノ經柄
 五 前年中ニ拂込タル保險料金額
 其ノ年三月十六日以後ニ於テ第三種ノ所得ニ付納稅義務アルニ至リタル者所得稅法第十六條ノ三ノ規定ニ依リ控除ヲ受ケムトスルキハ所得金額ノ決定前其ノ所得ノ申告ト同時ニ前項ノ申請書ヲ提出スヘシ(大正十三年勅令第二十三號ヲ以テ本條ヲ追加、同十五年勅令第二十九號ヲ以テ改正)

第十一條ノ四 稅務署長ニ於テ必要アリト認ムルキハ前條ノ規定ニ依リ申請書ヲ爲シタル者ニ對シ保險料領收證書其ノ他必要ナル書類ノ呈示又ハ提出ヲ命ズルコトヲ得(同上本條ヲ追加、改正)

第十二條ノ五 (同上本條ヲ追加、削除)

第十三條 左ニ掲グル公共團體ニハ所得稅法第十七條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課セズ
 一 府縣組合、市町村組合、町村組合、市町村內ノ區及部、北海道地方費、市町村學校組合、町村學校組合、學區、水利組合、水利組合聯合、耕地整理組合、耕地整理組合聯合、北海道土功組合、重要物產同業組合、重要物產同業組合聯合會、森林組合、酒造組合、酒造組合聯合會、水產組合、水產組合聯合會、畜產組合、畜產組合聯合會、農會、商業會議所其ノ他此等ノ公共團體ニ準ス(キモ、大正十二年勅令第七十八號、同十五年勅令第二十九號ヲ以テ本條ヲ改正)

第十四條 朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ノ公共團體ニシテ各其ノ地ノ法令ニ依リ所得稅ヲ課セザルモノト指定セラレタルモノ

第十五條 左ニ掲グル物產ノ製造業ヲ營ム者ニハ所得稅法第十九條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ免除ス
 一 金、銀、鉛、亞鉛、鐵又ハアルミニウムノ地金
 二 鐵ノ條、竿、テーパー、形、軌條、板、線及管(鑄製ヲ除ク)
 三 鋼ノ合金ノ條、竿、板及管
 四 汽機、原動機(機關車ヲ含ム)及動力ヲ以テ運轉スル鐵製ノ機軸
 五 燐、曹達灰、苛性曹達、硫酸アムモニウム、石炭酸、クロール酸加里及グリセリン
 六 製紙用バルブ
 七 板硝子
 八 コンデンストミル
 九 網、亞麻又ハ毛ノ織物
 前項第九號ノ物產ノ製造業ニ付テハ動力ヲ以テ運轉スル機械ヲ使用シ幅尺一尺八寸以上及長尺三十尺以上ノ織物ノ製造業ニ限ル
 第十條 前條ノ製造業ヲ繼續シ又ハ其ノ繼續ト認ム(キモ事實アル者ハ其ノ製造業ニ付テハ所得稅ノ免除期間ノ殘存ストキニ限リ其ノ免除期間ヲ繼承ス)

第十一條 所得稅法第十九條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ免除スル者ハ同法第二十四條又ハ第二十五條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ但シ其ノ年三月十六日以後ニ於テ第三種ノ所得ニ付納稅義務アルニ至リタルトキハ所得金額ノ決定前其ノ所得ノ申告ト同時ニ之ヲ申請スヘシ(大正十五年勅令第二十九號ヲ以テ本條ヲ改正)

第十二條 前項ノ場合ニ於テ第十三條ノ製造業ヨリ生スル所得ト其ノ他ノ所得ト有ストキハ第十三條ノ製造業ヨリ生スル所得ト其ノ他ノ所得ト區別シテ計算書ヲ添付スヘシ

第十六條 法人ノ各事業年度ノ所得ハ各事業年度決算確定ノ日若ハ合併ノ日ヨリ十四日內又ハ清算著手ノ日ヨリ二十日內ニ之ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ
 第十七條 解散シタル法人ノ清算所得ハ殘餘財產確定シタルトキ其ノ分配前ニ清算期間中ノ收支計算書ヲ添付シテ之ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ殘餘財產數同ニ分テ分配スル場合ニ於テハ其ノ分配スヘキ殘餘財產確定ノ都度之ヲ申告スヘシ

第十八條 合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ清算所得ハ合併ノ日ヨリ十四日內ニ合併ニ關スル書類及合併ニ因リテ繼承シタル資產ノ明細書ヲ添付シ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十九條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ所得ノ種類、金額、所得ノ基本タル資產、營業ノ所在地、所得ノ發生スル場所及所得算出ノ基礎ヲ詳記シ所轄稅務署ニ申告スヘシ所得稅法第二十三條第二項ノ規定ニ依リ同居者ノ所得金額ヲ合算スヘキ場合ニ於テハ各其ノ所得ヲ區別シ連署ヲ以テ申告スヘシ但シ所得アル同居者ノ氏名ヲ附記シ各別ニ申告スルコトヲ妨ケズ

第二十條 所得稅法第五十六條第一項ノ規定ニ依リ支拂調書ヲ提出スル義務アル者ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ大正十五年勅令第二十九號ヲ以テ本條ヲ改正
 一 賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニシテ前年三月一日ヨリ十二月末日迄ノ分ニ付テハ毎年一月末日迄ノ分ニ付テハ毎年三月十五日迄
 二 法人ノ利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニ付テハ配當金額又ハ分配金額ノ確定シタル日ヨリ三十日限但シ無記名式ノ株式ヲ有スル者ニ支拂ヒタル法

所得稅法施行規則

人ノ利益又ハ利息ノ配當ニ付テハ毎年三月十五日迄
 三 俸給、給料、歳費、年金、恩給、退職料又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ニシテ前年一月一日ヨリ引續キ支給ラ受ケル者ノ分ニ付テハ毎年一月末日迄、其ノ他ノ者ノ分ニ付テハ毎年三月十五日迄

第二十一條 前條ノ支拂調書ニハ左ノ各號ノ規定ニ依リ支拂ラ受ケル者ノ住所又ハ居所、氏名及個人別支拂金額ヲ記載スヘシ(大正十五年勅令第二十九號ヲ以テ本條ヲ改正)

一 賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ其ノ支拂金額及支拂金額ノ確定シタル月日
 二 法人ノ利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニ付テハ其ノ支拂金額、支拂金額ノ確定シタル月日及其ノ支拂ラ受ケル者ノ拂込金額別株式數、出資金額、基金其ノ他支拂金額計算ノ基礎但シ無記名式ノ株式ヲ有スル者ニ支拂ヒタル法人ノ利益又ハ利息ノ配當ニ付テハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日ニ至ル期間ノ支拂金額、支拂月日及其ノ支拂ラ受ケタル者ノ拂込金額別株式數其ノ他支拂金額計算ノ基礎
 三 俸給、給料、歳費、年金、恩給、退職料又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ニシテ前年一月一日ヨリ引續キ支給ラ受ケル者ノ分ニ付テハ前年中ノ支拂金額及其ノ金額計算ノ基礎、其ノ他ノ者ノ分ニ付テハ其ノ年分ノ支拂算年額及其ノ金額計算ノ基礎

第二十二條 第二十條第三號ノ規定ニ依リ其ノ年一月末日迄ニ提出シタル支拂調書ニ記載セラレタル者ニシテ其ノ支給ラ受ケタルニ至リタルモノ又ハ住所氏名ニ異動ヲ生シタルモノニ付テハ三月十五日迄ニ異動調書ヲ提出スヘシ(同上本條ヲ改正)

第二十三條ノ二 信託ノ受託者ハ左ノ期限ニ從ヒ各信託ノ計算書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ但シ貸付信託ニシテ受託者個人ナルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス(大正十一年勅令第五百十三號ヲ以テ本條ヲ追加、同十二年勅令第七十八號ヲ以テ改正)

一 信託會社ニ在リテハ各事業年度終了後二十日限
 二 信託會社ニ非サル受託者ニ在リテハ毎年三月十五日限(大正十五年勅令第二十九號ヲ以テ本條ヲ改正)

第二十四條 前條ノ計算書ニハ各信託ニ付テハ事項ヲ記載スヘシ(大正十一年勅令第五百十三號ヲ以テ本條ヲ追加)

一 委託者及受託者ノ住所及氏名
 二 信託行為ノ時及信託會社ニ在リテハ各事業年度末、信託會社ニ非サル受託者ニ在リテハ二月末日ニ於ケル信託財產ノ種類及現在額或信託會社ニ在リテハ各事業年度中、信託會社ニ非サル受託者ニ在リテハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日ニ至ル期間中ニ於ケル信託財產ノ異動及信託ニ關スル收入支出(大正十五年勅令第二十九號ヲ以テ本條ヲ改正)

三 前各號ニ掲グルモノノ外信託行為ノ内容ニ關スル事項

第二十五條 第二十條、第二十二條又ハ第二十三條ノ二ニ規定スル調書又ハ計算書ヲ提出シタル者ニ對シテハ其ノ請求ニ因リ左ノ金額ヲ交付ス
 一 第二十條又ハ第二十二條ニ規定スル調書ニ付テハ記載事項一件一人毎五圓
 二 第二十二條ノ二ニ規定スル計算書ニ付テハ一信託毎三圓

前項ノ金額ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ調書又ハ計算書提出後三十日內ニ請求書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ(大正十一年勅令第五百十三號ヲ以テ本條ヲ改正)

第二十四條 所得稅法第二十八條第一項但書ノ規定ニ依リ所得調查委員會ヲ置ク(キモ市ハ大臣ノ之ヲ指定ス大正十二年勅令第七十八號ヲ以テ本條ヲ改正)

第二十五條 調查委員ノ定數ハ七人トシ特別ノ事由アリト認ムルトキハ大臣ハ之ヲ増減スルコトヲ得(大正十五年勅令第二十九號ヲ以テ本條ヲ改正)

第二十六條 所得稅法第三十三條第二項ノ規定ニ依ル公示ニハ投票及開票ノ日時及場所ヲ記載スヘシ

第二十七條 稅務署長ハ選舉期日前三十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選舉人名簿正副二通ヲ調製シ副本ヲ市區町村長又ハ戸長ニ送付スヘシ
 市區町村長又ハ戸長ハ選舉期日前二十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ五日間市區役所、町村役場又ハ戸長役場ニ於テ選舉人名簿ノ副本ヲ關係者ノ縦覽ニ供スヘシ
 關係者選舉人名簿ノ副本ニ付異議アルトキハ縦覽期間內ニ之ヲ稅務署長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ稅務署長ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ五日內ニ之ヲ決定スヘシ
 前項ノ場合ニ於テ其ノ決定ニ依リ名簿ヲ修正ラ要スルトキハ稅務署長ハ正本ヲ修正シ名簿確定期日前市區町村長又ハ戸長ヲシテ其ノ副本ヲ修正セムヘシ
 選舉人名簿ハ選舉期日前日ヨリ以テ確定ス
 島嶼其ノ他交通不便ノ地ニ於ケル選舉人名簿ニ付テハ大臣大臣ハ第一項乃至第四項ノ規定ニ拘ラス別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 市區町村長又ハ戸長ハ投票區內ニ於テ選舉資格ヲ有スル者ノ中ヨリ二人ノ立會人ヲ選任シ投票及開票ニ立會ハシムヘシ

所得税法施行規則

第三十九條 投票ノ效力ハ開票立會人ノ意見ヲ聽キ市區町村長又ハ戶長之ヲ決定ス...

第三十七條 稅務署長所得税法第二十六條、第五十一條、第五十二條若ハ第七十四條第二項ノ規定ニ依リ所得金額ヲ決定シタルトキ...

便ニ依リ投票スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ投票時間後到着シタル投票ハ無効トス...

所得税法施行規則

第五十四條 所得審査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非ザレハ決議スルコトヲ得...

第六十四條 所得稅ヲ課セサル法人無記名ノ公債又ハ社債ヲ取得シ又ハ喪失シタルトキ...

以上居所ヲ有スル個人ノ第三種ノ所得ニ付テハ左ニ掲グル場合ヲ除ク外...

所得稅法施行規則

但シ所得稅法第十六條ノ規定ヲ施行ニ關スル規定ハ大正九年分所得稅ニ付テハ之ヲ適用セズ

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正十年四月一日公布)

附則 (大正十一年勅令第七十一號附則)

附則 (大正十一年勅令第五百十三號附則)

附則 (大正十二年勅令第七十八號附則)

附則 (大正十五年勅令第二十九號附則)

本令ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

月十六日トアルハ五月一日、第二十一條ノ改正規定中前年三月一日トアルハ前年四月一日トス

營業收益稅法

(大正十五年三月二十七日法律第十一號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ營業收益稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

營業收益稅法

第一條 本法施行地ニ本店、支店其ノ他ノ營業場ヲ有スル營利法人ニハ本法ニ依リ營業收益稅ヲ課ス

第二條 本法施行地ニ營業場ヲ有シ左ニ掲グル營業ヲ爲ス個人ニハ本法ニ依リ營業收益稅ヲ課ス

一 物品販賣業(動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セサルモノノ販賣ヲ含ム)

二 銀行業

三 無盡業

四 金貸付業

五 物品貸付業(動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セサルモノノ貸付ヲ含ム)

六 製造業(瓦斯電氣ノ供給、物品ノ加工修理ヲ含ム)

七 運送業(運送取扱ヲ含ム)

八 倉庫業

九 印刷業

十 出版業

十一 寫真業

十二 旅館業

十三 旅人宿業(下宿ヲ含ミ木賃宿ヲ含マズ)

十四 料理店業

十五 營業收益稅法

營業收益稅法

第十六條 周旋業

第十七條 代理業

第十八條 仲立業

第十九條 問屋業

營業收益稅ハ營業ノ純益ニ付テ之ヲ賦課ス

營業收益稅ハ各事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル

法人ノ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス

合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ純益ニ付營業收益稅ヲ納ムル義務アルモノトス

個人ノ純益ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ依ル但シ前年一月一日ヨリ引續キ爲シタルニ非サル營業ニ付テハ其ノ年ノ豫算ニ依リ計算ス

相續シタル營業ニ付テハ相續人カ引續キ爲シタルモノト看做シ其ノ純益ヲ計算ス

資本利子稅ヲ課セルルヘキ資本利子ハ之ヲ純益ニ算入セス

左ニ掲グル營業ノ純益ニハ營業收益稅ヲ課ス

一 政府ノ發行スル印紙切手類ノ賣却

二 度量衡ノ製作、修繕又ハ販賣

三 自己ノ採掘シ又ハ採取シタル礦物ノ販賣

四 新聞紙法ニ依ル出版

五 本法施行地外ニ在ル營業場ニ於テ爲ス營業

六 法人ノ漁業又ハ演劇興業

七 個人ノ自己ノ收穫シタル農產物、林產物、畜產物若ハ水產物ノ販賣又ハ之ヲ原料トシテ製造但シ特ニ營業場ヲ設ケテ爲ス販賣又ハ製造ヲ除ク

第八條 勅令ヲ以テ指定スル重要物產ノ製造業ヲ營ム者ニハ命

令ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ營業ヨリ生スル純益ニ付營業收益稅ヲ免除ス

第九條 個人ノ純益金額四百圓ニ滿タサルトキハ營業收益稅ヲ課セズ

第十條 營業收益稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

個人 百分ノ三・六

法人 百分ノ二・八

法人カ各事業年度ニ於テ納付シタル地租額又ハ資本利子稅額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該事業年度ノ營業收益稅額ヨリ之ヲ控除ス

個人カ其ノ營業用ノ土地ニ付納付シタル地租額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ營業收益稅額ヨリ之ヲ控除ス

營業收益稅法

令ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ營業ヨリ生スル純益ニ付營業收益稅ヲ免除ス

第九條 個人ノ純益金額四百圓ニ滿タサルトキハ營業收益稅ヲ課セズ

第十條 營業收益稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

個人 百分ノ三・六

法人 百分ノ二・八

法人カ各事業年度ニ於テ納付シタル地租額又ハ資本利子稅額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該事業年度ノ營業收益稅額ヨリ之ヲ控除ス

個人カ其ノ營業用ノ土地ニ付納付シタル地租額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ營業收益稅額ヨリ之ヲ控除ス

前二項ノ場合ニ於テ控除スヘキ地租又ハ資本利子稅ハ純益計算上ニ之ヲ損金又ハ必要經費ニ算入セス

第十一條 納稅義務アル法人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ純益金額ヲ政府ニ申告スヘシ

第十二條 納稅義務アル個人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ毎年三月十五日迄ニ純益金額ヲ政府ニ申告スヘシ

第十三條 法人ノ純益金額ハ第十一條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定シ個人ノ純益金額ハ所得稅法ノ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

第十四條 所得調査委員會閉會後個人ノ純益金額ノ決定ニ付脱漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲スヘカシ年ノ翌年ニ於ケル所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ純益金額ヲ決定スルコトヲ得

第十五條 所得調査委員會閉會後個人ノ營業ニ付納稅義務アルコトヲ申出テ又ハ純益金額ノ增加アルコトヲ申出タルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラス政府ニ於テ其ノ純益金額ヲ決定ス

第十六條 稅務署長ハ毎年個人ノ營業ニ付納稅義務アリト認

營業收益稅法

△ル者ノ純益金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ所得調査委員會ニ送付スヘシ

前項ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニテ之ヲ準用ス

第十五條 所得稅法第五十條乃至第五十二條ノ規定ハ純益金額ノ決定及決定ニ付テ之ヲ準用ス

第十六條 第十三條又ハ前條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第十七條 納稅義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル純益金額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ト雖政府ハ税金ノ徵收ヲ猶豫セズ

第十八條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得稅法ノ所得審査委員會ノ決議ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得稅法第五十二條及第六十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ之ヲ準用ス

第十九條 個人ノ營業ニ付納稅義務アル者純益金額二分ノ一以上減損アルトキハ政府ニ純益金額ノ更訂ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ翌年一月三十一日ヲ過キタルトキハ此ノ限ニ在ラス

純益金額決定後營業繼續ニ因リ純益金額ノ減損シタル場合ハ前項ノ規定ヲ適用セズ

第二十條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ政府ハ純益金額ヲ査數シ二分ノ一以上ノ減損アルトキハ之ヲ更訂ス

第二十一條 納稅義務者第十八條ノ決定又ハ前條ノ更訂處分ニ對シ不服アルトキハ訴訟又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 法人ノ營業收益稅ハ事業年度毎ニ之ヲ徵收ス個人ノ營業收益稅ハ年額ヲ二分シ左ノ二期ニ於テ之ヲ徵收ス

第一期 其ノ年八月一日ヨリ三十一日限

第二期 其ノ年十一月一日ヨリ三十日限

前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

附則

本法ハ大正十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

法人ノ大正十六年一月一日以後ニ終了スル事業年度ノ期間カ大正十五年ニ跨ルモノニ付テハ當該事業年度ノ純益金額ヨリ日割計算ノ方法ニ依リ算出シタル大正十五年ニ屬スル期間ノ純益ヲ控除ス

資本利子稅法

(大正十五年三月二十七日法律 第十二號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ資本利子稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

資本利子稅法

第一條 本法施行地ニ於テ資本利子ノ支拂ヲ受クル者ニハ本法ニ依リ資本利子稅ヲ課ス

第二條 資本利子稅ハ本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル左ノ資本利子ニ付テ之ヲ課ス

甲種 公債、社債、產業債券若ハ銀行預金ノ利子又ハ貸付信託ノ利益

乙種 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者ノ第三種ノ所得中營業ニ非サル資金又ハ預金ノ利子

本法ニ於テ貸付信託ト稱スルハ所得稅法第三條ノ三ニ規定スル貸付信託ヲ謂フ

第三條 甲種ノ資本利子ハ其ノ支拂ヲ受クヘキ金額ニ依ル

第四條 乙種ノ資本利子ハ前年中ノ收入金額ニ依ル

被相続人ノ收入金額ハ之ヲ相続人ノ收入金額ト看做ス

第五條 甲種ノ資本利子ニシテ左ニ掲グルモノニハ資本利子稅ヲ課セズ

一 所得稅法其他ノ法律ニ依リ第二種所得稅ヲ課セラルル者ノ支拂ヲ受クル利子

二 貯蓄債券又ハ復興貯蓄債券ノ利子

第六條 資本利子稅ノ稅率ハ資本利子金額百分ノ二トス

信託會社其ノ引受タル貸付信託ノ信託財產ニ納付シタル資本利子稅額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該貸付信託ノ利益ニ對シ資本利子稅額ヨリ之ヲ控除ス

前項ノ場合ニ於テ控除スヘキ資本利子稅ハ其ノ貸付信託ノ利益ニテ之ヲ加算ス

第七條 乙種ノ資本利子ニ付納稅義務アル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ毎年三月十五日迄ニ其ノ資本利子金額ヲ政府ニ申告スヘシ

第八條 乙種ノ資本利子金額ハ所得稅法ノ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得調査委員會開會後乙種ノ資本利子ノ決定ニ付脱漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲スヘカリシ年ノ翌年ニ於ケル所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ資本利子金額ヲ決定スルコトヲ得

第九條 稅務署長ハ毎年乙種ノ資本利子ニ付納稅義務アリト認ムル者ノ資本利子金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ所得調査委員會ニ送付スヘシ

第十條 前項ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニテ之ヲ準用ス

第十一條 所得稅法第五十條乃至第五十二條ノ規定ハ資本利子金額ノ決定及決定ニ付テ之ヲ準用ス

第十二條 第八條又ハ前條ノ規定ニ依リ乙種ノ資本利子金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第十三條 納稅義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル資本利子金額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第十四條 前項ノ請求アリタル場合ト雖政府ハ税金ノ徵收ヲ猶豫セズ

第十五條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得稅法ノ所得審査委員會ノ決議ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得稅法第五十二條及第六十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ之ヲ準用ス

第十六條 前條第一項ノ規定ニ依リ徵收スヘキ資本利子稅ヲ徵收セザルトキ又ハ其ノ徵收シタル税金ヲ納付セザルトキハ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ支拂者ヨリ徵收ス

第十七條 乙種ノ資本利子ニ付テハ第三種ノ所得ニ對スル所得稅ノ納稅地ヲ以テ資本利子稅ノ納稅地トス

第十八條 收稅官吏ハ調査上必要アルトキハ資本利子ノ支拂ヲ受ケ又ハ其ノ支拂ヲ爲スト認ムル者ニ質問スルコトヲ得

第十九條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ因リ資本利子稅ヲ通脫シタル者ハ其ノ通脫シタル税金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出タル者ハ其ノ罪ヲ開ハス

第二十條 前項ノ場合ニ於テ乙種ノ資本利子ニ付資本利子稅ヲ通脫シタル者ノ資本利子金額ハ第八條第二項ノ規定ニ拘ラス政府ニ於テ之ヲ決定シ直ニ其ノ税金ヲ徵收ス

第二十一條 資本利子ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ洩洩シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十二條、第四十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヒス但シ

資本利子稅法

資本利子税法 資本利子税法施行規則

八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヒス但シ前條ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附則

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ施行ス 乙種ノ資本利子ニ付テハ大正十五年分資本利子税ヨリ本法ヲ適用ス但シ大正十五年ニ限リ第七條中三月十五日トアルハ四月三十日、第十五條中其ノ年八月一日ヨリ三十一日限トアルハ其ノ年九月一日ヨリ三十日限、第十條ノ規定ニ依ル期日五月三十一日トアルハ八月三十日トス

資本利子税法施行規則

(大正十五年三月三十一日 勅令第三十一號)

股資本利子税法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム 資本利子税法施行規則

第一條 資本利子税法第六條第二項ノ規定ニ依リ貸付信託ノ利益ニ對スル資本利子税額ヨリ控除スヘキ資本利子税額ハ信託會社ニ於テ貸付信託ノ利益ニ對スル資本利子税徵收ノ際ニ之ヲ控除ス

第二條 稅務署長ニ於テ必要アリト認ムルキハ前條ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シタル信託會社ニ對シ其ノ計算ヲ證明スヘキ書類又ハ帳簿ノ呈示又ハ提出ヲ命スルコトヲ得

第三條 乙種ノ資本利子ニ付納稅義務アル者ハ資本利子ノ金額及算出ノ基礎ヲ詳記シ所轄稅務署ニ申告スヘシ 前項ノ申告ハ所得稅法ニ依リ所得ノ申告書ニ附記シテ之ヲ爲ス

第四條 稅務署長資本利子税法第八條、第十條又ハ第九條第二項ノ規定ニ依リ資本利子金額ヲ決定シタルキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第五條 資本利子税第十二條第一項ノ審査ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ事由ヲ具シ證據書類ヲ添ヘ資本利子金額ノ決定ヲ爲シタル稅務署長ヲ經由シ稅務監督局長ニ申出ツヘシ

第六條 稅務監督局長資本利子税法第十三條ノ規定ニ依リ資本利子金額ヲ決定シタルキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第七條 資本利子税法第五條第一號ノ規定ニ依リ資本利子税額ヲ課セラルル者無記名ノ公債、社債又ハ產業債券ヲ取得シ、讓渡シ又ハ喪失シタルキハ其ノ名稱、額面金額、記

號及番號ヲ利子支拂ノ取扱所ニ通知スヘシ但シ所得稅法施行規則第六十四條ノ規定ニ依リ通知ヲ爲シタルキハ之ヲ省略スルコトヲ得 第八條 甲種ノ資本利子ニ付其ノ金額ノ支拂者資本利子税ヲ徵收シタルキハ翌月十日迄ニ拂込書及計算書ヲ添ヘ之ヲ最寄ノ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ニ拂込ムヘシ

附則

本令ハ大正十五年四月一日ヨリ施行ス

相續税法

(明治三十八年一月一日 法律第十號)

改正、明四三、法四、大三、法二、大一 一、法四八、大一、法一三

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ相續税法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

相續税法

第一條 相續開始シタルキハ開始地カ帝國内ニ在ルト否トハ問ハス又被相續人若ハ相續人カ帝國臣民タルト否トハ問ハス本法施行地ニ在ル相續財產ニハ本法ニ依リ相續稅ヲ課ス

第二條 被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有スルトキハ左ニ掲グル財產ヲ以テ本法施行地ニ在ル相續財產トス

一 本法施行地ニ在ル不動産及不動産

二 本法施行地ニ在ル不動産ノ上ニ存スル權利

三 前二號ニ掲ケタルモノ以外ノ財產權

被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有セザルトキハ前項第一號及第二號ノ財產ヲ以テ本法施行地ニ在ル相續財產トス

船舶ノ所在ハ船籍ノ所在ニ依ル 相續開始前一年内ニ本法施行地内ヨリ本法施行地外ニ轉シタルモノノ住所又ハ船籍ハ本法施行地内ニ在ルモノト看做ス

第三條 被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有スルトキハ相續開始ノ際本法施行地ニ在ル相續財產ノ價額ニ相續開始前一年内ニ被相續人カ本法施行地ニ在ル財產ニ付爲シタル贈與ノ價額ヲ加ヘ其ノ中ヨリ左ノ金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課稅價格トス

相續税法

一 公課

二 被相續人ノ葬式費用

被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有セザルトキハ相續開始ノ際本法施行地ニ在ル相續財產ノ價額ニ相續開始前一年内ニ被相續人カ本法施行地ニ在ル財產ニ付爲シタル贈與ノ價額ヲ加ヘタルモノヨリ左ノ金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課稅價格トス

一 其ノ財產ニ係ル公課

二 其ノ財產目的トスル留置權、特別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ以テ擔保セラルル債務

三 其ノ財產ニ關スル贈與ノ義務

永代借地權ハ相續稅ノ課稅價格ニ算入セス 公共團體又ハ慈善其ノ他ノ公益事業ニ對シ爲シタル贈與及遺贈ハ課稅價格ニ算入セス明治四十四年法律第四號ヲ以テ本條ヲ改正

第四條 一 (大正三年法律第二十二號ヲ以テ本條ヲ追加、同十五年法律第十三號ヲ以テ削除)

相續財產ノ價額ハ相續開始ノ時ノ價額ニ依ル 地上權、永小作權及定期金ニ付テハ政府ハ左ノ方法ニ依リ其ノ價格ヲ評定ス (大正十五年法律第十三號ヲ以テ本項ヲ改正、第一號ヲ削除第二號ヲ第一號トシ以下順次繰上ル)

一 地上權ニ付テハ左ノ金額ヲ以テ其ノ價額トス

地上權ノ目的タル土地ノ賃賃價格 二倍

地上權ノ目的タル土地ノ賃賃價格 三倍

地上權ノ目的タル土地ノ賃賃價格 四倍

地上權ノ目的タル土地ノ賃賃價格 五倍

一 公課

地上權ノ目的タル土地ノ賃賃價格 五倍

地上權ノ目的タル土地ノ賃賃價格 七倍

地上權ノ目的タル土地ノ賃賃價格 十二倍

永小作權ニ付テハ左ノ金額ヲ以テ其ノ價額トス

永小作權ノ目的タル土地ノ賃賃價格 二倍

永小作權ノ目的タル土地ノ賃賃價格 三倍

永小作權ノ目的タル土地ノ賃賃價格 五倍

有定期金ハ其ノ殘存期間ニ於ケル總金額ヲ以テ其ノ價額トス但シ一年ノ定期金ノ二十倍ヲ超ユルコトヲ得

無定期金ハ其ノ一年ノ定期金ノ二十倍ヲ以テ其ノ價額トス

終身定期金ハ其ノ終身定期金ノ總額ヲ以テ其ノ價額トス

二十歳未満ノ者 十年

三十歳未満ノ者 八年

四十歳未満ノ者 六年

五十歳未満ノ者 四年

六十歳未満ノ者 二年

六十歳以上ノ者 一年

相続税法

第五條 條件附權利、存続期間ノ不確定ナル權利、信託ノ利益ヲ受クヘキ權利又ハ訴訟中ノ權利ニ付テハ政府ノ認ムル所ニ依リ其ノ價格ヲ評定ス
 第三條ニ依リ控除スヘキ債務金額ハ政府力確實ト認メタルモノニ限ル(大正十一年法律第四十八號ヲ以テ本條ヲ改正)
 第六條 課稅價格カ家督相続ニ在リテハ五千圓、遺産相続

ニ在リテハ千圓ニ滿タサルトキハ相続稅ヲ課セス(大正三年法律第二十二號、同十五年法律第十三號ヲ以テ本條ヲ改正)
 第七條 軍人、軍屬ノ戦死又ハ戦中ノ爲受ケタル傷疾疾病ニ起因シタル死亡ニ因リ相続開始シタルトキハ相続稅ヲ課セス但シ傷疾者又ハ疾病者ニシテ負傷又ハ發病後一年ヲ經過

シ死亡シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 第八條 相続稅ハ課稅價格ヲ左ノ各級ニ區分シ其ノ各區分ニ對シ相続人ノ種類ニ從ヒ遞次ニ各稅率ヲ適用シテ之ヲ課ス(大正十五年法律第十三號ヲ以テ本項ヲ改正)

課稅價格	家督相続	稅	率
五千圓以下ノ金額	相續人カ被相續人ノ家族タル直系卑屬ナルトキ	相續人カ被相續人ノ指定シタル者、民法第九百八十二條ニ依リ選定セラレタル者、被相續人ノ家族タル直系尊屬又ハ入夫ナルトキ	相續人カ民法第九百八十五條ニ依リ選定セラレタル者ナルトキ
五千圓ヲ超ユル金額	千分ノ五	千分ノ六	千分ノ八
一萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ六	千分ノ七	千分ノ十
二萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ七	千分ノ八	千分ノ十五
三萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ八	千分ノ十	千分ノ二十
四萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ十	千分ノ十五	千分ノ二十五
五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ十五	千分ノ二十	千分ノ三十
七萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十	千分ノ二十五	千分ノ四十
十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十五	千分ノ三十	千分ノ五十
十五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十	千分ノ四十	千分ノ六十
二十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ四十	千分ノ五十	千分ノ七十
三十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ五十	千分ノ六十	千分ノ八十
四十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ六十	千分ノ七十	千分ノ九十
五十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ七十	千分ノ八十	千分ノ百
七十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ八十	千分ノ九十	千分ノ百二十

課稅價格	遺產相続	稅	率
百圓以下ノ金額	相續人カ直系卑屬ナルトキ	相續人カ配偶者又ハ直系尊屬ナルトキ	相續人カ其ノ他ノ者ナルトキ
百圓ヲ超ユル金額	千分ノ十	千分ノ十二	千分ノ十七
二百圓ヲ超ユル金額	千分ノ十二	千分ノ十四	千分ノ二十
三百圓ヲ超ユル金額	千分ノ十四	千分ノ十七	千分ノ二十五
五百圓ヲ超ユル金額	千分ノ十七	千分ノ二十	千分ノ三十五
一萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十	千分ノ二十五	千分ノ四十五
二萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十五	千分ノ三十五	千分ノ五十五
三萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十	千分ノ四十五	千分ノ六十五
四萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十五	千分ノ五十五	千分ノ七十五
五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ四十	千分ノ六十五	千分ノ八十五
七萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ四十五	千分ノ七十五	千分ノ九十五
十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ五十	千分ノ八十五	千分ノ百
十五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ六十	千分ノ九十五	千分ノ百
二十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ七十	千分ノ百	千分ノ百
三十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ八十	千分ノ百	千分ノ百
四十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ九十	千分ノ百	千分ノ百
五十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百	千分ノ百	千分ノ百
七十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百	千分ノ百	千分ノ百

課稅價格	遺產相続	稅	率
千圓以下ノ金額	相續人カ直系卑屬ナルトキ	相續人カ配偶者又ハ直系尊屬ナルトキ	相續人カ其ノ他ノ者ナルトキ
千圓ヲ超ユル金額	千分ノ十	千分ノ十二	千分ノ十七
五千圓ヲ超ユル金額	千分ノ十二	千分ノ十四	千分ノ二十
一萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ十四	千分ノ十七	千分ノ二十五
二萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ十七	千分ノ二十	千分ノ三十五
三萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十	千分ノ二十五	千分ノ四十五
四萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十五	千分ノ三十五	千分ノ五十五
五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十	千分ノ四十五	千分ノ六十五
七萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十五	千分ノ五十五	千分ノ七十五
十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ四十	千分ノ六十五	千分ノ八十五
十五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ五十	千分ノ七十五	千分ノ九十五
二十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ六十	千分ノ八十五	千分ノ百
三十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ七十	千分ノ九十五	千分ノ百
四十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ八十	千分ノ百	千分ノ百
五十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ九十	千分ノ百	千分ノ百
七十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百	千分ノ百	千分ノ百
百圓ヲ超ユル金額	千分ノ百	千分ノ百	千分ノ百
二百圓ヲ超ユル金額	千分ノ百	千分ノ百	千分ノ百
三百圓ヲ超ユル金額	千分ノ百	千分ノ百	千分ノ百
五百圓ヲ超ユル金額	千分ノ百	千分ノ百	千分ノ百
一萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百	千分ノ百	千分ノ百
二萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百	千分ノ百	千分ノ百
三萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百	千分ノ百	千分ノ百
四萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百	千分ノ百	千分ノ百
五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百	千分ノ百	千分ノ百
七萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百	千分ノ百	千分ノ百
十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百	千分ノ百	千分ノ百
十五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百	千分ノ百	千分ノ百
二十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百	千分ノ百	千分ノ百
三十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百	千分ノ百	千分ノ百
四十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百	千分ノ百	千分ノ百
五十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百	千分ノ百	千分ノ百
七十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百	千分ノ百	千分ノ百

相続税法

相續稅法

外國ノ法律ニ依リ開始シタル相續ニ關シテハ遺產相續ニ關スル稅率ヲ適用ス...

第九條 相續人ノ廢除若ハ其ノ取消ニ關スル裁判ノ確定前又ハ相續ノ承認若ハ推定遺產相續人ニ對スル稅率ヲ適用シ...

第十條 相續稅ノ課稅額ヲ追徵シ又ハ還付スル稅率ノ適用シテ相續稅ノ課稅額...

第十一條 相續人ハ相續開始ヲ知リタル日ヨリ遺言執行者又ハ相續財產管理人ハ就職ノ日ヨリ三箇月以内ニ相續財產ノ目錄及相續財產ノ價額中ヨリ控除セラルヘキ金額ノ明細書ヲ政府ニ提出ス...

第十二條 日籍更左ノ事項ニ關スル屆書ヲ受理シタルトキハ之ヲ相續人確定シタルトキハ前二項ノ書類ヲ提出スルト同時ニ又ハ其ノ確定ノ日ヨリ一箇月以内ニ相續人ノ相續關係ヲ記載シタル書面ヲ政府ニ提出ス...

收稅官廳ニ報告スシ

- 一 死亡又ハ失踪
二 戸主ノ隱居又ハ國籍喪失
三 戸主カ婚姻又ハ養子縁組ノ取消ニ因リテ其ノ家ヲ去リタルコト
四 入夫婚姻ニ因リテ女戸主カ戸主權ヲ喪失シタルコト
五 戸主タル夫ノ離婚

第十三條 課稅價格ハ政府ノ決定ニ依リ相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人ニ通知ス...

第十四條 相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人前條ノ決定ニ對シ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ申立テ再審査ヲ求ムルコトヲ得...

第十五條 前條ノ請求アリタルトキハ相續稅審査委員會ノ諮問ヲ經テ政府ノ決定ス...

第十六條 課稅價格ノ決定ニ對シ不服アル者ハ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得...

分家ヲ爲スニ際シ若ハ分家ヲ爲シタル後本家ノ戸主又ハ家族カ分家ノ戸主又ハ家族ニ贈與ヲ爲シタルトキ

前項ノ遺產相續ニ關シテハ第十條ノ規定ヲ適用セズ...

第二十三條 信託ニ付委託者カ他人ニ信託ノ利益ヲ受クヘキ權利ヲ有セシメタルトキハ其ノ時ニ於テ信託ノ利益ヲ受クヘキ權利ヲ贈與又ハ遺贈シタルモノト看做ス...

第二十四條 第十一條ニ依リ提出シタル書類ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ相續稅ノ通脫ヲ圖リ又ハ通脫シタル者ハ其ノ通脫シ又ハ通脫セムトシタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス...

第二十五條 第二十一條ニ違反シタル者ハ三箇月以上三十日以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス...

第二十六條 府縣市町村其ノ他ノ公共團體ハ相續稅ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得ス

相續稅法 相續稅法施行規則

本法ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (明治四十三年法律第四號附則)

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本法施行前開始シタル相續ニ關シテハ仍舊法ヲ適用ス

附則 (大正三年法律第二十二號附則)
本法ハ大正四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本法施行前開始シタル相續ニ關シテハ仍舊法ヲ適用ス

附則 (大正十五年法律第十三號附則)
本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本法施行前開始シタル相續ニ關シテハ仍舊法ヲ適用ス

相續稅法施行規則

第一條 相續開始地ノ稅務署ヲ以テ相續稅ノ所轄稅務署トス

第二條 相續開始シタルトキハ相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人ハ相續稅法第十一條第一項ニ定メタル期間内ニ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル書面ニ相續財產目錄及相續財產ノ價格中ヨリ控除セラルヘキ金額ノ明細書ヲ添附シ...

第三條 相續開始ノ日
四 家督相續、遺產相續ノ區別
五 被相續人カ相續開始前一年内ニ相續稅法施行地ニ在ル財產ニ付贈與ヲ爲シタルトキハ其ノ財產ノ價額及受贈者ノ住所氏名
六 相續人ノ住所氏名
七 相續人ト被相續人トノ關係

前項ノ書類ヲ提出スル場合ニ於テ相續人確定セザルトキハ前

相續稅法施行規則

項第六號及第七號ノ代リニ相續人ノ確定セラル理由ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テ相續人確定シタルキハ相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人ハ第一項第六號及第七號ニ掲クル事項ヲ記載シタル書面ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

相續稅法第二十三條ニ依リ遺產相續ノ開始ト看做サルヘキ場合ニ於テハ第一項第一號乃至第三號第六號及第七號ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ提出スルヲ以テ足ル

第三條 稅務署長ハ相續財産ノ價額ヲ評定シテ課稅價格ヲ決定シテ相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人ニ通知スヘシ

相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人ハ前項ノ決定ニ對シテ其ノ說明ヲ求ムルコトヲ得

第四條 課稅價格ノ決定ニ對シ異議アル者再審査ヲ求ムトスルトキハ其ノ理由ヲ詳記シ相續稅法第十四條ニ定メタル期間内ニ所轄稅務署長ニ申出ツヘシ

第五條 稅務署長再審査ヲ請求シ受ケタルトキハ相續稅審查委員會ノ諮問ヲ經テ課稅價格ヲ決定シ之ヲ異議申立人ニ通知スヘシ

第三條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニテ之ヲ準用ス

第六條 各稅務署所轄内ニ相續稅審查委員會ヲ置ク但シ稅務署所轄内ニ在ル市又ハ北海道沖繩縣ノ區ニ付テハ大臣ハ特ニ審查委員會ヲ置クコトヲ得

第七條 審查委員會ハ大臣ノ命ニ依リ收稅官吏二名及直接國稅百圓以上ヲ納ムル者三名ヲ以テ之ヲ組織ス

審查委員ノ任期ハ三年トス

第八條 審查委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第九條 審查委員會ハ毎年初ノ開會ノ時ニ於テ審查委員中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ

第十條 審查委員會ノ會長出席セザルトキハ出席シタル審查委員中ノ年長者ヲ代理スヘシ

第十一條 審查委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非サレハ決議スルコトヲ得ス

議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第十二條 審查委員ハ自己又ハ自己ノ親族ノ相續ニ關スル審查ノ議事ニ與ルコトヲ得ス

第十三條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ審查委員會ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第十四條 相續人二人以上ナル場合ニ於テ相續稅納付前相續財産ノ分割ヲ爲スモ相續稅ハ各相續人連帶シテ之ヲ納付スルコトヲ要ス

第十五條 相續稅ノ年賦延納ヲ求ムトスル者ハ擔保ノ種類及延納期間ヲ記シ相續稅法第十七條ノ期間内ニ所轄稅務署ニ出願スヘシ

第十六條 擔保ノ種類ハ左ニ掲クルモノニ限ル

一 稅務署長ニ於テ確實ト認ムル有價證券

二 土地

三 建物

四 稅務署長ニ於テ納稅保證ニ堪フル資力アリト認ムル保證人

第十七條 擔保トシテ有價證券ヲ提供セムトスル者ハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證書ヲ提出スヘシ

擔保トシテ土地建物ヲ提供シタル者アルトキハ稅務署長ハ抵當權ノ登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ

第十八條 稅務署長ニ於テ擔保物ノ價格減少シタリト認ムルトキ又ハ保證人ノ資力納稅保證ニ堪ヘザルニ至リタリト認ムルトキハ增擔保ヲ提供セシメ又ハ保證人ヲ變換セシムルコトヲ得

第十九條 年賦延納金額ハ相續稅金額ヲ延納年間ニ平分シテ之ヲ定ム

第二十條 增擔保ヲ提供スヘキ場合ニ於テ之ヲ提供セズ又ハ保證人ヲ變換スヘキ場合ニ於テ之ヲ變換セザルトキハ稅務署長ハ年賦延納ノ許可ヲ取消シ税金ヲ一時ニ徵收スヘシ年賦延納金額納納ノ場合ニ於テモ亦同シ

第二十一條 年賦延納ノ許可ヲ受ケタル者相續稅ヲ納付シタルトキハ擔保物アルトキハ擔保物ヲ以テ其ノ税金ニ充テ保證人アルトキハ保證人ニ通知シテ其ノ税金ヲ納メシム

擔保物ヲ以テ税金ニ充ツヘキ場合ニ於テハ之ヲ公賣ニ付シ相續稅及公賣ノ費用ニ充テ不足アルトキハ之ヲ追徴シ殘餘アルトキハ之ヲ還付ス

保證人ニ於テ税金ヲ完納セザルトキハ納稅者ニ對シテ納納處分ヲ行ヒ仍税金ニ不足アルトキハ保證人ニ對シテ納納處分ヲ行フ

第二十二條 年賦延納ノ許可ヲ受ケタル者相續稅ヲ完納シタルトキハ稅務署長ハ擔保解除ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十三條 相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人相續稅法第十一條ニ依リ誓願ノ期限迄ニ提出セザルトキハ所轄稅務署長ハ期間ヲ定メ之ヲ催告スヘシ

前項ノ期間内ニ誓願ヲ提出セザルトキハ所轄稅務署長ハ其ノ認ムル所ニ依リ課稅價格ヲ決定スヘシ

附則

本令ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●印紙稅法

(明治三十二年三月十日) 法律第五十四號

改正、明三四一法一六、明四〇一法二七、明四二一法四二、明四三一法一四、明四四一法四一、大一一一法四七、大一一一法二一、大一一一法二二、昭二一法七

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル印紙稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

印紙稅法

第一條 財産權ノ創設、移轉、變更若ハ消滅ヲ證明スヘキ證書、帳簿及財産權ニ關スル追認若ハ承認ヲ證明スヘキ證書ヲ作成スル者ハ此ノ法律ニ依リ印紙稅ヲ納ムヘシ

第二條 (大正十二年法律第十二號ヲ以テ本條ヲ改正、昭和二年法律第七號ヲ以テ削除)

第三條 (大正十二年法律第十二號ヲ以テ本條ヲ削除)

第四條 左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ證書ハ一通毎ニ、帳簿ハ一冊一年以内ノ附込ニ對シテ印紙稅ヲ納ムヘシ

一 不動産、鐵道財團、軌道財團又ハ船舶ノ所有權移轉ニ關スル證書

二 消費貸借ニ關スル證書

三 請負ニ關スル證書

四 運送ニ關スル證書

五 備船契約書

六 委任狀

記載金高五十圓以下ノモノ 二錢

同 百圓以下ノモノ 三錢

同 五百圓以下ノモノ 十錢

同 千圓以下ノモノ 二十錢

同 一萬圓以下ノモノ 五十錢

同 一萬圓ヲ超ユルモノ 一圓

記載金高千圓ノモノ 三圓

記載金高千圓ノモノ 二圓

七 約束手形

八 銀行預金證書

九 爲替手形

十 產案組合ハ產案組合聯合會ノ發スル貯蓄證書

十一 產案組合聯合會、重要輸出品工業組合聯合會又ハ輸出組合ノ發スル貯蓄證書

十二 出資證券

十三 船荷證券

十四 運送貨物引換證券

十五 倉庫證券

十六 保險證券

十七 債權證券

十八 株式證券

十九 地上權、永小作權又ハ地役權ニ關スル證書

二十 使用貸借、貸借借、履借、寄託又ハ定期金ニ關スル證書

二十一 信託行爲ニ關スル證書

二十二 無擔保ニ關スル證書

二十三 定款又ハ組合契約書

二十四 權利ノ變更ニ關スル證書

二十五 追認又ハ承認ニ關スル證書

二十六 物品切手

二十七 受取書

二十八 質權、抵當權ニ關スル證書

二十九 三十

三十一 前各號以外ノ證書

三十二 預金通帳 五錢

三十三 前號以外ノ通帳 五十錢

三十四 判取帳 五十錢

證書ニ金高記載ナキモ證書面ニ標記シタル價額ノ單位其ノ他ノ記載事項ニ依リ其ノ金高ヲ算出スルコトヲ得ルモノハ其ノ總金額ヲ以テ記載金高ト看做ス大正十四年法律第二十號、昭和二年法律第七號ヲ以テ本條ヲ改正)

第五條 左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要ス(大正十二年法律第十二號ヲ以テ本條ヲ改正)

一 官廳又ハ公署ヨリ發スル證書、帳簿

二 官廳又ハ公署ニ職ヲ奉スル者ノ職務上發スル證書、帳簿

三 國庫金ノ取扱ニ關シテ發スル證書

四 慈善又ハ公共事業ノ爲ニスル寄附ニ關シ官廳又ハ公署ニ提出スル證書

五 小切手

六 產案組合ノ發スル出資證券若ハ貯蓄通帳又ハ住宅組合ノ發スル出資證券(昭和二年法律第七號ヲ以テ本條ヲ改正)

七 記載金高十圓未満ノ約束手形及爲替手形

八 貯蓄通帳、積金通帳又ハ積金證書(貯蓄銀行法第一條ノ貯蓄金又ハ積金ニ付發スルモノニ限ル)(同上本條ヲ改正)

九 產案組合又ハ產案組合聯合會ノ發スル貯蓄證書ニテ其ノ記載金高十圓未満ノモノ

十 記載金高一圓未満ノ物品切手

十一 賣買仕切書(同上本條ヲ改正)

十二 物品又ハ有價證券ノ賣買契約證書(同上本條ヲ改正)

印紙稅法

印紙税法

十三 送状(昭和二年法律第七號ヲ以テ本號ヲ改正)
十四 記載金高十圓未満若ハ金高記載ナキ又ハ營業ニ關セサル受取書
十五 主たる債務ノ證書ニ併記シタル擔保契約書
十六 手形及證券ノ裏書又ハ之ニ併記シタル受取書
十七 株券又ハ債券ニ記載シタル譲渡ノ證明書
十八 手形ノ引受及保證
十九 手形又ハ證券ノ拒絕證書
二十 手形又ハ證券ノ複本及附本
二十一 農業倉庫證券又ハ聯合農業倉庫證券(同上本號ヲ追加)
二十二 質札又ハ質物通帳(質屋營業者ノ發スルモノニ限リ)(同上本號ヲ追加)
二十三 勤務通帳(同上本號ヲ追加)
二十四 乘車券、乗船券又ハ各種入場券(同上本號ヲ追加)
二十五 第四條第一號乃至第五號及第三十一號ノ證書ニシテ記載金高十圓未満ノモノ(同上本號ヲ追加)

第十條 印紙ヲ貼用スヘキ證書、帳簿ニシテ營業ニ關スルモノハ當該官吏之ヲ檢査スルコトアルヘシ(昭和二年法律第七號ヲ以テ本號ヲ改正)
第十一條 證書、帳簿ニ相當印紙ヲ貼用スヘキモノハ第六條但書ニ依リ印紙ノ押捺ヲ受ケザル者ハ證書、帳簿一箇毎ニ脱税高二十倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ脱税高二十倍ノ金額三圓ニ達セザルトキハ三圓ノ科料ニ處ス(大正十二年法律第十二號ヲ以テ本號ヲ改正)
第十二條 第十條ノ檢査ヲ拒ミタル者ハ二圓以上ノ科料ニ處ス(明治四十三年法律第十四號ヲ以テ本號ヲ改正)
第十三條 第九條ニ違反シタル者ハ證書、帳簿一箇毎ニ二圓ノ科料ニ處ス(大正十二年法律第十二號ヲ以テ本號ヲ改正)
第十四條 本法ヲ犯シタル者ハ刑法中犯罪ノ不成立、刑ノ減免、併合罪及酌量減輕ノ例ヲ用マス但シ第十二條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス(同上本號ヲ改正)
第十四條之二 證書、帳簿ノ作成名義人ノ代理人、戶主、家族、同居者、入等名義人ノ爲ニ作成スル證書、帳簿ニ關シ本法ニ違反シタル處罰スヘキ場合ニ於テハ其ノ名義人ヲ處罰ス(同上本號ヲ追加)
附則 (大正十一年法律第四十七號附則)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十一年十二月勅令第五百十二號ニ依リ大正十二年一月一日ヨリ施行ス)
附則 (大正十二年法律第十二號附則)
本法ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
本法施行前ニ作成シタル證書又ハ帳簿ノ印紙稅ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル
附則 (大正十四年法律第二十二號附則)
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十四年勅令第五百六十八號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行ス)
附則 (昭和二年法律第七號附則)
本法ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
本法施行前作成シタル證書又ハ帳簿ノ印紙稅ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

登録税法

(明治二十九年三月二十八日法律第二十七號)

改正、明三二一法八三、明三三三法四四、明三四一法二六、明三五五法八八、明三八一法九、法五七、法五八、明四二一法一四、法三一、明四三三法一、法六四、大三一法二二、大七一、法一四、大一一一法四六、大一一四一、法二一、昭二一法六

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル登録税法ヲ裁可シ茲之ヲ公布セシム
登録税法
第一條 登録稅ハ本法ノ定ムル所ニ依リ賦課徵收ス
第二條 不動産ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
一 相續ニ因ル所有權ノ取得
不動産價格 千分ノ五
二 遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得
不動産價格 千分ノ五
但シ神社、寺院、祠宇、佛堂又ハ民法第三十四條ニ依リ設立シタル法人ハ無償名義又ハ寄附行為ニ因リ所有權ヲ取得シタルトキハ千分ノ二五

六 地上權、永小作權又ハ賃借權ノ取得
存續期間十年以下ノモノ
不動産價格 千分ノ一
同 二十年以下ノモノ
不動産價格 千分ノ二
同 三十年以下ノモノ
不動産價格 千分ノ四
同 五十年以下ノモノ
不動産價格 千分ノ七
同 七十年以下ノモノ
不動産價格 千分ノ十
同 百年以下ノモノ
不動産價格 千分ノ十五
同 百年ヲ超ユルモノ
不動産價格 千分ノ二十
存續期間ノ定メナキモノ
不動産價格 千分ノ一
存續期間ノ定メナキモノニシテ民法第二百六十八條若ハ第二百七十八條ノ規定ノ適用アルモノ又ハ借地法第二條第一項ノ規定ノ適用アルモノ
相續ニ因ル取得ニシテ存續期間三十年ヲ超ユルモノ
不動産價格 千分ノ五
權利移轉ニ因ル取得ノ場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期間ヲ以テ存續期間ト看做ス
七 地役權ノ取得
要役地價格 千分ノ一
八 華族世襲財產ノ設定
不動産價格 千分ノ二五
九 先取特權ノ保存又ハ取得
不動産價格 千分ノ二五

十 質權、抵當權ノ取得
債權金額又ハ不動産工事費用豫算金額 千分ノ五・五
債權金額 千分ノ五・五
十一 信託ノ登記
所有權ニ付テハ
不動産價格 千分ノ四
所有權以外ノ權利ニ付テハ
不動産價格 千分ノ二
十二 競賣、強制管理ノ申立
債權金額 千分ノ五・五
十三 假差押、假處分
債權金額 千分ノ四
十四 抵當アル債權ノ差押
債權金額 千分ノ五・五
十五 相續財產ノ分離
所有權ニ付テハ
不動産價格 千分ノ五・五
所有權以外ノ權利ニ付テハ
不動産價格 千分ノ一
十六 滯納處分以外ノ原因ニ因ル權利ノ處分ノ制限ニシテ特ニ掲ケザルモノ
債權金額 千分ノ四
十七 抹消シタル登記ノ回復
不動産每一箇 金四十錢
十八 假登記
不動産每一箇 金四十錢
十九 附登記
不動産每一箇 金二十錢
但シ一件ニ付稅額金二圓ヲ超ユルトキハ二圓トス
二十 登記ノ更正、變更又ハ抹消
不動産每一箇 金二十錢

登録税法

但シ一件ニ付税額金二圓ヲ超ユルトキハ二圓トス
前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得
ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル(明治三十二年法律第
八十三號、同三十四年法律第二十六號、同三十八年法
律第九號、第五十七號、同四十二年法律第十一號、大
正十一年法律第四十六號、昭和二年法律第六號ヲ以テ
本條ヲ改正)

- 一 相續ニ因ル所有權ノ取得 船舶價格 千分ノ三
- 二 遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得 船舶價格 千分ノ三十五
- 三 前各號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得 船舶價格 千分ノ二十三
- 四 委任 船舶價格 千分ノ三
- 五 所有權ノ保存 船舶價格 千分ノ三
- 六 質借權ノ取得 船舶價格 千分ノ一
- 七 抵當權ノ取得 船舶價格 千分ノ五・五
- 八 信託ノ登記 船舶價格 千分ノ三
- 九 競賣ノ申立 船舶價格 千分ノ一
- 十 假差押、假處分 債權金額 千分ノ五・五
- 十一 抵當アル債權ノ差押 債權金額 千分ノ五・五
- 十二 滞納處分以外ノ原因ニ因ル權利ノ處分ノ制限ニシテ特ニ掲ケサルモノ 債權金額 千分ノ四

十三 登記證書ヲ提出セシテ受ケタル特別登記簿ノ登
記ヲ登記簿ニ移ス場合ニ於ケル登記
船舶每一箇 金一圓

- 十四 抹消シタル登記ノ回復 船舶每一箇 金四十錢
- 十五 假登記 船舶每一箇 金四十錢
- 十六 附記登記 船舶每一箇 金二十錢
- 十七 登記ノ更正、變更又ハ抹消 船舶每一箇 金二十錢

歸屬權利者ナルトキハ千分ノ二十五
船舶價格 千分ノ三十五

- 三 委託者以外ノ者又ハ委託者ト委託者以外ノ者トカ
元本ノ受益者又ハ歸屬權利者ニシテ委託者以外ノ
者又ハ委託者ト委託者以外ノ者トカ收益ノ受益者
ナル信託 船舶價格 千分ノ四十五
- 但シ神社、寺院、祠宇、佛堂又ハ民法第三十
四條ニ依リ設立シタル法人カ元本ノ受益者又ハ
歸屬權利者ナルトキハ千分ノ二十五

目的トスルモノニ付其ノ元本ヲ受託者ヨリ受益者又ハ歸屬
權利者ニ移ス場合ニ於ケル所有權取得ノ登記ニ付テハ左ノ
登録稅ヲ納ムヘシ

- 一 抵當權ノ取得 債權金額 千分ノ一
- 二 強制競賣、強制管理ノ申立 債權金額 千分ノ一
- 三 登録ノ更正、變更又ハ抹消 債權金額 千分ノ一

三 競賣、強制管理ノ申立 債權金額 千分ノ一

- 四 假差押、假處分 債權金額 千分ノ一
- 五 抵當アル債權ノ差押 債權金額 千分ノ一
- 六 滞納處分以外ノ原因ニ因ル權利ノ處分ノ制限ニシ
テ特ニ掲ケサルモノ 債權金額 千分ノ一
- 七 抹消シタル登記ノ回復 債權金額 千分ノ一
- 八 假登記 債權金額 千分ノ一
- 九 附記登記 債權金額 千分ノ一
- 十 登記ノ更正、變更又ハ抹消 債權金額 千分ノ一

キハ二十圓トス

- 一 合名會社、合資會社設立 財產ノ目的トスル出資ノ價格 千分ノ五
- 二 合名會社、合資會社出資増加 財產ノ目的トスル増出資ノ價
格 千分ノ五
- 三 株式會社設立 拂込株金額 千分ノ五
- 四 株式會社資本増加 増資拂込株金額 千分ノ五
- 五 株式會社第二回以後ノ株金拂込 每回拂込株金額 千分ノ五
- 六 株式合資會社設立 拂込株金額及財產ノ目的トス
ル株金以外ノ出資ノ價格 千分ノ五
- 七 株式合資會社資本増加 増資拂込株金額及財產ノ目
的トスル株金以外ノ出資ノ價
格 千分ノ五
- 八 株式合資會社第二回以後ノ株金拂込 每回拂込株金額 千分ノ五
- 九 合併又ハ組織變更ニ因ル會社ノ設立 拂込株金額及財產ノ目的トス
ル株金以外ノ出資ノ價格 千分ノ一

登録税法

- 一 爲シタル會社ノ合併當時又ハ組織變更當時ノ拂込株金額及財産目録ノトスル株金以外ノ出資ノ價格ヲ超過スル金額ニ付テハ千分ノ五
- 二 合併ニ因ル會社資本ノ増加
増資拂込株金額及財産目録ノトスル株金以外ノ出資ノ價格
千分ノ一
- 三 但シ合併ニ因リ消滅シタル會社ノ合併當時ノ拂込株金額及財産目録ノトスル株金以外ノ出資ノ價格ヲ超過スル金額ニ付テハ千分ノ五
- 四 社債又ハ第二回以後ノ社債拂込
商法第二百四條ノ拂込アリタル日(賣出ノ方)法ニ依リ發行シタル場合ニ於テハ賣出ノ日)ヨリ最終ノ償還期限ニ至ル期間一年以下ノモ)
- 五 同三年以下ノモ) 千分ノ一
毎回拂込金額
- 六 同三年ヲ超ユルモ) 千分ノ二
毎回拂込金額
- 七 但シ産業債券、農工債券、北海道拓殖債券、興業債券、勸業債券又ハ東洋拓殖債券ニ付テハ千分ノ二
- 八 支店設置 千分ノ三
毎回拂込金額
- 九 本店又ハ支店ノ移轉 金二十圓
- 十 支店ノ選任又ハ代理權ノ消滅 金十圓

- 十一 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止 金十圓
但シ商法施行法ニ依リ新ニ登記スヘキ事項ノ登記ハ登記事項ノ變更ト看做ス
- 十二 登記ノ更正又ハ抹消 金十圓
- 十三 合名會社、合資會社設立ノ取消 金十圓
- 十四 解散 金七圓
- 十五 清算人ノ選任、解任又ハ變更、金七圓
- 十六 清算ノ終了 金二圓
- 十七 支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件金二圓ノ登記稅ヲ納ムヘシ朝鮮、臺灣、關東州、樺太若ハ南洋群島ニ於ケル法人又ハ外國會社カ登記ヲ受クルトキ亦同シ(明治三十二年法律第八十三號、同四十三年法律第十一號、大正三年法律第二十一號、同七年法律第十四號、昭和二年法律第六號ヲ以テ本條ヲ改正)
- 十八 第六條ノ二ノ左ノ事項ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登記稅ヲ納ムヘシ(明治三十二年法律第八十三號ヲ以テ本條ヲ追加、同四十三年法律第十一號、昭和二年法律第六號ヲ以テ改正)
- 十九 一 前號ノ新設又ハ取得 每一件 金十圓
- 二十 支店ノ選任又ハ代理權ノ消滅 每一件 金十圓
- 二十一 船舶管理人ノ選任又ハ代理權ノ消滅 每一件 金十圓
- 二十二 商法第五條第七條ニ依リ登記 每一件 金十圓

- 二十三 民法第七百九十四條第七百九十五條及第七百九十七條ニ依ル登記 每一件 金五圓
- 二十四 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止 每一件 金五圓
- 二十五 登記ノ更正又ハ抹消 每一件 金二圓
- 二十六 支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件金一圓ノ登記稅ヲ納ムヘシ
- 二十七 第七條ノ左ノ事項ニ付登記稅ヲ納ムヘシ
一 新規登録 金二十圓
二 登録換 金十圓
三 取消ノ請求 金一圓
- 二十八 第八條ノ左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ醫師、藥劑師、獸醫、蹄鐵工ハ左ノ區別ニ從ヒ登記稅ヲ納ムヘシ(明治三十二年法律第八十三號ヲ以テ本條ヲ改正)
- 二十九 新規登録 金二十圓
- 三十 藥劑師 金十二圓
- 三十一 獸醫 金五圓
- 三十二 蹄鐵工 金五圓
- 三十三 假免許醫士 金三圓
- 三十四 假免許蹄鐵工 金一圓
- 三十五 第九條ノ左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ海員ハ左ノ區別ニ從ヒ登記稅ヲ納ムヘシ(明治三十二年法律第八十三號ヲ以テ本條ヲ改正)
- 三十六 一 實用新案權ノ移轉 每一件 金一圓

新規登録

- 一 甲種船長 金十五圓
- 二 甲種一等運轉士 金十圓
- 三 甲種二等運轉士 金六圓
- 四 乙種船長 金十圓
- 五 乙種一等運轉士 金四圓
- 六 乙種二等運轉士 金三圓
- 七 丙種船長 金六圓
- 八 丙種運轉士 金二圓
- 九 機關長 金十五圓
- 十 一等機關士 金十圓
- 十一 二等機關士 金六圓
- 十二 三等機關士 金三圓
- 十三 水先人 金二十圓
- 十四 二 登録事項ノ變更 每一件 金五十錢
- 十五 第十條ノ著作權ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ(明治四十三年法律第六十四號、大正十一年法律第四十六號、昭和二年法律第六號ヲ以テ本條ヲ改正)
- 十六 一 著作權ノ移轉 相續 每一件 金一圓
- 十七 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金五圓
- 十八 二 著作權ノ目的トスル質權ノ設定 債權金額 千分ノ五・五
- 十九 三 前號ノ權利ノ移轉 相續 每一件 金五十錢
- 二十 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金一圓
- 二十一 四 無名又ハ變名著作物ノ著作權ノ實名登録 每一件 金一圓

- 二十二 四ノ二 信託ノ登録 每一件 金二圓
- 二十三 五 登録ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金一圓
- 二十四 五ノ二 特許ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ(明治四十二年法律第三十一號、大正十一年法律第四十六號、昭和二年法律第六號ヲ以テ本條ヲ改正)
- 二十五 一 特許權ノ移轉 相續 每一件 金一圓
- 二十六 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金十圓
- 二十七 二 實施權ノ設定又ハ保存 每一件 金五圓
- 二十八 三 前二號ノ權利ノ目的トスル質權ノ設定 債權金額 千分ノ五・五
- 二十九 四 前二號ノ權利ノ移轉 相續 每一件 金五十錢
- 三十 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金二圓
- 三十一 五 信託ノ登録 每一件 金二圓
- 三十二 六 滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限 債權金額 千分ノ四
- 三十三 七 代理人ノ選任又ハ代理權ノ登録 每一件 金五十錢
- 三十四 八 抹消シタル登録ノ回復 每一件 金五十錢
- 三十五 九 假登録 每一件 金五十錢
- 三十六 十 登録ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金五十錢

- 三十七 第十二條 意匠ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ(同上本條ヲ改正)
- 三十八 一 意匠權ノ移轉 相續 每一件 金一圓
- 三十九 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金二圓
- 四十 二 實施權ノ設定又ハ保存 每一件 金一圓
- 四十一 三 前二號ノ權利ノ目的トスル質權ノ設定 債權金額 千分ノ五・五
- 四十二 四 前二號ノ權利ノ移轉 相續 每一件 金五十錢
- 四十三 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金一圓
- 四十四 五 信託ノ登録 每一件 金一圓
- 四十五 六 滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限 債權金額 千分ノ四
- 四十六 七 代理人ノ選任又ハ代理權ノ登録 每一件 金五十錢
- 四十七 八 抹消シタル登録ノ回復 每一件 金五十錢
- 四十八 九 假登録 每一件 金五十錢
- 四十九 十 登録ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金二十錢
- 五十 第十二條ノ二 實用新案ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登記稅ヲ納ムヘシ(明治三十八年法律第五十八號ヲ以テ本條ヲ追加、同四十二年法律第三十一號、大正十一年法律第四十六號、昭和二年法律第六號ヲ以テ本條ヲ改正)
- 五十一 一 實用新案權ノ移轉 每一件 金一圓

登録税法

一	相續以外/原因ニ因ル移轉	每一件	金一圓
二	實施權ノ設定又ハ保存	每一件	金五圓
三	前二號ノ權利ヲ目的トスル質權ノ設定	每一件	金二圓
四	前二號ノ權利ノ移轉	每一件	金五十錢
五	信託ノ登録	每一件	金一圓
六	信託ノ處分以外/原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限 債權金額 千分ノ四	每一件	金一圓
七	代理人ノ選任又ハ代理權ノ登録	每一件	金五十錢
八	抹消シタル登録ノ回復	每一件	金五十錢
九	假登録	每一件	金五十錢
十	登録ノ更正、變更又ハ抹消	每一件	金二十錢

一	商標權ノ移轉	每一件	金一圓
二	相續以外/原因ニ因ル移轉	每一件	金十圓
三	信託ノ登録	每一件	金二圓
四	代理人ノ選任又ハ代理權ノ登録	每一件	金五十錢
五	抹消シタル登録ノ回復	每一件	金五十錢
六	假登録	每一件	金五十錢
七	登録ノ更正、變更又ハ抹消	每一件	金二十錢

一	代理人ノ選任又ハ代理權ノ登録	每一件	金五十錢
二	抹消シタル登録ノ回復	每一件	金五十錢
三	假登録	每一件	金五十錢
四	登録ノ更正、變更又ハ抹消	每一件	金五十錢
五	信託ノ登録	每一件	金一圓
六	信託ノ處分以外/原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限 債權金額 千分ノ四	每一件	金一圓
七	代理人ノ選任又ハ代理權ノ登録	每一件	金五十錢
八	抹消シタル登録ノ回復	每一件	金五十錢
九	假登録	每一件	金五十錢
十	登録ノ更正、變更又ハ抹消	每一件	金二十錢

一	砂鑛區合併	ノ他ハ毎十萬坪迄	金十五圓
二	砂鑛區分割	每一件	金三圓
三	砂鑛區ノ變更	採取區域(河床ハ毎二里迄其ノ他ハ毎十萬坪迄)	金十五圓
四	砂鑛權ノ移轉	每一件	金五圓
五	砂鑛權以外/原因ニ因ル移轉	每一件	金十五圓
六	新規登録	債權金額 千分ノ五・五	金五圓
七	砂鑛區ノ合併又ハ分割ノ出願ニ付砂鑛法ニ基キ寫シタル承諾又ハ協定ニ因ル設定	每一件	金五圓
八	順位ノ變更ニ因ル抵當權ノ變更	每一件	金十圓
九	抵當權ノ移轉	每一件	金五圓
十	相續以外/原因ニ因ル移轉	每一件	金十圓
十一	信託ノ登録	每一件	金十圓
十二	信託ノ處分以外/原因ニ因ル砂鑛權又ハ抵當權ノ處分ノ制限	債權金額 千分ノ四	金五圓

一	廢業ニ因ル砂鑛權ノ消滅	每一件	金一圓
二	抹消シタル登録ノ回復	每一件	金四十錢
三	假登録	每一件	金四十錢
四	登録ノ更正、變更又ハ抹消	每一件	金二十錢
五	漁業權ノ移轉	每一件	金一圓
六	相續以外/原因ニ因ル移轉	每一件	金五圓
七	漁業權ノ持分ノ移轉	每一件	金四十錢
八	相續以外/原因ニ因ル移轉	每一件	金一圓
九	入漁權ノ設定	每一件	金一圓
十	入漁權ノ保存	每一件	金三圓
十一	入漁權ノ移轉	每一件	金五十錢
十二	相續以外/原因ニ因ル移轉	每一件	金五十錢
十三	入漁權ノ持分ノ移轉	每一件	金二十錢
十四	相續以外/原因ニ因ル移轉	每一件	金五十錢
十五	賃借權ノ取得	每一件	金五十錢

一	相續以外/原因ニ因ル移轉	每一件	金百圓
二	新規登録	債權金額 千分ノ五・五	金五圓
三	協定ニ因ル設定	每一件	金五圓
四	順位ノ變更ニ因ル抵當權ノ變更	每一件	金十圓
五	抵當權ノ移轉	每一件	金五圓
六	相續以外/原因ニ因ル移轉	每一件	金十圓
七	信託ノ登録	每一件	金十圓
八	共同營業權者ノ脱退	每一件	金五圓
九	信託ノ處分以外/原因ニ因ル質權又ハ抵當權ノ處分ノ制限 債權金額 千分ノ四	每一件	金一圓
十	廢業ニ因ル質權ノ消滅	每一件	金五圓
十一	抹消シタル登録ノ回復	每一件	金四十錢
十二	假登録	每一件	金四十錢
十三	登録ノ更正、變更又ハ抹消	每一件	金二十錢
十四	砂鑛業ニ關シ砂鑛業原簿ニ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ(明治四十二年法律第十四號、大正十一年法律第四十六號、昭和二年法律第六號ヲ以テ本條ヲ改正)	每一件	金二十錢
十五	砂鑛權ノ設定	採取區域(河床ハ毎二里迄其ノ他ハ毎十萬坪迄)	金十五圓
十六	砂鑛區合併	每一件	金三圓
十七	砂鑛區分割	每一件	金三圓
十八	砂鑛區ノ變更	採取區域(河床ハ毎二里迄其ノ他ハ毎十萬坪迄)	金十五圓
十九	砂鑛權ノ移轉	每一件	金五圓
二十	砂鑛權以外/原因ニ因ル移轉	每一件	金十五圓
二十一	新規登録	債權金額 千分ノ五・五	金五圓
二十二	砂鑛區ノ合併又ハ分割ノ出願ニ付砂鑛法ニ基キ寫シタル承諾又ハ協定ニ因ル設定	每一件	金五圓
二十三	順位ノ變更ニ因ル抵當權ノ變更	每一件	金十圓
二十四	抵當權ノ移轉	每一件	金五圓
二十五	相續以外/原因ニ因ル移轉	每一件	金十圓
二十六	信託ノ登録	每一件	金十圓
二十七	信託ノ處分以外/原因ニ因ル砂鑛權又ハ抵當權ノ處分ノ制限	債權金額 千分ノ四	金五圓

少キトキ其ノ税額ニ依ル(昭和二年法律第六號ヲ以テ本條ヲ改正)

不動産又ハ船舶ノ價格

第十六條ノ二 債權金額ニ依リ課税額ヲ定ムル場合ニ於テ一
定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノ又ハ處分ノ制限
ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做シ先取特權質
權、抵當權又ハ處分ノ制限ノ目的タルモノノ價格ヲ債權金
額ヨリ少キトキハ其ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看
做ス但シ抵當アル債權ノ差押ヲ登記又ハ登記スル場合ニ於
テハ差押ヘラレキ債權ノ額又ハ質權若ハ抵當權ノ目的タル
モノノ價格ヲ債權金額ヨリ少キトキハ其ノ最少キモノヲ以テ債
權金額ト看做ス(同上本條ヲ追加)

第十六條ノ三 債權ノ異ニシテ登記所ニ於テ順次ニ不動産登記
法第二百二十二條ノ規定ニ依ル登記ヲ受クル場合ニ於テ各
登記所ニ於テ受クル登記ニ付テハ債權金額ヨリ既ニ登記ヲ
受ケタルモノノ價格ヲ控除シタル殘額ヲ以テ債權金額ト看做
ス(同上本條ヲ追加)

第十六條ノ四 同一ノ債權ノ爲ニ先取特權、質權又ハ抵當權
ニ關シテ種類ノ異ニシテ一以上ノ登記ヲ受クル場合ニ於テケ
ル登記税ニ關シテハ前條ノ規定ニ準シテ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第十七條 登記税ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ但シ勅令ノ定ムル
所ニ依リ現金ヲ以テ之ヲ徴收スルコトヲ得

第十八條 登記税ハ總額一錢以上二錢未満ノ端數ハ一
錢トシテ之ヲ計算ス
第十九條 左ニ掲クルモノハ登録税ヲ課セス但シ第八號、第九
號、第十一號、第十二號及第十四號ニ付テハ命令ノ定ム
ル所ニ依ル(明治三十二年法律第八十三號、同三十三年
法律第四十四號、大正三年法律第二十一號、同七年法
律第十四號、同十四年法律第二十一號、昭和二年法律

録ニ付テハ登録税ヲ課セス(昭和二年法律第六號ヲ以テ本
條ヲ追加)
第十九條ノ四 登記所カ登記申請者ノ申告シタル課税標準ノ
價格ヲ不相容ト認ムルトキハ其ノ價格ヲ認定シ之ヲ登記申
請者ニ告知スヘシ(明治三十二年法律第八十三號ヲ以テ
本條ヲ追加、大正三年法律第二十一號ヲ以テ改正、昭和
二年法律第六號ヲ以テ第十九條ノ二及第十九條ノ四トシ
第十九條ノ五 前條ノ認定ヲ不當トスル登記申請者ハ費用ヲ豫
納シテ評價人ノ評價ヲ登記所ニ請求スルコトヲ得

第十九條ノ六 前條ノ評價ニ不服アル登記申請者ハ其ノ告知
ヲ受ケタル日ヨリ七日内ニ管轄地方裁判所ニ異議ノ申立ヲ
爲スコトヲ得
異議ニ付テハ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得(同上
本條ヲ追加)
第十九條ノ七 登記申請者カ評價ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テ
申告價格ニ相當スル税額ト認定價格ニ相當スル税額トノ差
額ヲ納付シタルトキハ登記所ハ直ニ登記ヲ爲スヘシ(同上本條
ヲ追加)

第十九條ノ八 當該事件ニ關係有ル者ハ評價人タルコトヲ得
ス(同上本條ヲ追加)
第十九條ノ九 評價人ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ旅費及手當ヲ受
ク(同上本條ヲ追加)
第十九條ノ十 評價ニ要シタル費用ハ登記申請者ノ負擔トス但

第六號ヲ以テ本條ヲ改正)

- 一 政府自己ノ爲ニスル登記又ハ登録
社寺若ハ堂宇ノ敷地又ハ墳墓地ニ關スル登記
二 北海道府縣市町村其ノ他ノ公共團體ニ於テ公用
ニ供スル不動産ニ關スル登記
三 府縣市町村ノ廢置分合若ハ境界變更ニ因ル府縣
市町村ノ權利ノ取得又ハ其ノ府縣市町村ニ所有
權ヲ移スニ付テ爲ス所有權ノ保存ノ登記又ハ登録
四 市町村ノ一部ニ屬スル財產ヲ其ノ市町村ニ移ス場
合ニ於ケル市町村ノ權利ノ取得又ハ其ノ市町村ニ
所有權ヲ移スニ付テ爲ス所有權ノ保存ノ登記又ハ登
録
五 市町村又ハ市町村ノ一部ニ屬スル入會權ニシテ二
以上ノ市町村ニ互ルモノヲ消滅セシムル爲メ市町村又
ハ其ノ一部カ其ノ入會財產ニ付テ爲ス權利ノ取得若
ハ財產ノ分割又ハ之カ爲ニスル所有權ノ保存ノ登
記
六 産業組合、産業組合聯合會、産業組合中央會、
農業組合、漁業組合聯合會、重要輸出品工業
組合、重要輸出物品工業組合聯合會又ハ輸出組
合ニ付テ爲ス所有權ノ保存ノ登記
七 自作農ノ創設維持ノ爲ニスル北海道府縣市町村、
産業組合又ハ産業組合聯合會ノ施設ニ依ル個人
ノ土地所有權ノ取得ノ登記
八 北海道府縣市町村、産業組合又ハ産業組合聯合
會カ自作農ノ創設維持ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ
登記
九 北海道府縣市町村、産業組合又ハ住宅組合カ住
宅ノ供給ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記
十

シ評定價格ノ申告價格ニ超セサルトキハ此ノ限ニ在ラス同上
本條ヲ追加)
第十九條ノ十一 評價ノ費用ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ(同上本
條ヲ追加)
附則
第二十條 本法ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス
第二十一條 現行法律命令ニ規定スル登記料又ハ手数料ニシ
テ本法ニ規定スル登録税ト重畳スルモノハ本法施行ノ日ヨリ
之ヲ廢止ス

附則 (明治三十八年法律第九號附則)
本法ハ明治三十八年四月一日ヨリ施行ス但シ營業原簿
ノ登録ニ付テハ營業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本法施行前營業原簿ニ依リ營業ニ關スル出願又ハ届出ヲ爲
シ既ニ登録ヲ納メタル者營業法ニ依リ其事項ニ付營業原簿
ニ登録ヲ受クルトキハ登録税ヲ納ムルヲ要セス

附則 (明治四十二年法律第十四號附則)
本法ハ明治四十二年七月一日ヨリ施行ス
本法施行前砂礦採取法ニ依リ砂礦業ニ關スル出願又ハ届出
ヲ爲シ既ニ手数料ヲ納メタル者砂礦法ニ依リテ爲ス其ノ事項
ノ登録ニ付テハ登録税ヲ納ムルコトヲ要セス砂礦法第二十七
條第一項ニ依ル登録ニ付亦同シ

附則 (明治四十三年法律第十一號附則)
本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ施行ス
非常特別稅法中登録税ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス
附則 (大正十四年法律第二十一號附則)

十一 住宅又ハ住宅用地ニ付産業組合員又ハ住宅組
合員カ其ノ所屬組合ヨリ權利ノ取得ノ登記
十二 北海道府縣市町村、産業組合又ハ産業組合
聯合會ヨリ自作農創設維持ノ爲資金ノ貸付ヲ
受ケタル者カ其ノ貸付ノ條件ヲ具備セサルニ至リタ
ル場合ニ於ケル北海道府縣市町村、産業組合
又ハ産業組合聯合會ノ土地所有權ノ取得ノ登
記
十三 農業倉庫業者又ハ聯合農業倉庫業者ノ農業
倉庫若ハ聯合農業倉庫又ハ其ノ敷地ニ關スル權
利ノ取得ノ登記
十四 學校經營ヲ目的トスル法人ノ土地、建物ノ權利
ノ取得又ハ所有權ノ保存ノ登記

第十四條ノ二 信託ニ因ル財產權取得ノ登記又ハ登録ニシテ左
ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ登録税ヲ課セス
一 委託者カ信託利益ノ全部ヲ受クヘキ信託ニ因リ委
託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル財產權取得ノ
登記又ハ登録
二 受益者又ハ歸屬權利者ノ權利取得ノ登記又ハ登
録但シ不動産又ハ船舶ノ所有權取得ニ付テハ第三
條ノ四ニ依ル
三 信託ノ受託者更迭ノ場合ニ於ケル新受託者ノ權利
取得ノ登記又ハ登録

前項第一號ノ規定ハ當該信託財產ニ付受益者(歸屬權
利者)ヲ含ム變更ノ登記又ハ登録ヲ受クル場合ニハ之ヲ適用
セス此ノ場合ニ於テ信託財產ハ其ノ變更ノ登記又ハ登録ノ
トキニ於テ受託者ニ移轉シタルモノト看做シ登録税ヲ課ス(昭
和二年法律第六號ヲ以テ本條ヲ追加)
第十九條ノ三 登記又ハ登録ノ抹消又ハ錯誤若ハ遺漏カ當該
官吏ノ過誤ニ出テタルトキハ其ノ回復又ハ更正ノ登記又ハ登

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ各條別ニ之ヲ定ム
(第三條ノ五ノ改正規定ハ大正十四年勅令第二百四十三
號ヲ以テ同年七月六日ヨリ施行ス)
(第十九條第一項第五號ノ改正規定ハ大正十四年勅令第
二百六十七號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行ス)
附則 (昭和二年法律第六號附則)
本法ハ昭和二年四月一日ヨリ施行ス
第三條ノ二ノ改正規定中第二項、第三條ノ三及第三條ノ
四ノ改正規定ハ信託財產ヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ
於ケル受託者ノ所有權取得ニ付從前ノ規定ニ依リ登録税ヲ
課セラレタル不動産又ハ船舶ニ付テハ之ヲ適用セス

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ各條別ニ之ヲ定ム
(第三條ノ五ノ改正規定ハ大正十四年勅令第二百四十三
號ヲ以テ同年七月六日ヨリ施行ス)
(第十九條第一項第五號ノ改正規定ハ大正十四年勅令第
二百六十七號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行ス)
附則 (昭和二年法律第六號附則)
本法ハ昭和二年四月一日ヨリ施行ス
第三條ノ二ノ改正規定中第二項、第三條ノ三及第三條ノ
四ノ改正規定ハ信託財產ヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ
於ケル受託者ノ所有權取得ニ付從前ノ規定ニ依リ登録税ヲ
課セラレタル不動産又ハ船舶ニ付テハ之ヲ適用セス

●關稅法

(明治三十三年三月十四日)
法律第六十一號
改正、明治四十四法四四、大九一法四九

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ關稅法ヲ裁可シ茲ニシテ公布セシ

開稅法

第一章 關稅ノ賦課及徵收

第一條 輸入貨物ニハ關稅率法ニ依リ關稅ヲ課ス但シ條約ニ於テ特別ノ協定アル貨物ハ其ノ協定ニ依ル(明治四十四年法律第四十四號)以テ第二項ヲ削除

第二條 輸入貨物損傷シタル爲メ減稅ヲ請フ者アルトキハ輸入免許證ニ限リ相當ノ減稅ヲ爲スコトヲ得

第三條 關稅ハ輸入申告ノ日ニ於テ行ハルル法規ニ從ヒテ課ス但シ保税倉庫ニ庫入シタル貨物ノ關稅ハ庫出ノ日、藏置期限又ハ運送期限ノ經過ニ依リ關稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ其ノ期間滿了ノ日ノ翌日、收買貨物ニテ公賣ニ付スルモノノ關稅ハ公賣ノ日、第八十三條第三項ノ規定ニ依リ關稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ犯則ノ日ニ於テ行ハルル法規ニ從ヒテ之ヲ課ス(同上本條ヲ改正)

第四條 關稅ハ輸入申告者ヨリテ徵收ス(同上本條ヲ改正)

第五條 關稅未納ノ貨物ハ其ノ關稅ノ擔保トス

第六條 擔保ヲ提供シタル場合ニ於テ徵收スヘキ關稅ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付シ關稅及公賣ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ擔保提供者ニ還付ス

第七條 關稅ノ徵收權ハ之ヲ行使シ得ル日ヨリ滿二箇年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因テ消滅ス但シ通關ヲ關リ又ハ通關シタ

ル關稅ノ徵收權ハ此ノ限ニ在ラス(同上本條ヲ改正)

第八條 關稅ノ過誤ハ因テ生スル請求權ハ關稅納付ノ日ヨリ滿二箇年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因テ消滅ス

第九條 前二條ノ期限內ニ爲シタル納稅告知若ハ仕拂請求ハ時効ヲ中斷ス

第十條 外國貿易船開港ニ入港シタルトキハ船長ハ入港ノ時ヨリ二十四時以內ニ稅關ニ入港届ヲ爲シ積荷目録、船口申告書、船用品目録及旅客氏名表ヲ提出スルト同時ニ船舶國籍證書及仕出港ノ出港免狀若ハ之ニ代ルヘキ書類ヲ預ク(シ)

第十一條 (明治四十四年法律第四十四號)以テ本條ヲ削除

第十二條 外國貨物ヲ積載セル船舶ハ稅關長ノ認許ヲ得タル場合ノ外積荷目録又ハ運送目録ヲ提出シタル後ニ非サレハ貨物ノ積卸ヲ爲スコトヲ得ズ但シ旅客ノ携帶品及郵便物ハ此ノ限ニ在ラス(同上本條ヲ改正)

第十三條 外國貿易船開港ヲ出港セントスルトキハ船長ハ稅關ニ出港届ヲ爲シ出港免狀ヲ受ク(シ)

第十四條 外國貿易船積卸ヲ爲サズシテ入港ノ時ヨリ二十四時以內ニ出港スルトキハ第十條及第十三條ノ規定ヲ適用ス

第十五條 (同上本條ヲ削除)

第十六條 船長ハ稅關長ノ認許ヲ得タル場合ノ外既ニ提出シタル積荷目録ノ訂正補正ヲ爲スコトヲ得(同上本條ヲ改正)

第十七條 外國貨物ヲ積載セル船舶ハ日没ヨリ日出迄ノ間及稅關ノ休日ニハ稅關長ノ特許ヲ受クルニ非サレハ貨物ノ積卸ヲ爲スコトヲ得ズ但シ旅客ノ携帶品及郵便物ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 外國貿易船ハ不開港ニ出入スルコトヲ得ズ但シ海難其ノ他已ムル得タル事故アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 外國貿易船前項但書ノ事故ニ因リ不開港ニ入港シタルトキハ船長ハ直ニ其ノ事由ヲ稅關官吏、稅關官吏在ラザルトキハ警察官吏ニ届出ツ(シ)

第二十條 (明治四十四年法律第四十四號)以テ本條ヲ削除

第二十一條 (同上本條ヲ削除)

第二十二條 外國貿易船船用品ヲ積入レントスルトキハ船長ハ稅關、稅關ノ設置ナキ地ニ於テハ稅關官吏、稅關官吏在ラザルトキハ警察官吏ニ申告ス(シ)

第二十三條 稅關官吏職務ノ爲船舶ニ乘込ムトキハ船長ハ相當ノ便宜ヲ與フ(シ)

第二十四條 本法ニ於テ外國貿易船ト稱スルハ外國貿易ノ爲外國ニ往來スル船舶ヲ謂フ

第二十五條 本法ニ於テ保税地域ニ非ザル場所ニ藏置スルコトヲ得ズ但シ雜貨物、稅關ノ認許ヲ受ケタル貨物其ノ他法令ニ別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス(大正九年法律第四十九號)以テ本條ヲ改正

第二十六條 貨物ノ検査ヲ開始シタル後ハ貨物ニ關スル申告書ノ訂正補正ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 日没ヨリ日出迄ノ間及稅關ノ休日ニ於テ貨物ヲ保税地域ニ搬入シ又ハ保税地域ヨリ搬出セントスルトキハ稅關長ノ特許ヲ受ク(シ)但シ旅客ノ携帶品ハ此ノ限ニ在ラス保税地域內ニ於テ貨物ノ取扱ヲ爲サントスルトキハ前項ニ同シ(明治四十四年法律第四十四號)以テ本條ヲ改正

第二十八條 又ハ稅關ノ認許ヲ得テ減却シタルトキハ此ノ限ニ在ラス(明治四十四年法律第四十四號)以テ本條ヲ改正

第二十九條 外國貨物ヲ運送セントスル場合ニ於テハ船長又ハ陸路運送人ハ運送先ヲ異ニスルニ每ニ運送目録ヲ稅關ニ提出ス(シ)

第三十條 船長又ハ陸路運送人ハ運送ニ關シ職務ヲ執行スル官吏ニ對シ相當ノ便宜ヲ與フ(シ)(同上本條ヲ改正)

第三十一條 左ニ掲クル外國貨物ヲ海路又ハ陸路ニ由リ不開港ヨリ開港又ハ保税地域ニ運送セントスル場合ニ於テハ船長又ハ陸路運送人ハ稅關官吏、稅關官吏在ラザルトキハ警察官吏ノ認許ヲ受ク(シ)但シ陸路ニ由ル運送ハ稅關官吏又ハ警察官吏ノ指定スル通路ニ由ル(シ)

第三十二條 假ニ陸揚シタル貨物

一 運航ノ自由ヲ失ヒタル船舶ニ積載セル貨物

二 難波貨物

三 前項ノ貨物運送先ニ到達シタルトキハ船長又ハ陸路運送人ハ二十四時以內ニ認許證ヲ稅關ニ提出ス(シ)(同上本條ヲ改正)

第三十三條 內國貨物ハ外國貿易船ニ積載シ開港間ニ之ヲ運送スルコトヲ得

第三十四條 前項ノ場合ニ於テハ稅關ニ申告シ其ノ免許ヲ受ク(シ)(同上本條ヲ改正)

第三十五條 第三十九條及前條ノ運送貨物運送先ニ到達シタルトキハ船長又ハ陸路運送人ハ直ニ運送目録ヲ稅關ニ提出ス(シ)(同條本條ヲ改正)

第四節 郵便物

第四十二條 郵便物中關稅ヲ課スヘキ物品アルトキハ稅關ハ其ノ稅金額ヲ郵便局ヘ通知ス(シ)

第四十三條 關稅ヲ課スヘキ郵便物ヲ受取ラントスル者ハ郵便局

關稅法 貨物

第三十七條 保税地域內ニ於ケル貨物ノ取扱ハ總テ稅關長ノ指揮ニ從フ(シ)(明治四十四年法律第四十四號)以テ本條ヲ改正

第三十八條 貨物ノ陸揚、船積其ノ他船舶ト陸地ト交通ハ稅關長ノ特許ヲ得タル場合ノ外稅關長ニ於テ決定メタル場所ニ由ル(シ)

第三十九條 外國貿易船沿海通航船舶ト交通ハ稅關長ノ特許ヲ得タル場合ノ外之ヲ爲スコトヲ得(同上本條ヲ追加)

第四十條 輸出シタル貨物ハ外國貨物トシ輸入シタル貨物ハ內國貨物トス

第四十一條 本法ニ於テ保税地域ト稱スルハ稅關構內、保税倉庫、稅關假置場、稅關長カ外國貨物ヲ藏置シ得ヘキ場所トシテ指定又ハ特許シタル場所ヲ謂フ(明治四十四年法律第四十四號)以テ本條ヲ追加、大正九年法律第四十九號)以テ改正

第四十二條 貨物ニ關スル本法ノ規定ハ船用品ニ之ヲ適用セス

第四十三條 輸出、輸入及積戻

第四十四條 貨物ノ輸出若ハ輸入ヲ爲サントスル者ハ稅關ニ申告シ貨物ノ検査ヲ經テ其ノ免許ヲ受ク(シ)但シ左ニ掲クル場合ニ於テハ稅關官吏、稅關官吏現場ニ在ラザルトキハ收稅官吏ニ申告シ其ノ検査及免許ヲ受クルコトヲ得(大正九年法律第四十九號)以テ本條ヲ改正

一 遭難船舶ノ修繕、救援又ハ救助ノ費用其ノ他航海ヲ繼續スルニ必要ナル費用ヲ支辨スル爲メ貨物ヲ賣却スルトキ

二 遭難船舶ニ積載セル損傷貨物又ハ腐敗シ易キ貨物ヲ運送スルトキ

三 遭難船舶又ハ難破貨物ヲ輸入スルトキ

四 遭難船舶ヨリ上陸シタル旅客ノ携帶品ヲ輸入スルトキ

第三十四條 輸入申告書ニハ仕入書ヲ添付ス(シ)但シ當該官吏ニ於テ仕入書ヲ添付スルコト能ハサル理由アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條 前項但書ノ場合ノ外輸入申告書ニ仕入書ヲ添付セザルトキハ關稅ノ賦課ニ關シ異議ヲ申立ツルコトヲ得(明治四十四年法律第四十四號)以テ本條ヲ改正

第三十六條 (同上本條ヲ削除)

第三十七條 輸入貨物ハ輸入免許ヲ受ケタル後ニ非サレハ之ヲ引取ルコトヲ得ズ但シ當該官吏ノ認許ヲ得稅金ノ擔保トシテ金錢ヲ提供シタルトキハ輸入貨物ノ引取ヲ爲スコトヲ得(同上本條ヲ改正)

第三十八條 (同上本條ヲ削除)

第三十九條 輸出貨物ハ輸出免許ヲ受ケタル後ニ非サレハ之ヲ積出スルコトヲ得(同上本條ヲ改正)

第四十條 外國貨物ノ積戻ハ此ノ限ニ在ラス

第四十一條 假ニ陸揚シタル貨物ハ此ノ限ニ在ラス

第四十二條 運送 (明治四十四年法律第四十四號)以テ本條ヲ改正

第四十三條 外國貨物ハ海路又ハ陸路ニ由リ開港間、保税地域間又ハ開港ト保税地域ト間ニ之ヲ運送スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ稅關ニ申告シ其ノ免許ヲ受ク(シ)

第四十四條 前項ノ場合ニ於テ稅關ニ必要ト認ムルトキハ擔保ヲ提供セシムルコトヲ得(同上本條ヲ改正)

第四十五條 外國貨物ノ陸揚ニ由リ運送ハ命令ヲ以テ決定メタル通路ニ由ル(シ)(同上本條ヲ改正)

第四十六條 外國貨物相當ノ期間內ニ運送先ニ到達セザルトキハ運送申告者ヨリ關稅ヲ徵收ス但シ災害ニ因リ滅失シ

タラズ

第四十七條 外國貨物ハ保税地域ニ非ザル場所ニ藏置スルコトヲ得ズ但シ雜貨物、稅關ノ認許ヲ受ケタル貨物其ノ他法令ニ別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス(大正九年法律第四十九號)以テ本條ヲ改正

第四十八條 貨物ノ検査ヲ開始シタル後ハ貨物ニ關スル申告書ノ訂正補正ヲ爲スコトヲ得

第四十九條 日没ヨリ日出迄ノ間及稅關ノ休日ニ於テ貨物ヲ保税地域ニ搬入シ又ハ保税地域ヨリ搬出セントスルトキハ稅關長ノ特許ヲ受ク(シ)但シ旅客ノ携帶品ハ此ノ限ニ在ラス保税地域內ニ於テ貨物ノ取扱ヲ爲サントスルトキハ前項ニ同シ(明治四十四年法律第四十四號)以テ本條ヲ改正

第五十條 又ハ稅關ノ認許ヲ得テ減却シタルトキハ此ノ限ニ在ラス(明治四十四年法律第四十四號)以テ本條ヲ改正

第五十一條 外國貨物ヲ運送セントスル場合ニ於テハ船長又ハ陸路運送人ハ運送先ヲ異ニスルニ每ニ運送目録ヲ稅關ニ提出ス(シ)

第五十二條 船長又ハ陸路運送人ハ運送ニ關シ職務ヲ執行スル官吏ニ對シ相當ノ便宜ヲ與フ(シ)(同上本條ヲ改正)

第五十三條 左ニ掲クル外國貨物ヲ海路又ハ陸路ニ由リ不開港ヨリ開港又ハ保税地域ニ運送セントスル場合ニ於テハ船長又ハ陸路運送人ハ稅關官吏、稅關官吏在ラザルトキハ警察官吏ノ認許ヲ受ク(シ)但シ陸路ニ由ル運送ハ稅關官吏又ハ警察官吏ノ指定スル通路ニ由ル(シ)

第五十四條 假ニ陸揚シタル貨物

第五十五條 運航ノ自由ヲ失ヒタル船舶ニ積載セル貨物

一 難波貨物

二 前項ノ貨物運送先ニ到達シタルトキハ船長又ハ陸路運送人ハ二十四時以內ニ認許證ヲ稅關ニ提出ス(シ)(同上本條ヲ改正)

第五十六條 內國貨物ハ外國貿易船ニ積載シ開港間ニ之ヲ運送スルコトヲ得

第五十七條 前項ノ場合ニ於テハ稅關ニ申告シ其ノ免許ヲ受ク(シ)(同上本條ヲ改正)

第五十八條 第三十九條及前條ノ運送貨物運送先ニ到達シタルトキハ船長又ハ陸路運送人ハ直ニ運送目録ヲ稅關ニ提出ス(シ)(同條本條ヲ改正)

第六節 郵便物

第六十二條 郵便物中關稅ヲ課スヘキ物品アルトキハ稅關ハ其ノ稅金額ヲ郵便局ヘ通知ス(シ)

第六十三條 關稅ヲ課スヘキ郵便物ヲ受取ラントスル者ハ郵便局

第六十四條 外國貿易船ハ不開港ニ出入スルコトヲ得ズ但シ海難其ノ他已ムル得タル事故アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十五條 外國貿易船前項但書ノ事故ニ因リ不開港ニ入港シタルトキハ船長ハ直ニ其ノ事由ヲ稅關官吏、稅關官吏在ラザルトキハ警察官吏ニ届出ツ(シ)

第六十六條 (明治四十四年法律第四十四號)以テ本條ヲ削除

第六十七條 (同上本條ヲ削除)

第六十八條 外國貿易船船用品ヲ積入レントスルトキハ船長ハ稅關、稅關ノ設置ナキ地ニ於テハ稅關官吏、稅關官吏在ラザルトキハ警察官吏ニ申告ス(シ)

第六十九條 稅關官吏職務ノ爲船舶ニ乘込ムトキハ船長ハ相當ノ便宜ヲ與フ(シ)

第七十條 本法ニ於テ外國貿易船ト稱スルハ外國貿易ノ爲外國ニ往來スル船舶ヲ謂フ

第七十一條 本法ニ於テ保税地域ニ非ザル場所ニ藏置スルコトヲ得ズ但シ雜貨物、稅關ノ認許ヲ受ケタル貨物其ノ他法令ニ別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス(大正九年法律第四十九號)以テ本條ヲ改正

第七十二條 貨物ノ検査ヲ開始シタル後ハ貨物ニ關スル申告書ノ訂正補正ヲ爲スコトヲ得

第七十三條 日没ヨリ日出迄ノ間及稅關ノ休日ニ於テ貨物ヲ保税地域ニ搬入シ又ハ保税地域ヨリ搬出セントスルトキハ稅關長ノ特許ヲ受ク(シ)但シ旅客ノ携帶品ハ此ノ限ニ在ラス保税地域內ニ於テ貨物ノ取扱ヲ爲サントスルトキハ前項ニ同シ(明治四十四年法律第四十四號)以テ本條ヲ改正

第七十四條 又ハ稅關ノ認許ヲ得テ減却シタルトキハ此ノ限ニ在ラス(明治四十四年法律第四十四號)以テ本條ヲ改正

第七十五條 外國貨物ヲ運送セントスル場合ニ於テハ船長又ハ陸路運送人ハ運送先ヲ異ニスルニ每ニ運送目録ヲ稅關ニ提出ス(シ)

第七十六條 船長又ハ陸路運送人ハ運送ニ關シ職務ヲ執行スル官吏ニ對シ相當ノ便宜ヲ與フ(シ)(同上本條ヲ改正)

第七十七條 左ニ掲クル外國貨物ヲ海路又ハ陸路ニ由リ不開港ヨリ開港又ハ保税地域ニ運送セントスル場合ニ於テハ船長又ハ陸路運送人ハ稅關官吏、稅關官吏在ラザルトキハ警察官吏ノ認許ヲ受ク(シ)但シ陸路ニ由ル運送ハ稅關官吏又ハ警察官吏ノ指定スル通路ニ由ル(シ)

第七十八條 假ニ陸揚シタル貨物

一 運航ノ自由ヲ失ヒタル船舶ニ積載セル貨物

二 難波貨物

三 前項ノ貨物運送先ニ到達シタルトキハ船長又ハ陸路運送人ハ二十四時以內ニ認許證ヲ稅關ニ提出ス(シ)(同上本條ヲ改正)

第七十九條 內國貨物ハ外國貿易船ニ積載シ開港間ニ之ヲ運送スルコトヲ得

第八十條 前項ノ場合ニ於テハ稅關ニ申告シ其ノ免許ヲ受ク(シ)(同上本條ヲ改正)

第八十一條 第三十九條及前條ノ運送貨物運送先ニ到達シタルトキハ船長又ハ陸路運送人ハ直ニ運送目録ヲ稅關ニ提出ス(シ)(同條本條ヲ改正)

第八節 郵便物

第八十二條 郵便物中關稅ヲ課スヘキ物品アルトキハ稅關ハ其ノ稅金額ヲ郵便局ヘ通知ス(シ)

第八十三條 關稅ヲ課スヘキ郵便物ヲ受取ラントスル者ハ郵便局

第八十四條 外國貿易船ハ不開港ニ出入スルコトヲ得ズ但シ海難其ノ他已ムル得タル事故アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八十五條 外國貿易船前項但書ノ事故ニ因リ不開港ニ入港シタルトキハ船長ハ直ニ其ノ事由ヲ稅關官吏、稅關官吏在ラザルトキハ警察官吏ニ届出ツ(シ)

第八十六條 (明治四十四年法律第四十四號)以テ本條ヲ削除

第八十七條 (同上本條ヲ削除)

第八十八條 外國貿易船船用品ヲ積入レントスルトキハ船長ハ稅關、稅關ノ設置ナキ地ニ於テハ稅關官吏、稅關官吏在ラザルトキハ警察官吏ニ申告ス(シ)

第八十九條 稅關官吏職務ノ爲船舶ニ乘込ムトキハ船長ハ相當ノ便宜ヲ與フ(シ)

第九十條 本法ニ於テ外國貿易船ト稱スルハ外國貿易ノ爲外國ニ往來スル船舶ヲ謂フ

第九十一條 本法ニ於テ保税地域ニ非ザル場所ニ藏置スルコトヲ得ズ但シ雜貨物、稅關ノ認許ヲ受ケタル貨物其ノ他法令ニ別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス(大正九年法律第四十九號)以テ本條ヲ改正

第九十二條 貨物ノ検査ヲ開始シタル後ハ貨物ニ關スル申告書ノ訂正補正ヲ爲スコトヲ得

第九十三條 日没ヨリ日出迄ノ間及稅關ノ休日ニ於テ貨物ヲ保税地域ニ搬入シ又ハ保税地域ヨリ搬出セントスルトキハ稅關長ノ特許ヲ受ク(シ)但シ旅客ノ携帶品ハ此ノ限ニ在ラス保税地域內ニ於テ貨物ノ取扱ヲ爲サントスルトキハ前項ニ同シ(明治四十四年法律第四十四號)以テ本條ヲ改正

第九十四條 又ハ稅關ノ認許ヲ得テ減却シタルトキハ此ノ限ニ在ラス(明治四十四年法律第四十四號)以テ本條ヲ改正

第九十五條 外國貨物ヲ運送セントスル場合ニ於テハ船長又ハ陸路運送人ハ運送先ヲ異ニスルニ每ニ運送目録ヲ稅關ニ提出ス(シ)

第九十六條 船長又ハ陸路運送人ハ運送ニ關シ職務ヲ執行スル官吏ニ對シ相當ノ便宜ヲ與フ(シ)(同上本條ヲ改正)

第九十七條 左ニ掲クル外國貨物ヲ海路又ハ陸路ニ由リ不開港ヨリ開港又ハ保税地域ニ運送セントスル場合ニ於テハ船長又ハ陸路運送人ハ稅關官吏、稅關官吏在ラザルトキハ警察官吏ノ認許ヲ受ク(シ)但シ陸路ニ由ル運送ハ稅關官吏又ハ警察官吏ノ指定スル通路ニ由ル(シ)

第九十八條 假ニ陸揚シタル貨物

一 運航ノ自由ヲ失ヒタル船舶ニ積載セル貨物

二 難波貨物

三 前項ノ貨物運送先ニ到達シタルトキハ船長又ハ陸路運送人ハ二十四時以內ニ認許證ヲ稅關ニ提出ス(シ)(同上本條ヲ改正)

第九十九條 內國貨物ハ外國貿易船ニ積載シ開港間ニ之ヲ運送スルコトヲ得

第一百條 前項ノ場合ニ於テハ稅關ニ申告シ其ノ免許ヲ受ク(シ)(同上本條ヲ改正)

第一百零一條 第三十九條及前條ノ運送貨物運送先ニ到達シタルトキハ船長又ハ陸路運送人ハ直ニ運送目録ヲ稅關ニ提出ス(シ)(同條本條ヲ改正)

第十節 郵便物

第一百零二條 郵便物中關稅ヲ課スヘキ物品アルトキハ稅關ハ其ノ稅金額ヲ郵便局ヘ通知ス(シ)

第一百零三條 關稅ヲ課スヘキ郵便物ヲ受取ラントスル者ハ郵便局

第一百零四條 外國貿易船ハ不開港ニ出入スルコトヲ得ズ但シ海難其ノ他已ムル得タル事故アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第一百零五條 外國貿易船前項但書ノ事故ニ因リ不開港ニ入港シタルトキハ船長ハ直ニ其ノ事由ヲ稅關官吏、稅關官吏在ラザルトキハ警察官吏ニ届出ツ(シ)

第一百零六條 (明治四十四年法律第四十四號)以テ本條ヲ削除

第一百零七條 (同上本條ヲ削除)

第一百零八條 外國貿易船船用品ヲ積入レントスルトキハ船長ハ稅關、稅關ノ設置ナキ地ニ於テハ稅關官吏、稅關官吏在ラザルトキハ警察官吏ニ申告ス(シ)

第一百零九條 稅關官吏職務ノ爲船舶ニ乘込ムトキハ船長ハ相當ノ便宜ヲ與フ(シ)

第一百一十條 本法ニ於テ外國貿易船ト稱スルハ外國貿易ノ爲外國ニ往來スル船舶ヲ謂フ

第一百一十一條 本法ニ於テ保税地域ニ非ザル場所ニ藏置スルコトヲ得ズ但シ雜貨物、稅關ノ認許ヲ受ケタル貨物其ノ他法令ニ別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス(大正九年法律第四十九號)以テ本條ヲ改正

第一百一十二條 貨物ノ検査ヲ開始シタル後ハ貨物ニ關スル申告書ノ訂正補正ヲ爲スコトヲ得

第一百一十三條 日没ヨリ日出迄ノ間及稅關ノ休日ニ於テ貨物ヲ保税地域ニ搬入シ又ハ保税地域ヨリ搬出セントスルトキハ稅關長ノ特許ヲ受ク(シ)但シ旅客ノ携帶品ハ此ノ限ニ在ラス保税地域內ニ於テ貨物ノ取扱ヲ爲サントスルトキハ前項ニ同シ(明治四十四年法律第四十四號)以テ本條ヲ改正

第一百一十四條 又ハ稅關ノ認許ヲ得テ減却シタルトキハ此ノ限ニ在ラス(明治四十四年法律第四十四號)以テ本條ヲ改正

ニ申出テ其ノ關稅ヲ納付スヘシ
 前項ノ關稅ハ印紙ヲ以テ納付スヘシ
 第四十四條 郵便物ノ關稅ハ郵便物ヲ名宛人ニ交付スル場合ノ外ノヲ課セス
 第四十五條 第二十四條、第二十六條、第三十一條乃至第三十四條、第三十七條乃至第三十九條ノ五及第四十一條ノ規定ハ郵便物ニ之ヲ適用セス（明治四十四年法律第四十四號ヲ以テ本條ヲ改正）

第五節 收容

第四十六條 保税倉庫又ハ保税假置場ヲ除ク外保税地域ニ搬入シタル貨物ヲ搬入ノ日ヨリ七日以内ニ其ノ保税地域ヨリ搬出シ又ハ保税倉庫ニ搬入若ハ保税假置場ニ移入セザルトキハ稅關ハ其ノ貨物ヲ收容スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ稅關ハ其ノ費用及危險ヲ負擔セス
 前項ノ貨物生活力ヲ有スル動植物ナルトキ廣散シ若ハ腐敗ノ虞アルトキ又ハ他ノ貨物ヲ運送スルノ虞アルトキハ前項ノ期間内ト雖之ヲ收容スルコトヲ得（同上本條ヲ改正）
 第四十七條 貨物ヲ收容シタルトキハ三日以内ニ其ノ旨ヲ揭示スヘシ
 第四十八條 貨物收容ノ解除ヲ得トスル者ハ稅關ニ申告シ其ノ貨物ニ關スル一切ノ費用及敷料ヲ納メ免許ヲ受クヘシ
 第四十九條 前條ノ免許ヲ受ケタル日ヨリ三日以内ニ貨物ヲ保税地域ヨリ搬出シ又ハ保税倉庫ニ搬入若ハ保税假置場ニ移入セザルトキハ稅關ハ更ニ第四十六條ノ收容ヲ爲スコトヲ得（同上本條ヲ改正）

第五十條 貨物收容ノ日ヨリ六箇月以内ニ第四十八條ノ申告ヲ爲ス者ナキトキハ稅關ハ其ノ記號、番號、種類、箇數ヲ公告スヘシ
 前項公告ノ日ヨリ一箇月以内ニ仍第四十八條ノ申告ヲ爲

ス者ナキトキハ貨物ヲ公賣ニ付シ關稅、敷料其ノ他其ノ貨物ニ關スル一切ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ貨主ニ交付ス（明治四十四年法律第四十四號ヲ以テ本條ヲ改正）
 第五十一條 收容貨物生活力ヲ有スル動植物ナルトキ、腐敗シ若ハ腐敗ノ虞アルトキ又ハ倉庫若ハ他ノ貨物ヲ運送スルノ虞アルトキハ前條ノ期限ニ拘ラス公告シテ之ヲ公賣ニ付スコトヲ得但シ公告スルノ暇ナキトキハ公賣シタル後之ヲ公告スヘシ（同上本條ヲ改正）
 第五十二條 收容貨物ヲ公賣ニ付スルモ買受人ナキトキハ適宜ノ之處分スコトヲ得（同上本條ヲ改正）

第四章 稅關官吏ノ職權

第五十三條 稅關長ハ其ノ職權ノ執行ニ必要ト認ムルトキハ船舶ノ出發ヲ差止メ又ハ進行ヲ停止スルコトヲ得
 第五十四條 稅關長ハ必要ト認ムルトキハ船舶若ハ貨物ニ關スル書類ヲ提出セシムルコトヲ得
 第五十五條 稅關長ハ運送貨物ニ對シ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得
 第五十六條 稅關長ハ必要ト認ムルトキハ輸出入貨物ノ見本ヲ納付セシムルコトヲ得
 第五十七條 稅關官吏ハ船舶ニ乘込シ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得
 第五十八條 稅關官吏ハ必要ト認ムルトキハ貨物ヲ検査若ハ封鎖シ又ハ船舶倉庫其ノ他貨物ノ貯置場ヲ封鎖スルコトヲ得
 第五十九條 稅關長ハ該權ノ執行ニ必要ト認ムルトキハ海軍ノ援助ヲ求ムルコトヲ得
 第六十條 前條ノ請求アリタルトキハ海軍艦長ハ船舶ニ對シ進行停止ノ命令ヲ爲スコトヲ得
 前項ノ命令ヲ受ケタル船舶進行ヲ停止セザルトキハ海軍艦長ハ其ノ船舶ニ對シ兵力ヲ用ウルコトヲ得

第五節 異議及訴願

第六十一條 關稅ノ賦課ニ關スル稅關長ノ處分ニ對シ不服アル者ハ其ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ文書ヲ以テ稅關長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得但シ貨物ヲ引取リタル後ハ此ノ限ニ在ラス（明治四十四年法律第四十四號ヲ以テ本條ヲ改正）
 第六十二條 前條ノ規定ニ依リ異議ノ申立アリタルトキハ稅關長ハ文書ヲ以テ之ヲ判定シ異議申立人ニ之ヲ交付スヘシ但シ第六十三條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス
 第六十三條 從價稅ノ課スヘキ貨物ノ課稅價格ニ關スル異議ヲ不當ト認ムルトキハ稅關長ハ申告價格ニ其ノ百分ノ五ヲ加ヘタル價格ヲ以テ其ノ貨物ヲ賣上ルカ若ハ評價人ヲ以テ評價セシムヘシ

第六十四條 評價人ハ四人トシ二人ハ稅關長之ヲ命シ二人ハ異議者之ヲ選定ス但シ左ニ掲クル者ハ評價人タルコトヲ得ス
 一 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ評價ヲ終ヘサル者及家賃分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復舊ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者
 二 第七十四條乃至第七十六條ノ處罰ヲ受ケ滿三年ヲ經過セサル者
 三 六年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者又ハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレ復舊ヲ得サル者
 六年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者及舊刑法ノ禁錮ニ處セラレタル者ニシテ其ノ刑ノ執行ヲ終ル迄ノ者又ハ執行ヲ受ケタルコトナキニ至ル迄ノ者（同上本條ヲ改正）
 四 當該事件ニ利害ノ關係ヲ有スル者

異議者ニ於テ評價人ヲ選定シタルトキハ稅關長ノ認可ヲ受クヘシ
 第六十五條 評價人ヲ以テ評價セシムタルトキハ其ノ評價價格ヲ以テ課稅價格トス但シ評價價格申告價格ヨリ少ナキトキハ申告價格ヲ以テ課稅價格トス
 第六十六條 異議者ノ選定シタル評價人ニ關スル費用ハ異議者ノ負擔トス
 第六十七條 異議ノ申立ハ處分ノ執行ヲ停止セズ但シ稅關長ハ必要ト認ムルトキハ其ノ執行ヲ停止スルコトヲ得
 第六十八條 第六十二條ノ稅關長ノ判定ニ對シ不服アル者ハ大藏大臣ニ訴願スルコトヲ得（明治四十四年法律第四十四號ヲ以テ本條ヲ改正）
 第六十九條 訴願ヲ審查セシムル爲メ委員會ヲ設ク
 第七十條 委員會ハ委員過半數出席アルニ非サレハ決議ヲ爲スコトヲ得又決議ハ出席委員過半數ニ依リ之ヲ爲ス可同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル
 第七十一條 委員ハ自己ノ利害ニ關スル議事ニ參與スルコトヲ得ス
 第七十二條 委員會ニ於テ審査ヲ了シタルトキハ其ノ結果ヲ大藏大臣ニ具申スヘシ
 第七十三條 委員會ノ組織ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六章 罰則

第七十四條 輸入禁制品ノ輸入ヲ圖リ又ハ其ノ輸入ヲ爲シタル者ハ犯罪ニ係ル貨物ノ原價ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ其ノ貨物ヲ沒收ス但シ他ノ法律ニ於テ別ニ刑ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス（明治四十四年法律第四十四號ヲ以テ本條ヲ改正）
 第七十五條 關稅ノ通稅ヲ圖リ又ハ關稅ヲ通稅シタル者ハ其ノ通稅額ヲ圖リ又ハ通稅シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ

科料ニ處シ犯罪ニ係ル貨物ヲ沒收ス（明治四十四年法律第四十四號ヲ以テ本條ヲ改正）
 第七十六條 一 前二條ノ犯罪ニ係ル貨物ノ運搬、寄藏、收受、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス（同上本條ヲ追加）
 第七十七條 免許ヲ受ケタル貨物ノ輸出若ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲ザンシタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ第七十四條又ハ第七十五條ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラス（同上本條ヲ改正）
 第七十八條 貨物ヲ符合セザル積荷目録又ハ運送目録ヲ提出シタルトキハ船長又ハ陸路運送人ヲ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス（同上本條ヲ改正）
 第七十九條 第十八條第一項ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ二千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ他ノ法律ニ於テ別ニ刑ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス（同上本條ヲ改正）
 第八十條 第十二條若ハ第十七條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス（同上本條ヲ改正）
 第八十一條 第十條、第十三條、第十八條第二項、第二十一條、第三十九條ノ四第一項、第三十九條ノ五又ハ第四十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長又ハ陸路運送人ヲ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス（同上本條ヲ改正）
 第八十二條 第二十六條乃至第二十八條第三十九條第一項、第三十九條ノ二又ハ第四十條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス（同上本條ヲ改正）
 第八十三條 第七十七條乃至第八十一條ノ規定ニ該當スル者ハ不注意ニ出テタル故ヲ以テ處罰ヲ免ルコトヲ得ス
 第八十四條 一 輸出又ハ輸入ノ業ヲ營ム者ノ代理人又ハ使用人ニシテ其ノ業務ニ關シ第七十四條、第七十五條又ハ第七十六條ノ規定ニ違反シタルトキハ營業者ヲ處罰ス但シ營業者カ其ノ代理人又ハ使用人ノ監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルコトヲ證明スル場合又ハ稅關貨物取扱人カ貨物ノ取扱ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
 稅關貨物取扱人ノ代理人、雇人其ノ他ノ從業者カ其ノ業務ニ關シ第七十四條、第七十五條又ハ第七十六條ノ規定ニ違反シタルトキハ稅關貨物取扱人ヲ處罰ス（明治四十四年法律第四十四號ヲ以テ本條ヲ追加）
 第八十五條 一 前條ノ場合ニ於テ營業者又ハ稅關貨物取扱人カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ヲ處罰ス但シ營業者又ハ業務ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス（同上本條ヲ追加）
 第八十六條 一 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用キス（同上本條ヲ追加）
 第八十七條 本法ニ依リ沒收スヘキ貨物カ犯罪者以外ノ者ニ屬シ又ハ消費其ノ他ノ事由ニ由リ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヨリ稅關及消費稅ニ相當スル金額ヲ控除シタル金額ヲ犯罪者ヨリ追徵ス
 第八十八條 一 營業者及稅關貨物取扱人ハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ犯罪者ト看做ス
 前二項ノ追徵ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ貨物ノ關稅ハ犯罪時ノ貨物ノ所有者ヨリ之ヲ徵收ス但シ貨物カ所有者ノ占有ニ歸セザル間ニ滅失シ又ハ第三者ニ歸屬シタルトキハ犯罪者ヨリ之ヲ徵收ス
 前項ノ規定ニ依ル關稅ノ徵收ニ付テハ國稅徵收法ヲ適用ス（同上本條ヲ改正）

第七章 犯罪事件ノ調査及處分
 第八十九條 稅關官吏ハ犯罪ノ事實發見ヲ爲必要ト認ムルトキ

八船倉庫其ノ他ノ場所ニ應檢シ捜索ヲ爲スコトヲ得
 第八十五條 稅關官吏ハ犯則ノ事實ヲ證明スルニ足ルキ物件ヲ身邊ニ懸置スル者アリト思料シタルトキハ其ノ開示ヲ求メ若シニ從ハサルトキハ身邊ノ捜索ヲ爲スコトヲ得
 第八十六條 稅關官吏ハ犯則事件ノ調査ヲ爲スニ當リ必要ト認ムルトキハ犯則者ヲ人參考人ヲ訊問スルコトヲ得
 第八十七條 稅關官吏應檢、捜索、訊問ヲ爲ストキハ制服ヲ着用シ又ハ其ノ資格ヲ證明スル證書ヲ携帶スヘシ
 第八十八條 稅關官吏ハ應檢、捜索ヲ爲スニ當リ必要ト認ムルトキハ警察官吏ノ援助ヲ求ムルコトヲ得
 第八十九條 稅關官吏捜索ヲ爲ストキハ搜查スヘキ船倉庫其ノ他ノ場所ノ所持人又ハ其ノ同居ノ親族、傭人、鄰佑若其ノ在ラサルトキハ其ノ地ノ警察官吏若ハ市町村吏員ヲ立會ハシムヘシ但シ船車ニ在テハ其ノ役員ヲ立會ハシムルコトヲ得
 前項ノ親族、傭人若ハ鄰佑ハ成年者ナルヲ要ス
 第九十條 稅關官吏犯則事件ノ調査ニ依リ發見シタル物件犯則ノ事實ヲ證明スルニ足ルヘシト思料シタルトキハ之ヲ差押ヘ差押目録ヲ作ルヘシ
 差押物件ハ便宜ニ依リ所持者若ハ市町村役場ニ保管セシムルコトヲ得
 差押物件屬政其ノ他損傷ノ虞アルトキハ稅關長ハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ代金ヲ供託スルコトヲ得
 第九十一條 應檢、捜索及物件差押ハ日没ヨリ日出迄ノ間之ヲ爲スコトヲ得但シ現行犯ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス
 既ニ開始シタル應檢、捜索又ハ物件差押ハ必要アル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ拘ラス之ヲ繼續スルコトヲ得 (明治四十四年法律第四十四號ヲ以テ本項ヲ追加)
 第九十二條 稅關官吏ハ前數條ニ記載シタル處分中何人ニ限ラス許可ヲ得シテ其ノ場所ニ出入スルヲ禁スルコトヲ得

第九十三條 稅關官吏應檢、捜索、訊問ヲ爲シタルトキハ其ノ調査ヲ作リ立會人若ハ訊問ヲ受ケタル者ニ示シ共ニ署名スヘシ
 立會人若ハ訊問ヲ受ケタル者署名セス又ハ署名スルコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ附記スヘシ
 第九十四條 稅關長ハ犯則事件ノ調査ニ依リ犯則ノ心證ヲ得タルトキハ其ノ理由ヲ明示シ罰金若ハ科料ニ相當スル金額、沒收ニ該當スル物品若ハ徵收金ニ相當スル金額ヲ稅關ニ納付スヘキ旨ヲ通告スヘシ
 第九十五條 犯則者前條ノ通告ヲ受ケタルトキハ其ノ日ヨリ五日以内ニ之ヲ履行スヘシ此ノ期間内ニ履行セサルトキハ稅關長ハ直ニ告發スヘシ
 第九十六條 犯則者通告ノ旨ヲ履行シタルトキハ同一事件ニ付訴ヲ受クルコトナシ
 第九十七條 稅關長ハ通告ヲ爲シ難シト認ムルトキ若ハ通告ノ旨ヲ履行スル資力ナシト認ムルトキハ直ニ告發スヘシ

第八章 補則

第九十八條 船舶修繕ノ爲又ハ開港ニ於テ積卸シ難キ巨大重量ノ貨物ヲ陸揚若ハ船積スル爲必要ト認ムルトキハ稅關長ハ外國貿易船ノ不開港ニ出入スル特許ヲ與フルコトヲ得開港トノ交通者シク不便ナル場所ニ於テ貨物ヲ陸揚又ハ船積スル爲必要ト認ムルトキ亦同シ大正九年法律第四十九號ヲ以テ本條ヲ改正
 第九十九條 從來ノ開港ノ外開港トナスヘキ場所及其ノ開港ニ於テ輸出若ハ輸入スヘキ貨物ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第一百條 本法ノ期間ヲ定ムルニ日時ヲ以テシタルモノハ其ノ期間中ニ稅關ノ休日ヲ算入セス
 日ト稱スルハ二十四時ヲ謂ヒ月ト稱スルハ三十日ヲ謂ヒ年ト稱スルハ曆ニ從フ

● 地方稅二關スル法律

(大正十五年三月二十七日) (法律第二十四號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル地方稅ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 北海道、府縣ハ本法ニ依リ特別地稅、家屋稅、營業稅及雜種稅ヲ賦課スルコトヲ得

第二條 特別地稅ハ地租條例第十三條ノ二ノ規定ニ依リ地租ヲ徵收セザル田畑ニ對シ地租條例第一條ノ地價ヲ標準トシテ之ヲ賦課ス

第三條 特別地稅ノ徵收ニ關シテハ地租條例第十三條ノ規定ヲ準用ス

第四條 特別地稅ノ賦課率ハ北海道ニ在リテハ地價百分ノ二・六以內、府縣ニ在リテハ地價百分ノ三・七以內トス
 特別地稅ニ對シ市町村其ノ他ノ公共團體ニ於テ賦課スヘキ附加稅ノ賦課率ハ前項ノ規定スル制限ノ百分ノ八十以內トス

第五條 府縣總ノ全部ノ分賦ヲ受ケタル市ハ第二條ノ例ニ依リ地價百分ノ二・九ノ外其ノ分賦金額以內ニ限リ前條第一項ノ規定スル制限ニ達スル迄特別地稅ヲ賦課スルコトヲ得
 北海道地方費又ハ府縣費ノ一部ノ分賦ヲ受ケタル市町村ハ前條第二項ノ規定スル制限ノ外其ノ分賦金額以內ニ限リ特別地稅附加稅ヲ賦課スルコトヲ得但シ北海道、府縣ノ賦課額ト市町村ノ賦課額トノ合算額ハ前條第一項ノ規定スル制限ヲ超ユルコトヲ得ス

第六條 特別地稅又ハ其ノ附加稅ノ別割ト併課スル場合ニ於テハ別割ノ總額ハ第三條又ハ前條ノ規定ニ依リテ其ノ地目ノ土地ニ對シ賦課シ得ヘキ制限額ト特別地稅額又ハ其ノ附加稅額トノ差額ヲ超ユルコトヲ得ス

地方稅ニ關スル法律

第六條

特別地稅又ハ其ノ附加稅ノ賦課率第三條乃至前條ノ規定スル制限ニ達シタル場合ニ非サレハ明治四十一年法律第三十七號第五條ノ規定ニ依リ地租、營業收益稅又ハ所得稅ノ附加稅ノ制限外課稅ヲ爲スコトヲ得ス
 特別地稅又ハ其ノ附加稅ノ別割ト併課スル場合ニ於テ一地位ニ對シ賦課率前條ノ規定スル制限ニ達シタルトキハ前項ノ規定ヲ適用ニ付テハ特別地稅又ハ其ノ附加稅ノ制限ニ達シタルモノト看做ス

第七條

特別ノ必要アル場合ニ於テハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ第三條乃至第五條ノ規定スル制限ヲ超過シ其ノ百分ノ十二以內ニ於テ特別地稅又ハ其ノ附加稅ヲ賦課スルコトヲ得

第八條

特別地稅及其ノ附加稅ノ賦課率ハ當該年度ノ豫算ニ於テ定メタル田畑ニ對シ地租附加稅ノ賦課率ヲ以テ算定シタル地租附加稅額ノ當該田畑ノ地價ニ對シ比率ヲ超ユルコトヲ得ス

第九條

家屋稅ハ家屋ノ賃賃價格ヲ標準トシテ家屋ノ所有者ニ之ヲ賦課ス

第十條

家屋ノ賃賃價格ハ家屋稅調查委員ノ調査ニ依リ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事之

第十一條

左ニ掲グル家屋ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ家屋稅ヲ賦課セザルコトヲ得
 一 一時ノ使用ニ供スル家屋
 二 賃賃價格一定額以下ノ家屋
 三 公益上其ノ他ノ事由ニ因リ課稅ヲ不適當トスル家屋

第十二條

府縣總ノ全部ノ分賦ヲ受ケタル市ハ第九條乃至前條ノ例ニ依リ家屋稅ヲ賦課スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ府縣知事ノ職務ハ市長ノヲ行フ

第十三條

家屋稅及其ノ附加稅ノ賦課率及賦課ノ制限並家屋ノ賃賃價格ノ算定及家屋稅調查委員ノ組織ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條

營業稅ハ營業收益稅ノ賦課ヲ受ケタル營業者及營業收益稅ヲ賦課セザル營業者ノ爲ス者ニ之ヲ賦課ス

第十五條

營業稅ヲ賦課スヘキ營業ノ種類ハ營業收益稅法第二條ニ掲グルモノ及勅令ヲ以テ定ムルモノニ限ル

第十六條

府縣總ノ全部ノ分賦ヲ受ケタル市ハ第十四條及前條ノ例ニ依リ營業稅ヲ賦課スルコトヲ得
 第十七條 第十一條第三號ノ規定ハ營業稅ニ之ヲ準用ス
 第十八條 營業稅ノ課稅標準並雜種稅及其ノ附加稅ノ賦課ノ制限ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第十九條 雜種稅ヲ賦課スルコトヲ得ヘキモノノ種類ハ勅令ヲ以テ定ムルモノ並內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケタルモノニ限ル
 第二十條 第十一條第三號ノ規定ハ雜種稅ニ之ヲ準用ス
 第二十一條 雜種稅ノ課稅標準並雜種稅及其ノ附加稅ノ賦課ノ制限ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第二十二條 市町村ハ本法ニ依リ戶數割ヲ賦課スルコトヲ得
 第二十三條 戶數割ハ一戶ヲ標準ナル者ニ之ヲ賦課ス

戸數割ハ一戸ヲ機ヘサルモ獨立ノ生計ヲ營ム者ニテ賦課スルコトヲ得

第二十四條 戸數割ハ納稅義務者ノ資力ヲ標準トシテ之ヲ賦課ス

第二十五條 戸數割ノ課稅標準タル資力ハ納稅義務者ノ所得額及資産ノ狀況ニ依リテ算定ス

第二十六條 第十一條第三號ノ規定ハ戸數割ニテ適用ス

第二十七條 戸數割ノ賦課ノ制限、納稅義務者ノ資産ノ狀況ニ依リテ算定シテ賦課スヘキ額其ノ他納稅義務者ノ資力算定ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條 北海道府縣以外ノ公共團體ニ對スル第七條ノ許可ノ職權ハ勅令ノ定ムル所ニ依リテ之ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

附則 本法ハ大正十五年分ヨリ之ヲ適用ス但シ家屋稅營業稅及雜種稅其ノ附加稅並戸數割ニ關スル規定ハ大正十六年度分ヨリ之ヲ適用ス

明治十三年第十六號布告及同年第十七號布告ハ大正十五年分限リ之ヲ廢止ス

第六條及第七條中營業收益稅トアルハ大正十五年分特別地稅及其ノ附加稅ニ付テハ國稅營業稅トス

家屋稅ハ大正十八年度分迄ニ限リ第九條乃至第十二條ノ規定ニ拘ラス別ノ勅令ノ定ムル所ニ依リテ之ヲ賦課スルコトヲ得

地方税ニ關スル法律第二十八條ニ依ル委任ノ件

(大正十五年六月三日勅令第四百十三號)

大正十五年法律第二十四號地方税ニ關スル法律第二十八條ニ依ル委任ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

大正十五年法律第二十四號第二十八條ノ規定ニ依リ左ニ掲グル事項ニ付テノ許可ノ職權ハ北海道廳長官又ハ府縣知事ニ之ヲ委任ス

一 同法第七條第一項ノ規定ニ依リ制限ヲ超過シ課稅スルコト

二 同法第七條第二項ノ規定ニ依リ同法第七條第一項ノ制限ヲ超過シ同法第三條乃至第五條ノ規定スル制限率又ハ制限額ノ百分ノ五十以內ニ於テ課稅スルコト

附則 本令ハ大正十五年分ヨリ之ヲ適用ス

地方税制限ニ關スル法律

(明治四十一年三月三十一日法律第三十七號)

改正、明四三三法二七、明四四一法三二、大九一法三七、大一一一法三〇、大一一五一法二五

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ地方税制限ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 北海道、府縣其ノ他ノ公共團體ハ左ノ制限以內ノ地租附加稅又ハ段別附加稅ノ外土地ニ對シテ課稅スルコトヲ得ス(明治四十四年法律第三十二號、大正九年法律第三十七號、同十二年法律第三十號ヲ以テ本條ヲ改正)

一 北海道、府縣

附加稅ノミラ課スルトキ

宅地 地租 百分ノ三十四

其ノ他ノ土地地租 百分ノ八十三

段別附加稅ノミラ課スルトキ

一段歩ニ付 每地目平均金一圓

附加稅及段別附加稅併課スル場合ニ於テハ段別附加稅ノ總額ハ其ノ地目ノ地租額宅地ニ在リテハ百分ノ三十四、其ノ他ノ土地ニ在リテハ百分ノ八十三ニ附加稅額トシテ差額ヲ超ユルコトヲ得ス

二 其ノ他ノ公共團體

附加稅ノミラ課スルトキ

宅地 地租 百分ノ二十八

其ノ他ノ土地地租 百分ノ六十六

一段歩ニ付 每地目平均金一圓

附加稅及段別附加稅併課スル場合ニ於テハ段別附加稅ノ總額ハ其ノ地目ノ地租額宅地ニ在リテハ百分ノ二十八、其ノ他ノ土地ニ在リテハ百分ノ六十六ニ附加稅額トシテ差額ヲ超ユルコトヲ得ス

附則 本法ハ明治四十一年度ヨリ之ヲ施行ス

非常特別稅法中地租、營業稅及所得稅ノ地方税制限ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

附則 (大正九年法律第三十七號附則)

本法ハ大正九年分ヨリ之ヲ適用ス

大正八年法律第二十九號ハ大正八年分限リ其ノ效力ヲ失フ

大正九年七月三十一日迄ニ制限外課稅ノ許可ヲ受ケタル大正九年分ノ地租附加稅、營業稅附加稅、所得稅附加稅又ハ段別附加稅及ハ賦課額ハ從前ノ規定ニ依ル制限率又ハ制限額ヲ通シテ本法ニ依リテ超過セザルトキハ之ノ超過部分ニ限リテ本法ニ依リテ許可ヲ受ケタル制限外ノ賦課率又ハ賦課額トシテ之ヲ課稅スルコトヲ得ス

附則 (大正十二年法律第三十號附則)

本法ハ大正十二年分ヨリ之ヲ適用ス

本法公布ノ日迄ニ北海道、府縣其ノ他ノ公共團體ノ營業稅附加稅ニ付テテ課稅ノ許可ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ制限外ノ賦課率ハ之ヲ本法ニ依リテ許可ヲ受ケタル制限外課稅率トシテ課稅ス

附則 (大正十五年法律第二十五號附則)

本法ハ大正十六年度分ヨリ之ヲ適用ス但シ第三條第一項ノ改正規定中第四項ノ規定及附則第二項ノ規定ハ大正十五年分限リ之ヲ適用ス

年度券ヨリ之ヲ適用ス
營業稅法廢止法律ニ依リテ免除セラルル營業稅額ハ大正十五年度分營業稅附加稅ノ賦課ニ付テハ免除セシサルモノト看做ス

●地方税制限ノ法律第六條ノ規定ニ依ル委任ノ件

(大正九年八月二十日)
勅令第百八十二號

朕明治四十一年法律第三十七號第六條ノ規定ニ依ル委任ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
明治四十一年法律第三十七號第六條ノ規定ニ依リ左ニ掲クル事項ニ付テハ許可ノ職權ハ北海道廳長官又ハ府縣知事ニ之ヲ委任ス

- 一 同法第五條第一項ノ規定ニ依リ制限ヲ超過シ課稅スルコト
- 二 同法第五條第二項ノ規定ニ依リ同法第五條第一項ノ制限ヲ超過シ同法第一條乃至第三條ニ規定スル制限率又ハ制限額ノ百分ノ五十以内ニ於テ課稅スルコト

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●府縣稅徵收ニ關スル件

(明治三十三年三月三十日)
勅令第百八十一號

改正、明三五〇勅一七三、明四四〇勅二七四、大正二〇勅二四七、大九〇勅一六九

朕府縣稅徵收ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 市町村ハ其ノ市町村内ノ府縣稅ヲ徵收シテ府縣ニ納入スルノ義務ヲ負フ
- 第二條 市町村ハ其ノ市町村内ノ府縣稅ヲ徵收シテ府縣ニ納入スルノ義務ヲ負フ
前項徵收ノ費用トシテ地租附加稅ニ對シテハ其ノ徵收金額ノ百分ノ七其ノ他ノ府縣稅ニ對シテハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四其ノ市町村ニ交付スヘシ
- 第三條 府縣內務大臣及大藏大臣ノ指定シタル府縣稅ニ付テハ第一項ノ規定ニ拘ラス其ノ徵收ノ便宜ヲ有スル者ヲシテ之ヲ徵收セシムルコトヲ得
- 第四條 市町村ハ避テヘカサル災害ニ因リ既收ノ稅金ヲ失ヒタルトモ其ノ稅金納入義務ノ免除ヲ府縣知事ニ申請スルコトヲ得
- 第五條 府縣知事前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ決定書ノ交付ヲ受ケタル翌日ヨリ起算シ十四日以内ニ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得
- 第六條 府縣稅ヲ徵收セムルトキハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏員ハ市町村ニ對シ徵稅令書ヲ發シ市町村長ハ徵稅令書ニ依リ徵稅傳令書ヲ調製シ之ヲ納稅人ニ交付スヘシ

府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏員ハ直ニ納稅人ニ對シ徵稅令書ヲ發スルコトヲ得

第一條第三項ノ府縣稅ニ付テハ前二項ノ例ニ依ラス徵收セシムルコトヲ得

第一條第二項、第二條、第三條及第五條第四項第五項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ徵收スル府縣稅ニ關シテ之ヲ適用ス

府縣內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ得タル場合ニ限リ第一項及第二項ノ例ニ依ラス其ノ府縣稅ニ於テ發行スル證書ヲ以テ府縣稅ヲ納入セシムルコトヲ得

第五條 徵稅傳令書ヲ受ケタル納稅人ハ其ノ稅金ヲ市町村ニ拂込ミ其ノ領收證ヲ得テ納稅ノ義務ヲ了ス

徵稅令書ヲ受ケタル納稅人ハ其ノ稅金ヲ府縣金庫ニ拂込ミ其ノ領收證ヲ得テ納稅ノ義務ヲ了ス但シ府縣知事ハ市町村吏員ヲシテ納稅人ニ對シ徵稅令書ヲ發セシムル場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

第一條第三項ノ府縣稅納稅人ハ其ノ稅金ヲ徵收義務者ニ拂込ムニ依リテ納稅ノ義務ヲ了ス

市町村ハ其ノ徵收シタル府縣稅ヲ府縣金庫ニ拂込ミ其ノ領收證ヲ得テ稅金納入ノ義務ヲ了ス

稅金ノ拂込又ハ其ノ拂込金ノ納入ニ付郵便振替貯金ノ方法ニ依リタル場合ニ於テハ納稅人又ハ市町村ハ稅金ヲ郵便官署ニ拂込ミ又ハ納入スルニ依リテ其ノ義務ヲ了ス

第五條ノ二 第四條第二項ノ規定ニ依リ市町村吏員ヲシテ徵稅令書ヲ發セシムル場合ニ於テハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ其ノ市町村ニ對シ取扱費ヲ交付スルコトヲ得

第六條 徵稅傳令書ヲ受ケタル納稅人納期内ニ稅金ヲ完納セサルトキハ市町村長ハ其ノ滯納ノ稅目、金額及滯納人ノ住所氏名其ノ他必要ナル事項ヲ記載シ之ヲ徵稅令書ヲ發シタル官吏員ニ報告スヘシ

徵稅令書ヲ發シタル官吏員前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ直ニ督促狀ヲ發スヘシ徵稅令書ヲ受ケタル納稅人納期内ニ稅金ヲ完納セザルトキ亦同シ

督促狀ニハ府縣知事ノ定ムル期間内ニ於テ相當ノ期限ヲ指定スヘシ

第一條第三項ノ規定ニ依リ徵收義務者ハ徵收スヘキ府縣稅ヲ府縣知事ノ指定シタル期日迄ニ府縣金庫又ハ郵便官署ニ拂込ムヘシ

前項ノ府縣稅ヲ定期内ニ拂込マサルトキハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏員ハ相當ノ期限ヲ指定シ督促狀ヲ發スヘシ

第七條ノ二乃至第十條ノ規定ハ第四項ノ規定ニ依リ拂込金ニ關シテ之ヲ適用ス

第七條 督促狀ヲ發シタルトキハ手数料ヲ徵收ス

手数料ノ額ハ府縣知事ノ定ム

市町村吏員ヲシテ督促狀ヲ發セシムル場合ニ於ケル手数料ハ其ノ市町村ノ收入トス

第七條ノ二 督促狀ヲ發シタル場合ニ於テハ一日ニ付稅金額ノ萬分ノ四以内ニ於テ府縣知事ノ定ムル割合ヲ以テ納期限ノ翌日ヨリ稅金完納又ハ財產差押ノ日ノ前日迄ノ日數ニ依リ計算シタル延滞金ヲ徵收ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合又ハ滯納ニ付酌量スヘキ情狀アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

- 一 令書一通ノ稅金額五圓未満ナルトキ
- 二 納期ノ繰上ケ徵收ヲ爲ストキ
- 三 納稅者ノ住所、居所カ帝國内ニ在ラサル爲又ハ其ノ住所ノ命令及ハ督促狀ヲ發シタルトキ

督促狀ノ指定期限迄ニ稅金及督促手数料ヲ完納シタルトキハ延滞金ハ之ヲ徵收セズ

第八條 納稅人左ノ場合ニ該當スルトキハ徵稅令書又ハ徵稅傳令書ヲ交付シタル府縣稅ニ限リ納期前ト雖之ヲ徵收スルコトヲ得

- 一 國稅徵收法ニ依リ滯納處分ヲ受ケタルトキ
- 二 強制執行ヲ受ケタルトキ
- 三 破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
- 四 競賣ノ開始アリタルトキ
- 五 法人カ解散ヲ爲シタルトキ
- 六 納稅人脱稅又ハ通稅ヲ謀ルノ所爲アリト認ムルトキ

第九條 相續開始ノ場合ニ於テハ府縣稅、督促手数料、延滞金及滯納處分費ハ相續財團又ハ相續人ヨリ之ヲ徵收ス但シ戶主ノ死亡以外ノ原因ニ依リ家督相續ノ開始アリタルトキハ被相續人ヨリモ之ヲ徵收スルコトヲ得

國籍喪失ニ因リ相續人又ハ限定承認ヲ爲シタル相續人ハ相續ニ因リ得タル財產ノ限度トシテ府縣稅、督促手数料及滯納處分費ヲ納付スルノ義務ヲ有ス

第十條 共有物、共同事業、共同事業ニ因リ生シタル物件又ハ共同行為ニ係ル府縣稅、督促手数料、延滞金及滯納處分費ハ納稅者連帶シテ其ノ義務ヲ負擔ス

第十一條 同一年度ノ府縣稅ニシテ既納ノ稅金過納ナルトキハ爾後ノ納期ニ於テ徵收スヘキ同一稅目ノ稅金ニ充ツルコトヲ得

第十二條 納稅義務者納稅地ニ住所又ハ居所ヲ有セザルトキハ納稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲メ納稅管理人ヲ定メ市町村長ニ由告スヘシ其ノ納稅管理人ヲ變更シタルトキ亦同シ

第十三條 徵稅令書、徵稅傳令書、督促狀及滯納處分ニ關スル書類ハ名宛人ノ住所又ハ居所ニ送達ス名宛人カ相續財團ニシテ財產管理人アルトキハ財產管理人ノ住所又ハ居所ニ送達ス

納稅管理人アルトキハ納稅人告知及督促ニ關スル書類ニ限

其ノ住所又ハ居所ニ送達ス
第十條 書類ノ送達ヲ受ケキ者其ノ住所又ハ居所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ帝國内ニ住所ノ居所アラサルトキ若ハ其ノ住所ノ居所共ニ不明ナルトキ書類ノ要旨ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキ書類ノ送達アリタルモノト看做ス

第十五條 府縣稅ノ徵收期ハ府縣知事ノ旨ニ依リテ定ム
第十六條 市制町村制ヲ施行セザル地ニ於ケル府縣稅ノ徵收ニ關シテハ本令ノ規定ヲ準用ス其ノ準用シ難キ事項ハ內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事ノ旨ニ依リテ定ム
第十七條 本令ニ關スル規則ハ府縣知事ノ旨ニ依リテ定ム

附則 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス
附則 (大正二年勅令第二百四十七號附則)

本令ハ公布ノ日ヨリ施行ス但シ本令中延滞金ニ關スル規定ハ本令施行後ニ於テ納期ノ開始スル府縣稅ヨリニ適用ス

府縣稅指定ノ件

(大正九年五月二十四日 內務省令第十號)

明治三十三年勅令第八十一號第一條第三項ノ規定ニ依リ左ノ府縣稅ヲ指定ス

遊興稅
觀覽稅

附則 本令ハ大正九年六月一日ヨリ施行ス

府縣稅家屋稅ニ關スル件

(明治三十二年六月十七日 勅令第二百七十六號)

改正、大元一勅四七

府縣稅家屋稅ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ其ノ府縣ノ全部若ハ一部ノ地ニ於ケル家屋稅對シテ家屋稅賦課スルコトヲ得但シ家屋稅賦課ノ地ニ於テハ戶數割ヲ賦課スルコトヲ得ス

附則

本令ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

府縣稅戶數割規則

(大正十年十月十日 勅令第四百二十二號)

改正、大元一勅九二

府縣稅戶數割規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

府縣稅戶數割規則

第一條 戶數割ハ一戸ヲ構フル者ニ之ヲ賦課ス
戶數割ハ一戸ヲ構ヘサルモ獨立ノ生計ヲ營ム者ニ之ヲ賦課スルコトヲ得

第二條 戶數割ハ納稅義務者ノ資力ニ對シテ之ヲ賦課ス
第三條 資力ハ戶數割納稅義務者ノ所得額及住家坪數ニ依リテ算定ス但シ所得額及住家坪數ノミニ依ルニ適當ナラズト認ムル場合ニ於テハ納稅義務者ノ資産ノ狀況ヲ斟酌シテ之ヲ算定スルコトヲ得

第四條 戶數割總額ハ豫算ノ屬スル年度ノ前年度ニ於テ市町村住民(法人ヲ除ク)ノ賦課ヲ受ケタル直接國稅及直接府縣稅ノ稅額並前年度始ニ於ケル戶數割納稅義務者ノ數ヲ標準トシ市町村ニ之ヲ配當ス但シ戶數割納稅義務者ノ數ヲ標準トスル配當額ハ戶數割總額ノ十分ノ五ヲ超ユルコトヲ得ス

特別ノ事情アルトキハ府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ得テ前項ノ規定ニ拘ラス別ニ標準ヲ設クルコトヲ得

第五條 配當額ハ配當後標準ニ異動ヲ生スルモ之ヲ更正セズ但シ配當ノ標準ニ錯誤アリタルトキハ當該市町村ニ限リ當初ノ配當率ヲ以テ其ノ配當額ヲ更正スルコトヲ得 (大正十三年勅令第九十二號ヲ以テ本項但書ヲ追加)

第六條 前條ノ規定ニ依リ市町村ニ配當セラルル戶數割ノ總額中住家坪數ニ依リ資力ヲ算定シテ課スヘキモノハ其ノ總額ノ十分ノ一ヲ、納稅義務者ノ資産ノ狀況ヲ斟酌シテ資力ヲ算定シ課スヘキモノハ其ノ總額ノ十分ノ二ヲ超ユルコトヲ得

第七條 納稅義務者ノ所得ト看做ス但シ其ノ納稅義務者ヨリ受ケル所得ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 同一人ニ對シテ府縣稅ニ於テ戶數割ヲ賦課スル場合ニ於テハ各其ノ府縣ニ於ケル所得ヲ以テ其ノ者ノ資力算定ノ標準タル所得トス其ノ所得ニシテ分別シ難キモノアルトキハ關係府縣ニ平分ス

第九條 戶數割ヲ納ムル府縣以外ノ地ニ於ケル所得ハ納稅義務者ノ資力算定ニ付テハ府縣稅ニ於ケル所得ト看做ス
前二項ノ規定ハ府縣內ノ市町村間ニ於ケル所得ノ計算方法ニ付テハ適用ス

第十條 規定スル所得計算ニ付テハ府縣內關係市町村間議アル場合ニ於テ其ノ郡內ニ止マルモノハ郡長、其ノ郡市又ハ郡都市ニ涉ルモノハ府縣知事ノ旨ニ依リ關係府縣知事異議アルトキハ內務大臣ノ旨ニ依リテ定ム

第十一條 戶數割ノ賦課期ハ前項中郡長ニ關スル規定ハ郡司、郡司ヲ置ク地ニ於テハ前項中郡長ニ關スル規定ハ郡司ニ關スル規定ニ準ジテ之ヲ適用ス

第十二條 二人以上ノ納稅義務者カ同一住家ヲ使用スル場合ニ於テハ各使用者ニ專屬スル部分ノ住家坪數ヲ以テ資力算定ノ標準タル住家坪數トス其ノ共同シテ住家又ハ其ノ一部分ヲ使用スル場合ニ於テハ其ノ住家坪數ハ之ヲ平分ス

第十三條 住家ノ附屬建物ハ住家坪數ニ之ヲ算入ス
住家坪數ニ依リ資力算定ニ付テハ建物ノ構造、用途及敷地ノ地位ニ依リ等差ヲ設クルコトヲ得

第十四條 前二條ニ定ムルモノヲ除ク外住家坪數ノ計算方法ニ付テハ府縣稅賦課規則ノ規定ニ依リ

第十五條 戶數割ノ賦課期日後納稅義務ノ發生シタル者ニ對シテハ發生ノ翌月ヨリ月割ヲ以テ賦課ス但シ一ノ府縣ニ於テ納稅義務消滅シ他ノ府縣ニ於テ納稅義務發生シタル場合ニ於テハ納稅義務ノ發生シタル府縣ハ他ノ府縣ノ賦課セサル部分ニ付テハ之ヲ賦課ス
賦課期日後新ニ納稅義務ノ發生シタル者ニ對スル賦課額ハ第二條、第三條及第五條ノ規定ニ依リ定リタル他ノ納稅者ノ賦課額ニ比準シテ之ヲ定ム

第十六條 戶數割ノ賦課期日後納稅義務ノ消滅シタル者ニ對シテハ其ノ消滅シタル月迄月割ヲ以テ賦課ス但シ既ニ徵稅令書ヲ發シタル場合ニ於テハ其ノ賦課額ハ之ヲ變更セズ

第十七條 府縣ハ特別ノ事情アル者ニ對シテ戶數割ヲ課セザルコトヲ得

第十八條 市町村長ハ其ノ市町村住民ニ非サル者(法人ヲ除ク)ノ當該市町村內ニ於テ生スル其ノ年度分所得及其ノ所得ノ基本タル事實並當該市町村ニ於テ賦課ヲ受ケタル前年度ノ直接國稅及直接府縣稅ノ稅額ヲ每年五月末日迄ニ其ノ住所市町村長ニ通報スヘシ但シ所得及其ノ所得ノ基本タル事實ニ付テハ當該市町村ニ於テ其ノ者ニ戶數割ヲ賦課スルトキ又ハ其ノ住所市町村ニ於テ戶數割ノ賦課額キトキハ此ノ限ニ在ラス (大正十三年勅令第九十二號ヲ以テ本條ヲ改正)

第十九條 左ノ制限ヲ超ユル戶數割又ハ戶數割附加稅ヲ賦課セザルトスルハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケヘシ
一 戶數割總額ノ當該年度ニ於ケル府縣稅豫算總額ノ百分ノ三十ヲ超ユルコト
二 戶數割附加稅總額カ市ニ在リテハ當該年度ニ於ケル市稅豫算總額ノ百分ノ五十、町村ニ在リテハ當該年度ニ於ケル町村稅豫算總額ノ百分ノ八十ヲ超ユルコト(同上本號ヲ改正)

第二十條 前條ノ規定ノ適用ニ付テハ府縣稅家屋稅又ハ家屋稅

府縣稅戶數割規則

府縣稅戶數割規則 府縣稅戶數割規則施行細則

稅附加稅若ハ市町村稅家屋稅ハ之ヲ戶數割又ハ戶數割附加稅ト看做ス

第十五條ノ二 市町村ニ對スル第十四條ニ規定スル許可ノ職權ハ內務大臣及大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ府縣知事ニ委任スルコトヲ得(大正十三年勅令第九十二號ヲ以テ本條ヲ追加)

第十六條 所得ニ依ル資力算定方法、直接稅ノ種類其ノ他本令施行上必要ナル事項ハ內務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ大正十一年度分ヨリ之ヲ施行ス

附則 (大正十三年勅令第九十二號附則) 本令ハ大正十三年度分ヨリ之ヲ適用ス

府縣稅戶數割規則施行細則

(大正十一年二月二十一日) (內務省令第二號)

改正、大一一一內令一二、大一一三內令一四

府縣稅戶數割規則施行細則左ノ通定ム 府縣稅戶數割規則施行細則

第一條 府縣稅戶數割規則ニ於テ直接國稅ト稱スルハ地租、第三種ノ所得ニ係ル所得稅、營業稅、營業稅、砂鑛區稅及賣藥營業稅ヲ謂ヒ直接府縣稅ト稱スルハ本條ノ直接國稅ニ對スル附加稅、營業稅及雜種稅(遊興稅及觀覽稅ヲ除ク)ヲ謂フ

第二條 戶數割ヲ賦課スヘキ年度ノ前年度ニ於テ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更アリタルトキハ關係市町村ニ於ケル府縣稅戶數割規則第四條ニ規定スル戶數割配當標準中直接國稅及直接府縣稅ノ稅額ハ府縣知事之ヲ定ム 戶數割ヲ賦課スヘキ年度ノ前年度ニ於テ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更アリタルトキハ關係市町村ニ於ケル府縣稅戶數割規則第四條ニ規定スル戶數割配當標準ハ府縣知事之ヲ定ム 戶數割ノ配當前市町村ノ廢置分合又ハ境界變更アリタルトキ亦同シ

第三條 戶數割納稅義務者ノ資力算定ノ標準タル所得額ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ計算ス 一 田又ハ畑ノ所得ハ前三年間毎年ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタルモノノ平均ニ依リ算出シタル收入豫算年額但シ前三年以來引續キ自作セシ小作セシ又ハ小作ニ付セサル田又ハ畑ニ在リテハ近傍類地ノ所得ニ依リ算出シタル收入豫算年額

二〇四

府縣稅戶數割ニ關スル件

(大正十一年五月二十七日) (勅令第二八八十二號)

府縣稅戶數割ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム 府縣稅戶數割規則第四條ノ規定ニ依リ市町村ニ配當セラレタル戶數割總額中納稅義務者ノ資力ノ狀況ヲ斟酌シテ資力ヲ算定シ課スヘキモノハ特別ノ事情アル府縣ニ於テハ當分ノ内之ヲ其ノ總額ノ十分ノ四以内ト爲スコトヲ得

附則 本令ハ大正十一年度分ヨリ之ヲ適用ス

第五條 第三條第一號又ハ第六號ノ規定ニ依ル所得計算ニ付損失アルトキハ同條第一號、第三號及第六號ノ規定ニ依リ所得ノ合算額ヨリ之ヲ差引計算ス

第六條 前條ノ規定ニ依リ算出シタル金額一萬二千圓以下ナルトキハ其ノ所得中傳給給料歳費年金恩給退隱料賃與及此等ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ其ノ十分ノ一、六千圓以下ナルトキハ同十分ノ二、三千圓以下ナルトキハ同十分ノ三、千五百圓以下ナルトキハ同十分ノ四、八百圓以下ナルトキハ同十分ノ五ニ相當スル金額ヲ控除ス(大正十三年內務省令第十四號ヲ以テ本條ヲ改正)

第七條 前條ノ規定ニ依リ算出シタル金額三千圓以下ナル場合ニ於テ納稅義務者及之ニ生計ヲ共ニスル同居者中年度開始ノ日ニ於テ年齢十四歳未滿若ハ六十歳以上ノ者又ハ不具廢疾者アルトキハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ所得ヨリ左ノ各號ノ規定ニ依リ金額ヲ控除ス

- 一 所得千圓以下ナルトキ 一年齡十四歳未滿若ハ六十歳以上ノ者又ハ不具廢疾者 一人ニ付百圓以内
- 二 所得二千圓以下ナルトキ 一人ニ付七十圓以内
- 三 所得三千圓以下ナルトキ 一人ニ付五十圓以内

前項ノ不具廢疾トハ心神喪失ノ常況ニ在ル者、聾者、啞者、盲者其他重大ナル傷痍ヲ受ケ又ハ不治ノ疾患ニ罹リ常ニ介護ヲ要スルモノヲ謂フ(大正十一年內務省令第十二號ヲ以テ本條ヲ改正)

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ戶數割納稅義務者ノ資力算定ノ標準タル所得額ニ算入セズ 一 軍人從軍中ノ俸給及手當 二 扶助料及傷痍疾病者ノ恩給又ハ退隱料

府縣稅戶數割規則施行細則

府縣稅戶數割ニ關スル件

二〇五

●市税及町村税ノ賦課ニ關スル件

(明治四十四年九月二十二日) 勅令第二百四十一號 改正、大正一、勅二、六三三 朕市税及町村税ノ賦課ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 市町村ノ内外ニ於テ營業所ヲ設ケ營業ヲ爲ス者ニシテ其ノ營業又ハ收入ニ對シテ本税ヲ分別シテ納メサル者ニ對シテ附加税ヲ賦課セムトスルキハ市町村長ハ關係市長(北海道、沖繩縣ノ區長ヲ含ム)又ハ町村長(戶長又ハ之ニ準スヘキモノヲ含ム)ト協議ノ上其ノ本税額ノ歩合ヲ定ムヘシ 前項ノ協議ハサルトキハ其ノ都内ニ止ルモノハ郡長之ヲ定メ其ノ郡(島ヲ含ム)以下之ニ依リ之ヲ定ムヘシ 又ハ郡都若ハ數市ニ止ルモノハ府縣知事之ヲ定メ其ノ府縣(北海道ヲ含ム)以下之ニ依リ之ヲ定ムヘシ 又ハ内務大臣及大藏大臣之ヲ定ムヘシ 第一項ノ場合ニ於テ直接ニ收入ヲ生ズルコトナキ營業所アルトキハ他ノ營業所ト收入ヲ共通スルモノト認メ前二項ノ規定ニ依リ本税額ノ歩合ヲ定ムヘシ 府縣ニ於テ數府縣ニ涉ル營業又ハ其ノ收入ニ對シテ營業稅附加税又ハ所得稅附加税賦課ノ歩合ヲ定ムタルモノアルトキハ其ノ歩合ニ依リ本税額ヲ以テ其ノ府縣ニ於ケル本税額ト看做ス

●市税及町村税ノ徵收ニ關スル件

(大正九年五月二十日) 勅令第六十八號 朕明治四十四年勅令第二百四十二號市税及町村税ノ徵收ニ關スル件改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 市税及町村税徵收ニ關シテハ明治三十三年勅令第八十一號第七條ノ二乃至第十四條ノ規定ヲ適用ス但シ同令第七條ノ二ニ規定スル延滞金ノ割合ハ府縣知事之ヲ定メ滞納ニ付酌量スヘキ情狀アル場合ハ市町村長之ヲ決定ス 第二條 市町村ハ内務大臣及大藏大臣ノ指定シタル市税及町村税ニ付テハ其ノ徵收ノ便宜ヲ有スル者ヲシテ之ヲ徵收セシムルコトヲ得 前項ノ規定ニ依リ徵收義務者ハ徵收スヘキ市税及町村税ヲ市町村長ノ指定シタル期日迄ニ市町村ニ拂込ムヘシ 第三條 市町村ハ前條ノ規定ニ依リ徵收ノ費用トシテ拂込金額ノ百分ノ四ヲ徵收義務者ニ交付スヘシ 第四條 第二條第一項ノ規定ニ依リ徵收義務者避クヘカラサル災害ニ依リ既收ノ税金ヲ失ヒタルトキハ其ノ税金拂込義務ノ免除ヲ市町村長ニ申請スルコトヲ得 市町村長前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ之ヲ市參事會又ハ町村會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ決定書ノ交付アリタル日ノ翌日ヨリ起算シ十四日以内ニ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得 市參事會又ハ町村會ノ決定ニ不服アル市町村長亦前項ニ同シ 府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者、市町村長又ハ府縣知事ハ府縣參事會ノ裁決書ノ交付アリタル日ノ翌日ヨリ起算シ十四日以内ニ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

●市税及町村税指定ノ件

(大正九年五月二十四日) 内務省令第十一號 改正、大正一、内令一三三 大正九年勅令第六十八號第二條第一項及第六條ノ規定ニ依リ左ノ市税、「區税」及町村税ヲ指定ス

- 遊興稅 遊興費稅 特別消費稅 觀覽稅 入湯稅 (大正十一年內務省令第十三號ヲ以テ本稅ヲ追加)

附則 本令ハ大正九年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

●市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ニ關スル件

(明治三十年六月二十二日) 勅令第九十五號 改正、明三三、勅二一九、明三三、勅四八、勅一四五、大七一、勅六五、大五一、勅二九五

- 一 營業稅 二 個人ノ營業收益稅(大正十五年勅令第二百九十五號ヲ以テ本號ヲ改正) 三 乙種ノ資本利子稅(同上本號ヲ改正) 四 五 (同上本號ヲ削除)

附則 本令ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス 附則 (大正十五年勅令第二百九十五號附則) 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五條 明治三十三年勅令第八十一號第七條ノ二乃至第十條ノ規定ハ第二條第二項ノ規定ニ依リ拂込金ニ關シテ之ヲ適用ス但シ同令第七條ノ二ニ規定スル延滞金ノ割合ハ府縣知事之ヲ定メ滞納ニ付酌量スヘキ情狀アル場合ハ市町村長之ヲ決定ス

第六條 前各條ノ規定ハ(北海道及沖繩縣ノ區ノ區稅ノ徵收)並町村制ニ代リ施行シタル地ノ町村稅ノ徵收ニ付之ヲ適用ス但シ市參事會トアルハ北海道及沖繩縣ニ付テハ區會トシ、府縣參事會トアルハ北海道ニ付テハ北海道廳長官トス

附則 本令ハ大正九年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

市税及町村税指定ノ件 市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ニ關スル件

市税及町村税指定ノ件 市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ニ關スル件

●町村制ニ代ル制ヲ施行スル地ノ町村税ノ徴收ニ關スル件

(大正十五年八月二十一日) (勅令第二百八十六號)

朕町村制ニ代ル制ヲ施行スル地ノ町村税ノ徴收ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

町村制ニ代ル制ヲ施行スル地ノ町村税ノ徴收ニ付テハ市制町村制施行令第四十三條乃至第五十八條ノ規定ヲ準用ス

附則

本令ハ大正十五年分ヨリ之ヲ適用ス 従前ノ規定ニ依ル手續其ノ他ノ行爲ハ本令ニ別段ノ規定アルモノヲ除ク外之ヲ本令ニ依リ爲シタルモノト看做ス

市街及町村税ノ徴收ニ關スル件 (勅令第二百八十六號) 市街及町村税ノ徴收ニ關スル件 (勅令第二百八十六號) 市街及町村税ノ徴收ニ關スル件 (勅令第二百八十六號)

●工場法

(明治四十四年三月二十九日) (法律第四十六號)

改正、大正十二年法律第三十三號ヲ以テ本號ヲ改正

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ工場法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

工場法

第一條 本法ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル工場ニ之ヲ適用ス

- 一 常時十人以上ヲ雇工ヲ使用スルモノ (大正十二年法律第三十三號ヲ以テ本號ヲ改正)
二 事業ノ性質危險ナルモノ又ハ衛生上有害ノ虞アルモノ

本法ノ適用ヲ必要トセサル工場ハ勅令ヲ以テ之ヲ除外スルコトヲ得

第二條 (同上本條ヲ削除)

第三條 工業主ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ一日ニ付十一時間ヲ超テ就業セシムルコトヲ得ス

第四條 工業主ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルコトヲ得ス但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ午後十一時迄就業セシムルコトヲ得

第五條 (同上本條ヲ削除)

第六條 (同上本條ヲ削除)

第七條 工業主ハ十六歳未満ノ者及女子ニ對シ毎月少クとも二回ノ休日ヲ設ケ、一日ノ就業時間カ六時間ヲ超ユルトキハ

少クとも三十分、十時間ヲ超ユルトキハ少クとも一時間ノ休憩時間ヲ就業時間中ニ於テ設クヘシ 前項ノ休憩時間ハ一齊ニ之ヲ與フヘシ但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス 夏季ニ於テ一時間ヲ超ユル休憩時間ヲ設クル場合ニ於テハ工業主ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ其ノ超ユル時間以内就業時間ヲ延長スルコトヲ得但シ其ノ延長時間ハ一時間ヲ超ユルコトヲ得ス (大正十二年法律第三十三號ヲ以テ本條ヲ改正)

調帯、調索ノ取附ケ若ハ取外シラ爲サシメ其他危險ナル業務ニ就カシムルコトヲ得ス (大正十二年法律第三十三號ヲ以テ本條ヲ改正) 第十條 工業主ハ十六歳未満ノ者ヲシテ毒藥、劇藥其ノ他有害物品又ハ爆發性發火性若ハ引火性ノ物品ヲ取扱フ業務及著シク塵埃、粉末ヲ飛散シ又ハ有害瓦斯ヲ發散スル場所ニ於ケル業務其ノ他危險又ハ衛生上有害ナル場所ニ於ケル業務ニ就カシムルコトヲ得ス (同上本條ヲ改正) 第十一條 前二條ニ掲ケタル業務ノ範圍ハ主務大臣ノ之ヲ定ム前條ノ規定ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ十六歳以上ノ女子ニ付テ之ヲ適用スルコトヲ得 (同上本條ヲ改正) 第十二條 主務大臣ハ病者又ハ産前産後若ハ生兒哺育中ノ女子ノ就業ニ付制限又ハ禁止ノ規定ヲ設クルコトヲ得 (同上本條ヲ改正) 第十三條 行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ工場及附屬建築物並設備力危害ヲ生シ又ハ衛生、風紀其ノ他公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ豫防又ハ除害ノ爲ニ必要ナル事項ヲ工業主ニ命ジ必要ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ノ使用ヲ停止スルコトヲ得 第十四條 當該官吏ハ工場若ハ其ノ附屬建築物ニ臨檢シ又ハ就業ノ禁止制限ヲ爲スヘキ疾病若ハ傳染ノ虞アル疾病ニ罹レル疑アル職工若ハ徒弟ノ檢診ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證書ヲ携帶スヘシ (同上本條ヲ改正) 第十五條 工業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ職工ノ業務上ノ負傷若ハ本人ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ヲ扶助スヘシ (同上本條ヲ改正)

第十六條 職工徒弟、職工徒弟ヲラトスル者若ハ工業主又ハ...

第十七條 職工ノ雇入、解雇、周旋ノ取締及徒弟ニ關スル事...

第十八條 工業主ハ工場ニ付一切ノ權限ヲ有スル工業管理人...

第十九條 前條ノ工場管理人ハ本法及本法ニ基キテ發スル命...

第二十條 工業主又ハ前條ニ依リ工業主ニ代ル者ハ本法若ハ本...

第二十一條 正當ノ理由ヲシテ當該官吏ノ廢檢ヲ拒ミ、妨ケ...

第二十二條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム...

附則 (大正十二年法律第三十三號附則)

本法中十六歳トアルハ本法施行後三年間ハ之ヲ十五歳トス...

工場法施行令 (大正五年八月三日)

第一章 通則

第一條 左ニ掲グル事業ノミラ營ム工場ニ付テハ工場法ノ適用...

第二條 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項...

第三條 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項...

第四條 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項...

第五條 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項...

第六條 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項...

第七條 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項...

第八條 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項...

第九條 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項...

第十條 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項...

第十一條 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項...

第十二條 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項...

第十三條 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項...

第十四條 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項...

第十五條 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項...

第十六條 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項...

第十七條 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項...

第十八條 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項...

第十九條 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項...

第二十條 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項...

第二十一條 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項...

第二十二條 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項...

第二十三條 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項...

第二十四條 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項...

第二十五條 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項...

第二十六條 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項...

第二十七條 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項...

第二十八條 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項...

第二十九條 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項...

第三十條 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項...

第三十一條 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項...

第三十二條 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項...

第三十三條 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項...

第三十四條 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項...

第三十五條 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項...

第三十六條 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項...

第三十七條 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項...

第三十八條 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項...

第三十九條 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項...

第四十條 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項...

工場法施行令 職工又ハ其ノ遺族ノ扶助

- 五一 石灰ノ製造
- 五二 「フェルト」又ハ吹付羅紗粉狀纖維ヲ用フル模造羅紗ノ製造
- 五三 起毛又ハ反毛ノ作業
- 五四 製綿
- 五五 麻ノ梳解
- 五六 古綿、落綿、古麻、屑紙、屑綿絲、屑毛又ハ纖維類ノ選別
- 五七 骨炭又ハ血炭ノ製造
- 五八 毛皮ノ精製、製革又ハ製膠
- 五九 毛髪又ハ羽毛ノ精製
- 六〇 其ノ他内務大臣ノ命令ヲ以テ指定スル事業

第二章 職工又ハ其ノ遺族ノ扶助

第四條 職工業務上ノ負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ工業主ハ本章ノ規定ニ依リ扶助ヲ爲スヘシ但シ扶助ヲ受ケルキ者民法ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ工業主ハ扶助金額ヨリ其ノ金額ヲ控除スルコトヲ得(大正十五年勅令第五百十三號ヲ以テ本項ヲ改正)

前項扶助ノ義務ハ別段ノ定ル場合ヲ除ク外職工ノ解雇ニ因リ變更セラルコトナシ

第五條 職工ノ負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ工業主ハ其ノ費用ヲ以テ療養ヲ施シ又ハ療養ニ必要ナル費用ヲ負擔スヘシ

第六條 職工療養ノ爲メ勞務ニ服スルコト能ハサルニ因リ賃金ヲ受ケタルトキハ工業主ハ職工ノ療養中一日ニ付賃金百分ノ六十以上ノ休業扶助料ヲ支給スヘシ但シ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ付其ノ支給百八十日ヲ超エタルトキハ其ノ後ノ支給額ヲ一日ニ付賃金百分ノ四十迄ニ減スルコトヲ得(同上本條ヲ改正)

第七條 職工ノ負傷又ハ疾病治療シタル時ニ於テ左ノ各號ノ

- 一 該當スル程度ノ身體障害ヲ存スルトキハ工業主ハ左ニ掲クル區別ニ依リ障害扶助料ヲ支給スヘシ(大正十五年勅令第五百十三號ヲ以テ本條ヲ改正)
 - 一 終身自用ヲ辨スルコト能ハサルモノ
 - 二 終身勞務ニ服スルコト能ハサルモノ
 - 三 從來ノ勞務ニ服スルコト能ハサルモノノ健康ニ復スルコト能ハサルモノ又ハ女子ノ外親ニ醜痕ヲ殘シタルモノ
 - 四 身體ヲ傷害シ舊ニ復スルコト能ハスト雖引續キ從來ノ勞務ニ服スルコトヲ得ルモノ
- 賃金三百六十日分以上
- 賃金四百日分以上
- 賃金百八十日分以上
- 賃金八十日分以上
- 第七條ノ二 職工重大ナル過失ニ因リ負傷シ又ハ疾病ニ罹リ且工業主其ノ事實ニ付地方長官ノ認定ヲ受ケタル場合ニ於テハ休業扶助料又ハ障害扶助料ヲ支給セラルコトヲ得(同上本條ヲ追加)
- 第八條 職工死亡シタルトキハ工業主ハ遺族又ハ職工ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ賃金三百六十日分以上ノ遺族扶助料ヲ支給スヘシ(同上本條ヲ改正)
- 第九條 職工死亡シタルトキハ工業主ハ葬祭ヲ行フ遺族又ハ職工ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ葬祭ヲ行フ者ニ賃金二十日分(其ノ金額二十圓ニ滿テザルトキハ二十圓)以上ノ葬祭料ヲ支給スヘシ(同上本條ヲ改正)
- 第十條 遺族扶助料ヲ受ケルキ者ハ職工ノ配偶者トス配偶者ナキ場合ニ於テ遺族扶助料ヲ受ケルキ者ハ職工死亡當時之同一ノ家ニ在リタル職工ノ直系卑屬又ハ直系尊屬トシ其ノ順位ハ親等ノ近キ者ヲ先ニシ卑屬ト尊屬ト親等相同シキトキハ卑屬ヲ先ニス
- 第十一條 前條第二項ニ定メタル同順位者ノ間ニ在リテハ其ノ順位ハ左ノ規定ニ依ル

- 一 職工ノ家督相続人又ハ戸主ハ之ヲ他ノ者ヨリ先ニス
 - 二 男ハ之ヲ女ヨリ先ニス
 - 三 直系卑屬ニ付テハ男又ハ女ノ間ニ在リテハ嫡出子ヲ先ニシ嫡出子、庶子及私生子ノ間ニ在リテハ嫡出子及庶子ハ女ト雖之ヲ私生子ヨリ先ニス
 - 四 前二號ニ掲クル事項ニ付相同シキ者ノ間ニ在リテハ年長者ヲ先ニス
- 第十二條 第十條ノ規定ニ該當スル者ナキ場合ニ於テハ左ニ掲クル者ノ中一人ニ遺族扶助料ヲ支給スヘシ但シ職工ノ遺言又ハ工業主ニ對シテ寫シタル豫告ニ依リ左ニ掲クル者ノ中一人ヲ特ニ指定シタルトキハ之ニ從フヘシ
- 一 職工ノ家督相続人又ハ戸主
 - 二 職工ノ兄弟姉妹ニシテ職工死亡當時之同一ノ家ニ在リタル者
 - 三 職工死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者(同上本條ヲ改正)
- 第十三條 第五條ノ規定ニ依リ本人ニ支給スル費用及休業扶助料ハ毎月一回以上ノ之ヲ支給スヘシ
- 第十四條 職工ノ負傷又ハ疾病ノ治療後遺留ナク、遺族扶助料及葬祭料ハ職工ノ死亡後遺留ナク之ヲ支給スヘシ但シ障害扶助料及遺族扶助料ハ地方長官ノ許可ヲ受ケ數回ニ分割シテ之ヲ支給スルコトヲ得(同上本條ヲ改正)
- 第十五條 職工健康保險法(第四十八條第一項第二號ノ規定ヲ除ク)ニ依リ療養ノ給付又ハ療養費ノ支給ヲ受ケキトキハ其ノ期間第五條ノ扶助ハ之ヲ爲スコトヲ要セス健康保險法ニ依リ傷病手当金ノ支給ヲ受ケキトキハ休業扶助料ノ支給ニ付亦同シ
- 第十六條 職工ノ死亡ニ關シ健康保險法ニ依リ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ支給アルヘキトキハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲スコトヲ爲スコトヲ得

要ス

健康保險法第六十二條第一項第二項、第六十四條又ハ第六十五條第二項ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル場合ニ於テ前二項ノ例ニ依リ第五條ノ扶助又ハ休業扶助料若ハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲スコトヲ要セス大正十五年勅令第五百十三號ヲ以テ本條ヲ追加)

第十四條 第五條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受ケ又ハ健康保險法ニ依リ療養ノ給付若ハ療養費ノ支給ヲ受ケタル職工療養開始後三年ヲ經過スルモ負傷又ハ疾病治療セザルトキハ工業主ハ賃金五百四十日分以上ノ打切扶助料ヲ支給シ以後本章ノ規定ニ依リ扶助ヲ爲サルコトヲ得(同上本條ヲ改正)

第十五條 工業主ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ本章ノ規定ニ依リ扶助ヲ爲サルコトヲ得(同上本條ヲ改正)

日アル場合ニ於テハ直前ノ賃金締切日以前)三月間(雇入後三月ニ滿テザルトキハ其ノ期間ニ於ケル賃金總額ヲ其ノ期間ノ日數ヲ以テ除シタル金額但シ其ノ金額ハ上記賃金總額ノ該期間中ニ於テ賃金ヲ受ケタル日數ヲ以テ除シタル金額ノ百分ノ六十ヲ下ルコトヲ得)

前項第二號ノ規定スル期間中ニ左ノ各號ノ一ニ該當スル期間アルトキハ其ノ日數及其ノ期間ニ於ケル賃金ハ前項ノ期間及賃金總額ヨリ之ヲ控除ス

- 一 業務上ノ負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲休業シタル期間
- 二 産前又ハ産後ノ女子内務大臣ノ定ムル所ニ依リ休業シタル期間
- 三 試用期間
- 四 工業主ノ都合ニ依リ職工臨時ニ休業シタル期間

第一項第二號ノ賃金總額ニハ賞與又ハ臨時ニ支給セラルル手当ニシテ内務大臣ノ定ムルモノヲ包含セス

第三項ノ規定ニ依リ扶助料及葬祭料算出ノ標準トスヘキ賃金ヲ算出スルコトヲ得サル場合ニ於テハ扶助規則ノ定ムル所ニ依リ但シ扶助規則ニ定メザルトキハ地方長官ノ定ムル(大正十五年勅令第五百十三號ヲ以テ本條ヲ改正)

第十七條 前條第一項第二號ノ規定ニ依リ賃金ヲ算出スル場合ニ於テ工業主カ食事其ノ他ノ給與ヲ當時支給スルトキハ其ノ價格ハ賃金中ニ之ヲ加算ス但シ休業扶助料ヲ支給スル場合ニ於テ工業主カ食事其ノ他ノ給與ヲ引續キ支給スルトキハ其ノ價格ハ休業扶助料算出ノ標準トスヘキ賃金中ニ之ヲ加算ス(同上本條ヲ改正)

第十八條 地方長官ハ職工ヲ以テ又ハ申請ニ因リ職工ノ負傷、疾病若ハ死亡ノ原因、第七條各號ニ掲クル身體障害ノ程度其ノ他扶助ニ關スル事項ニ付之ヲ審査シ及事件ノ調停ヲ

爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ醫師ヲシテ診斷又ハ検査シタルコトヲ得

第十九條 工業主ハ遲滞ナク扶助規則ヲ作成シ扶助ノ金額、手續其ノ他扶助ニ關シ必要ナル事項ヲ定メ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ扶助規則ヲ變更シタルトキ亦同シ(同上本條ヲ改正)

地方長官必要ト認ムルトキハ扶助規則ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第二十條 官立工場ニ於ケル職工ノ扶助ニ付テハ別ニ定ムル規定ニ依ル

第三章 職工ノ雇入及解雇

職工ノ雇入及解雇(大正十五年勅令第五百十三號ヲ以テ本)

第二十一條 工業主ハ遲滞ナク職工名簿ヲ調製シ工場毎ニ之ヲ備付クヘシ(同上本條ヲ改正)

職工名簿ニ記載スヘキ事項ニ關シテハ内務大臣ノ定ムル所ニ依ル(大正十一年勅令第四百七十一號ヲ以テ本條ヲ改正)

第二十二條 職工ニ給與スル賃金ハ通貨ヲ以テ毎月一回以上ノ之ヲ支給フヘシ

第二十三條 工業主ハ職工ノ死亡若ハ解雇ノ場合又ハ内務大臣ノ定ムル場合ニ於テ權利者ノ請求アリタルトキハ遲滞ナク賃金ヲ支拂フヘシ(同上本條ヲ改正)

前項ノ場合ニ於テ積立金、信託金其ノ他何等ノ名義ヲ用キルニ拘ラス職工ノ貯蓄金ハ遲滞ナク之ヲ返還スヘシ

第二十四條 工業主ハ職工ノ雇入ニ關シ前二條ノ規定ニ違反スル契約又ハ工業主ノ受ケヘキ違約金ヲ定メ若ハ損害賠償額ヲ豫定スル契約ヲ爲スコトヲ得ス但シ左ノ事項ニ付豫メ方

第十六條 扶助料及葬祭料算出ノ標準トスヘキ賃金ハ左ノ各號ノ金額トス

- 一 職工健康保險法ニ依リ被保險者タル場合ニ於テハ同法ニ基キ其ノ者ニ付定メタル標準報酬ノ日額
- 二 職工健康保險法ニ依リ被保險者タル場合ニ於テハ疾病ニ在リテハ診斷ニ據ル發病ノ日ヲ除キ、發病ノ日明ナラザルトキハ診斷前日ヲ除キ、負傷又ハ即死ニ在リテハ事故發生ノ日ヲ除キ其ノ前(賃金締切

工場法施行令 職工又ハ其ノ遺族ノ扶助 職工ノ雇入及解雇

工場法施行令 職工ノ雇入及解雇

徒弟

二二四

法ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 職工ニ貯蓄金ヲ付シメ又ハ職工ノ利益ノ爲メ賃金ノ一部ニ代ヘテ給付スルコト

二 職工ノ雇入契約ニ違反シ其ノ他職工ノ賃金ニ關スルキ事由ニ因リ解雇セラルル場合ニ於テ職工ノ貯蓄金中工業主ノ給與ニ係ル部分ヲ交付セラルコト

第二十五條 職工ノ貯蓄金ヲ管理スル場合ニ於テハ工業主ハ豫メ確實ナル方法ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受ケルコト

第二十六條 (大正十五年勅令第五百十三號ヲ以テ本條ヲ前除)

第二十七條 未成年者若ハ女子カ工業主ノ都合ニ依リ解雇セラレ又ハ第五條若ハ第六條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受ケル職工若ハ第七條第一號第二號ニ該當スル職工解雇セラレ解雇ノ日ヨリ十五日内ニ歸郷スル場合ニ於テハ工業主ハ其ノ必要ナル旅費ヲ負擔スルコト又ハ職工ノ賃金ニ關シヘキ事セラレタル者廢止ノ日ヨリ十五日内ニ歸郷スル場合亦同シ

第十八條ノ規定ハ前項ノ旅費ニ關シテ之ヲ準用ス

第二十七條ノ一 工業主職工ニ對シ履修契約ヲ解除セムトスルトキハ少クモ十四日前ニ其ノ豫告ヲ爲スカ又ハ賃金十四日分以上ノ手當ヲ支給スルコトヲ要ス但シ天災事變ニ基キ事業ノ繼續不可能ト爲リタルニ因リ又ハ職工ノ賃金ニ關シヘキ事由ニ因リ已ムコトヲ得サル場合ニ於テ履修契約ヲ解除スルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ豫告期間ノ計算ニ付テハ左ニ掲グル期間ハ之ヲ算入セス

一 業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲メ休業スル期間但シ其ノ期間引續キ二月ヲ超ユルトキハ其ノ後ノ期間ハ此ノ限ニ在ラス

二 産前又ハ産後ノ女子ノ内務大臣ノ定ムル所ニ依リ休業スル期間

三 工業主ノ都合ニ依リ職工臨時ニ休業スル期間但シ休業中賃金ヲ受ケルコトキハ此ノ限ニ在ラス

前二項ノ規定ハ試用期間中ノ職工ニ付テ之ヲ適用セス但シ雇入後十四日(工業主地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ二十一)ヲ超ユル職工ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十六條及第十七條ノ規定ハ第一項ノ賃金ニ第十八條ノ規定ハ前三項ノ場合ニ之ヲ準用ス(大正十五年勅令第五百十三號ヲ以テ本條ヲ追加)

第二十七條ノ三 職工解雇ノ場合ニ於テ履修期間、業務ノ種類及賃金ニ付證明書ヲ請求シタルトキハ工業主ハ遲滞ナク之ヲ交付ス(シテ同上本條ヲ追加)

第二十七條ノ四 當時五十人以上ノ職工ヲ使用スル工場ノ工業主ハ遲滞ナク就業規則ヲ作成シテ地方長官ニ提出シ就業規則ヲ變更シタルトキ亦同シ

就業規則ニ定ムヘキ事項左ノ如シ

一 始業終業ノ時刻、休憩時間、休日及職工ノ二組以上三分テ交替ニ就業セシムルトキハ就業時轉換ニ關スル事項

二 賃金支拂ノ方法及時期ニ關スル事項

三 職工ニ食費其ノ他ノ負擔ヲ爲サシムルトキハ之ニ關スル事項

四 制裁ノ定アルトキハ之ニ關スル事項

五 解雇ニ關スル事項

地方長官必要ト認ムルトキハ就業規則ノ變更ヲ命スルコトヲ得(同上本條ヲ追加)

第二十八條 工場ニ收容スル徒弟ハ左ノ各號ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一 一定ノ職業ニ必要ナル知識技能ヲ習得スルノ目的ヲ

以テ業務ニ就クコト

二 一定ノ指導者指導監督ノ下ニ教習ヲ受ケルコト

三 品性ノ修養ニ關シ常時一定ノ監督ヲ受ケルコト

四 地方長官ノ認可ヲ受ケタル規程ニ依リ收容セララルコト

第二十九條 工業主前條第四號ノ認可ヲ申請スルニハ左ノ事項ヲ具備スヘシ

一 徒弟ノ員數

二 徒弟ノ年齢

三 指導者ノ資格

四 教習ノ事項及期間

五 就業ノ方法及一日ニ於ケル就業ノ時間

六 休日及休憩ニ關スル事項

七 品性修養ニ關スル監督ノ方法

八 給與ノ方法

九 第三十條ノ規定ニ依リ設ケル規程

十 徒弟契約ノ條項

第三十條 徒弟未成年者又ハ女子ナル場合ニ於テハ其ノ就業ニ付十六歳未満ノ者又ハ女子ニ關スル工場法ノ規定ニ違背シ危險ヲ避ケ及衛生上ノ害ヲ防クノ方法ヲ定ム(大正十五年勅令第五百十三號ヲ以テ本條ヲ改正)

第三十一條 地方長官ハ工業主ニ於テ第二十八條第四號ノ規程ニ違ハス又ハ徒弟教習ノ目的ヲ完テスルコト能ハスト認ムルトキハ之ヲ修正スル必要ナル事項ヲ命シ又ハ第二十八條第四號ノ認可ヲ取消スルコトヲ得

第三十二條 第二十八條ノ條件ヲ具備セザル者ニ對シテハ工業主ニ於テ徒弟ノ名義ヲ用キルニ拘ラズ職工ニ關スル工場法及本令ノ規定ヲ適用ス(第二十八條第四號ノ認可ヲ取消サレタルトキ從來ノ徒弟ニ付亦同シ)

第五章 罰則

第三十三條 工業主若シ不正ニ扶助義務ヲ賃金支拂ノ義務ヲ履行スル時貯蓄金返還ノ義務若ハ第二十七條第一項ノ規定ニ依リ職工ノ全部若ハ一部ヲ免レシメタル者又ハ第二十七條ノ一ノ規定ニ違反シ履修契約ヲ解除セシメタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ其ノ者ノ所屬ニ付工場法第二十二條ノ規定ニ依リ工業主又ハ之ノ代行者ノ罰金ニ付場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス(大正十五年勅令第五百十三號ヲ以テ本條ヲ改正)

第三十四條 (同上本條ヲ前除)

第三十五條 (同上本條ヲ前除)

第三十六條 (同上本條ヲ前除)

附則

第三十七條 本令ハ大正十五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十八條 第二十四條ノ規定ハ本令施行後一年間本令施行前ノ契約ニ之ヲ適用セス

賃金ノ支拂期ニ關シ第二十二條ノ規定ニ異ル慣習アルトキハ工業主ハ地方長官ノ許可ヲ受ケ本令施行後三年内其ノ慣習ニ依リ支拂期ヲ延長セザル限度ニ於テ支拂期ヲ定ムル契約ヲ爲スコトヲ得

第三十九條 本令施行ノ際工場法ノ適用ヲ受ケル工場ノ工業主ハ本令施行ノ日ヨリ四月内ハ第十九條、第二十一條、第二十二條、第二十五條及第二十六條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

本令施行ノ際職工ノ貯蓄金ヲ管理シ又ハ尋常小學校ノ教科ヲ修了セザル學齡兒童ヲ履修シ若ハ徒弟トシテ收容スル工業主前項ノ期間内ニ第二十五條、第二十六條又ハ第三十條第二項ノ規定ニ依リ認可ヲ申請シタルトキハ之ニ對スル

工場法施行令 罰則 附則

二二五

行政處分アル迄仍從前ノ例ニ依リコトヲ得

前項ノ規定ハ前條第二項ノ許可ノ申請ニ付テ之ヲ準用ス

第四十條 現行ノ命令ハ工場法又ハ本令ニ抵觸セザル限リ本令施行ノ爲メ其ノ效力ヲ妨ケラルコトナシ

第四十一條 本令ニ定ムルモノノ外主務大臣及地方長官ハ職工ノ雇入、解雇、周旋ヲ取締リ其ノ他本令施行ノ爲メ必要ナル事項ニ關シ命令ヲ發スルコトヲ得

第四十二條 本令中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス

附則 (大正十五年勅令第五百十三號附則)

第一條 本令ハ大正十二年法律第三十三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正十五年勅令第五百十二號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行ス)

第二條 從前ノ規定ニ依リ扶助ヲ受ケル者本令施行後引續キ扶助ヲ受ケルコトキハ本令施行後ハ本令ニ依リ之ヲ扶助スヘシ

本令施行前ニ扶助ヲ受ケテ治療シタル負傷又ハ疾病カ本令施行後再發シテ扶助ヲ受ケルコト亦同シ

第三條 本令施行ノ際大正十二年法律第三十三號又ハ本令ノ規定ニ依リ新ニ工場法ノ適用ヲ受ケル工場ノ工業主カ本令施行前ニ爲シタル契約ニ付テハ第二十四條ノ規定ハ本令施行後一年間之ヲ適用セス

前項ノ工業主ハ賃金ノ支拂期ニ關シ第二十二條ノ規定ニ異ル慣習アルトキハ地方長官ノ許可ヲ受ケ本令施行後二年以内其ノ慣習ニ依リ支拂期ヲ延長セザル限度ニ於テ支拂期ヲ定ムル契約ヲ爲スコトヲ得

第四條 尋常小學校ノ教科ヲ修了セザル學齡兒童ヲ使用スル場合ニ於テハ工業主ハ遲滞ナク就業ニ關シ必要ナル事項ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受ケヘシ

第五條 附則第三條第一項ノ工業主ハ本令施行ノ日ヨリ四

月以内ハ第二十二條、第二十五條及前條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

附則第三條第一項ノ工業主職工ノ貯蓄金ヲ管理シ又ハ尋常小學校ノ教科ヲ修了セザル學齡兒童ヲ引續キ使用スル場合ニ於テ前項ノ期間内ニ第二十五條又ハ前條ノ認可ヲ申請シタルトキハ之ニ對スル行政處分アル迄仍從前ノ例ニ依リコトヲ得

前項ノ規定ハ第一項ノ期間内ニ附則第三條第二項ノ許可ヲ申請シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六條 本令中十六歳トアルハ本令施行後三年間ハ之ヲ十五歳トス

●工場法施行規則

(大正五年八月三日) (農商務省令第十九號)

改正、大正五年内令一三

工場法施行規則左ノ通定ム

工場法施行規則

第一條 工場法施行令第一條ノ規定ニ依ル原動機ハ蒸氣機、蒸氣タービン、瓦斯機、石油機、タービン

第二條 工場法第四條及第七條ノ規定ニ依ル許可ノ申請ハ地方長官ニ之ヲ爲スシ同法第八條ノ規定ニ依ル許可若ハ認可ノ申請又ハ届出ニ付亦同シ大正十五年内務省令第十三號ヲ以テ之ヲ改正ス

第三條 器械生絲製造ノ業務、紡績ノ業務及地方長官ノ告知シタル工場ニ於ケル輸出箱織物ノ業務ニ付テハ工業主ハ大正二十年八月三十一日ニ至ル間ハ十六歳未満ノ者及女子ノ一日ノ就業時間ヲ十二時間迄延長スルコトヲ得但シ職工ノ一組以上ニ分テ交替ニ就業セシムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス(同上本條ヲ改正)

第四條 工場法第八條第二項但書ノ規定ニ依リ工業主行政官職ノ許可ヲ受ケシテ就業時間ヲ延長シ、十六歳以上ノ女子ヲ就業セシメ又ハ休日ヲ廢シタルキハ運搬チクツノ地方長官ニ届出ツ(同上本條ヲ改正)

第五條 工場法第九條ニ掲グル業務ノ範圍左ノ如シ 一 原動機、電氣機械其ノ他ノ機械又ハ動力傳達装置ニ附屬スル勢輪、曲柄、連接桿、聯桿器、啣子桿、發電機ノ「コンミューター」、轉子、銳利ナル刃物、齒輪、調帶車、車軸、車軸接手又

ル業務

六 砒素、水銀、黃磷、鉛、チアン水素酸、「フルオリル」、「アニリン」、「クロム」若ハ「コロ」又ハ其ノ化合物其ノ他之ニ進スヘキ有害物品ノ粉塵、蒸氣若ハ五酸又ハ酸性五酸ヲ發散スル場所ニ於ケル業務

七 多量ノ高熱物體ヲ取扱フ業務又ハ金屬、礦物、土石類ノ溶解若ハ煨燒ヲ爲ス高熱ノ場所、高熱ノ乾燥室其ノ他之ニ進スヘキ場所ニ於ケル業務

第八條 工場法第十條ノ規定ハ前條第六條及第七條ニ掲グル業務ニ關シテ十六歳以上ノ女子ニ付テハ適用ス大正十五年内務省令第十三號ヲ以テ之ヲ改正ス

第九條 工業主ハ左ニ掲グル疾病ニ罹レル者ヲシテ就業セシムルコトヲ得但シ第四號又ハ第五號ニ掲グル疾病ニ罹レル者ニ付傳染病ノ處置ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス 一 精神病

二 癩、肺結核、喉頭結核 三 丹毒、再歸熱、麻疹、流行性腦脊髄膜炎其ノ他之ニ進スヘキ急性熱性病 四 瘧疾、疥癬其ノ他傳染性皮膚病 五 膿漏性結膜炎、トラホーム(著シク傳染ノ感アルモノ)其ノ他之ニ進スヘキ傳染性眼病

工業主ハ助膜炎、心臟病、脚氣、關節炎、腰痛炎、急性泌尿生殖器病其ノ他ノ疾病ニ罹レル者ニシテ就業ノ爲病症増悪ノ虞アル場合ハ之ヲ就業セシムルコトヲ得ス 工業主ハ傳染病又ハ重大ナル疾病ニ罹レル者ニシテ其ノ症候消失シタル後ト雖健康ノ回復セザル場合ハ之ヲ就業セシムルコトヲ得但シ醫師ノ意見ヲ徵シテ支障ナシト認ムル業務ニ就カシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

ハ之ニ進スヘキ危険ナル部分ヲ其ノ運轉中ニ掃除、注油、検査又ハ修繕スル業務

二 危険ナル方法ニ依リ運轉中ノ機械又ハ動力傳達装置ニ調整、調整ノ取付又ハ取外シラ爲ス業務

三 汽罐ノ焚火、給水弁、阻汽弁ノ開閉又ハ安全弁ノ取扱

四 發電機、電動機、發電機ノ抵抗器若ハ變壓器ノ取扱又ハ高壓電線ノ接續

五 危険ナル齒輪、調帶車、勢輪、調帶、調整ニシテ完全ナル柵圍其ノ他ノ危険豫防裝置ナキモノ又ハ之ニ進スヘキニ接近シ行フ業務

七 完全ナル柵圍其ノ他ノ危険豫防裝置ナキ車軌道、足場其ノ他之ニ進スヘキ場所ニ於ケル業務

第六條 工場法第十條ニ掲グル業務ノ範圍左ノ如シ(大正十五年内務省令第十三號ヲ以テ第三號ヲ追加、以下順次操下之) 一 砒素若ハ水銀又ハ其ノ化合物、黃磷、硫化磷、チアン水素酸、「チアンカリウム」、フルオリル水素酸、硫酸、硝酸、鹽酸、苛性ナトリオン、石炭酸其ノ他之ニ進スヘキ毒劇性物品ヲ取扱フ業務

二 「カリウム」、「ナトリウム」、過酸化ナトリウム、「エーテル」、石油ベンゼン、「アルコホル」 三 硫化炭素其ノ他之ニ進スヘキ發火性又ハ引火性ノ物品ヲ取扱フ業務

四 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ヲ取扱フ業務 五 火藥、爆藥又ハ火工品ヲ取扱フ場所ニ於ケル業務

六 金屬、礦物、土石、骨、角、鹿角、獸毛、棉、麻、葉等ノ塵埃、粉末ヲ著多飛散スル場所ニ於ケル業務

第七條 職工名簿ノ記載ハ様式第二號ノ定ムル所ニ依ルヘシ 第八條 職工名簿ノ用紙ハ職工ノ死亡又ハ解雇後五年間之ヲ保存スヘシ

第九條 工業主カ其ノ職工ニ付工場間ニ又ハ工場ト工場外トノ間ニ所屬ノ移動ヲ行ヒタル場合ニ於テハ職工名簿ノ記載ニ付届入又ハ解雇アリタルモノト看做ス

第十條 職工ノ届入、解雇及扶助ニ關スル書類ハ工場毎ニ之ヲ備置クヘシ 第十一條 前項ノ届入及解雇ニ關スル書類ハ職工ノ解雇又ハ死亡ノ日ヨリ三年間、扶助ニ關スル書類ハ扶助ヲ終リタル日ヨリ三年間之ヲ保存スヘシ(同上本條ヲ改正)

第十二條 工場法施行令第二十三條ノ規定ニ依リ工業主カ賃金ヲ支拂ヒ又ハ職工ノ貯蓄金ヲ返還スヘキ場合左ノ如シ 一 職工カ一月以上ニ涉リテ歸郷スルトキ

二 職工カ結婚又ハ葬儀ヲ行フ費用ニ充ツルトキ 三 其ノ他地方長官ノ命令ヲ以テ定ムタル場合 第十四條 工業主工場管理人選任ノ認可ヲ申請セムトスルトキハ申請書ニ其ノ履歷書ヲ添ヘ之ヲ地方長官ニ提出スヘシ

第十五條 工業主ハ左ノ場合ニ於テハ運搬チクツノ地方長官ニ届出ツ(同上本條ヲ改正) 一 工場法第十八條第三項但書ニ依リ工場管理人ヲ選任シタルトキ 二 工場管理人死亡シ又ハ之ヲ解任シタルトキ 三 第十七條又ハ第十九條第二項ノ規定ニ依リ保存

●工場法施行規則

(大正五年八月三日) (農商務省令第十九號)

改正、大正五年内令一三

工場法施行規則左ノ通定ム

工場法施行規則

第一條 工場法施行令第一條ノ規定ニ依ル原動機ハ蒸氣機、蒸氣タービン、瓦斯機、石油機、タービン

第二條 工場法第四條及第七條ノ規定ニ依ル許可ノ申請ハ地方長官ニ之ヲ爲スシ同法第八條ノ規定ニ依ル許可若ハ認可ノ申請又ハ届出ニ付亦同シ大正十五年内務省令第十三號ヲ以テ之ヲ改正ス

第三條 器械生絲製造ノ業務、紡績ノ業務及地方長官ノ告知シタル工場ニ於ケル輸出箱織物ノ業務ニ付テハ工業主ハ大正二十年八月三十一日ニ至ル間ハ十六歳未満ノ者及女子ノ一日ノ就業時間ヲ十二時間迄延長スルコトヲ得但シ職工ノ一組以上ニ分テ交替ニ就業セシムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス(同上本條ヲ改正)

第四條 工場法第八條第二項但書ノ規定ニ依リ工業主行政官職ノ許可ヲ受ケシテ就業時間ヲ延長シ、十六歳以上ノ女子ヲ就業セシメ又ハ休日ヲ廢シタルキハ運搬チクツノ地方長官ニ届出ツ(同上本條ヲ改正)

第五條 工場法第九條ニ掲グル業務ノ範圍左ノ如シ 一 原動機、電氣機械其ノ他ノ機械又ハ動力傳達装置ニ附屬スル勢輪、曲柄、連接桿、聯桿器、啣子桿、發電機ノ「コンミューター」、轉子、銳利ナル刃物、齒輪、調帶車、車軸、車軸接手又

ル業務

六 砒素、水銀、黃磷、鉛、チアン水素酸、「フルオリル」、「アニリン」、「クロム」若ハ「コロ」又ハ其ノ化合物其ノ他之ニ進スヘキ有害物品ノ粉塵、蒸氣若ハ五酸又ハ酸性五酸ヲ發散スル場所ニ於ケル業務

七 多量ノ高熱物體ヲ取扱フ業務又ハ金屬、礦物、土石類ノ溶解若ハ煨燒ヲ爲ス高熱ノ場所、高熱ノ乾燥室其ノ他之ニ進スヘキ場所ニ於ケル業務

第八條 工場法第十條ノ規定ハ前條第六條及第七條ニ掲グル業務ニ關シテ十六歳以上ノ女子ニ付テハ適用ス大正十五年内務省令第十三號ヲ以テ之ヲ改正ス

第九條 工業主ハ左ニ掲グル疾病ニ罹レル者ヲシテ就業セシムルコトヲ得但シ第四號又ハ第五號ニ掲グル疾病ニ罹レル者ニ付傳染病ノ處置ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス 一 精神病

二 癩、肺結核、喉頭結核 三 丹毒、再歸熱、麻疹、流行性腦脊髄膜炎其ノ他之ニ進スヘキ急性熱性病 四 瘧疾、疥癬其ノ他傳染性皮膚病 五 膿漏性結膜炎、トラホーム(著シク傳染ノ感アルモノ)其ノ他之ニ進スヘキ傳染性眼病

工業主ハ助膜炎、心臟病、脚氣、關節炎、腰痛炎、急性泌尿生殖器病其ノ他ノ疾病ニ罹レル者ニシテ就業ノ爲病症増悪ノ虞アル場合ハ之ヲ就業セシムルコトヲ得ス 工業主ハ傳染病又ハ重大ナル疾病ニ罹レル者ニシテ其ノ症候消失シタル後ト雖健康ノ回復セザル場合ハ之ヲ就業セシムルコトヲ得但シ醫師ノ意見ヲ徵シテ支障ナシト認ムル業務ニ就カシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十條 職工名簿ノ記載ハ様式第二號ノ定ムル所ニ依ルヘシ 第十一條 職工名簿ノ用紙ハ職工ノ死亡又ハ解雇後五年間之ヲ保存スヘシ

第十二條 工業主カ其ノ職工ニ付工場間ニ又ハ工場ト工場外トノ間ニ所屬ノ移動ヲ行ヒタル場合ニ於テハ職工名簿ノ記載ニ付届入又ハ解雇アリタルモノト看做ス

第十三條 職工ノ届入、解雇及扶助ニ關スル書類ハ工場毎ニ之ヲ備置クヘシ 第十四條 前項ノ届入及解雇ニ關スル書類ハ職工ノ解雇又ハ死亡ノ日ヨリ三年間、扶助ニ關スル書類ハ扶助ヲ終リタル日ヨリ三年間之ヲ保存スヘシ(同上本條ヲ改正)

第十五條 工場法施行令第二十三條ノ規定ニ依リ工業主カ賃金ヲ支拂ヒ又ハ職工ノ貯蓄金ヲ返還スヘキ場合左ノ如シ 一 職工カ一月以上ニ涉リテ歸郷スルトキ

二 職工カ結婚又ハ葬儀ヲ行フ費用ニ充ツルトキ 三 其ノ他地方長官ノ命令ヲ以テ定ムタル場合 第十六條 工業主工場管理人選任ノ認可ヲ申請セムトスルトキハ申請書ニ其ノ履歷書ヲ添ヘ之ヲ地方長官ニ提出スヘシ

第十七條 工業主ハ左ノ場合ニ於テハ運搬チクツノ地方長官ニ届出ツ(同上本條ヲ改正) 一 工場法第十八條第三項但書ニ依リ工場管理人ヲ選任シタルトキ 二 工場管理人死亡シ又ハ之ヲ解任シタルトキ 三 第十七條又ハ第十九條第二項ノ規定ニ依リ保存

第十八條 本則ハ大正五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス 第十九條 本則施行ノ際工場法ノ適用ヲ受ケル工場ノ工業主ハ本則施行ノ日ヨリ四月内ハ第十二條、第十三條及第二十四條ノ規定ニ依ラズルコトヲ得

第二十條 本則施行ノ際工場法ノ適用ヲ受ケル工場ノ工業主ハ本則施行ノ日ヨリ四月内ハ第十二條、第十三條及第二十四條ノ規定ニ依ラズルコトヲ得

●工場法施行規則

(大正五年八月三日) (農商務省令第十九號)

改正、大正五年内令一三

工場法施行規則左ノ通定ム

工場法施行規則

第一條 工場法施行令第一條ノ規定ニ依ル原動機ハ蒸氣機、蒸氣タービン、瓦斯機、石油機、タービン

第二條 工場法第四條及第七條ノ規定ニ依ル許可ノ申請ハ地方長官ニ之ヲ爲スシ同法第八條ノ規定ニ依ル許可若ハ認可ノ申請又ハ届出ニ付亦同シ大正十五年内務省令第十三號ヲ以テ之ヲ改正ス

第三條 器械生絲製造ノ業務、紡績ノ業務及地方長官ノ告知シタル工場ニ於ケル輸出箱織物ノ業務ニ付テハ工業主ハ大正二十年八月三十一日ニ至ル間ハ十六歳未満ノ者及女子ノ一日ノ就業時間ヲ十二時間迄延長スルコトヲ得但シ職工ノ一組以上ニ分テ交替ニ就業セシムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス(同上本條ヲ改正)

第四條 工場法第八條第二項但書ノ規定ニ依リ工業主行政官職ノ許可ヲ受ケシテ就業時間ヲ延長シ、十六歳以上ノ女子ヲ就業セシメ又ハ休日ヲ廢シタルキハ運搬チクツノ地方長官ニ届出ツ(同上本條ヲ改正)

第五條 工場法第九條ニ掲グル業務ノ範圍左ノ如シ 一 原動機、電氣機械其ノ他ノ機械又ハ動力傳達装置ニ附屬スル勢輪、曲柄、連接桿、聯桿器、啣子桿、發電機ノ「コンミューター」、轉子、銳利ナル刃物、齒輪、調帶車、車軸、車軸接手又

ル業務

六 砒素、水銀、黃磷、鉛、チアン水素酸、「フルオリル」、「アニリン」、「クロム」若ハ「コロ」又ハ其ノ化合物其ノ他之ニ進スヘキ有害物品ノ粉塵、蒸氣若ハ五酸又ハ酸性五酸ヲ發散スル場所ニ於ケル業務

七 多量ノ高熱物體ヲ取扱フ業務又ハ金屬、礦物、土石類ノ溶解若ハ煨燒ヲ爲ス高熱ノ場所、高熱ノ乾燥室其ノ他之ニ進スヘキ場所ニ於ケル業務

第八條 工場法第十條ノ規定ハ前條第六條及第七條ニ掲グル業務ニ關シテ十六歳以上ノ女子ニ付テハ適用ス大正十五年内務省令第十三號ヲ以テ之ヲ改正ス

第九條 工業主ハ左ニ掲グル疾病ニ罹レル者ヲシテ就業セシムルコトヲ得但シ第四號又ハ第五號ニ掲グル疾病ニ罹レル者ニ付傳染病ノ處置ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス 一 精神病

二 癩、肺結核、喉頭結核 三 丹毒、再歸熱、麻疹、流行性腦脊髄膜炎其ノ他之ニ進スヘキ急性熱性病 四 瘧疾、疥癬其ノ他傳染性皮膚病 五 膿漏性結膜炎、トラホーム(著シク傳染ノ感アルモノ)其ノ他之ニ進スヘキ傳染性眼病

工業主ハ助膜炎、心臟病、脚氣、關節炎、腰痛炎、急性泌尿生殖器病其ノ他ノ疾病ニ罹レル者ニシテ就業ノ爲病症増悪ノ虞アル場合ハ之ヲ就業セシムルコトヲ得ス 工業主ハ傳染病又ハ重大ナル疾病ニ罹レル者ニシテ其ノ症候消失シタル後ト雖健康ノ回復セザル場合ハ之ヲ就業セシムルコトヲ得但シ醫師ノ意見ヲ徵シテ支障ナシト認ムル業務ニ就カシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十條 職工名簿ノ記載ハ様式第二號ノ定ムル所ニ依ルヘシ 第十一條 職工名簿ノ用紙ハ職工ノ死亡又ハ解雇後五年間之ヲ保存スヘシ

第十二條 工業主カ其ノ職工ニ付工場間ニ又ハ工場ト工場外トノ間ニ所屬ノ移動ヲ行ヒタル場合ニ於テハ職工名簿ノ記載ニ付届入又ハ解雇アリタルモノト看做ス

第十三條 職工ノ届入、解雇及扶助ニ關スル書類ハ工場毎ニ之ヲ備置クヘシ 第十四條 前項ノ届入及解雇ニ關スル書類ハ職工ノ解雇又ハ死亡ノ日ヨリ三年間、扶助ニ關スル書類ハ扶助ヲ終リタル日ヨリ三年間之ヲ保存スヘシ(同上本條ヲ改正)

第十五條 工場法施行令第二十三條ノ規定ニ依リ工業主カ賃金ヲ支拂ヒ又ハ職工ノ貯蓄金ヲ返還スヘキ場合左ノ如シ 一 職工カ一月以上ニ涉リテ歸郷スルトキ

二 職工カ結婚又ハ葬儀ヲ行フ費用ニ充ツルトキ 三 其ノ他地方長官ノ命令ヲ以テ定ムタル場合 第十六條 工業主工場管理人選任ノ認可ヲ申請セムトスルトキハ申請書ニ其ノ履歷書ヲ添ヘ之ヲ地方長官ニ提出スヘシ

第十七條 工業主ハ左ノ場合ニ於テハ運搬チクツノ地方長官ニ届出ツ(同上本條ヲ改正) 一 工場法第十八條第三項但書ニ依リ工場管理人ヲ選任シタルトキ 二 工場管理人死亡シ又ハ之ヲ解任シタルトキ 三 第十七條又ハ第十九條第二項ノ規定ニ依リ保存

第十八條 本則ハ大正五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス 第十九條 本則施行ノ際工場法ノ適用ヲ受ケル工場ノ工業主ハ本則施行ノ日ヨリ四月内ハ第十二條、第十三條及第二十四條ノ規定ニ依ラズルコトヲ得

第二十條 本則施行ノ際工場法ノ適用ヲ受ケル工場ノ工業主ハ本則施行ノ日ヨリ四月内ハ第十二條、第十三條及第二十四條ノ規定ニ依ラズルコトヲ得

工場法施行規則 工業労働者最低年齢法

第三十條 工場法施行ノ際十歳以上十二歳未満ノ者ヲ引續キ就業セシムル工業主ハ大正五年九月三十日迄ニ其ノ氏名、男女別、生年月日及雇入年月ヲ地方長官ニ届出シ...

附則 (大正十五年内務省令第十三號附則)

本令ハ大正十二年法律第三十三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正十五年勅令第五百二十二號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行ス)

工業労働者最低年齢法

(大正十二年三月三十日) 法律第三十四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル工業労働者最低年齢法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

工業労働者最低年齢法

第一條 本法ニ於テ工業ト稱スルハ左ニ掲グル事業ヲ謂フ 一 鑛業、砂鑛業、石切業其ノ他土地ヨリ鑛物ヲ採取スル事業...

其ノ者ニ付第二條ノ規定ハ之ヲ適用セス

工場抵當法

(明治三十八年三月十三日) 法律第五十四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル工場抵當法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

工場抵當法

第一條 本法ニ於テ工場ト稱スルハ營業ノ爲物品ノ製造若ハ加工又ハ印刷若ハ攝影ノ目ニ使用スル場所ヲ謂フ 營業ノ爲電氣又ハ瓦斯ノ供給ノ目ニ使用スル場所ハ之ヲ工場ト看做ス...

第六條 工場ノ所有者カ抵當權者ノ同意ヲ得テ土地又ハ建物ニ附加シテ之ヲ一體ヲ成シタル物ヲ土地又ハ建物ト分離シタルトキハ抵當權ハ其ノ物ニ付消滅ス...

第七條 抵當權ノ目的タル土地又ハ建物ノ差押、假差押又ハ假處分ハ第二條ノ規定ニ依リテ抵當權ノ目的タル物ニ及ブ...

第八條 工場ノ所有者ハ抵當權ノ目的ト爲ヌ爲一箇又ハ數箇ノ工場ニ付工場財團ヲ設クルコトヲ得數箇ノ工場カ各別ノ所有者ニ屬スルトキ亦同シ...

第九條 工場財團ハ抵當權ノ消滅ニ因リテ消滅ス 工場財團ノ設定ハ工場財團登記簿ニ所有權保存ノ登記ヲ爲スニ依リテ之ヲ爲ス...

第十條 工場財團ノ所有權保存ノ登記ハ其ノ登記後二箇月内ニ抵當權設定ノ登記ヲ受ケサルトキハ其ノ效力ヲ失フ...

第十一條 工場財團ハ左ニ掲グルモノノ全部又ハ一部ヲ以テ之ヲ組成スルコトヲ得...

一 工場ニ屬スル土地及工作物

二 機械、器具、電柱、電線、配置諸管、軌條其ノ他ノ附屬物

三 地上權

四 賃貸人ノ承諾アルトキハ物ノ賃借權

工場抵當法

工場抵當法

五 工業所有権

第十二條 工場ニ屬スル土地又ハ建物ヲテ未登記ノモノアルトキハ工場財團ヲ設クル前其ノ所有權保存ノ登記ヲ受ケルコトヲ要ス...

備フ

第三十條 工場財團登記簿ハ其ノ一用紙ヲ登記番號欄、表題部及甲乙ノ二區ニ分テ表題部ニ表示欄、表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ設ケ...

工場抵當法

五 工業所有権

第十二條 工場ニ屬スル土地又ハ建物ヲテ未登記ノモノアルトキハ工場財團ヲ設クル前其ノ所有權保存ノ登記ヲ受ケルコトヲ要ス...

備フ

第三十條 工場財團登記簿ハ其ノ一用紙ヲ登記番號欄、表題部及甲乙ノ二區ニ分テ表題部ニ表示欄、表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ設ケ...

工場抵當法

ノモノトシテ... 第四十七條 民事訴訟法第七百條又ハ競賣法第三十三條ノ規定ニ依リ登記ノ囑託ヲ爲スヘキ場合ニ於テ工場財團ノ抵當權ヲ競落ニ因リ消滅シタルトキハ裁判所ハ同時ニ工場財團ニ屬シタル土地、建物、船舶又ハ工業所有權ニ付第二十... 第四十八條 工場財團登記簿ハ所有權保存ノ登記カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキ又ハ抵當權ノ登記カ全部抹消セラレタルトキハ其ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治三十八年勅令第百八十七號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行ス)

健康保險法

(大正十一年四月二十二日) 改正、大五一法三四 法律 第七十號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ健康保險法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 總則

第一條 健康保險ニ於テハ保險者カ被保險者ノ疾病、負傷、死亡又ハ分娩ニ關シ療養ノ給付又ハ傷病手當金、埋葬料、分娩費若ハ出産手當金ノ支給ヲ爲スモノトス 第二條 本法ニ於テ報稱ト稱スルハ事業ニ使用セラルル者カ勞務ノ對價トシテ事業主ヨリ受クル賃金、給料又ハ俸給及之ニ進スヘキモノヲ謂フ 第三條 報稱ノ額ニ基キ保險料又ハ保險給付ノ額ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報稱ニ依リテ算定ス 第四條 報稱ノ額ニ基キ保險料又ハ保險給付ノ額ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報稱ニ依リテ算定ス 第五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定スル期間ノ計算ニ付テハ民法ノ期間ノ計算ニ關スル規定ヲ準用ス

健康保險法

總則 被保險者

第二章 被保險者

第六條 健康保險ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セス 第七條 保險者又ハ保險給付ヲ受クヘキ者ハ被保險者又ハ被保險者トシテノ戸籍ニ關シ戶籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得 第八條 保險者ハ被保險者ヲ使用スル事業主ニ對シ其ノ使用スル者ノ異動、報稱其ノ他健康保險ノ施行ニ必要ナル事項ニ關シ報告ヲ爲サシム又ハ文書ヲ提示セシムルコトヲ得 第九條 保險官署ハ必要アリト認ムルトキハ當該官吏又ハ吏員ヲシテ保險事故ノ生シタル作業ノ場所ニ臨檢セシムルコトヲ得 第十條 主務大臣ハ本法ニ規定スル其ノ職權ノ一部ヲ命令ヲ以テ保險官署ニ委任スルコトヲ得 第十一條 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ保險者ノ請求アルトキハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リテ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ保險者ハ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スヘシ 第十二條 前項ノ規定ニ於テ市町村トアルハ市制町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ進スヘキモノトス 第十三條 工場法ノ適用ヲ受クル工場又ハ鑛業法ノ適用ヲ受クル事業場若ハ工場ニ使用セラルル者ハ健康保險ノ被保險者トス但シ臨時ニ使用セラルル者ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ及一年ノ報稱千二百圓ヲ超ユル職員ハ此ノ限ニ在ラス 第十四條 前條ニ規定スル工場及事業場ヲ除クノ外左ノ各號ノ一ニ該當スル事業ノ事業主ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ事業及之ニ附屬スル事業ニ使用セラルル者ヲ包括シテ健康

保險ノ被保險者ト爲スコトヲ得

- 一 鑛物ノ採掘又ハ採取ノ事業
二 物ノ製造、加工、選別、包裝、修理又ハ解体ノ事業
三 電氣又ハ動力ノ發生、變壓又ハ傳導ノ事業
四 土木工事又ハ工作物ノ建設、保存、修理若ハ破壊ノ工事ニシテ主務大臣ノ指定スルモノ
五 地方鐵道法又ハ軌道法ノ適用ヲ受クル事業
六 前號ニ掲グルモノヲ除クノ外陸上ニ於テ爲ス貨物又ハ旅客ノ運送ノ事業ニシテ主務大臣ノ指定スルモノ
七 貨物積卸ノ事業
八 前各號ニ掲グルモノノ外勅令ヲ以テ指定スル事業
前項ノ認可ヲ申請スルニハ被保險者ト爲ルヘキ者ノ二分ノ一以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
一事業ニ於テ作業ノ場所二以上アル場合ニ於テハ第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ主務大臣ハ其ノ一又ハ二以上ノ場所ニ於ケル作業ヲ一事業ト看做スコトヲ得
第十五條 前條ノ認可アリタルトキハ其ノ事業ニ使用セラルル者ハ健康保險ノ被保險者トス
第十三條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第十六條 工場法又ハ鑛業法ノ適用ヲ受クル工場カ其ノ適用ヲ受ケザルニ至リタルトキハ其ノ工場ニ付第十四條ノ認可アリタルモノト看做ス
第十七條 第十三條及第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ハ其ノ業務ニ使用セラルルニ至リタル日又ハ第十三條但書若ハ第十五條第二項ノ規定ニ該當セザルニ至リタル日ヨリ其ノ資格ヲ取得ス
第十八條 第十三條及第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ハ死亡シタル日、其ノ業務ニ使用セラレザルニ至リタル日又ハ第十三條但書若ハ第十五條第二項ノ規定ニ該當スルニ至リタル日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス但シ其ノ事實アリタル日ニ更

前條ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス
第十九條 第十五條ノ規定ニ依リ被保險者ヲ使用スル事業主ハ主務大臣ノ認可ヲ受テ其ノ被保險者ノ全部ヲシテ其ノ資格ヲ喪失セシムルコトヲ得
前項ノ認可ヲ申請スルニハ被保險者ノ四分ノ三以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
第一項ノ認可アリタルトキハ被保險者ハ認可アリタル日ノ翌日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

第二十二條 健康保險ノ保險者ハ政府及健康保險組合トス
第二十三條 保險者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ被保險者ノ健康ヲ保持スル爲メ必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得
第二十四條 政府ハ健康保險組合ノ組合員ニ非サル被保險者ノ保險ヲ管理ス
第二十五條 健康保險組合ハ其ノ組合員タル被保險者ノ保險ヲ管理ス

第三章 保險者

第二十一條 前條ノ規定ニ依リ被保險者ハ前條ノ規定ニ依リ被保險者ト爲リタル日ヨリ百八十日ヲ経過シタルトキ、保險料ヲ納付セシメ命令ヲ以テ定ムル猶豫期間ヲ経過シタルトキ又ハ第十三條若ハ第十五條ノ規定ニ依リ被保險者ト爲リタルトキハ其ノ資格ヲ喪失ス
前條ノ規定ニ依リ被保險者死亡シタル場合ニハ第十八條ノ規定ヲ準用ス

第二十六條 健康保險組合ハ法人トス
第二十七條 健康保險組合ハ事業主、其ノ事業ニ使用セラルル被保險者及第二十條ノ規定ニ依リ被保險者ヲ以テ之ヲ組織ス
第二十八條 一又ハ二以上ノ事業ニ付被保險者常時三百人以上ヲ使用スル事業主ハ健康保險組合ヲ設立スルコトヲ得
被保險者ヲ使用スル二以上ノ事業主ハ共同シテ健康保險組合ヲ設立スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ被保險者ノ員數ハ合算シテ常時三百人以上タルコトヲ要ス
第二十九條 健康保險組合ハ設立セムトスルニハ組合員タル資格ヲ有スル被保險者ノ二分ノ一以上ノ同意ヲ得規約ヲ作り主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
二以上ノ事業ニ付健康保險組合ヲ設立セムトスル場合ニ於テハ前項ノ同意ハ各事業ニ付之ヲ得ルコトヲ要ス

第三十條 前二條ノ規定ニ於テ被保險者トアルハ第十四條第一項ノ規定ニ依リ認可ヲ申請ト同時ニ健康保險組合ノ設立認可ヲ申請スル場合ニ在リテハ被保險者ト爲ルヘキ者トス
第三十一條 主務大臣ハ一事業ニ付第十三條ノ規定ニ依リ被保險者常時五百人以上ヲ使用スル事業主ニ對シ健康保險組合ノ設立ヲ命スルコトヲ得
第三十二條 前條ノ規定ニ依リ健康保險組合ノ設立ヲ命セラレタル事業主ハ規約ヲ作り設立ニ付主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
第三十三條 第十四條第三項ノ規定ハ第二十八條、第二十九條及第三十一條ノ規定ニ適用ニ付之ヲ準用ス
第三十四條 健康保險組合ハ設立ノ認可ヲ受ケル時ニ成立ス
第三十五條 健康保險組合成立シタルトキハ事業主及其ノ事業ニ使用セラルル被保險者ハ總テ之ヲ組合員トス

前項第一號ノ場合ニ於テハ療養ノ給付ニ要シタル費用ニ相當スル金額ハ事業主ヨリ之ヲ徴收ス
第四十九條 被保險者死亡シタルトキハ被保險者ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ埋葬ヲ行フモノニ對シ埋葬料トシテ被保險者ノ報酬日額ノ二十日分ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ其ノ金額ハ二十日分ニ滿タサルトキハ二十日分トス
被保險者死亡シタル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依リ埋葬料ノ支給ヲ受ケヘキ者ナキトキハ埋葬料ヲ行ヒタル者ニ對シ前項ノ金額ノ範圍内ニ於テ其ノ埋葬ニ要シタル費用ニ相當スル金額ヲ支給ス
第五十條 被保險者分娩シタルトキハ分娩費トシテ二十圓ヲ、出産手當金トシテ分娩ノ前後勅令ヲ以テ定ムル期間一日ニ付報酬日額ノ百分ノ六十ニ相當スル金額ヲ支給ス
第五十一條 保險者ハ被保險者ヲ産院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲スコトヲ得
第五十二條 産院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲シタル被保險者ニ對シテ支給スヘキ分娩費及出産手當金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ減額スルコトヲ得
第五十三條 分娩ノ開スル保險給付ニ付テハ勅令ヲ以テ分娩前一定ノ期間被保險者トシテ非サレハ之ヲ爲ササルコトヲ定ムルコトヲ得
第五十四條 出産手當金ノ支給ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ期間傷病手當金ハ之ヲ支給セズ
第五十五條 被保險者ノ資格ヲ喪失シタル際疾病ノ負傷又ハ分娩ニ關シ保險給付ヲ受クル者ハ被保險者トシテ保險給付ヲ受クルコトヲ得カリシ期間繼續シテ同一保險者ヨリ其ノ給付ヲ受クルコトヲ得

前項ノ被保險者ハ其ノ事業ニ使用セラレサルニ至リタルトキト雖第二十條ノ規定ニ依リ被保險者トシタルトキハ仍之ヲ組合員トス
第三十六條 健康保險組合ノ規約ノ變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生ゼズ
第三十七條 主務大臣ハ健康保險組合ニ對シ事實ニ關スル報告ヲ爲サシメ、事業及財産ノ狀況ヲ検査シ、規約ノ變更ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得
第三十八條 健康保險組合ノ役員ニ欠陥若ハ故障アルトキ又ハ組合ノ役員保險給付其ノ他其ノ執行スヘキ職務ヲ執行セサルトキハ主務大臣ハ官吏又ハ其ノ他ノ者ヲ指定シテ其ノ職務ヲ執行セシムルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ其ノ職務ノ執行ニ要スル費用ハ健康保險組合ノ負擔トス
第三十九條 主務大臣ハ健康保險組合ノ決議若ハ役員ノ行爲ヲ法令、主務大臣ノ處分若ハ規約ニ違反シ、組合員ノ利益ヲ害ス若ハ害スルノ虞アリト認めタルトキ又ハ組合ノ事業若ハ財産ノ狀況ニ依リ其ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認めタルトキハ決議ヲ取消シ、役員ヲ解職シ又ハ組合ノ解散ヲ命スルコトヲ得
第四十條 解散ニ因リテ消滅シタル健康保險組合ノ權利義務ハ政府ノ承継トス
第四十一條 本法ニ規定スルモノノ外健康保險組合ノ管理、財産ノ保管及利用方法、分合、解散其ノ他健康保險組合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第四十二條 同時ニ二以上ノ業務ニ使用セラルル被保險者ノ保險者ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ

第四章 保險給付

第四十三條 被保險者ノ疾病又ハ負傷ニ關シテハ療養ノ給付ヲ

爲ス

前項ノ療養ノ給付ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第一項ノ場合ニ於テ療養上必要アリト認めタルトキハ被保險者ハ被保險者ヲ病院ニ收容スルコトヲ得
第四十四條 療養ノ給付ヲ爲スコト困難ナル場合又ハ被保險者ノ申請アリタル場合ニ於テハ保險者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ療養ノ給付ニ代テ療養費ヲ支給スルコトヲ得
第四十五條 被保險者療養ノ爲メ勞務ニ服スルコト能ハサルトキハ其ノ期間傷病手當金トシテ一日ニ付報酬日額ノ百分ノ六十ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ業務上ノ事由ニ因リ疾病ニ罹リ又ハ負傷シタル場合以外ノ場合ニ於テハ勞務ニ服スルコト能ハサルニ至リタル日ヨリ起算シ第四日ヨリ之ヲ支給ス
第四十六條 病院ニ收容シタル被保險者ニ對シテ支給スヘキ傷病手當金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ減額スルコトヲ得
第四十七條 療養ノ給付及傷病手當金ノ支給ハ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ付百八十日ヲ超エテ之ヲ爲サズ

業務上ノ事由ニ因リ疾病ニ罹リ又ハ負傷シタル場合以外ノ場合ニ於テハ療養ノ給付及傷病手當金ノ支給ハ一年以内百八十日ヲ超エテ之ヲ爲サズ
被保險者ハ前二項ノ規定ニ拘ラス傷病手當金ノ支給ヲ受クル期間療養ノ給付ヲ受ク
第四十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ保險者ハ前條ノ規定スル期間ヲ超テ療養ヲ必要トスル者ニ對シ繼續シテ療養ノ給付ヲ爲スコトヲ得
一 他ノ法令ノ規定ニ依リ事業主ヨリ扶助ヲ受クヘキ者ニ付其ノ事業主ヨリ申請アリタルトキ
二 前號以外ノ場合ニ於テ療養ノ給付ニ要スル費用ノ償還ニ付擔保ヲ提供シ其ノ他確實ナル方法ヲ定メ本人又ハ第三者ヨリ申請アリタルトキ

前項第一號ノ場合ニ於テハ療養ノ給付ニ要シタル費用ニ相當スル金額ハ事業主ヨリ之ヲ徴收ス
第四十九條 被保險者死亡シタルトキハ被保險者ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ埋葬ヲ行フモノニ對シ埋葬料トシテ被保險者ノ報酬日額ノ二十日分ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ其ノ金額ハ二十日分ニ滿タサルトキハ二十日分トス
被保險者死亡シタル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依リ埋葬料ノ支給ヲ受ケヘキ者ナキトキハ埋葬料ヲ行ヒタル者ニ對シ前項ノ金額ノ範圍内ニ於テ其ノ埋葬ニ要シタル費用ニ相當スル金額ヲ支給ス
第五十條 被保險者分娩シタルトキハ分娩費トシテ二十圓ヲ、出産手當金トシテ分娩ノ前後勅令ヲ以テ定ムル期間一日ニ付報酬日額ノ百分ノ六十ニ相當スル金額ヲ支給ス
第五十一條 保險者ハ被保險者ヲ産院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲スコトヲ得
第五十二條 産院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲シタル被保險者ニ對シテ支給スヘキ分娩費及出産手當金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ減額スルコトヲ得
第五十三條 分娩ノ開スル保險給付ニ付テハ勅令ヲ以テ分娩前一定ノ期間被保險者トシテ非サレハ之ヲ爲ササルコトヲ定ムルコトヲ得
第五十四條 出産手當金ノ支給ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ期間傷病手當金ハ之ヲ支給セズ
第五十五條 被保險者ノ資格ヲ喪失シタル際疾病ノ負傷又ハ分娩ニ關シ保險給付ヲ受クル者ハ被保險者トシテ保險給付ヲ受クルコトヲ得カリシ期間繼續シテ同一保險者ヨリ其ノ給付ヲ受クルコトヲ得

第五十六條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受クル者死亡シタルトキ、前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者其ノ給付ヲ受ケタルニ至リタル日以後九十日以内ニ死亡シタルトキ又ハ其ノ他ノ被保險者トシテ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル日又ハ九十日以内ニ死亡シタルトキハ被保險者トシテ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ埋葬ヲ行フモノノ最後ノ保險者ヨリ埋葬料ノ支給ヲ受クルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ埋葬料ノ支給ヲ受クル者ナキ場合及前項ノ埋葬料ノ金額ニ付テハ第四十九條ノ規定ヲ準用ス
第五十七條 被保險者トシテ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル日以後勅令ヲ以テ定ムル期間内ニ分娩シタルトキハ分娩ニ關シ被保險者トシテ受クルコトヲ得カリシ期間繼續シテ最後ノ保險者ヨリ受クルコトヲ得
第五十八條 疾病ニ罹リ、負傷シ又ハ分娩シタル場合ニ於テ繼續シテ報酬ノ全部又ハ一部ヲ受クルコトヲ得ヘキ者ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ受クルコトヲ得ヘキ期間傷病手當金又ハ出産手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セズ
第五十九條 前條ノ規定ニ該當スル疾病ニ罹リ、負傷シ又ハ分娩シタル場合ニ於テ其ノ受クルコトヲ得ヘカリシ報酬ノ全部又ハ一部ヲ受クルコト能ハサルトキハ保險者ハ之ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ傷病手當金又ハ出産手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給ス
前項ノ規定ニ依リ保險者ノ支給シタル金額ハ事業主ヨリ之ヲ徴收ス
第六十條 被保險者又ハ被保險者トシテ自己ノ故意ノ犯罪ヲ行フニ因リ又ハ故意ノ事故ヲ生ジシタルトキハ保險給付ヲ爲サズ
第六十一條 被保險者關若ハ泥酔ニ因リ又ハ故意ニ危害豫防ニ關スル業務上ノ監督者ノ指揮ニ從ハサルニ因リ事故ヲ生ジシタルトキハ傷病手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セサルコト

第六十二條 保險給付ヲ受ケヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ期間保險給付ヲ爲サズ

- 一 陸海軍ニ徴集又ハ召集セラレタルトキ
二 本法施行區域外ニ在ルトキ
三 感化院其ノ他之ニ進スヘキモノニ入院セシメラレタルトキ
四 監獄、留置場又ハ勞務場ニ拘禁又ハ留置セラレタルトキ

他ノ法令ノ規定ニ依リ國又ハ公共團體ノ負擔ニ於テ病院、病舎又ハ療養所ニ收容セラレタル者ニ對シテハ療養ノ給付ヲ爲サズ

前項ニ掲グル者ニ付テハ第四十六條ノ規定ヲ適用ス

第六十三條 保險者ハ正當ノ理由ナクシテ療養ニ關スル指揮ニ從ハサル者ニ對シニ之ヲ支給スヘキ傷病手当金ノ一部ヲ支給セザルコトヲ得

第六十四條 保險者ハ詐欺其ノ他不正ノ行爲ニ依リ保險給付ヲ受ケ又ハ受ケムトシタル者ニ對シテ勸令ノ定ムル所ニ依リ期間ヲ定メ保險給付ノ全部又ハ一部ヲ爲サザルコトヲ得

第六十五條 保險者ハ必要アリト認ムルトキハ保險給付ヲ受ケル者ノ診斷ヲ行フコトヲ得

第六十六條 保險者ハ正當ノ理由ナクシテ前項ノ診斷ヲ拒ミタル者ニ對シテ保險給付ノ全部又ハ一部ヲ爲サザルコトヲ得

第六十九條 保險給付トシテ支給ラセケル金品ヲ標準トシテ租稅其ノ他ノ公課ヲ課セズ

第五章 費用ノ負擔

第七十條 國庫ハ勸令ノ定ムル所ニ依リ各健康保險組合ノ保險給付ニ要スル費用ノ十分ノ一ヲ負擔ス

前項ノ規定ニ依リ國庫負擔金ノ總額カ被保險者一人ニ付一年平均二圓ノ割合ヲ超ユル場合ニ於テハ各健康保險組合ニ對スル國庫負擔金ハ勸令ノ定ムル所ニ依リ其ノ限度ニ至ル迄之ヲ減額スルモノトス

第七十一條 保險者ハ健康保險事業ニ要スル費用ニ充ツル爲メ保險料ヲ徵收ス

第七十二條 保險料ノ算定ニ關スル事項ハ勸令ヲ以テシテ定ム

第七十三條 被保險者及被保險者ヲ使用スル事業主ハ各保險料額ノ二分ノ一ヲ負擔ス但シ第二十條ノ規定ニ依リ被保險者ハ其ノ全額ヲ負擔ス

第七十四條 業務ノ性質上事故多キ事業ニ使用セラレタル被保險者又ハ少額ノ報酬ヲ受ケル被保險者ニ關スル保險料ニ付テハ勸令ヲ以テ事業主ノ負擔スヘキ割合ヲ增加スルコトヲ得

第七十五條 被保險者ノ負擔スヘキ保險料額ハ一日ニ付報酬日額ノ百分ノ三ヲ超ユルコトヲ得但シ第二十條ノ規定ニ依リ被保險者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第七十六條 被保險者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ期間保險料ヲ徵收セズ

- 一 傷病手当金又ハ出產手当金ノ支給ヲ受ケタルトキ
二 第六十二條第一項各號ノ一ニ該當スルトキ

第七十七條 事業主ハ其ノ使用スル被保險者ノ負擔スヘキ保險料ヲ納付スル義務ヲ負フ但シ第二十條ノ規定ニ依リ被保險者ノ負擔スル保險料ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第七十八條 事業主ハ勸令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依リ納付スヘキ保險料ヲ被保險者ニ支拂フヘキ報酬ヨリ控除スルコトヲ得

第七十九條 保險料ノ納付期日ニ關シテハ勸令ヲ以テテ定ム

第六章 審査ノ請求、訴訟及訴訟

第八十條 保險給付ニ關スル決定ニ不服アル者ハ第一次健康保險審査會ニ審査ヲ請求シ其ノ決定ニ不服アル者ハ第二次健康保險審査會ニ審査ヲ請求シ其ノ決定ニ不服アル者ハ通常裁判所ニ訴ヲ提起スルコトヲ得

第八十一條 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依リ徵收金ノ賦課又ハ徵收ノ處分ニ不服アル者ハ其ノ處分ヲ爲シタル保險官署又ハ健康保險組合ヲ監督スル監督官署ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八十二條 前條ノ規定ニ依リ訴願ノ提起アリタルトキハ保險官署ハ第二次健康保險審査會ヲ審査ヲ經テ裁決ヲ爲ス

第八十三條 健康保險審査會ノ組織及審査ニ關シテ必要ナル事項ハ勸令ヲ以テテ定ム

健康保險法施行令

改正、昭二一勸三〇、勸二二〇 (大正十五年六月三十日 勸令第二百四十三號)

第一章 總則

第一條 健康保險法第二條第一項ノ賃金、給料又ハ俸給ニ進スヘキモノノ範圍ハ當時又ハ定期ニ受ケル給與其ノ他ノ利益トシテ左ニ掲グルモノヲ除ク

- 一 三月ヲ超ユル期間毎ニ支給スル賞與又ハ手当
二 通勤手当
三 住居ニ關スル利益又ハ住宅料ニシテ賃金、給料又ハ俸給ノ額ノ決定ニ影響ナキモノ
四 其ノ他内務大臣ノ指定スルモノ

第二條 賃金、給料又ハ俸給ニ進スヘキモノノ全部又ハ一部カ金錢以外ノ給與其ノ他ノ利益ナル場合ニ於テハ其ノ價額ハ保險官署ノ定ムル標準價額ニ依リテ算定ス

前項ノ標準價額ハ其ノ地方ノ時價ニ依リテ算定ス

健康保險組合ハ第一項ノ規定ニ拘ラス規程ヲ以テ別段ノ定メ爲スコトヲ得

第三條 健康保險法第三條第一項ノ標準報酬ハ被保險者ノ報酬日額ニ基キ左ノ區別ニ依リテ定ム

Table with 3 columns: 標準報酬ノ等級, 標準報酬日額, 報酬日額

第八十五條 健康保險審査會ハ審査ノ爲メ必要アリト認ムルトキハ證人又ハ鑑定人ノ訪問其ノ他ノ證據調ヲ爲スコトヲ得

第八十六條 審査ノ請求、訴ノ提起又ハ訴訟若ハ行政訴訟ノ提起ハ處分ノ通知又ハ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ審査ノ請求ニ付テハ訴訟法第八條第三項ノ規定ヲ、訴ノ提起ニ付テハ民事訴訟法第六十七條及第七十四條乃至第七十七條ノ規定ヲ適用ス

第七章 罰則

第八十七條 正當ノ理由ナクシテ第九條ノ規定ニ依リ當該官吏又ハ吏員ノ職務ヲ拒ミ若ハ妨ケ又ハ其ノ訪問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ答辯ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十八條 第八條ノ規定ニ依リ保險者ノ請求アリタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ若ハ文書ノ提示ヲ拒ミタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十九條 健康保險組合ノ設立ヲ命ゼラレタル事業主正當ノ理由ナクシテ主務大臣ノ指定スル期日迄ニ設立ノ認可ヲ申請セザルトキハ其ノ手續ノ遅延シタル期間其ノ負擔スヘキ保險料額ノ二倍ニ相當スル金額以下ノ過料ニ處ス

第九十條 健康保險組合ハ第三十七條ノ規定ニ依リ命令ニ違反シ又ハ處分ヲ拒ミ若ハ妨ケタルトキハ其ノ役員ヲ百圓以下ノ過料ニ處ス

第三級	五十錢	四十五錢以上
第四級	六十錢	五十五錢以上
第五級	七十錢	六十五錢以上
第六級	八十錢	七十五錢以上
第七級	一圓	八十五錢以上
第八級	一圓三十錢	一圓四十五錢以上
第九級	一圓六十錢	一圓七十五錢以上
第十級	一圓九十錢	二圓以上
第十一級	二圓二十錢	二圓五錢以上
第十二級	二圓五十錢	二圓三十五錢以上
第十三級	二圓八十錢	二圓六十五錢以上
第十四級	三圓十錢	二圓九十五錢以上
第十五級	三圓五十錢	三圓二十五錢以上
第十六級	四圓	三圓七十五錢以上

第四條 標準報酬は毎年六月一日の現在に依りて之を定む。七月一日より翌年六月三十日迄其の効力ヲ有ス。但し被保險者ノ資格ヲ取得シタル際ニ於テ標準報酬ハ其ノ資格ヲ取得シタル日ノ現在に依りて之を定む。其ノ日ヨリ六月三十日迄

其ノ効力ヲ有ス
被保險者ノ報酬ニ若シテ増減アリタルトキハ保險者ハ前項ノ規定ニ拘ラス標準報酬ノ變更ヲ爲スヘシ
健康保險法第二十條ノ規定ニ依リ被保險者ニ付テハ第一項ノ規定ニ拘ラス引續キ從前ノ標準報酬ニ依リ健康保險組合ハ第一項ノ規定ニ拘ラス標準報酬ノ決定ニ關シ規約ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得
第五條 第三條ニ規定スル被保險者ノ報酬日額ハ左ノ各號ノ規定ニ依りて算定ス
一 年ニ依リ報酬ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬決定ノ日ノ現在ニ於ケル年額ノ三百六十分ノ一
二 月ニ依リ報酬ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬決定ノ日ノ現在ニ於ケル月額ノ三十分ノ一
三 前二號ノ外一定ノ期間ニ依リ報酬ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬決定ノ日ノ現在ニ於ケル其ノ報酬ノ額ヲ其ノ期間ノ日數ヲ以テ除シテ得タル額
四 日、時間、稼高又ハ請負ニ依リ報酬ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬決定ノ日前三月間ニ受ケタル額ノ九十分ノ一但し現ニ使用セラルル事業ニ於テ報酬ヲ受ケタル期間三月ニ滿テサルトキハ其ノ地方ニ於テ同種ノ作業ニ従事シ同種ノ報酬ヲ受ケタル被保險者ノ報酬ニ付テ本號ノ規定ニ依りて算定シタル額
五 前四號ノ規定ニ依り算定シ難キモ二付テハ標準報酬決定ノ日前一年間ニ於テ受ケタル額ノ三百六十分ノ一但し現ニ使用セラルル事業ニ於テ報酬ヲ受ケタル期間三百六十日ニ滿テサルトキハ其ノ受ケタル報酬ノ額ヲ其ノ期間ノ日數ヲ以テ除シテ得タル額
六 前各號ノ二以上ニ該當スル報酬ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ各二付前各號ノ規定ニ依り算定シタル額ノ合算額

七 同時ニ二以上ノ業務ニ於テ報酬ヲ受ケル場合ニ於テハ各業務ニ付前各號ノ規定ニ依り算定シタル額ノ合算額
被保險者ノ報酬日額前項ノ規定ニ依り算定シ難キトキハ前項ノ規定ニ依り算定シタル額カ若シク不當ナルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス保險者ニ於テ適當ノ方法ニ依りて之を算定スヘシ
保險者カ健康保險組合ナル場合ニ於テハ前項ノ算定方法ハ規約ヲ以テ之を定ムヘシ
第六條 健康保險法又ハ本令ノ規定ニ依り事業主カ内務大臣ノ認可ヲ受ケヘキ場合ニ於テ政府カ事業主ナルトキハ内務大臣ノ承認ヲ受ケヘシ
第七條 政府ノ事業ニ使用セラルル被保險者カ健康保險法ノ規定ニ依り保險給付ヲ受ケヘキ場合ニ於テ内務大臣ノ指定シタル共済組合ヨリ其ノ保險給付ニ相當スル給付ヲ受ケタルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ保險給付ヲ爲サス
前項ノ規定ニ依り内務大臣ノ指定スル共済組合ハ左ノ要件ヲ具フルモノニ限ル
一 健康保險法ノ規定ニ依リ保險給付同種ノ給付ヲ爲スコト
二 給付ニ要スル費用ニ付政府カ健康保險法ノ規定ニ依リ國庫及事業主ノ負擔ト同一ノ割合ヲ下ラサル負擔ヲ爲スコト
第八條 前條ノ規定ニ依り保險給付ノ全部又ハ一部ヲ受ケタル者ニ付テハ保險料ハ其ノ程度ニ應ジテ之を減額シ又ハ之を徴收セス
第二章 被保險者
第九條 臨時ニ使用セラルル者ノ中左ニ掲グル者ハ健康保險法第十三條但書又ハ第十五條第二項ノ規定ニ依り被保險

者ヲラレモノス但シ第一號ニ該當スル者所定ノ期間ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至リタルトキ又ハ第二號若ハ第三號ニ該當スル者三十日ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラス
一 六十日以内ノ期間ヲ定テ使用セラルル者
二 使用期間ノ定テ事務供給契約ニ基キ又ハ試ニ使用セラルル者
三 日日雇入れラルル者
四 前各號ニ掲グルモノノ外内務大臣ノ定ムル者
第十條 健康保險法第二十條ノ規定ニ依リ被保險者ヲラトスル申請ハ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル日(繼續シテ保險給付ヲ受ケル者ニ在リテハ其ノ給付ヲ受ケタルニ至リタル日)ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ保險者ニ於テ正當ノ事由アリト認ムルトキハ期限經過後ノ申請ト雖モ之ヲ受理スルコトヲ得

第三章 健康保險組合

第一節 組合ノ設立

第十一條 事業主健康保險組合ヲ設立スル爲健康保險法第二十九條ノ同意ヲ求ムル場合ニ於テハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ同條ノ被保險者(健康保險法第三十條ノ場合ニ在リテハ被保險者ト爲ルヘキ者全部ニ送付スヘシ)
一 組合員タルヘキ者ノ範圍
二 組合ノ組織ノ概要
三 保險料ノ概要
四 保險給付ノ概要
五 其ノ他事業計畫ノ概要
第十二條 規約ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ
一 組合ノ名稱
二 事務所ノ所在地

第十三條 組合ノ設立ノ認可ヲ爲シタルトキハ内務大臣ハ其ノ事項ヲ告示スヘシ
第十四條 組合ノ設立ノ認可アリタルトキハ事業主ハ遲滞ナク規約ヲ公示スヘシ規約ノ變更アリタルトキ亦同シ
第十五條 組合設立ノ認可アリタルトキハ事業主ハ遲滞ナク組合員ヲ招集シ組合設立ノ経過、保險料率及初年度ノ收入支出ノ豫算其ノ他重要ナル事項ヲ報告スヘシ
第十六條 組合設立後理事就職ニ至ル迄ハ事業主理事ノ職務ヲ行フ
第十七條 組合ノ名稱
第十八條 組合ノ事務所所在地
第十九條 組合ノ設立ノ認可アリタルトキハ事業主ハ遲滞ナク規約ヲ公示スヘシ
第二十條 組合員タルヘキ者ノ範圍
第二十一條 組合員タルヘキ者ノ範圍
第二十二條 組合員タルヘキ者ノ範圍
第二十三條 組合員タルヘキ者ノ範圍
第二十四條 組合員タルヘキ者ノ範圍
第二十五條 組合員タルヘキ者ノ範圍

第二節 組合ノ會議

第二十六條 組合ハ組合員ヲ以テ之ヲ組織ス
第二十七條 議員ノ定數ハ十二人以上ノ偶數トシ其ノ半數ハ事業主ニ於テ之ヲ選定スルコトヲ得
第二十八條 議員ノ選定ハ無記名投票ニ依りて之ヲ行フ
第二十九條 議員ノ選定ハ無記名投票ニ依りて之ヲ行フ
第三十條 議員ノ選定ハ無記名投票ニ依りて之ヲ行フ
第三十一條 議員ノ選定ハ無記名投票ニ依りて之ヲ行フ
第三十二條 議員ノ選定ハ無記名投票ニ依りて之ヲ行フ
第三十三條 議員ノ選定ハ無記名投票ニ依りて之ヲ行フ
第三十四條 議員ノ選定ハ無記名投票ニ依りて之ヲ行フ
第三十五條 議員ノ選定ハ無記名投票ニ依りて之ヲ行フ
第三十六條 議員ノ選定ハ無記名投票ニ依りて之ヲ行フ
第三十七條 議員ノ選定ハ無記名投票ニ依りて之ヲ行フ
第三十八條 議員ノ選定ハ無記名投票ニ依りて之ヲ行フ
第三十九條 議員ノ選定ハ無記名投票ニ依りて之ヲ行フ
第四十條 議員ノ選定ハ無記名投票ニ依りて之ヲ行フ

業主ニ於テ事業主(若ハ其ノ代理人)及其ノ事業ニ使用セラルル者ノ中ニ就テ之ヲ選定シ他ノ半數ハ被保險者タル組合員ニ於テ之ヲ互選ス
第二十一條 議員就職シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ公示スヘシ
第二十二條 議員ノ選定ハ無記名投票ニ依りて之ヲ行フ
第二十三條 議員ノ選定ハ無記名投票ニ依りて之ヲ行フ
第二十四條 議員ノ選定ハ無記名投票ニ依りて之ヲ行フ
第二十五條 議員ノ選定ハ無記名投票ニ依りて之ヲ行フ
第二十六條 議員ノ選定ハ無記名投票ニ依りて之ヲ行フ
第二十七條 議員ノ選定ハ無記名投票ニ依りて之ヲ行フ
第二十八條 議員ノ選定ハ無記名投票ニ依りて之ヲ行フ
第二十九條 議員ノ選定ハ無記名投票ニ依りて之ヲ行フ
第三十條 議員ノ選定ハ無記名投票ニ依りて之ヲ行フ
第三十一條 議員ノ選定ハ無記名投票ニ依りて之ヲ行フ
第三十二條 議員ノ選定ハ無記名投票ニ依りて之ヲ行フ
第三十三條 議員ノ選定ハ無記名投票ニ依りて之ヲ行フ
第三十四條 議員ノ選定ハ無記名投票ニ依りて之ヲ行フ
第三十五條 議員ノ選定ハ無記名投票ニ依りて之ヲ行フ
第三十六條 議員ノ選定ハ無記名投票ニ依りて之ヲ行フ
第三十七條 議員ノ選定ハ無記名投票ニ依りて之ヲ行フ
第三十八條 議員ノ選定ハ無記名投票ニ依りて之ヲ行フ
第三十九條 議員ノ選定ハ無記名投票ニ依りて之ヲ行フ
第四十條 議員ノ選定ハ無記名投票ニ依りて之ヲ行フ
第四十一條 議員ノ選定ハ無記名投票ニ依りて之ヲ行フ
第四十二條 議員ノ選定ハ無記名投票ニ依りて之ヲ行フ
第四十三條 議員ノ選定ハ無記名投票ニ依りて之ヲ行フ
第四十四條 議員ノ選定ハ無記名投票ニ依りて之ヲ行フ
第四十五條 議員ノ選定ハ無記名投票ニ依りて之ヲ行フ
第四十六條 議員ノ選定ハ無記名投票ニ依りて之ヲ行フ
第四十七條 議員ノ選定ハ無記名投票ニ依りて之ヲ行フ
第四十八條 議員ノ選定ハ無記名投票ニ依りて之ヲ行フ
第四十九條 議員ノ選定ハ無記名投票ニ依りて之ヲ行フ
第五十條 議員ノ選定ハ無記名投票ニ依りて之ヲ行フ

十 其ノ他重要ナル事項 ()

第二十六條 組合ハ組合ノ事務ニ關スル書類ヲ檢閲シ、理事ノ報告ヲ請求シ又ハ事務ノ管理、議決ノ執行及出納ヲ檢査スルコトヲ得

組合ハ議員中ヨリ委員ヲ選舉シ前項ノ組合ノ權限ニ屬スル事項ヲ行ハシムルコトヲ得

第二十七條 組合ハ理事ノ招集スル議員定數ノ三分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ組合會招集ノ請求ヲ爲シタルトキハ理事ハ七日以内ニ之ヲ招集スルコトヲ得

組合會ノ招集ハ會議ノ目的タル事項ヲ示シ急務ヲ要スル場合ヲ除ク外開會ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ爲スヘシ

前二項ノ期間ニ付テハ規約ヲ以テ別段ノ定メタルコトヲ得

組合會開會中急務ヲ要スル事項アルトキハ理事ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得

第二十八條 組合會ノ議長ハ理事長ヲ以テ之ニ充ツ

理事長故障アルトキハ其ノ代理者議長ノ職務ヲ行フ

決算ノ認定ニ關スル會議ノ議長ハ前二項ノ規定ニ拘ラス理事以外ノ出席議員中ヨリ互選セラレタル者ヲ以テ之ニ充ツ

議長ハ會議ヲ總理シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第二十九條 組合會ハ議員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得但シ第三十二條ノ除外ノ爲半數ニ滿テサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十條 組合會ノ議事ハ出席議員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第三十一條 規約變更ノ議事ハ議員定數ノ四分ノ三以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス

第三十二條 議長及議員ハ其ノ一身上ニ關スル事項ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得但シ組合會ノ同意ヲ得タルトキハ之ヲ除外スルコトヲ得

會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

第三十三條 議員ハ自ラノ會議ニ出席シ表決ヲ爲スヘシ但シ會議ニ出席スルコト能ハサル議員ハ規約ノ定ムル所ニ依リ豫メ書面ヲ以テ出席議員ニ委任シテ表決ヲ爲スコトヲ妨グス此ノ場合ニ於テハ之ヲ會議ニ出席シタルモノト看做ス

第三十四條 組合員ハ規約ニ定ムル特別ノ場合ヲ除ク外組合會ノ會議ヲ傍聽スルコトヲ得

第三十五條 議員ハ其ノ職務ノ爲要スル旅費ノ支給ヲ組合ヨリ受クルコトヲ得

被保險者タル議員其ノ職務ヲ行フニ因リ平常ノ業務ニ對スル報酬ヲ受クルコトヲ得サル場合ニ於テハ其ノ補償ヲ組合ヨリ受クルコトヲ得

第一項ノ旅費及前項ノ補償ノ額及支給方法ハ規約ノ定ムル所ニ依ル

第三節 組合ノ役員

第三十六條 組合ニ理事ヲ置ク

理事ノ定數ハ四人以上ノ偶數トシ其ノ半數ハ事業主ノ選定シタル議員ニ於テ、他ノ半數ハ被保險者タル組合員ノ互選シタル議員ニ於テ之ヲ互選ス

理事ノ中一人ヲ理事長トシ事業主ノ選定シタル議員タル理事中ニ就キ理事ノ選舉ス

第三十七條 理事長ハ組合ヲ代表ス

理事長故障アルトキハ規約ノ定ムル所ニ依リ他ノ理事其ノ職務ヲ代理ス

第三十八條 組合ノ事務ハ理事ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ理事長ノ決スル所ニ依ル

第三十九條 組合會成立セヌ又ハ其ノ議決スヘキ事項ヲ議決セサルトキハ理事ハ監督官廳ノ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事項ヲ處置スルコトヲ得

第四十條 組合會ニ於テ議決スヘキ事項ニ關シ臨時急務ヲ要スル場合ニ於テ組合會成立セサルトキ又ハ之ヲ招集スルノ暇ナキトキハ理事ノ之ヲ專決スルコトヲ得

第四十一條 前二條ノ規定ニ依リ處置ヲ爲シタルトキハ理事ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ組合會ニ報告スヘシ

第四十二條 理事ハ規約、財産目録、事業報告書、組合原簿及組合會ノ會議録ヲ事務所ニ備フヘシ

組合員前項ノ書類ノ閲覧ヲ求メタルトキハ理事ハ正當ノ事由アルニ非サレハ之ヲ拒ムコトヲ得

第四十三條 第二十一條、第二十四條及第三十五條ノ規定ハ理事及理事長ニ之ヲ準用ス

第四節 組合ノ財務

第四十四條 組合ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第四十五條 組合ハ毎會計年度收入支出ノ豫算ヲ調製シ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ豫算ヲ更正又ハ追加シタルトキ亦同シ

豫算ニ定ムル各款ノ金額ハ彼此流用スルコトヲ得

豫算ニ定ムル各項ノ金額ハ組合會ノ議決ヲ經テ之ヲ流用スルコトヲ得

第四十六條 組合ハ組合會ノ議決ヲ經テ繼續費ヲ設クルコトヲ得

第四十七條 組合ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ

豫備費ハ規約ヲ以テ定ムル用途以外ノ用途ニ之ヲ充ツルコトヲ得

第四十八條 組合ニ於テ其ノ收入金ヲ收納スルハ翌年度五月三十一日、其ノ支出金ヲ支拂フハ翌年度四月十五日限リトシ其ノ出納ヲ閉鎖ス

第四十九條 組合ハ保險料率ヲ變更セムトスルトキハ監督官廳ノ

認可ヲ受クヘシ

第五十條 組合ハ少クモ保險給付ニ要スル費用ノ前三年度ノ平均年額ニ相當スル額ニ達スル迄毎年度ノ剩餘金中ヨリ該平均年額ノ百分ノ五以上ニ相當スル額(剩餘金カ該平均年額ノ百分ノ五ニ達セサルトキハ其ノ全額)ヲ準備金トシテ積立ツヘシ

前項ノ限度内ノ準備金ハ保險給付ニ要スル費用ニ不足ラシシタルトキニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得

第五十一條 組合ハ準備金ノ管理方法ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五十二條 準備金以外ノ財産ノ管理方法ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第五十三條 組合ハ支拂上現金ニ不足ラシシタルトキハ準備金ニ屬スル現金ヲ繰替使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ仍現金ニ不足アルトキハ一時借入金ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ繰替使用シタル金額及一時借入金ハ當該會計年度内ニ之ヲ返還スヘシ

第五十四條 組合ハ組合債ヲ起シ、起債ノ方法、利息ノ定率若ハ償還ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更セムトスルトキハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五十五條 組合ハ重要ナル財産ノ處分ヲ爲サムトスルトキハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五節 組合ノ分合解散

第五十六條 組合合併又ハ分割ヲ爲サムトスルトキハ關係アル組合ノ組合會ニ於テ議員定數ノ四分ノ三以上ノ多數ヲ以テ之ヲ議決シ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ規約ノ變更ヲ要スルコトキハ前項ノ議決ト共ニ之ヲ議決スヘシ

第五十七條 組合ノ分割ハ組合ノ設立アル事業ノ一部ニ付テラシメテ之ヲ爲スコトヲ得

一事業ニ於テ作業ノ場所ニ於テハ前項ノ規定ノ適用ニ付テ内務大臣ハ其ノ一又ハ二以上ノ場所ニ於ケル作業ヲ一事業ト看做スコトヲ得

第五十八條 分割ヲ爲ス場合ニ於テハ分割後存續スル組合又ハ分割ニ因リテ成立スル組合ノ被保險者タル組合員ノ員數ハ當時三百人以上ナルヘキコトヲ要ス

第五十九條 合併ニ因リテ成立スル組合ノ規約、保險料率及初年度ノ收入支出ノ豫算ハ各組合ニ於テ選任シタル者共同シテ之ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六十條 分割ニ因リテ成立スル組合ノ規約、保險料率及初年度ノ收入支出ノ豫算ハ其ノ組合ノ組合員タルヘキ事業主ノ之ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六十一條 合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ成立シタル組合ハ合併ニ因リテ消滅シタル組合ノ權利義務ヲ承繼ス

分割ニ因リテ成立シタル組合ハ分割ニ因リテ消滅シタル組合又ハ分割後存續スル組合ノ權利義務ノ一部ヲ承繼ス

前項ノ規定ニ依リ承繼スル權利義務ノ限度ハ分割ノ議決ト共ニ之ヲ議決シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六十二條 組合ノ合併又ハ分割ノ認可ヲ爲シタルトキハ內務大臣ハ合併又ハ分割ニ因リテ成立又ハ消滅シタル組合及合併又ハ分割後存續スル組合ニ付テ左ノ事項ヲ告示スヘシ

一 組合ノ名稱

二 事務所ノ所在地

三 組合ノ設立アル事業ノ名稱及所在地

四 認可ノ年月日

第六十三條 第十六條乃至第十八條ノ規定ハ合併又ハ分割

ニ因リテ成立シタル組合ニ付テ之ヲ準用ス

合併又ハ分割ノ際其ノ合併又ハ分割シタル組合ノ理事タル者カ合併又ハ分割ニ因リテ成立シタル組合ノ組合員タル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依リ事業主ノ行フヘキ職務ハ其ノ理事タル者ノ之ヲ行フ

第六十四條 組合解散ヲ爲サムトスルトキハ組合會ニ於テ議員定數ノ四分ノ三以上ノ多數ヲ以テ之ヲ議決シ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六十五條 組合ハ被保險者タル組合員ナキニ至ルモ其ノ欠缺カ一時ナル場合ニ於テハ解散スルコトヲ得

第六十六條 組合解散シタルトキハ內務大臣ハ第六十二條ノ例ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第六十七條 組合ノ設立アル事業ヲ増減セムトスルトキハ編入又ハ削除セラルヘキ事業ノ事業主ノ全部及其ノ事業ニ使用セラレタル被保險者ノ二分ノ一以上ノ同意アルコトヲ要ス

編入又ハ削除セラルヘキ事業ニ付テハ前項ノ規定ニ依リテ前項ノ被保險者ノ同意ハ各事業ニ付テ之ヲ得ルコトヲ要ス

前二項ノ規定ニ於テ被保險者タルハ健康保險法第十四條第一項ノ規定ニ依リ認可ヲ申請ト同時ニ事業編入ニ關スル規約變更ノ認可ヲ申請ヲ爲ス場合ニ在リテハ被保險者ト爲ルヘキトス

第六十八條 第五十七條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十九條 事業ノ削除ヲ爲ス場合ニ於テハ削除後ニ於テモ組合ノ被保險者タル組合員ノ員數ハ當時三百人以上ナルヘキコトヲ要ス

第七十條 組合第六十七條ノ同意ヲ求メタルトキハ事業主ノ編入ノ場合ニ在リテハ第十一條各號ニ掲グル事項ヲ記載シタル書面ヲ、事業ノ削除ノ場合ニ在リテハ削除ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ編入又ハ削除ニ因リ組合員タル資格ヲ取得又ハ喪失スヘキ者ノ全部ニ送附スヘシ

第六節 組合の監督

第七十一條 內務大臣ハ組合會ノ解散ヲ命スルコトヲ得...

第四章 保險給付

第七十四條 健康保險法第四十三條第一項ノ療養ノ給付ノ...

第七十五條 前條第一項第一號乃至第三號ノ給付ニ付テハ...

第五章 費用ノ負擔

第九十條 健康保險組合ニ對シ交付スル國庫負擔金ニ付テハ...

第六章 審査ノ請求及訴願

第九十一條 健康保險法第七十條第一項ノ規定ニ依リ國庫...

第七十六條

前條ニ規定スル醫師又ハ齒科醫師處方箋ヲ交付...

第七十七條

左ノ場合ニ於テハ健康保險法第四十四條ノ規定...

第七十八條

前條ノ規定ニ依リ支給スル療養費ノ額ハ療養ノ給...

第七十九條

病院ニ收容シタル被保險者ニ對シ支給スヘキ傷病...

第八十條

出產手當金ハ被保險者カ分娩ノ日前二十八日、...

第八十一條

產院ニ收容シタル被保險者ニ對シ支給スル出產手當金...

第八十二條

分娩ニ關スル保險給付ハ分娩前一年內ニ於テ百...

第八十三條

分娩ノ前後ニ保險者ニ變更アリタル場合ニ於テ各...

第八十四條

被保險者タリシ者分娩ニ關スル保險給付ヲ受クル...

第八十五條

疾病ニ罹リ、負傷シ又ハ分娩シタル場合ニ於テ繼...

第八十六條

性質上事故多キ業務ニ使用セラルル被保險者ニ...

第八十七條

第五條ノ規定ニ依リ算定シタル報酬日額五十五...

第八十八條

事業主ハ被保險者ニ對シ金錢ヲ以テ報酬ヲ支拂...

第八十九條

事業主ハ被保險者ノ負擔スヘキ前月分ノ保險料ヲ報...

第九十條

性質上事故多キ業務ニ使用セラルル被保險者ニ...

第九十一條

健康保險法第七十條第一項ノ規定ニ依リ國庫...

第九十二條

健康保險法第七十條第二項ノ規定ニ依リ被保險...

健康保險法施行令 審査ノ請求及訴願

二次健康保險審査會及第三次健康保險審査會トス
健康保險審査會ノ名稱、位置及管轄區域ハ内務大臣之ヲ定ム

第四條 健康保險審査會ハ會長及委員ヲ以テ之ヲ組織ス
第五條 第一次健康保險審査會ノ會長ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ第六條第一項第一號ノ委員中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第六條 第二次健康保險審査會ノ會長ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内務部内ノ高等官中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス
第三次健康保險審査會ノ會長ハ社會局長官ヲ以テ之ニ充ツ

第七條 第一次健康保險審査會ノ委員ハ左ニ掲クル者ヲ以テ之ニ充ツ

- 一 官吏、公吏又ハ學識經驗アル者 二人又ハ三人
- 二 被保險者ヲ使用スル事業主 二人又ハ三人
- 三 被保險者 二人又ハ三人

第二次健康保險審査會ノ委員ハ左ニ掲クル者ヲ以テ之ニ充ツ

- 一 官吏、公吏又ハ學識經驗アル者 三人
- 二 被保險者ヲ使用スル事業主 三人
- 三 被保險者 三人

第三次健康保險審査會ノ委員ハ左ニ掲クル者ヲ以テ之ニ充ツ

- 一 官吏、公吏又ハ學識經驗アル者 五人
- 二 被保險者ヲ使用スル事業主 五人
- 三 被保險者 五人

前項ニ於テ被保險者ヲ使用スル事業主トアルハ事業主ガ國又ハ公共團體ナル場合ニ於テハ關係官吏又ハ公吏、其ノ他ノ法人ナル場合ニ於テハ業務ヲ執行スル社員若ハ役員又ハ支配人トス(昭和二年勅令第二百二十號ヲ以テ本項ヲ改メ)

追加)
第一項ノ委員ニ付テハ同項各號ニ該當スル者各同數タルコトヲ要ス

第七條 健康保險署ノ職員ハ健康保險審査會ノ委員タルコトヲ得ス
健康保險審査會ノ委員ハ他ノ健康保險審査會ノ委員ヲ兼スルコトヲ得ス

第八條 第一次健康保險審査會ノ委員ハ内務大臣之ヲ命シ第二次健康保險審査會及第三次健康保險審査會ノ委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第九條 委員ノ任期ハ官吏又ハ公吏トシテ委員タル者ヲ除クノ外三年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ妨ケス

第十條 會長ハ會務ヲ總理シ會議ノ議長ト爲ル
會長事故アルトキハ會長ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

第十一條 健康保險審査會ニ幹事ヲ置ク
第一次健康保險審査會ノ幹事ハ健康保險署ノ職員中ヨリ内務大臣之ヲ命シ第二次健康保險審査會及第三次健康保險審査會ノ幹事ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内務部内ノ高等官中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス
幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第十二條 健康保險審査會ニ書記ヲ置ク
第一次健康保險審査會ノ書記ハ健康保險署ノ判任官中ヨリ、第二次健康保險審査會及第三次健康保險審査會ノ書記ハ社會局長官中ヨリ内務大臣之ヲ命ス
書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十三條 健康保險審査會ノ審査手續
第一節 健康保險給付ニ關スル決定又ハ保險料其ノ他

健康保險法ノ規定ニ依ル徵收金ノ賦課若ハ徵收ノ處分ヲ爲シタル健康保險署又ハ健康保險組合ノ事務所ノ所在地ヲ管轄スル健康保險審査會ニ於テ之ヲ爲ス

第十四條 審査ハ委員定數ノ半數以上出席シ且第六條第一項乃至第三項各號ノ委員各一人以上出席スルニ非サルハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ同一ノ事件ニ付招集再回ニ及ブ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 審査ハ出席委員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十六條 審査ハ文書ニ就キ之ヲ爲ス但シ必要アリト認ムルトキハ口頭審問ヲ爲スコトヲ妨ケス
口頭審問ノ規定ニ依リ口頭審問ヲ爲ス爲出頭ヲ命セラレタル場合ニ於テハ出頭ヲ得ザル事故ノ爲出頭スルコトヲ得ザルトキハ當事者ハ其ノ法定代理人、親族又ハ同居者ヲシテ代理シ出頭セシムルコトヲ得

第十七條 出頭審問ノ爲出頭シタル當事者及之ニ代リテ出頭シタル者ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ旅費ヲ給スルコトヲ得

第十八條 審査ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ事件力審査ノ請求ヲ爲スヘカサルモノナルトキ又ハ審査ノ請求力適法ノ手續ニ違反シタルモノナルトキハ健康保險審査會ハ決定ヲ以テ之ヲ却下ス

第十九條 審査ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ事件力審査ナルトキハ之ヲ所轄健康保險審査會ニ移送ス

第二十條 審査ノ請求ニシテ手續ノ方式ニ欠缺アルモノハ健康保險審査會ニテ補正セシム

第二十一條 審査ハ之ヲ公開セス但シ口頭審問ハ之ヲ公開ス
口頭審問ヲ爲ス場合ニ於テ議長必要アリト認ムルトキハ前項但書ノ規定ニ拘ラス傍聴ヲ制限又ハ禁止スルコトヲ得

第二十二條 健康保險署ノ職員其ノ他關係官吏ハ健康保險審査會ノ請求ニ依リ又ハ其ノ承認ヲ受ケ會議ニ出席シ意見ヲ

健康保險法施行令 雜則

述フルコトヲ得

第二十二條 事件ノ一部ヲ審査ノ決定ヲ爲スニ熟スルトキハ其ノ部分ニ付先ツ決定ヲ爲スコトヲ得

第二十三條 審査ノ決定ハ理由ヲ附シ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十四條 審査請求人審査ノ決定前ニ死亡シタルトキハ其ノ承繼人ニ於テ審査請求手續ヲ受繼クモノトス

第二十五條 本節ニ規定スルモノノ外審査ニ關シ必要ナル事項ハ内務大臣之ヲ定ム

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
附則 (昭和二年勅令第二百二十號附則)
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
附則 (昭和二年勅令第二百二十號附則)
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則
本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定ハ大正十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際ニ限リ第四條第一項但書中資格ヲ取得シタル日ノ現在トシテ大正十五年十一月一日ノ現在トス但シ大正十五年十一月二日以後ニ於テ被保險者ノ資格ヲ取得シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

政府ノ事業ニ使用セラルル官吏又ハ待遇官吏ニ付テハ當分ノ内務大臣ハ之ヲ健康保險ノ被保險者ト爲ササルコトヲ得

附則
本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定ハ大正十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則
本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定ハ大正十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●労働争議調停法

(大正十五年四月九日 法律第五十七號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル労働争議調停法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

労働争議調停法

- 第一條 左ニ掲グル事業ニ於テ労働争議發生シタルトキハ行政官廳ハ當事者ノ請求ニ依リ調停委員會ヲ開設スルコトヲ得 當事者ノ請求ニ基テ行政官廳ニ於テ必要アリト認めタルトキ亦同シ
- 一 蒸氣、電氣其ノ他ノ動力ヲ使用スル鐵道、軌道又ハ船舶ニ依リ公衆ノ需要ニ應ズル運輸事業
- 二 公衆ノ用ニ供スル郵便、電信又ハ電話ノ事業
- 三 公衆ノ需要ニ應ズル水道、電氣又ハ瓦斯供給ノ事業
- 四 第一號乃至第三號ノ事業ニ電氣ヲ供給スル事業ニシテ其ノ休止カ第一號乃至第三號ノ事業ノ進行ヲ著シク阻害スルモノ
- 五 其ノ他公衆ノ日常生活ニ直接關係アル事業ニシテ勅令ヲ以テ定ムルモノ
- 六 陸軍又ハ海軍ノ直營ニ係ル兵器艦船ノ製造修理ノ事業ニシテ勅令ヲ以テ定ムルモノ

- 前項ニ掲グル以外ノ事業ニ於テ労働争議發生シタルトキハ行政官廳ハ當事者雙方ノ請求ニ依リ調停委員會ヲ開設スルコトヲ得
- 第二條 調停委員會ヲ開設セムルトキハ行政官廳ハ當事者雙方ニ之ヲ通知スヘシ
- 第三條 調停委員會ハ九人ノ委員ヲ以テ之ヲ組織ス委員ノ中ニ
- 六人ハ労働争議ノ當事者ヲシテ各同數ヲ選定セシメ他ノ三人ハ當事者ノ選定シタル委員ヲシテ選定ニ直接利害關係ヲ有セサル者ニ就キ選定セシメ行政官廳之ヲ囑託ス
- 前項ノ規定ニ依リ囑託セラレタル委員ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス
- 第四條 労働争議ノ當事者第二條ノ規定ニ依リ通知ヲ受ケタルトキハ三日内ニ前條第一項ノ規定ニ依リ其ノ選定シタル委員ヲ行政官廳ニ届出ツルコトヲ要ス
- 當事者前項ノ規定ニ依リ届出ヲ爲ササルトキハ行政官廳ハ當事者ニ代リ委員ヲ選定ス此ノ委員ハ當事者ノ選定シタルモノト看做ス
- 前二項ノ規定ニ依リ手續終リタルトキハ行政官廳ハ直ニ前條第一項ノ規定ニ依リ當事者ノ選定シタル委員ニ於テ選定スヘキ委員ノ選定ヲ要求スヘシ此ノ場合ニ於テハ當事者ノ選定シタル委員ハ四日内ニ之ヲ選定シ行政官廳ニ届出ツルコトヲ要ス
- 前項ノ規定ニ依リ届出ナキトキハ行政官廳ハ當事者ノ選定シタル委員ニ代リ前項ノ規定ニ依リ選定スヘキ委員ヲ選定ス此ノ委員ハ當事者ノ選定シタル委員ニ於テ選定シタルモノト看做ス
- 第五條 委員中缺員ヲ生シタルトキハ前二條ノ手續ニ進シ之ヲ補充ス
- 第六條 委員定リタルトキハ行政官廳ハ直ニ調停委員會ヲ召集シ之ヲ開會スヘシ
- 第七條 調停委員會ニ議長及其ノ代理者ヲ置ク議長及其ノ代理者ハ當事者ノ選定ニ係ル委員ニ於テ選定シタル委員ノ互選ニ依リ投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ之ニ充ツ多數ヲ得タル者ナキトキハ抽籤ニ依ル
- 第八條 調停委員會ハ労働争議ノ解決ニ必要ナル調査整理ヲ爲シ其ノ調停ヲ爲スモノトス

- 第九條 調停委員會ハ開會ノ日ヨリ十五日内ニ調停手續ヲ了スルコトヲ要ス
- 前項ノ期間ハ當事者ノ選定シタル委員全員ノ同意アリタルトキハ之ヲ延長スルコトヲ得
- 第十條 調停委員會ハ議長又ハ其ノ代理者及各當事者ノ選定シタル委員各二名以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス
- 第十一條 調停委員會ノ議事ハ本法中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル
- 第十二條 調停委員會ノ議事ハ之ヲ公開セズ
- 第十三條 行政官廳ハ調停委員會ノ承認ヲ得テ當該官吏ヲシテ會議ニ出席セシムルコトヲ得
- 第十四條 調停委員會ハ調停ニ必要ナル範圍ニ於テ當事者又ハ其ノ代表者其ノ他利害關係人又ハ参考人ニ對シ出席說明ヲ求メ又ハ說明書類ノ提示ヲ求ムルコトヲ得
- 第十五條 調停委員會ハ調停ニ必要ナル範圍ニ於テ委員ヲシテ作業所其ノ他争議ノ關係場所ニ立入り、作業若ハ設備ヲ視察シ又ハ關係者ニ質問セシムルコトヲ得但シ軍事上秘密ヲ要スル場所ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 第十六條 委員又ハ委員タリシ者ハ故ナク前二條ノ場合ニ知得タル秘密ヲ洩洩スルコトヲ得ス
- 第十七條 第九條ニ規定スル調停手續ノ了ル場合ニ於テハ調停委員會ハ其ノ請求ヲ行政官廳ニ報告スルコトヲ要ス
- 前項ノ場合ニ於テ労働争議解決スルニ至ラザルシトキハ調停委員會ハ其ノ報告ニ委員會議決セル争議調停案及之ニ關スル少數意見ヲ表示スルコトヲ要ス
- 第十八條 行政官廳ハ前條ノ規定ニ依リ報告ノ要旨ヲ公表スヘシ但シ労働争議解決シタル場合ニ於テ當事者一方ノ選定シタル委員全員力豫メ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此ノ限ニ

在ラス 第十八條 委員及第十三條ニ規定スル者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十五年勅令第九百九十七號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行ス)

●労働争議調停法施行令

(大正十五年六月二十四日 勅令第九百九十六號)

朕労働争議調停法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

労働争議調停法施行令

- 第一條 労働争議調停法及本令ニ依リ行政官廳ノ職務ハ争議ノ發生シタル作業所所在地ノ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同シ)ニ之ヲ行フ
- 同一ノ争議カ前項ノ規定ニ依リ二以上ノ地方長官ノ管轄ニ涉ルトキハ内務大臣ハ其ノ一ヲ指定シテ前項ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得
- 第二條 内務大臣ニ必要アリト認めタルトキハ前條ニ規定スル行政官廳以外ノ行政官廳ヲ指定シテ前條第一項ノ職務ヲ行ハシメ又ハ自ラ之ヲ行フコトヲ得但シ内務大臣其ノ指揮監督ノ下ニ在ラサル行政官廳ヲ指定セムトキハ豫メ其ノ所管大臣ト協議スルコトヲ要ス
- 第三條 第一條ニ於テ地方長官トアルハ船員法ノ適用アル船員ノ争議ニ付テハ通信局長トシ前二條ニ於テ内務大臣トアル船員ノ争議ニ付テハ通信大臣トス
- 第四條 調停委員會開設ノ請求ハ左ノ事項ヲ具シ文書ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス
 - 一 争議ノ發生シタル作業所ノ名稱及所在地
 - 二 争議ニ關係アル労働者ノ概數
 - 三 代表者ニ依リ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ代表者タルコトヲ示スニ足ルヘキ事項
 - 四 調停委員會ニ關スル通知ヲ受クヘキ場所
 - 五 争議ノ要求事項
 - 六 争議ノ經過概要